創立70周年記念

バドミントン しずおか

バドミントンしずおか総集編

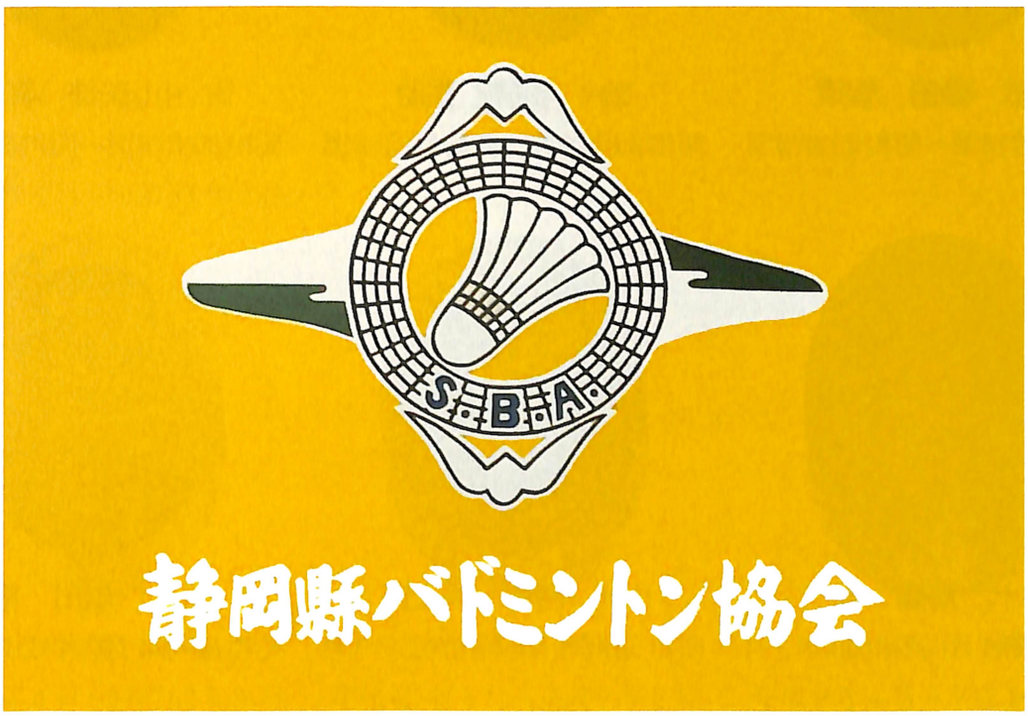
～創刊号から60号～



静岡県バドミントン協会

創立７０周年記念誌

県 協 会 旗





静岡県バドミントン協会歴代会長



初代　**藤田　智策**

昭和24年4月～昭和25年3月



2代　**松林　弥助**

昭和25年4月～昭和30年3月



3代　**矢部　喜一**

昭和30年4月～昭和55年3月



4代　**齋藤　或**

昭和55年4月～昭和58年3月



5代　**西澤　鉄太郎**

昭和58年4月～昭和62年3月



6代　**塩川　甫**

昭和62年4月～平成11年3月



7代　**上野　忠**

平成11年4月～平成25年3月



8代　**石川　博義**

平成25年4月～平成31年3月



9代　**工藤　喜久雄**

平成31年4月～現在

静岡県バドミントン協会歴代会理事長



初代・4代　**塩川　甫**

昭和24年4月～昭和25年3月

昭和29年4月～昭和43年3月



2代　**野田　一郎**

昭和25年4月～昭和28年3月



3代　**上野　忠**

昭和28年4月～昭和29年3月



5代　**大箸　昭司**

昭和43年4月～昭和62年3月



6代　**町田　守正**

昭和62年4月～平成9年3月



7代　**石川　博義**

平成9年4月～平成19年3月



8代　**杉山　俊充**

平成19年4月～現在



挨　　拶

静岡県バドミントン協会

会 長　工藤　喜久雄

静岡県バドミントン協会は、昭和２４年４月に多くの先人の熱意と献身的な努力により設立され、本年７０周年を迎えることとなり、歴代会長をはじめ役員各位並びに各連盟、市町協会のご尽力により今日まで歴史を刻んでまいりました。

この記念誌は、５０周年以降の２０年間の活動の歩みとして、平成１１年７月に発行された「バドミントンしずおか」の１号から６０号までの記録を集約したものであり多くの方に活用して頂きたいと思います。

本会は、この２０年の間に平成１５年の国民体育大会をはじめ、平成２５年の全国小学生選手権大会、平成３０年には全国高等学校選手権大会などのビッグイベントを観衆が会場を埋め尽くし、熱狂的声援で試合を盛り上げ、開催地や会員のご協力により開催することができました。

本県バドミントン競技の更なる発展を図るには関係者が熱望している国内外で活躍できる選手の強化育成し、指導者の資質の向上や会員の増強を目指して取り組んでいかなければなりません。

これらの目標を達成するには協会員が一つになり、和をもって各連盟が互いの垣根を越えて連携していくとともに、本会の組織の充実と体質の強化を図っていく努力をしてまいります。

令和２年の７０周年を起点として１０年、２０年という未来に向けて若い世代が台頭することを期待し、新たな一歩を踏み出しまいりたいと思います。

これまで、本会の発展の礎となりご支援とご協力を下さいました会員をはじめ関係各位に感謝申し上げ挨拶といたします。



祝　　辞

公益財団法人日本バドミントン協会
会　長　関根　義雄

このたび、静岡県バドミントン協会が創立７０周年を迎えられ、誠に喜ばしく、謹んでお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和２４年に塩川甫氏のもとに設立され、その後、ご関係の皆様には７０年の長きに亘りバドミントン競技の普及と発展にご尽力いただき感謝申し上げます。振り返れば、昭和３２年の第１２回国民体育大会を皮切りに平成３年度の全国高校総合体育大会、平成１５年の第５８回国民体育大会を成功に導いていただきました。また、中部日本、東海をはじめとして毎年多くの大会において競技実績を残されました。その努力に対しご関係の皆様には、深く敬意を表します。

最近、世界における日本のバドミントンレベルが飛躍的に向上して、桃田選手をはじめ、多くの日本の代表選手が世界で活躍されているのが、毎日のようにマスメディアを通じて紹介されています。こうしたことから、国民のバドミントンに対する関心もますます高まっています。貴協会においてもこの７０周年を節目としてますます普及育成に努められ、さらに飛躍、発展されることを祈念申し上げ、祝辞とさせていただきます。



祝　　辞

公益財団法人静岡県体育協会
会　長　　川　勝　平　太

この度、静岡県バドミントン協会が創立７０周年を迎えられ、これまでの輝かしい実績とともに集大成として、記念誌を発刊されますことは誠に意義深く、心から敬意を表します。

貴協会は、昭和２４年に創設されて以来、バドミントン競技の普及並びに技術力向上を中心に、長きにわたり事業展開をされてこられました。本県開催の第１２回静岡国体では高校女子準優勝、第５８回静岡国体では成年男子４位、成年女子５位、少年女子５位と好成績を挙げられ、本県の天皇杯獲得にご尽力いただきました。

また、国際大会を始め全国規模の大会で好成績を収められ、本県のスポーツ振興にも多大なるご貢献をいただいております。

バドミントンは、今や誰もが気軽に親しみかつ憧れのスポーツとなり、２０２０年東京オリンピックでは、シングルス、ダブルスともに金メダル獲得の有力種目となっております。県内でもジュニア層を中心に競技人口の拡大・急増が見られます。こうした中、貴協会は指導される方々の質的向上の研修会、ジュニア選手の発掘さらには育成強化策としての大会の開催など、積極的に幅広く企画運営をされており、本協会の「スポーツマン綱領」を実践いただき、加盟競技団体の模範です。

結びに、創立７０周年の節目に、静岡県バドミントン協会のますますのご発展と関係各位のご健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



創立７０周年に寄せて

静岡県バドミントン協会

顧 問　上野　忠

静岡県バドミントン協会創立７０周年にあたり、協会の輝かしい歩みを思い起こし、新たな発展へのステップとして「創立７０周年記念式典及び記念誌」を刊行されますことは誠に意義深いものであり心よりお祝い申し上げます。
悠久なる霊峰富士はその英姿を協会創立の時と同じように保っています。
７０周年の歴史を刻む今日、執筆の機会を得ることが出来ることなど思いもしませんでした。昭和２４年協会創立にご苦労された塩川甫先生、渡邉福太郎先生なくして本協会の今日はなかったと思いますし、当時は運営資金も乏しく、御協力をいただいた羽立工業（株）の中村豊社長のお力添えには深く感謝するところであります。

創立当時の昭和２５年頃の名古屋国体、東海大会、山静大会には昼飯はおにぎり、旅館の宿泊には米持参で参加した思い出があります。創立１３年目には第１２回国体（昭和３２年）を富士市で開催し施設も現在のように充実していなく大変苦労したものでしたが、高校女子が準優勝と快挙を成しとげて開催県としてその面目を保てたと思います。選手の強化もあまり組織的ではなく、チーム単位、学校単位の練習が多かったと思います。それでも昭和３６年インターハイで富士見高校の持野政枝が単で優勝、世界選手権では昭和４１年、４４年と掛川西高校出身の高木紀子、天野博江が連覇する偉業を成しとげました。これらの選手の育成に名伯楽の斉藤武先生、熱血漢の藤江稔先生の努力、又インターハイ単複準優勝、３、４位の成績を残した富士高校を指導された各先生方を思い出し決して忘れることは出来ません。以来平成３年のインターハイの開催、１５年の高校選抜大会での星陵高校女子団体での優勝、インターハイでの金森裕子、村松瑞穂選手の複での優勝など、その協会の歴史はすばらしく同年の国体開催での上位入賞等協会賞の結果は称賛のひと言につきます。
今や創立期から７０年、協会の発展にご尽力くださった先輩同期も幽明境を異にする方も多く先人たちの偉業を讃え継承し１００周年に向け益々の発展を心から祈念するところです。



創立７０周年記念に寄せて

静岡県バドミントン協会

名誉会長　石川　博義

静岡県バドミントン協会創立７０周年にあたり、お慶びを申し上げると共にこころより感謝申し上げます。

先頃、５０周年記念を祝ったと思ってもう２０年経ちました。月日の経つのは早いものではや７０年となりました。昭和２４年４月１日の静岡県バドミントン協会発足当時のことはバドミントンには関わっていなかった私は知る由もありませんが、初代会長藤田智策氏、初代理事長塩川甫氏を中心に発足をした当時は第二次世界大戦敗戦の混乱の中で協会を立ち上げることは並大抵のことではない困難が有ったことだとお察しいたします。

そして、塩川甫氏が昭和２４年に、いち早くバドミントンを富士市の中学校に学校教育として取り上げて富士市を中心にバドミントンの芽が育ち今日に至っており、その後、多くの諸先輩の方々や多くの選手の方々のご活躍により県協会も盛んとなり、昭和２０年代、３０年代になると、全国大会、高校総体、国体に優勝、準優勝、上位入賞と輝かしい成績を収め、ついに昭和４１年に入り、高木・天野組がユーバー杯優勝という快挙を成し遂げました。

その後、平成に入りにわかに全国大会開催の機運が高まり、平成３年の高校総体に始まり全国高校選抜・国体・マスターズ・ねんりんピック・全国中学総体・全国レディース大会・２回目の全国高校総体と大きな多くの大会運営を成功させ静岡県バドミントン協会の力を発揮してまいりました。これも会員の皆様のご協力が有ってのことと思います。

現在は、会員数４０００名を超えるに至っております。以前に比べれば格段の差と言えるでしょう。これからもますます会員の拡大を図っていかなければならないと思います。

静岡県バドミントン協会創立７０周年を迎えるにあたり、また、２０２０東京オリンピック、パラリンピックの記念すべき年に心新たに協会発展の為に尽力すると共に関係各位のご指導、ご鞭撻を切にお願い申し上げます。

「特別功労賞受賞者」



上野　忠



石川 博義



内田 壽夫

「功労賞受賞者」

吉氷　将史	眞　浩之	富田　浩司
小田切　希芳	髙井　保典	井手　昌子
小島　一郎	岩城　保久	宮原　和臣
深澤　聡	広田　正子	荒井　威雄
大石　恵司	望月　文男	望月　覚
長島　稔	岩沢　猛	土屋　剛彦
古郡　文博	平野　謙武	渥美　早苗
宮﨑　寿夫	神田　いずみ	加藤　朝海
佐野　明彦	斉藤　勲	川口　康司
渡邉　高博	若松　誠	

目　　次

歴代会長・理事長

挨　拶　　静岡県バドミントン協会会長　工藤　喜久雄

祝　辞　　公益財団法人日本バドミントン協会会長　関根　義雄

祝　辞　　公益財団法人静岡県体育協会会長　川勝　平太

創立７０周年に寄せて

静岡県バドミントン協会顧問　上野　忠

静岡県バドミントン協会名誉会長　石川　博義

７０周年記念表彰

・特別功労賞受賞者（写真）　上野 忠　・　石川 博義　・　内田 壽夫
・功労賞受賞者

第１部　２０年間のあゆみ……1

≪「バドミントンしずおか」総集編
～創刊号から６０号～≫

第２部　静岡県バドミントン協会の栄光の記録

・全国大会……142
・東海大会・中部日本大会……146
・県内大会……152

第３部　静岡県バドミントン協会の概要

・静岡県バドミントン協会役員名簿……168
・静岡県バドミントン協会規約……170
・賛助金一覧……174

・編集後記……178

第１部

２０年間のあゆみ

バドミントンしずおか総集編

～創刊号から60号～



創刊号

バドミントンしずおか

平成１１年７月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会

あいさつ

静岡県バドミントン協会

会長　上野　忠

当協会は昭和２４年先駆的有志の方々の献身的な努力により設立され、底辺の拡大・選手の強化と数多の困難を乗り越え、今日の基礎が築かれました。特に世界チャンピオン、高校チャンピオンを輩出し、日本協会の役員、県協会の理事長、副会長、会長と設立以来 50 年を静岡県バドミントン協会のために貢献され、バドミントン競技に大きな足跡を残された塩川肯前会長が 50 周年を機に勇退されることになり、本当にご苦労様でした。会員を代表して心よりお礼を申し上げますとともにこれからも協会のため是非ともご指導のほどお願い申し上げます。

本年の主な行事である協会創立 50 周年記念式典、平成 11 年度総会も無事おわり、只今国体予選、インターハイ予選と競技大会の最中です。

協会創立 50 年を一区切りとして更なる発展を目指して念願の広報誌「バドミントンしずおか」を発刊することになりました。会員の皆様との絆を一層強固なものにするため、皆様の積極的な情報提供・アドバイス等の協力なくして広報誌の発展はありません。平成 15 年の第 58 回国民体育大会の成功を目指して会員全員が協力し合い、和そもって頑張りましょう。

よろしくお願い申し上げます。

協会シンボル・バッチ

創立５０周年から学ぶもの

静岡県バドミントン協会

名誉会長　塩川　甫

(一)　スポーツ団体ほど、会員の限りない努力と他の理解と協力を必要とする団体はない。昭和２４年バドミントン協会創立当時、渡辺剛氏の努力、富士中学校長藤田智策先生の理解、更に県教育委員会の栗野先生の協力がなければ協会は創立していなかったと思う。ほかに協力してくれた人は一人もいなかった。まことに尊い努力と理解と協力であったのである。

(二)　スポーツ団体の役員はたしかにボランティアである。然し、バドミントンが好きで、金も時間も気にすることなく、ただひたすらに協会の発展に努力する役員には、全くボランティアの意識はないものである。その典型的な人々は、(故) 植松忠裕・(故) 斉藤たけし・藤江稔の皆さんであった。心から感謝し、大いに見習うべきことだと思う。

新たな第１歩

静岡県バドミントン協会

理事長　石川博義

我らが協会も創立以来半世紀を過ぎ、上野新会長のもと新しい第１歩を踏み出しました。ここに 50 年をかけて多くの先輩の方々のご努力により、積み上げられてきた協会の偉大で貴重な礎の上に、新たな石組みを築かねばならないと思っています。

この度、新会長の発案で新しい試みとして、「バドミントンしずおか」を発行することになりました。

これにより少しでも協会と会員の皆様との絆が深まればと考えております。これからもできるだけの情報を伝えていきたいと思っています。拙い編集と印刷ですが、会員の方々のご協力により、よりよい広報誌としていきたいと思っています。

平成11年７月発行のバドミントンしずおか　創刊号

創刊号　　平成11年7月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会

あ　い　さ　つ　　静岡県バドミントン協会　　会　長　　上野　忠

当協会は昭和２４年度先駆的有志の方々の献身的な努力により設立され、選手の強化と幾多の困難を乗り越え、今日の基礎が築かれました。特に世界チャンピオン、高校チャンピオンを輩出し、日本協会の役員、県協会の理事長、副会長、会長と設立以来、50 年を静岡県バトミントン協会のために貢献され、バトミントン競技に大きな足跡を残された塩川甫前会長が50周年を機に勇退されることになり、本当にご苦労様でした。会員を代表して心よりお礼を申し上げますとともにこれからも協会のため是非ともご指導のほどお願い申し上げます。
本年の主な行事である協会創立 50 周年記念式典、平成 11 年度総会も無事おわり、只今国体予選、インターハイ予選と競技大会の最中です。
協会創立50年を一区切りとして更なる発展を目指して念願の広報誌「バトミントンしずおか」を発刊することになりました。会員の皆様との絆を一層強固なものにするため、皆様の積極的な情報提供・アドバイス等の協力なくして広報誌の発展はありません。平成 15 年の第 58 回国民体育大会の成功を目指して会員全員が協力し合い、和をもって頑張りましょう。よろしくお願い申し上げます。

創立 50 周年から学ぶもの

静岡県バトミントン協会　　名誉会長　　塩川　　甫

（一）　スポーツ団体ほど、会員の限りない努力と他の理解と協力を必要とする団体はない。昭和２４年バトミントン協会創立当時、渡辺剛氏の努力、富士中学校長藤田智策先生の理解、更に県教育委員会の栗野先生の協力がなければ協会は創立していなかったと思う。ほかに協力してくれた人は一人もいなかった。まことに尊い努力と理解であったのである。
（二）　スポーツ団体の役員はたしかにボランティアである。然し、バトミントンが好きで、金も時間も気にすることなく、ただひたすらに協会の発展に努力する役員には、全くボランティアの意識はないものである。その典型的な人々は、（故）植松忠裕・（故）斉藤たけし・藤江稔の皆さんであった。心から感謝し、大いに見習うべきことだと思う。

新たな第１歩

静岡県バトミントン協会　　理事長　石川博義

我らが協会も創立以来半世紀を過ぎ、上野新会長のもと新しい第１歩を踏み出しました。
ここに50年をかけて多くの先輩の方々のご努力により、積み上げられてきた協会の偉大で貴重な礎の上に、新たな仕組みを築かねばならないと思っています。
この度、新会長の発案で新しい試みとして、「バトミントンしずおか」を発行することになりました。
これにより少しでも協会と会員の皆様との絆が深まればと考えております。これからもできるだけの情報を伝えていきたいと思っています。拙い編集と印刷ですが、会員の方々のご協力により、よりよい広報誌としていきたいと思っています。

協会最高賞の創設　協会賞「富嶽賞」

静岡県バドミントン協会の発展と競技力向上に永年にわたって顕著な貢献をした会員に対して。
協会最高賞「富嶽賞」を贈り顕彰することとなった。
この度、協会最高賞として創設された「富嶽賞」の第１号に塩川甫氏（前会長）
第２号に大箸昭司氏（前副会長）が受賞


「富嶽賞」ブロンズ像

制作者
彫刻家　　石渡　三夫　氏　　（裾野市在住）
シャトル・コックがラケットにより打たれた瞬間をイメージしたものです。

静岡県バドミントン協会創立５０周年記念

式典並びに祝賀会



５０年の歩みを語る塩川甫会長の挨拶

１月２７日（日）１１時より、標記式典並びに祝資会が会員を初め県内外からの来賓を含め２００余名が出席し、富士市のホテルグランド富士において盛大に開催された。大箸昭司記念事業実行委員長（現参与）の力強い開会の挨拶に続いて創立当時からの功績のあった初代会長故藤田智策氏を初め多数の故人に対して黙祷を捧げた。塩川甫会長（現名誉会長）から、創立当時の苦労話を皮切りに５０年の歴史をまとめた挨拶があり、県バドミントン協会発展に大いに功績のあった企業・個人に感謝状・功労賞・優秀選手賞の授与が行われた。来賓を代表として、斉藤斗志二静岡県体育協会会長、鈴木清見富士市長、渡辺紀富士宮市長の祝辞があり、式典を終了した。

引き続いて、大竹健司岐阜県バドミントン協会会長の音頭で乾杯、祝宴に入った。何年ぶり、何十年ぶりに顔を合わせて旧交を温める風景が、各所で見られた。藤野ひろ子さんの歌謡ショー、お楽しみ抽選会なども盛り込んで、和気藹々のうちに井出浩文副会長の一本締めと、バドミントン協会の今後益々の発展を誓う上野忠会長（現会長）の閉会の挨拶で幕を閉じた。



近県役員の皆様方



歓談する富士市長と前会長



前会長と世界チャンピオン勢揃い

平成１１年度インターハイ出場校　監督及び選手の抱負

去る５月２３日（日）沼津学園高体育館で行われた県高校総体学校対抗戦において見事優勝し全国大会への出場切符を手にした男子（星稜高校）、女子（静岡城北高校）に全国大会への抱負を語ってもらいました。
尚、全国大会は、８月１日（日）より岩手県滝沢村で開催されます。

男子学校対抗代表校　　星稜高等学校　　監督　　吉永将史

本校へ着任三年目にして、長かったような短かったような思いで初のインターハイ出場となりました。三年生も私と同時に入学、初めはどうなることかという生徒たちでしたが、当初より県内での上位を目標にしていました。念願かなって出場となりました。岩手県滝沢村では、今までの練習をそのまま出し、静岡県代表として戦って参ります。

主将　　佐野宏晃

厳しかった練習・苦しかった県大会を乗り越え、念願のインターハイ出場となりました。部旗にある「挑戦」という姿勢で、全国と戦って参ります。そして、高校生活のよき思い出としたいと思います。

女子学校対抗代表校　　静岡城北高等学校　　監督　　小田切希芳

３年連続４回目の出場ではあるが、過去３回とも初戦で敗退しており、レベルの違いは十分認識した。
練習内容に工夫を加え、各県の有力校への遠征を繰り返すことにより、パワー・スピード・精神面の強化に取り組んできた。残りの１ケ月でもう一段階のレベルアップを図り、念願の全国１勝を手にしたい。

主将　　川嶋美保

昨年は全国１勝を目標にしていましたが、達成できずに全国の厳しさを実感しました。あれから一年、新たなメンバーで再度全国１勝を目標掲げ、日々練習をしてきました。今思うと、本当に辛く苦しい練習ばかりでした。高校２年半の練習と自分を信じて、部員全員で全国に挑みます。

第２号　　平成11年11月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会



スポーツを　今、

静岡県バドミントン協会　　副会長　　和田 夏樹

午前４時半、気温１２．５度。
Ｔシャツにジャージ肌寒く、秋の深まりを感じるようになりました。
運動をしないと体調が思わしくなく、毎日ウォーキングを続けております。５２年の夏、高校の合宿でアキレス腱を切り、そのリハビリの為始めたものです。
以来２２年間、雨の日を除き毎朝３．５キロメートルを歩いております。
始めた当時は、朝５時半から歩いておりましたが、私が当時、市の職員であることを知ったあるお婆さんのグループが、私が気持ち良く歩いているのを呼び止め、市に関する諸々の苦情を話すのでうるさくなってしまい、そのグループに合わない為に、１時間早めて４時半から始めるようになりました。
ウォーキングと言っても私の場合、３．５キロメートルを２６分程度で歩きますので、時速８キロ程になり、かなりの早足で真冬でも終わって帰ってくると全身に汗をかいております。３年前からは、ウォーキングの後、更に腹筋、背筋、腕立て伏せを３０回行っております。お陰様でラケットを握らなくなってからも、体重は、７０キロをキープし、先頃行われた健康診断の結果も全て「異常なし」でした。
ウォーキングをしていると、春先には、暗い中何処からともなく、沈丁花のほのかな香りが漂い、秋になると、金木犀の香りが感じられ、また毎朝会う人と挨拶を交わすなど、季節の移り変わりを肌で感じ、人との出会いも有り楽しいものです。
朝起きて雨が降っていて、あーあ今朝は行かなくてすんだと思った時は、本当にうれしいです。ならばいっそうの事止めてしまえばと女房に言われますが、それでも続けております。
シャトルのスピードに、体が付いていけなくなり、試合に出場しなくなりましたが、今はストップウォッチを片手に、今日は早かった、今日は遅かった、毎朝、記録への挑戦を続けております。



スポーツの温故知新

静岡県バドミントン協会　　副会長　原　洋男

会員のみなさん、当協会の諸行事と共に後輩のご指導に精励され、ご尽力いただいている事に心より感謝申し上げます。
古い言葉に、「聖人は九族を親しむ」とあります。自分の存在を種族の観点から考えれば、人類誕生以来から、生死を繰り返す大河の流れの一滴である。「親孝行を心掛ける人は、幸せな一生を送る人が多い」といわれます。我が身に流れる血の全ては父母から生じている。その父母は、また、父母から生じている。その様にして、聖人は自分を真中に置き先祖の四代、父母、祖父母、等と後の四代、子、孫、曾孫に渡りに渡り思いを馳せるという。
今の自分が在るという事は先祖が存在していたからであり、自分の良いところは、その資質を受けたからであろう。そんな繰り返しが既に何億年も続けられている事が尊いことであり、自分の、いや、人間の尊厳はそれを大事と認識するところから始まるのだと思っている。したがって、大事な人生であり、一度しかない人生であり、かけがえのない人生であります。おおいに生きて、頑張りたいものである。
さて、熊本国体まっさかりであります。静岡県選手団の健闘を期待するのは私だけではありませんが、各選手の母体は学校であり、職場であります。その代表が集まって県選手団となるのであります。当然の事でありますが。しかし、県代表というと少し責任の重さが違います。知らない人達もその選手団を応援しているのです。知らない人達が支えてくれているからです。
私達はこのように認識するならば、我が静岡県選手団が過去どの様な活躍をされてこられたのか、どの様な人物を輩出して来たのかを知る事は重大な事になるのです。その血が受けつがれている訳だからであります。
本年、塩川会長からバトンを渡された上野会長さんのもと、そして、次なる５０周年にむけて大いなる活躍をもって静岡の歴史と伝統を揺るぎ無いものにしたいものであります。
その為には各学校、名職場に於て、基礎・基本の練習は勿論のこと、世界に通じる基礎体力の養成を常日頃から、繰り返し稽古されんことを願っています。



今にして想う

静岡県バドミントン協会　　名誉会長　塩川　甫

昭和２３年富士中学校に、県下では初めてバドミントンが採用され、そこで学んだ生徒達が、市内の高等学校に進学した。（現　上野忠会長もその一人である）。
幸いにも富士見高校には、故齋藤先生、富士高校には堀池敬先生・鈴木清見先生(現富士市長)、吉原高校には故植松忠裕先生など熱心な顧問のおかげで急速に進歩し、続いて沼津東高校・静岡城北高校・静岡市立高校・掛川西高校・磐田北高校・などが名乗りを挙げた。また、中学校でも岩松中学校の近藤英次校長先生、富士中学校の塩川辰義先生の熱意とご理解によりバドミントン部が設立され、これに呼応するように吉原第一中学校・興津中学校・静岡東中学校・静岡大中里中学校などが続々と部を創設された。

富士市が静岡県におけるバドミントンの発祥の地と言われたこともこの頃のことである。

競技力も急速に発展し、今井フミ子・掛橋良子・佐野貞子・市川文男・三浦三作・内山隆之・影島妙子
関禎子・内藤知子・栗田弘子・伊沢利子・志村セツ子・野村志津江・望野政枝・高木紀子・天野博江
齋藤正勝・荒岡政義・笠井好美・笠井教行などの名選手を輩出し、常に後塵を拝していた東海四県の中で他を圧するまでに成長した。

当時理事長であった私は各学校を訪問すると共に校長先生にお願いしたり、市町村教育委員会にも行って、一生懸命お願いもしたりした。また、静岡県体育協会の常任理事・日本バドミントン協会常務理事にも選出されて、巾広く活躍することができた。従って、協会と学校・市町村教育委員会・上部体育団体と密接な連携と協力関係が結ばれていて、本当に充実した時期であったと思う。

この時期は、正に昭和３０年から昭和４２年代のことである。

第１２回全国スポーツレクリエーション in 山形　　監督　川村里美

第１２回全国スポーツレクリエーション祭が山形県で開催され、私達「フジヤマ」チームは１５日に山形入りし、１６日天童市で行われた総合開会式で山形の祭りに接し、地元の人達に歓迎をうけました。

さらに、その後で開催された新庄市でバドミントン競技だけのレセプションでは、桜内日本バドミントン協会長と記念写真を撮ることが出来、このことによってチームは感激し、翌日からの試合に猛烈なファイトが湧き、選手一同一丸となりました。

試合は、各年代のダブルスが好調に勝ち進み、例年になく充実したチームカを発揮した結果、決勝で残念ながら健闘むなしく強豪北海道に敗れたとはいえ、静岡県チームとしては初めての「準優勝」となりました。
このことによって静岡県のバドミントンを全国にアピールしてきました。
山形大会に参加して選手一同は、笑顔と感動をいただきましたことを報告いたします。



桜内日本バドミントン協会長と記念写真



静岡県チーム　準優勝

第３号　　平成12年3月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会

あいさつ　静岡県バドミントン協会　　会長　上野　忠

早いもので会長就任以来１年がすぎ、平成11年度の行事も順調に推移しました。これも会員の皆様のご協力のおかげと心より感謝しております。

なお、協会最大の懸案であった平成15年の静岡国体のリハーサル大会が、全国高等学校選抜大会開催と決定しました。開催決定に際しては、日本バドミントン協会、全国高等学校体育連盟の格別なるご理解とご協力があった事を報告するとともに、県協会会員の皆様の結晶と思います。

平成 15 年の静岡国体開催も残すところ３年と迫ってきました。又、平成 12 年度の県協会のビッグ行事として、中部日本バドミントン選手権大会および東海地区総合バドミントン選手権大会の開催権として、県協会としての忙しい年となります。これらのビッグ大会に好成績を上げるために、県協会としての課題である選手強化も、平成11年度に於いては中学生女子および高校男子が東海大会での優勝を果たし徐々にではありますが成果を上げております。平成12年度も、元世界チャンピオンのグージャーミン氏の指導を願い強化練習会を実施します。

これら諸行事を成功させるためにも、県バドミントン協会の財務内容の充実を計らなくてはなりません。したがって、会員の皆様には今までにも増してご理解とご協力をお願いする次第です。

又、県バドミントン協会傘下の各連盟に於かれましては、底辺の拡大と組織の充実をお願いする次第です。

さて、今年はオリンピックイヤーです。県協会としても、平成15年の静岡国体に向かって、限りない挑戦をすることと、大会の成功を県協会員全員が協調し合って頑張りましょう。

感謝・感動のバトミントン静岡県バドミントン協会　　副会長　井出 浩文

バドミントンの出会いは約40年ほど前、教頭として赴任されてきた井出正人先生が、白糸中にバドミントン部を創設、私も生徒と共に時々教えて頂いたことがきっかけです。部員は５人ほど、部ができて３年目、女子ダブルスで保竹・渡辺組が中体連県大会で優勝、周囲をアっと驚かせました、この事は今でも忘れられません。

勤務が市役所へ移って、昼休みに仲間とよくバドミントンを楽しみました。このことが、バドミントンの役員を仰せつかるきっかけになったようです。多分、七澤先生か、丸山さんが推薦して下さったのでしょう。実績も力もない私が、市のバドミントン協会の副会長という立派な役を仰せつかりました。

加納寛先生の後を引き継いで会長を、そして正に感動の「還暦祝い」を、市のバドミントン協会が私のために盛大に開いて下さったのです。その後、七澤先生、角谷さんにはバドミントン教室でご指導頂き、私の腕もだいぶ上がったように思います。新沼謙二さんを迎えてのバドミントン祭も楽しい思い出の一こまです。役にたたない私が、現在まで随分大勢の人たちにお世話になり、感動のバドミントン生活をさせて頂きました。ありがとうございました。

さて、平成15年に国体を迎えます。この大会が成功裏に終了できますよう、ご指導・ご支援をお願い申し上げます。

ジュニア対策の現状と今後の抱負　ジュニア対策委員長　川原崎　仁

ジュニア対策委員会として、国体の少年の部には平成12年の中学生が候補選手となります。ジュニア対策として、中学生の育成・強化事業の実施と指導者講習を開催し、それなりに効果上げてきました。しかし、今までジュニアのレベルアップを最大限努力してきましたが、平成15年静岡国体開催日のカウントダウンにより、現在の選手レベルや強化対策を改めて見直しをしたときに、委員長として非常にあせりを感じてきました。

選手強化にかかる指導者の皆様には、この不況化の中で本当にお忙しく選手強化のための時間が取れないのが現状です。さらに男女レベルの格差等の問題が山積されていて、指導者にとってはとかく方向性を失いかけている現状の中で、NEC コーチである神谷家明氏（グージャーミン氏）と話す機会があり、その機会に選手強化コーチを要請したところ、神谷家明氏は静岡は氏にとって第二の故郷と考えているとのことで、静岡の選手強化の支援をしたいと快諾していただきました。

さっそく、第１回の開催には、小・中学生を各４０名、第２回目は、静岡国体の強化候補選手として男女各１２名を選考して、強化練習を実施した。強化練習会の内容は、中国のジュニア強化指導方法である「快狼確活」のうち、快→速く動くために、確→正確に打つグリップとフォームを徹底的に教えてもらいました。

この強化練習によって、指導の方向性や期待できる選手も見えてきました。

今後は、選手強化委員会とジュニア対策委員会が結束して、頑張れる選手の育成を図っていきたい

第４号　　平成12年8月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会



あ　い　さ　つ

静岡県バドミントン協会　　会長　上野　忠

第 58 回国民体育大会「ＮＥＷ！わかふじ国体」をテーマとして 21 世紀の新しい世界をめざして開催準備が進められて来ましたが去る７月 13 日正式に開催県として決定をみました。バドミントン競技の開催地となる富士宮市も、大会の成功を期するために万全の体制を整えられており、我々、協会に対しても常に御援助、御協力をいただき、まことに力強く感謝にたえません。このような推移のなかで協会としての責務の重大さを痛感する次第であります。経済不況の折、県のマイナスシーリング予算による選手強化費の配分も予想以上の厳しさで、選手強化計画の見直しも考えなくてはなりません。先の常任理事会において協会役員の皆様に賛助金の協力を呼び掛けるなど、苦肉の策で、対応しております。国体開催に向かっての選手強化に関しては強化指定選手も決定し、強化委員の皆様には練習会、遠征試合と日々努力をされておりますが、成年女子、少年男子の両種別に関しては一層の奮起をのぞむところです。第 58 回国体に向けての協会の得点目標である 80 点獲得はこれからの三年間にかかっております。役員、選手一丸となって頑張りましょう。又、審判養成に関しては審判委員会の皆様の努力により順調に進んでおりますが、尚一層の努力をお願いする次第です。真夏の太陽がいっぱいのこの頃ですが、９月には東海総合選手権大会、11 月には中部日本選手権大会の主管県として大変いそがしい年です。皆様には御苦労をお掛けしますが、国体開催を三年後に控えての大切な大会です。役員の皆様にはリハーサルの一端とし、選手の皆様には日頃の練習の成果を存分に発揮していただき、バドミントン静岡の存在をアピールしていただきたく思います。広報誌「バドミントンしずおか」が皆様の手元にとどく頃には全中、高校総体の結果も報じられると思いますが、選手の皆様の健闘を祈念いたします。



最近の試合を見て思うこと

静岡県バドミントン協会　　副会長　本多 常民

各種大会に多数の方々に参加していただいておりますこと、まず御礼申し上げます。初めに述べさせていただきましたが多数の方々に参加していただけるのは喜ばしい事ですが、その中から全国大会を目指してくれる方はいかほどでしょうか、それがこれからの県バドミントン界の心配の一つです。ましてや少子化の時代に向かってのこれからです。その中において少年団等地域の中、又名レベルで一生懸命努力を重ねていただいている指導者、選手の皆様には頭が下がる思いです。

さて、最近の試合を見て感ずる事を、私なりに少々述べさせていただきたいと思います。競技スポーツをえらんだならばまず勝敗ありきです。その為かたしかに技術的には少年少女時代から素晴らしいものを持っている選手は多数おります。しかし、勝負には技術だけでしょうか？科学的にと伝われて久しく、心の面に取り組むことが少々忘れられてはいないでしょうか。野生味が失われつつあるようで気になるところです。各レベルのチーム・監督・コーチ・選手・個人的活動している皆様方、バドミントンの技術だけでなく身体作りの基本を、心の問題をもう一度見直してみてはいかがでしょうか、そして、目標をしっかりと定めてそれを超えたいと負けん気を出してコツコツと地道に努力し、又、身体的・心・技術の他にその競技にたずさわる者として競技ルールをしっかりと自分のものにしてほしいと思います。心低からバドミントンに惚れ込んで下さい。
きっと良い未来が待っていてくれると思います。

やる気・負けん気・根気で元気

世界女子選手権大会優勝者

高木・天野を思う

静岡県バドミントン協会　　名誉会長　塩川　甫

昭和41年第４回世界女子選手権大会（ユーバー杯）で、見事団体優勝の金的を射止めた、高木・天野（掛川西高校出身）の両選手は、静岡県が生んだ偉大な選手である。

高木は持って生まれた素質的なものを持っていたが、天野は必ずしもそうではなかった。

本人の努力もさることながら、何かしら存在感を示す人柄と、その性格が彼女を成長させたものと思う。当時日本協会の常務をさせていただいていた私に、世界選手権出場者選抜会議の直前に、森本理事長から特別に電話があり、「天野を是非選抜してほしい」との相談があった。選抜会議はそれなりに時間がかかったが、幸いにも天野もその枠に入ることができたのだが。こうして世界選手権において、天野は日本が優勝するための重要なポイントを挙げて、見事その責任を果たしてくれたのである。

私は、彼女たちの強化合宿にも参加したが、ある時、天野が基礎練習をしていた。私はすぐ「天野！右足は一挙に踏み出せ！」と注意した。すると彼女は『ハイ！』と答えて直ちに私の云う通りの練習に入った。その前夜、コーチ会議で某コーチは、天野に『右足は二段で出せ』と指導したと云うのです。天野は、某コーチの指導にも素直に従い、私の指導にも言い訳けもせずただちに従っていたのです。正に、この素直さこそ天野を育てた天野自身の宝であったのである。どのコーチも自分流の指導方法をもっている。それらのすべてを素直に受け入れた時、初めてその選手の特技となり実力となる。何事にも素直に受入れることは実に必要であることを示すものである。このことは、世界選手権大会優勝したことよりも大切で尊いものであると思っている。

天野とは、東海女子短期大学教授天野博江先生であり、高木とは、日本女子短期大学教授中山紀子先生のことである。

第４回・第５回 世界女子選手権大会（ユーバー杯）優勝者



天野博江氏



中山紀子氏
（旧姓高木）

第５号　平成13年1月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あいさつ

静岡県バドミントン協会　　会長　上野　忠

新世紀2001年を迎えてまことにおめでとうございます。

平成15年の国体開催までいよいよ1000日を切り、身も心も引き締まる新年であります。

昨年は協会行事はもとより、東海総合大会、中部日本大会と、ビッグ大会を主管し皆様には大変ご苦労を掛けましたが、大成功をおさめ国体に向けての競技運営、審判技術、各セクションとの連携など貴重な経験をし、自信を深めたと思います。特に中部日本大会はプレ国体として富士宮市のご協力のもと、９県 800 余名の選手役員の参加を得、特に国体優勝チーム富山県の選手と対戦出来たことは大変参考になったと思います。

平成15年の国体に向かって選手強化を目標にした昨年でしたが、中学女子の村松瑞穂、金森裕子、両選手の全国大会準優勝、ベスト８入りは特筆すべきであり、又成年男子の中島信頼選手、高校男子の尾崎弘一選手の活躍などその成果の一端であり、強化委員会の皆様には一層の研鑽を希望するところです。

扨て、広報誌「バドミントンしずおか」も創刊以来一年有余がすぎ会員の皆様の協力のもと５号の発行となりました。予算不足の中での手作りの出発でしたが今回より本印刷となりました。創刊より大変ご苦労を掛けました内田壽夫、栗田俊行、両会員には心より感謝いたします。

先の常任理事会での決定事項でありました賛助金募瘍の結果､50萬円という金額がよせられました。（11 月末〆）ご賛同いただきました役員の方々には心より感謝申し上げ、本年も又ご協力の程をお願いする次第です。尚この浄財は主旨通り協会運営、選手強化費にと有意義に活用させていただきます。

昨年の各連盟の活動状況を見るに、レディース連盟の活躍がすばらしく、協会行事への協力には総務部、審判部として欠かせない存在であり、競技部門においての底辺拡大には目をみはるものがありました。

国体開催に向ってカウントダウンが始まった本年も選手強化を第一の目標と定め又協会組織の充実を計るべく協会員全員の協力をお願いする次第であります。

学連 21 世紀に向けて

静岡県バドミントン協会　　副会長　齋藤　聡

静岡県学生バドミントン連盟（学連）は、名誉会長塩川先生（前会長）のご尽力で平成 4 年（1991 年）に発足し、今年で足かけ10年になります。この間、県協会のご協力とご援助の基、順調に発展して参りました。ミレミアムの節目に、学連の節目も迎えるわけです。そこで、これまでの学連の節目も迎えるわけです。

そこで、これまでの学連の節目も迎えるわけです。そこで、これまでの学連の歩みを簡単にご紹介するとともに、新しい世紀に向かって今後学連が果たすべき役割について、皆様のご理解を得たいと思います。

平成 4 年、紹介いたしましたように塩川甫名誉会長のご尽力により県内の学生バドミントンの振興と交流を目的に学連が発足しました。初代会長に塩川先生をお願いし、平成 12 年度からは、上野忠協会長に会長をお願いしております。学生役員は、委員長以下10名程度を県内の大学から選出し、学連の主催する事業を企画運営しております。学連は、県内の大学に所属するバドミントン部の学生により組織され、構成員は、年度によって若干の変動はありますが、二百数十名程度です。

主な事業は、春と秋に実施される大学対抗の団体戦、３月に実施される個人戦です。

現在、学連として取り組んでいることをご紹介しますと、競技ルールの徹底をかけ声に正しいルールを理解して競技を行うことと、公式戦での厳正な審判を行うことを目標にクラブ員の意識の向上に努めております。公式戦で競技者のルールに対する不理解や主審、線審の審判が原因で競技の進行に水を差すことがないような大会運営を目指しています。このため、昨年度から協会審判部のご協力で年に１回、審判講習会を開催いたしております。このおかげで公式戦の運営もスムーズでルールの浸透も順調に行われていると思っております。

平成15年には、静岡県で国体の開催が決まり協会でも選手の強化対策や大会運営の問題に頭を痛めていると聴いております。学連から国体クラスの選手を輩出できれば良いのですが、別の形での協力も可能であると考えております。今後は、現在の審判講習会を強化し、国体で主審の出来るような学生を育てて行くことを考えております。

皆様には、このような学連の活動をご理解いただき、今後ともご支援、ご協力をお願いし筆を置きたいと思います。



目をつむって叩け

静岡県バドミントン協会　　名誉会長　塩川　甫

昭和４３年福井国体の年、高校女子の代表選手に選ばれたのは、小沢泰子・大角和子（共に静岡城北高校）・漆畑ひとみ（富士高校）であった。小沢と大角の出身中学は静岡大里中学で、関根英夫先生がおられ、〔バミン大里〕という機関紙まで発行し、当時Ｎ０．１の学校であった。漆畑は天才的プレイヤーで、２年生で県代表となった。東海四県の強敵は岐阜県で、インターハイでは準決勝まで進んでいた。どうしても岐阜に勝ちたかった私は、シングルでは漆畑と小沢がいるから少なくとも１勝はできる。ダブルスが勝負だと考えた。そこで、小沢と大角を静岡から富士見高校に通わせて、戦法について徹底を計った。作戦その１「徹底してネットに落とせ」その２「相手コートの真中をドライブで突け」その３「ハイクリヤーは使わずドリブンクリヤーに徹すること」その４「以上に徹すれば球は必ず上がってくる。上がってきたら「目をつむって叩け」であった。然し、この作戦には重大な条件があった。小沢は攻撃的プレイヤーであるからよいとして、大角がどれだけ繋ぐことができるかということと、ネットに落とし、相手コートの真中を突き。ドリブンクリヤーに徹することができるかにすべてが掛かっていた。私は。大角ならできることを確信し大角に賭け、一般女子を相手にこの戦法だけに終始して練習をした。この作戦は見事に的中した。当時の高校生のプレーは、徹底してネットに落とすこと、相手コートの真中を突くこと、ドリブンクリヤーを多用することは全くやっていなかったのである。従って、ダブルスは相手が手の施しようもなく楽勝し、福井国体の出場権を獲得することができた。岐阜の監督が「どうして負けたのか解らない」と嘆いていたのが印象的であった。任務を果たした私は国体には行かず監督を静岡城北高校の清水通明先生に託したのだが、大箸理事長に誉められた懐かしい思い出である。当時の私は副会長であった。

尚、大角和子とは、現在の普及委員長日下部敏弘氏の奥さんである。
日下部氏も国体１０年連続出場の名選手である。



ジュニア選手養成に朗報

静岡県バドミントン協会　　理事長　石川 博義

前回の第４回で、ジュニア養成のことにふれたが一朝一夕にできるものではないことは勿論である。しかし、ここに一つの大きな成果があらわれたような気がする。

今回、㈶日本バドミントン協会主催の第１回オリンピック特別強化指定選手強化合宿が実施される。

目的は、「２００４年、２００８年オリンピックに出場し、入賞、メダル獲得を目指し。競技力の向上を計る。」である。

そのメンバーの中に、富士宮第一中学校の村松瑞穂さんが、大学生・高校生・中学生・小学生を含めて総勢２８名の中の選手として選抜された。このことは、彼女の実力が認められ大変喜ばしく名誉あることである。

第１回は、平成１３年１月５日、６日、７日と日本体育大学体育館で実施される。
スタッフには、ＮＥＣ相模原のコーチであり、静岡県国体少年女子強化コーチの神谷ジャーミン氏をはじめ日本ユニシス監督の阿部秀夫氏など日本のトップを行くコーチ陣１１名、選手には、舛田圭太選手、大東忠司選手をはじめとする若手のメンバー２８名が揃っている。このようなスタッフ・選手と一緒に強化練習に参加出来ることになり、きっと素晴らしい結果が出せることと期待している。

勿論、まだ第１ラウンドのスタートに着いたばかりであるから先は長い、年１０回程度の国内・海外合宿を経てサーキット大会を行うという厳しい試練の中で競争していかなければならない。そういうプレッシャーに負けることなく、上を目指して逞しく成長していくことを望んでいる。

県下のジュニアの指導者、選手のみなさん村松瑞穂さんに続く選手はまだ大勢いると思う。
大きな目標ができたので第２、第３の村松さんを目指して頑張って欲しい。

そのために、静岡県バドミントン協会も全面的な応援をします。

第６号　平成13年5月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あいさつ　静岡県バドミントン協会　　会長　上野　忠

去る４月１４日、平成１３年度総会が開催されまして、１２年度事業報告・決算報告、１３年度事業計画・予算案が承認されました。又、本年は役員改選の年に当たり私をはじめ大半の役員が再選されましたが、新たに副会長として、伊藤克文(ジャトコ・TT)、工藤達朗(富士高校)の両氏が選任されまして、一層の協力布陣となり心強い限りであります。前任者の瀬良満、原洋男両氏には心より感謝申し上げると共に今後とも協会へのご協力・ご指導のほどをお願いする次第であります。

新年度を迎えて早くも各種別の大会が開かれておりますが、国体開催まで２年を余すところとなりました。本年度の重点目標である選手強化に向かって各選任コーチを中心に頑張って欲しいと思います。

協会といたしましても最大限の努力をして選手の補強に努めるように頑張っていく積りです。予算面では大変厳しいものがありますが、昨年より実施しております役員の協賛金募集も皆様のご協力により本年度もお願いしておりますので、是非よろしくお願い致します。

又、総会において新委員会設置の提案があり、広報委員会が承認され、内田寿夫委員長が選出されました。“バドミントンしずおか”の充実・ホームページの開設と会員の皆様への情報発信など、今後の活躍が期待できるかと思います。

本年度は主管する大きな大会はありませんが、国体ブロック予選があります。前種別とも国体に出場できますよう、選手諸君の頑張りに期待いたします。

私とバドミントンとの出会い

静岡県バドミントン協会　　副会長　工藤 達郎

私が初めてバドミントンに接したのは、今から約４５年前の小学生の高学年の頃、家族で正月に羽根突きの代わりにやったことが、懐かしい思い出である。なにやら大変ハイカラな気分であった。

昭和 46 年、吉原工業高校へ赴任した時の部活動で再び出会うことになった。当時の監督は中田稔先生で、私のクラスにも 2 名の部員がいたが、時々腰が痛い、練習がキツイなどと言っていた。子供の頃の記憶では、バドミントンは楽しくて遊び半分のスポーツであったので、不審に思って体育館に見に行った。その激しい動きとスピードの緩急等の技術的な面と体力やメンタルな部分は、想像を超えており、驚くばかりであった。真夏に体育館を締め切って、ジャージを着て練習していたが「苛酷な状態で練習をして初めて、試合で自分の力を発揮できるのです」と言った顧問の言葉を忘れることができない。当時の吉工がインターハイの常連校であったと思う。

その後、再び吉原工業高校に勤務することになった平成３年、顧問は現理事長（事務局長）の石川博義先生であった。偶然にもインターハイのバドミントン会場が吉原工業で、会場校の校長として身の引き締まる思いと同時に、目の前で全国一流の選手のプレーを見る機会が得られたのは、願ってもないことであった。しかし、石川先生は教員と静岡県の競技責任者として二足のわらじで大変であった。試合は８月２日から５日まで行われ、全国のトップクラスの選手の高度な技術とスタミナには驚いた。大会は大成功であった。

平成６年、沼津工業高校では現高体連専門委員長の渡辺治先生との出会いがあった。全くの素人の生徒を２年間で、インターハイ選手に育てる指導力に舌を巻いてしまった。しかも、その生徒たちは強いばかりでなく、礼儀正しく人間的にも好感の持てる生徒であった。その他にもバドミントンを通して多くの出会いがあったが、中でも親や兄弟のご縁で前会長の塩川甫先生、現会長の上野忠氏、副会長の本多常民先生等とお知り合いになれたのも不思議な因縁を感ずる。

バドミントン競技の難しさは、スポーツの中でもトップクラスで、技術・体力以外にも精神的な強さ、知力、礼儀作法等も厳しく、一流のプレーヤーとは、まさに「知徳体」が備わった方であろう。

私が親しくさせていただくバドミントン関係者は何れの方も紳士であられる。

今後も何かとお世話をかけますが、よろしくお願い申し上げます。

想い出の記（５）再試合も平気だった時代

静岡県バドミントン協会　　名誉会長　塩川　甫

昭和３４年第１４回国民体育大会東京大会の東海予選が岐阜において開催された。１回戦、高校女子は岐阜県と対戦し、３：０の完全試合で終了した。しばらくすると主審が来て「ダブルスの試合を１１ポイントでやったので、再試合をして欲しい」と言う。如何に審判のミスとはいえ、試合は終わっているのだから試合は

成立しているはずであるが、審判の困惑した顔を見て、監督の齋藤或先生と相談して、選手の意見を聞くと、平気な顔をして「やってもいいですよ」と簡単に言う。再試合となっても楽勝し、続いて愛知県・三重県にも楽勝した。この圧倒的強さの選手達は、富士兄高校の伊沢利子（現姓神尾）・志村セツ子（現姓平田）・石原待子（現姓大石）の３選手であった。この年の国体では準優勝している。この頃は高校男子も一般男女も強く、国体には東海地区を代表して全種目出場しすべて準決勝まで進出し、天皇杯・皇后杯共に第４位の好成績であったことを思えば静岡県協会の全盛時代であったと思う。この理由は高校には齋藤或先生・植松忠裕先生・藤江稔先生という優秀な顧問がいたことと共に、協会では町田守正氏・杉沢正義氏・岡徹氏・鈴木昂氏の役員や選手が、直接高校に行き徹底して選手強化に努力してくれたことが大きい原因となっている。いわゆる協会と高体連が正に一体となっていた時代であった。当時私は理事長であったが、長いバドミントン生活の中で最も充実して、楽しい時代でもあったのである。

高体連便りメジャーへの道

静岡県バドミントン協会　　副理事長　杉山 敏充

高体連も４月２８日の高校総体地区予選を皮切りに、いよいよ平成１３年度がスタートしました。

今年度は、来るべき平成１５年本県開催の国民体育大会「ＮＥＷ!!わかふじ国体」を大きく視野に入れた活気ある大会が予測されますが、特にこの国体を睨んで前年度より強化養成して参りましたジュニアの強化指定選手が高校生として初めて大会に出場してくれることもあって、関係者の関心や期待も例年以上のものが感じられます。これらの選手が県内は素より県外における大会でどれだけの力を発揮できるかが注目の的であり非常に楽しみでもあります。

しかしその一方では残念ながら、全国的な少子化、の影響による各学校での部員数の大幅な減少（チーム編成ができない）や、相変わらずの指導者不足（人事異動などで顧問経験者が少ない）、更には大会会場・練習場の確保等々…難題が山積しているという現状であり、各校顧問の先生方のご苦労はいかばかりかと拝察申し上けるところであります。

ともあれ、高体連として全国に通ずる選手の育成にここ十数年叫ばれて久しいが、いよいよ待ったなしの時である。とかく静岡にあってマイナー競技とさえ叫ばれるバドミントン界が、脚光を浴びるか否かはこの国体を控えた残り２年半に掛かっていることは疑う余地のないところである。メジャーへの第一歩は全国で**“勝たせること”**からして始まる。とにかく勝利することなんです。我々の力で何としてでも栄冠を勝ち取ろうではありませんか。関係各位の皆様の忌憚ない御意見と更なる御協力を切にお願い致したい次第であります。

“朗報”　高体連前東部委員長渡辺保和先生のご尽力により県立富士東高校にバドミントン同好会が発足しました。今総体は初陣となりますが、今後の活躍と発展を心よりお祈りしたいと思います。**ガンバレ！フジトウ**

バドミントンを始めて五十年余

静岡県バドミントン協会　　常任理事　近藤　進

東京生まれの私とバドミントンとの出会いは、昭和２３年東京ＹＭＣＡでの講習会であった。
当時バドミントンとは羽根突き程度に思う人が多く、練習してまで試作に出ようなどと考えもしなかった。
当時のコーチは、 日本協会初代理事長宮沢宏之さん・今井先先生・川端さん・森友徳兵衛さん等であった。
これらコーチの方々の指導によってだんだんバドミントンに熱が入っていきました。小中学校時代は、陸上競技（短距離）やボクシングをやっていたのですが、何時の間にか、バドミントンに夢中になっていました。
会社にクラブを作り、都実業団連盟に登録して対外試合に出るまでにしました。第１回全日本実業団大会が東京の国民体育館で行われました。化学・製薬関係の６社の予選に優勝し、本選に出場しました。３位決定戦には敗れましたが、それを見ていた会社の部長がクラブの活動に力を入れてくれるようになり、自分としても大いに張り切ったものです。

東京都に協会ができて森友徳兵衛さんが初代理事長に就任し、若輩の私も常務理事として協会の運営に協力することになりました。昭和３３年度都実業団夏季大会で、男子複優勝、単準優勝、混合複３位、翌３４年男子複優勝と二連勝したこともいい思い出になっています。第１８回国体関東地区予選では、高校男子監督として優勝し、本番の山口で２位になったことは最高の思い出です。その後都内で多くのチームができたので、東西南北の４地区に分けました。北部地区長として第１回地区大会を開催しましたが、男女合わせて６０数チームの団体戦を台東体育館で成功させたことも印象深く残っています。
昭和３９年、第６回世界男子バドミントン選手権トマス杯では初めての国際審判を経験させていただきました。
昭和４５年に焼津へ転勤して来て、46 年に焼津協会をつくり３０年以上になります。最近の活動がやや低迷しているのが気になっています。現在は、毎日が日曜日ですが、練習だけは週２～３回は続けています。
平成１５年の静岡国体を大成功させるよう、常任理事として微力を尽くす積りです。

第７号　平成13年9月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あいさつ

静岡県バドミントン協会　　会長　上野　忠

例年になく厚い夏も処暑を過ぎて、秋の足音を感じるこの頃です。７・８月は全中大会、高校総体、国体予選と大きな大会が目白押しでした。話題の高校１年生、村松瑞穂・金森裕子(共に星稜高校)両選手の活躍が注目され、期待通り県内大会すべてを制覇し、高校総体においても３回戦に進出して優勝ペアと対戦し、惜しくも敗れたとはいえこれからが充分期待できるかと思います。

８月２５・２６日に国体東海ブロック大会が行われ、成年男子はジャトコＴＴの本田和裕選手を中心に優勝し、代表権を獲得しました。少年女子は、愛知県・三重県を連覇し、強敵岐阜県（高校選抜大会優勝）と対戦しましたが、１：２で惜敗しました。しかし、見ごたえのある内容で、その奮闘振りは称賛にあたいします。

特にこの大会は静岡県・富士宮市のご援助・ご協力と富士宮市バドミントン協会のご協力により、１０年振りにコートマットを使用、電光カウンターのテスト、６人体制での審判、マニュアルに沿ってのアナウンス、パソコン使用の記録処理、プラカードの先導で審判・選手のコートへの入場等国体開催に向かっての予行訓練も兼ねての開催でした。

９月以降は東海総合・中部日本大会、更には国体の本大会と県外大会がありますが、代表になられた選手の皆様の健闘を期待いたします。

なお、本年度も役員の皆様にお願いしております協賛金も順調に推移しており、一層のご協力をお願いする次第です。

スポーツについて

静岡県バドミントン協会　　副会長　伊藤 克文

バドミントン協会の役員を迎せつかって１年近くになります。

このスポーツは場所も余りとらないこともあって、多くの方が子供から学生時代にかけてプレーの経験があると思います。しかし、いわゆるプロの人と素人との差は大きく、学生の時、選手の人とお手合わせをして、シャトルにさわれもしなかった記憶があります。

自分自身は中学・高校とバレーボールを続けました。当時は体育館も整備されてなく、炎天下のグラウンドで何時間もボールを追いかけていた思い出があります。お陰で社会人になってからも、社内大会であるとか、愛好者で市の大会に出場したりとか、３０歳位まで続け、多くの友人に恵まれました。スポーツの良さは、成長期の身体能力の促進、チームワークの習得等言われています。又、学生時代、勉強があまり得意ではない人が、社会人になって頭角を表して来てみると、不思議とスポーツが多いことを知らされます。スポーツは知識以上の大切なものを与えてくれるからだと思っています。３０歳以降は、テニスとかゴルフに取り組んだり、常に何か身体を動かすようにしています。最近ではジムのスイミングにも励んでいます。

スポーツの良さは何よりも、健康と楽しみを与えてくれることではないでしょうか。
静岡県はサッカー・野球と全国でもトップレベルを誇っています。今後はバドミントンも他のスポーツに負けない位、高いレベルに向上していくことを強く願う次第であります。

思い出の記（６）吉原高校１０連覇に想う

静岡県バドミントン協会　名誉会長　塩川　甫

吉原高校は、故植松裕忠先生が昭和２５年に創部した最も古い歴史を持った高校で、影山妙子・山本美津子ほか多くの名選手を輩出した名門校であった。特に植松先生は、高体連の中心的人物であるとともに、県協会の役員として、両者の連携を密接に保ってくれた功労者である。これに富士見高校の斉藤或先生・掛川西高の藤江稔先生がおられ、お互いに競争し合ってレベルを高め、東海四県では常にトップの座にあった。
私も理事長時代たびたび高体連の会合に出席を要請されたものだった。そして酒を酌み交わしたものである。

吉原高校が１０年連続でインターハイ出場の偉業を成し遂げたことがある。選手たちの努力は勿論だが、なんと言っても植松先生の教え子である栗田俊行コーチの力が大であった。
この偉業は当然高く評価されるべきであるが、その半面、吉原高校の独走を許した背景に問題があった。
それは、他校の実力が余りにも低下したとしか言いようがない。この現実は、植松先生が去り、斉藤先生・藤江先生も去って、県協会と高体連との密接な関係が形式的になったのが最大の原因と考えざるを得ない。
何時いかなる時代でも、それぞれの立場を越えた、人と人との心が通じ合うことこそ、何物にも代えがたい強力な力を発揮するものである。

平成１５年の静岡国体を目指して

静岡県バドミントン協会　　選手強化委員　少年女子担当　吉氷 将史

少年女子は現在、高校１年生３名・中学３年生２名・中学２年生２名の合計７名を強化指定選手として、彼女らを中心に強化を進めています。この中から平成１５年に活躍できる３名を育成していきます。
現在この中で注目されるのは、村松瑞穂(星陵高校１年生)と金森裕子(星陵高校１年生)です。
村松は昨年の全中にて準優勝、金森はベスト８に入賞しました。村松は恵まれた運動能力、特に脚力を武器にしており、金森は卓越した技術を武器にしています。本年度インターハイにおいてもダブルスにてシード選手を破り、優勝者と互角に戦える力をつけ、来年への期待も大きく膨らませています。
７月には新たな試みとしてフィジカルチェック(身体・体力測定)を磐田市スポーツホトニクス研究所にて実施しました。これにより選手は自分自身の身体能力を明確な数値として認識し、身体をＭＲＩ映像で直接見て、自身の筋力等の強さを知り、今後のトレーニングに生かす指針としています。このような現状ですが、まだまだ成長過程の発展途上人たちです。彼女たちを支えるのは私たちスタッフだけでは困難です。会員の皆様の暖かいご支援が何よりの支えとなります。
今後とも、よろしくお願い致します。


左から金森・塩澤・村松各選手

インターハイ団体出場校





伊東高校（男子）市村・大川組は個人戦で単複にも出場
星陵高校（女子）個人戦で、加藤・塩澤組が複に、
村松・金森組は単複にも出陽という完全優勝

第８号　平成14年１月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あいさつ

静岡県バドミントン協会　　会長　上野　忠

明けましておめでとうございます。

新世紀の２００１年は不況、テロ、報復と、実に憂うべき年でありましたが、スポーツによって一脈の光明を見ることが出来ました。

マラソンの高橋尚子、野球のイチロー両選手の大活躍により、感動と希望を与えてくれました。本年は冬季オリンピック、サッカーのワールドカップが開催されます。昨年の悪夢のような事件を乗り越えて、今こそ平和のシンボルであるスポーツの神髄を発揮する時かと思います。

さて、いよいよ本年は我々の出番です。国体開催まで２年を切りました。本年度はリハーサル大会として全国高校選抜大会を開催致します。皆様と共に多年にわたり準備を進めて来まして万全な体制が整いつつありますが、何よりも地元選手の活躍こそが感動を呼び、大会の成功を約束させるものと信じております。名種別とも選任コーチのもと、指定選手の皆様は頑張っておりますが、今一度、原点に立って練習に精進して下さい。１３年度の行事も県総合選手権大会を残すのみとなりましたが、急遽日本協会より第１回ふれあいグランドマスターズ大会の開催及び主管を依頼され、常任理事会の承認を受けて行うこととなりました。協会の皆様のご協力により大会の成功を期すべく準備を進めたく思います。（期日・会場等については、本誌最終ページに掲載してあります。）

バドミントンを愛する仲間が全国より集い、親交を深め大いに語り、笑って楽しい大会にしたいと思います。協会員の皆様もふるって出場して下さい。

国体を迎えるに当たって

静岡県バドミントン協会　副会長
富士宮市バドミントン協会　会長　　井出 浩文

前回の静岡国体のバドミントン競技大会が富士市に開催された折、富士市にバドミントン熱気が溢れ、それが富士宮市に及んだと聞いております。

その熱気を富士宮市のバドミントン関係者は大切に温めて来ました。塩川甫先生、七澤宏光先生、そして役員の方々の一致協力の姿勢、本当に頭が下がります。

現在富士宮市では、七澤先生ご指導の少年団に加えて井出裕雄氏が率いる少年団が増え、これが引き金となって富士宮四中にバドミントン部が誕生しました。この二つの少年団が競い合って好結果を生み出しているのです。有望な若い選手の育ちつつあります。「国体を契機にもう一つ・・・・」と秘かに思ったりもします。富士宮の今の課題は、「バドミントン旋風をまきおこすこと」だと思うのです。

市協会では、理事長川原崎氏が「ＮＥＷ‼わかふじ国体ＰＲ大会」を計画中です。皆様のご支援・御協力を切にお願い申し上げます。

市では、「国体花いっぱい運動推進委員会」「国体クリーン運動推進委員会」「国体ようこそ運動推進委員会」「国体スタンドいっぱい運動推進委員会」を設置、市民の啓蒙運動に取り組んでいます。体育館も整備中です。私も花いっぱい運動の推進役になっています。力一杯がんばりたいと思います。

思い出の記（８）昭和３２年･第１２回　静岡国体の開催(その一)

静岡県バドミントン協会　　名誉会長　塩川　甫

県が国体誘致の「申請書」を提出したのが昭和２５年、難航の結果決定したのが昭和２８年であった。

協会として開催場所を決定するのが最大の難問題であった。理事長であった私は、富士見高校の斉藤威先生と吉原高校の植松忠裕先生に相談して、富士市しかないことを確認した。吉原市（当時）は早々と卓球が決定し、富士宮市は誘致の動きはなく、富士市は軟式野球が名乗りを挙げていた。そこで、二人は誘致のための作戦を開始した。①県会長を富士市に置くということで、松林会長の了解を得て、矢部喜一氏に会長をお願いした。

「バドミントンのバの字も知らない」という方にお願いしたのは無謀であったかもしれないが、当時の市との関連において重要な人物であったからである。②富士見・富士両高校の校長先生に市当局への働きかけをお願いすること。両校長先生共に快く承知下さって、熱心に運動して下さった、１市民による誘致運動の展開である。これは当時大きな勢力をもっていた婦人会にお願いした。会長の秋山てるさんが、岩松・富士・田子浦の支部役員を召集して、一発で決定してくれた。この婦人会の力は大きかった。遂に市議会でバドミントンの誘致が決定した。なお、婦人会の協力は誠に大きいものがあった。国体参加選手全員に「逆さ富士」の写真額を贈呈すると共に、開始式の時選手全員に「茶の花のリボン」をつけて下さった。選手の胸につけてあげたのは開始式の中で、富士中の生徒の皆さんが担当してくれた。

さて、富士市に決定したものの、多くの問題を抱えていた。①競技場（体育館）の確保②競技役員、特に審判員の養成と確保③選手強化④バドミントン競技の普及などである。これらを少ない役員で実行しなければならなかったのである。（続く）

ＮＥＷ!!わかふじ国体にむけて

静岡県バドミントン協会　　理事長　石川 博義

平成15年のＮＥＷ!!わかふじ国体も年が明けて後２年足らずとなりました。準備も着々と進んでいますが、その現状についてお知らせ致します。

リハーサル大会：第３１回全国高等学校選抜バドミントン大会
期　　日：平成１５年3月２１日～２４日
会　　場：富士宮市民体育館
競技内容：学校対抗・個人対抗（単・複）１０コート参加監督・選手：約４５０名

静岡国体：第５８回国民体育大会（ＮＥＷ!!わかふじ国体)
期　　日：平成１５年１０月２６日～２９日
会　場：富士宮市民体育館
競技内容：都道府県対抗団体（１複２単）８コート参加監督・選手：約５００名

以上二つの大会を実施します。選手は各県各地区の予選を経て参加します。この各大会に要する競技役員は約６０名、審判員は約１２０名、競技補助員約８４名です。これら、役員・審判については一応の意向調査を行いましたが、勤務等の都合で全日程参加の方は少なく、現在確定的とは言い難いところがあります。
今後調査は続くと思いますが、宜しくご協力をお願い致します。

審判員の養成については、県協会審判委員会が中心で県下各地で講習会を実施しています。ルールも年々変更になりますので、１級・２級・３級の取得への努力をお願いしたいと思います。国体とは直接関係なくてもバドミントンの普及には欠かせない条件となることと思います。

選手強化に関しては、開催県として成年男女・少年男女の全種別への参加が可能になりますので、各種別とも強化に力を入れているところです。

県外遠征・県内合宿も回を重ねています。成年男子は、ジヤトコＴＴチームが本田和裕選手の補強により徐々に力をつけてきています。少年女子は、星陵高校の村松瑞穂・金森裕子両選手が第７回・第８回オリン　ピック特別強化指定選手強化合宿に参加できるなど、その実力が認められてきています。成年女子・少年男子も残り少ない期間ではありますが強化に努めていきたいと思っています。

会場地富士宮市実行委員会を中心に大会開催準備を進めております。
協会としても、対策本部を設置し、　競技、式典、審判、記録、選手強化各委員会を設けましたが、まだクリアーしなければならない問題は山積しておりますので、今後とも会員の皆様及び関係の皆様のご協力ご支援をお願い申し上げます。

第９号　平成14年5月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あ　い　さ　つ

静岡県バドミントン協会　　会長　上野　忠

青葉が目に沁みる頃となり街路樹の間にフジッピーの看板や、幟が目立つ様は正に全国高校選抜大会(リハーサル大会)、ＮＥＷ!!わかふじ国体の開催を主管する我が協会への応援期のように目にうつります。

さて、２月に開催を主管しました第１回ふれあいマスターズ大会も協会員のご協力により無事成功することが出来、また本県出場の「静岡サラブレッド」チームの優勝という、国体を控えて幸先のよいスタートを切ることが出来ました。選手の皆様おめでとうございました。

この大会の優勝候補の最右翼と目された東京都の「芙蓉会」が決勝トーナメント準決勝で栃木県の「この指とまった」戦にオーダーを変えて対戦しました。相手が侮った？わけではないと思いますが、これが大失敗で敗退しました。油断大敵という言葉がありますが、正にこの言葉どおりではなかったか、チーム対抗戦での監督、コーチへの警鐘かとも思いました。本県チームは地元の面子を保持し、意気高く緊褌一番優勝を果たしたことは立派の一言に尽きます。

ゴールデンウィークを利用して国体強化選手は県外遠征など頑張っており、一方運営面では競技役員の確認、服飾の整備など行われています。経済不況の折、貴重な県・富士宮などの補助金、協会役員有志の協賛金などで強化も順調に進んでいますが、一層の努力をして県民の期待に添うべく頑張りましょう。

静岡国体の思い出

静岡県バドミントン協会　　副会長　町田 守正

ＮＥＷ!!わかふじ国体も、いよいよあと１年に迫り、バドミントン競技の開催地富士宮市でも着々と準備が進んでいることと思います。

そこで、昭和３２年に開催された静岡国体バドミントン競技について思い出すまま書いてみます。

当時は県内にバドミントン競技はまだあまり普及していませんでした。経験者は少なく、私は２０代前半でしたが高校時代の経験者ということでバドミントン協会の役員となり、高校女子の強化担当の一員として富士見高校の斎藤先生始め同僚の岡徹氏・杉澤政義氏と一緒に通い夜遅くまで練習したことを思い出します。結果は準優勝でしたので、少しはお役に立てたかといい気持ちになりました。

前回のバドミントン会場は富士市の富士中体育館を第１会場、富士高講堂を第２会場として開催されました。事務局は富士市役所にあり、当時教育委員会におられた塩川甫理事長（現名誉会長）を中心として企画・運営されていたと思います。開催地としては審判員の確保が一苦労で、審判・技術委員会を数多く開いたと記憶しています。

練習会場の一つの富士高の体育館は現在と違い天井に梁が縦横に出ているというひどいもので、ハイクリアを打つと梁に当たってしまい、ダブルスのショートサービスとドライブぐらいしか練習ができなかったのではないかと思います。

大会期間中は協会の役員は第一会場の富士中の宿直室に泊まったことなど懐かしい思い出です。

第５８回国体をぜひ成功させましょう！！

思い出の記（８）昭和３２年･第１２回　静岡国体の開催(その二)

静岡県バドミントン協会　名誉会長　塩川　甫

一番苦労したのは競技場の確保である。当時の旧富士市には、富士高の雨天体操場と富士見高の体育館しかなく、二つとも小規模で競技会場としては使えなかった。幸い矢部会長の努力により、富士市体育協会が協力してくれて、市長や市議会に陳情し、ようやく富士中に体育館を建築することによって解決した。

ここで特筆することが二つある。

一つは、県国体事務局で県民運動として「県民ひとり一スポーツ」を展開するに当たって、その種目にバドミントン・バレーボール・民謡の３種目が指定されたため、私は県の計画に従って、県内くまなくバドミントンを普及することができたことである。

その二は、国体の総合開会式のマスゲーム「バドもってお母さんといっしょ」に、岩松小・富士第一小・富士第二小・田子浦小の子供４００人母親４００人計８００人が参加したことである。

指導者は太田はな子先生ほか各校の女の先生、各学校の練習や市の合同練習、更に草薙の本会場での総合練習

など苦労の連続であったが、親子のマスゲームは国体史上初めてであり、全国的に反響を呼び大好評であった。当時の日本バドミントン協会本田会長が、「静岡県バドミントン協会は、競技ばかりでなく、マスゲームまで進出してバドミントンをアピールしたことは、絶賛に値する」と誉めてくれた言葉を忘れることはできない。

県民運動に指定されたことと、マスゲームのことは、県国体事務局の中心的役割を果たしていた渡辺福太郎先生（現顧問）の計画によるものである。改めて厚くお礼申し上げる。またマスゲーム実施に当たり、 当時富士市教育委員会の影山隆亮氏（現参与）が絶大な協力をしてくれたこと、更に国体開催についての功労者であることを決して忘れてはならない。

バドミントン部紹介

静岡県立富士東高等学校　　バドミントン部顧問　渡辺保和

静岡県立富士東高等学校創立２５周年の節目の年に、バドミントン部が創設されました。現在３年生男子４名、女子１３名、２年生男子８名、女子１３名の計３８名の大所帯に加え、新入部員多数で活動しています。現在の高等学校において運動部を創設することは簡単ではありませんが、創設に向けて頑張った生徒たちと御協力いただいた職員をはじめ学校関係者の方々に感謝しつつ、創設までの道筋を御紹介致します。

平成１２年４月、現３年生が入学した時に吉原工業から赴任した顧問と新入生たちの意見が合致して、愛好会の形でスタートしました。今の自治会(生徒会)のルールでは同好会として認知されるのは年１回、年度末なので、まずは他の部活動との兼ね合いとなりました。新聞部・パソコン部・茶道部など、などさまざまですが、週４回(月・火・木・金)の活動からはじめました。当然顧問も他の部活(女子バスケット部副顧問)を兼ねていました。ただ幸いなことにバスケット部は専門の先生がおられたため、ほとんど試合引率だけで助かりました。しかし、他の部活動を見るのも勉強で、大変役に立ちました。

バドミントン部創部にあたっての最大の問題点は活動場所です。これはどこの学校でも共通課題だと思います。ましてや、体育館を使用するすべての部が県大会出場を果たす本校では、体育館の使用などもってのほかです。ただ、平成３年総体開催地、富士市のバドミントン人口は他よりも多く、熱心に活動している地域であることが助かりました。県内最強のジャトコの後藤監督に相談し、ご無理をお願いして。平日、富士見台体育館をお借りすることとなりました。

富士東高校は進学校でもあるので、部活動と勉学との両立は至上命題です。限られた時間の中でいかに集中して取り組むかが問題です。先輩もいない放課後２時間の練習！！

「部活動とはどのようなものか」「バドミントンとは？」など１からすべて顧問が手取り足取り教えなければできません。今の高校生は、勉強ができても指導しなければ何もできません。ただ指導には素直に取り組む生徒が多かったのは助かりました。１年目は右も左もわからない１年生にいろいろな体験をさせるので精一杯でした。

２年目に同好会として認知され、バドミントンだけに専念できるのと同時に後輩も入部し、活気が出てきました。土曜・日曜は市内の体育館を借り、早朝６時からの本校体育館での練習等で徐々に力をつけ、夏の１年生大会では男子が１位・２位をはじめ５人が県大会出場、女子はベスト８の半分を占めるなど、少しずつ結果を残せるようになりました。また１年生に刺激され秋の新人戦では、２年生女子が団体戦６位で県大会出場を果たすことができました。冬には朝霧野外活動センターでの２泊３日の合宿なども経験し、少しずつ部活動の形態をなし今年２月に部昇格することができました。今は新入生を迎える準備をしつつ、総体予選に向けて最後の頑張りをしているところです。目標は、男女団体県大会出場です。

文武両道がモットーの富士東高校で、バドミントンという競技を通して人間的にも成長してくれればと心から願いつつ、一緒に走り回っています。

顧問の口癖「バランスが大切！部活だけになるな、勉強だけになるな、心身共にバランスだ！」

ヨチョチ歩きの富士東高校バドミントン部をどうぞよろしくお願い致します。



第１０号 平成14年9月 発行所 静岡県バドミントン協会 編集者 広報委員会 印刷 富士ニュース社印刷事業部

あ い さ つ

静岡県バドミントン協会　　会長　上野　忠

蒸し風呂のような体育館の中、ウィンドブレーカーを着用した強化合宿中の高校女子の姿です。過酷なまでのインターハイ出場への備えをして頂点を目指した今年の大会参加でしたが、期待の村松瑞穂・金森裕子両選手は力及ばず優勝者・準優勝者に敗れました。しかし両名とも二年生であり来年の選抜大会・インターハイ・国体と三大会に向かって百折不撓一層の努力を願うところです。

又、一年生の米川優貴・清水つかさ(星陵高校)両選手の活躍もすばらしく、その成長に期待も膨らみます。

一般男子のジャトコチームの全日本実業団大会でのベスト８進出も久しぶりの快挙で、選手強化の成果であり国体に向かって一層の研鑽を望むところです。本年の高知国体には上記の少年女子と成年男子の出場となりましたが、東海地区予選で敗退した成年女子・少年男子に関しては、強化委員会を始めとしてその対策を再検討し、全力を尽くさねばなりません。リハーサル大会も半年後となり、国体開催まで残すところ１年となりました。選手はもとより競技役員・会員の皆様が誇りと自信を持って各自の役割を遂行して下さることを願います。９月に入って東海総合・中部日本大会・国体と大会が続きますが、出場選手は全力を尽くして頑張って下さい。又、役員の方々は高知国体の組合せ会の視察・国体審判・大会運営視察など大変ご苦労ですが、確り勉強して来て下さい。全てが来年の国体成功に繋がるわけです。

沼津東高校バドミントン部　草創の記

静岡県バドミントン協会　　副会長　和田 夏樹

「バドミントン同好会の結成しかみとめられず、体育館を使用しない条件で発足。富士宮の塩川先生の元に通い、ルール、実技の指導を戴き県大会に参加できました」。昨年３月３日に開催された創部５０周年・０Ｂ会創設３５周年の記念祝賀会の時、同好会を結成された遠藤 求先輩（高３回）のメッセージから抜粋したものです。

昭和２５年、遠藤先輩が中心となり、同好会として産声を上げました。しかし香陵会館（講堂兼体育館）を使用しないという条件付きで認められました。仕方無く、やや広い生物教室の使用許可をもらい、そこを練習場として、東高バドミントン部の歴史が始まりました。勿論、ルールや技術的な事等は一切判らず、塩川 甫先生（現名誉会長）のご指導を戴き練習を開始しました。翌２６年、初めてバドミントン部として正式に認められ、原 博男先輩（高４回）が初代部長となり、顧問に青木 裕先生（数学）をお迎えしました。

部として予算を戴いたのは、中西 基先輩（高５回）が部長になった２７年の事でした。

因みに、その時の予算額は、３千円でした。

その後、香陵会館の使用が認められる事になりましたが、コートはステージの上で、天井からは照明器具が下がっており、その上バックラインの内側には柱が有ると言う有様で、今では想像出来ないものでした。

その様な劣悪なコートで練習をし、２７年から３年間連続した事は、塩川先生という名伯楽の下、先輩方の血の滲むような練習の成果であり、この事は、今でも０Ｂの間に脈々と語り継がれております。

思い出の記（９）昭和３２年･第１２回　静岡国体の開催(その三)

静岡県バドミントン協会　名誉会長　塩川　甫

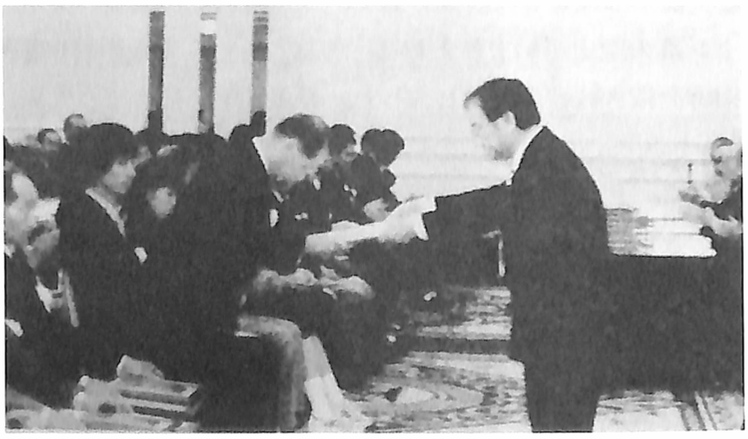
いよいよ開催の年となった。富士市国体準備室が正式に発足したのは、国体開催の直前の９月になってからである。それまでは、富士市教育委員会社会教育課（塩川甫・影山隆亮・小長谷秀雄・三浦節子）が、一般業務も実施しながらすべてを担当していた。今思うとよくできたと驚いている。特に私は、県バド協会理事長・県体協本部役員・市体協事務局長・県国体準備委員会理事・市国体準備室事務局長・マスゲーム委員などの役職を持ち、目の廻るような日々であった。また協会の役員も少なく、斉藤或先生（当時富士見高校教諭・故人）・植松忠裕先生（当時吉原高校教諭・故人）が高校関係者として協力して下さった。一般では町田守正氏（現副会長）・篠崎虎雄氏（現参与）・望月富弘氏（現理事）などが中心になりよくまとめてくれた。
大箸昭司氏（現参与）などはこの時期に、役員にお願いした方である。当時は役員には、旅費も日当も支払うことはなく、全員手弁当であった。そして国体期間中の宿泊は、富士中学校の宿直室か、自宅であった。
正に今昔の感があった。特筆すべきことは、天皇陛下が吉原の卓球会場に行幸されるに当たり、乗車駅を富士駅としたことである。そして高松宮殿下のご台臨を仰いだことである。これも事務局長の立場に立って、遠藤修治市長にお願いして斉藤寿夫県知事に直接陳情して実現したことである。このことにより、富士市のバドミントン競技の会場を大いに盛り上げることができた。

上野忠会長　県体協の功労章受章

本協会長上野忠氏が、（財）静岡県体育協会体育章贈与規定に基づく第４３回体育章贈与式において、去る５月２９日功労章を受章いたしました。この顕彰制度は、昭和３５年に制定され、本県スポーツ界の最高栄誉章として、加盟団体から推薦のあった方々の中から選ばれ、既に功労者３４６名、優秀選手２４３名、優秀チーム24チームが受章されています。今年は功労者６名、優秀選手１０名、優秀チーム５チームが受章いたしました。

また、７月１３日（土）ホテルグランド富士において、県バドミントン協会及び富士高校同期生の共催で受章祝賀会を開催しました。（財）静岡県体育協会斉藤斗志二会長を始め７０名の出席者で大変に盛り上がりました。

バドミントン種目としては、第５回に優秀選手章として高木紀子氏（現日本女子体育大学教授中山紀子氏）、第１９回に矢部喜一県協会会長（現県協会顧問）、第２４回に斉藤枝県協会会長（故人）、第２８回に塩川甫県協会副会長（現県協会名誉会長）、第４０回に大箸昭司県協会副会長（現県協会参与）がそれぞれ功労章を受章されております。



第４３回体育章贈与式にて

第１１回　平成15年1月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部



あ　い　さ　つ

静岡県バドミントン協会　　会長　上野　忠

明けましておめでとうございます。

いよいよ２回目の静岡国体開催年となりました。会員の皆様の協力のもと多年にわたり準備を進めてきまして最終調整の段階となりました。富士宮市実行委員会のご協力には心より感謝する次第であります。競技者はもとより、指導者・競技役員・補助役員共々、一人ひとりが主役として一致団結し、大会成功に向かって頑張りましょう。

３月にはリハーサル大会として全国高等学校選抜大会が開催されます。夢と希望に胸を膨らませて全国の高校生が富士宮市に参集します。その中で地元選手の活躍にも大きな期待が寄せられ、感動を呼び起こしてくれるでしょう。そして、「ＮＥＷ!!わかふじ国体」開催に拍車がかかり、大会の成功が約束されると思います。

昨年末に行われた日本リーグニ部大会において、ジヤトコチームが優勝を勝ち取り、本年は念願の一部昇格が約束され、この勢いで国体に向かって一層の頑張りを期待いたします。

１４年度事業も残り少なくなりました、県総合選手権大会直後の高校選抜大会と国体開催準備の間で会員の皆様には大変ご苦労をお掛けしますが「がんばるがすき」のスローガンのもと、一層のご協力をお願いする次第です。５０年に１度のスポーツイベントをスポーツ人生の集大成として、大会を笑顔で迎えましょう。



二つの大きな大会を迎えるに当たって

静岡県バドミントン協会　　副会長　本多　常民

大勢のバドミントン関係の皆様方、いつも協会の活動につきましてご援助・ご協力ありがとうございます。いよいよ平成15年には大きなイベントを二つ迎えることになりました。心引き締めて当たる所存でございます。大きな大会を控えて先ず、監督選手諸君には日々の鍛錬ご苦労様です。幸いにも私は高知国体の視察応援をさせていただき、選手諸君の活躍ぶりをつぶさに拝見させていただきました。

さて15年はいよいよもって久しぶりの本県においての大舞台であります。静岡県のバドミントン界を地域に、県下に、全国に、スポーツ界に、もっと大きな夢では全世界に名を馳せる又とないチャンス到来です。どうか強化委員をはじめ選ばれた皆様方は県・地域・所属先・貴方自身のプライドをかけて「やる気」・「負けん気」・「根気」で「元気」をモットーとして尚一層の精進をなさって下さい。しかし、健康には充分以上気をつけて欲しいと思います。皆様方の精進をなさって下さい。

さて競技を直接担当する協会関係の皆様方、現在の社会・経済情勢からすれば大変な負担と努力が必要と存じます。しかし大会を盛り上げるためには、陰に陽に努力・協力して下さるボランティアの方々がいることを忘れてはならないと思います。この度の視察で改めて肌で感じてまいりました。大会を成功させることで、そういう方々への感謝の気持ちを表せたらと思います。

大変でしょうが、是非とも絶大なるご協力をお願い致します。

想い出の記（１０）　昭和３２年･第１２回静岡国体のその後

静岡県バドミントン協会　名誉会長　塩川 甫

昭和３２年静岡国体後の協会は非常に発展した。高校は勿論のこと、岩松中・富士中・吉原一中・興津中・大里中など多くの中学校にもバドミントン部が設立された。協会も静岡県ＳＢＢ（初心者）大会や、家族大会などを開催して、その普及を図った。思い出に残るのは、家族大会に出場した三浦節子さん父子が優勝したことである。お父さんは、当時有名な市議会議員であった。昭和３４年度の日バ登録会員数は、全国で第３位であった。競技力は、最初の頃は東海四県中いつも下位にいたが、逐次成績を上げ、全種目で国体に出場することもあった、私は、北海道国体の昭和２９年から１４年間理事長を務めたが、第１２回静岡国体後も富山・東京・熊本・秋田・岡山・山口・新潟・岐阜・大分・埼玉国体まで、総監督・監督または本部役員として出場し、第一線を退いた。

昭和５６年に学校を退職したが、副会長であったので第一線に復帰したら皆にびっくりされた。

その頃から中学校の部活動は壊滅状態になり、高校・一般とも競技力が低下してきたが、幸いにも和田夏樹氏・工藤喜久雄氏・町田守正氏・七渾宏光氏・滝正孝氏・後藤和之氏・中田稔氏などが懸命に支えてくれた。

私は６２年に会長となってから競技力向上こそ協会再建と考え、全く異例ではあったが、当時の理事長であった町田守正氏（現副会長）と相談して、競技力向上委員長を兼務することとした。

第３１回全国高等学校選抜バドミントン大会近づく

静岡県バドミントン協会　理事長　石川 博義

全国高校選抜バドミントン大会もいよいよ２ヶ月余に近づいてきました。

第５８同国民体育大会のリハーサル大会として準備をしてきましたが、当大会を国体のリハーサル大会として実施するのは初めてであります。前年までは各県高体連が主導で来ましたのが、リハーサル大会ということで、富士宮市国体実行委員会と県協会が中心となり、各県高体連と共に準備を進めてきました。初めての試みとして、前年度までの大会運営をできるだけ崩さないように、尚且つ国体の運営をスムーズにできるようにといろいろ考慮してきました。まだまだ準備は不十分ですが、競技役員約６０名、審判員約１００名及び高校生補助員約１００名も大方決定し、ユニホームも製作中です。

今後は､大会運営のシミュレーションを重ねて実施して、本番に備えることにしています。

出場に関しては開催県であるため、学校対抗男女各２校、個人対抗単複男女各２組までブロック予選を経ずに県大会の成績のまま出場できます。当大会７ヵ月後には、国体本番を迎えて強化選手も含めて出場することになっています。選手も国体を見据えて頑張っています。当大会の成績が国体に大きく影響するものと考えて、意気高揚しています。役員・補助員も初めての全国大会の地元開催とあって張り切っています。

関係各位の皆様には絶大なるご支援を頂きたくお願い申し上げると共に、ご期待頂きたいと思います。

今後の日程

申込締切　平成15年2月　8日（土）
組合せ会議　平成15年2月15日（土）
開　会　式　平成15年3月21日（金）
競　　技　平成15年3月22日（土）～24日（月）
閉　会　式　平成15年3月24日（月）競技終了後

第１２号　平成15年5月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部



星陵高校全国制覇!!

去る３月２１日（金）～２４日（月）の４日間にわたり富士宮市民体育館で行われた、第３１回全国高等学校選抜バドミントン選手権大会において、星陵高校が女子学校対抗で見事優勝しました。この快挙は本県にとって初めてのことであり、今年夏の全国高校総体及び秋の NEW！！わかふじ国体優勝への足懸りを掴んだものといえます。

今後ともご声援をお願いします。

以下、監督・選手諸君の喜びの声を掲載いたします。

優勝の喜び　監督　吉永 将史

富士宮市に来て教員となって６年。いつかは日本一にという夢は確かに持っていました。しかし、こんなにはやく夢を子供たちがかなえてくれるとは思っていませんでした。勝った瞬間、恥ずかしながら涙が溢れ、私の一生の宝となりました。優勝をしていろいろな方々から監督としての私に「おめでとう。」という言葉を頂戴いたしますが何よりの功労者は星陵高校バドミントン部の一人一人であります。レギュラーもイレギュラーも男子も女子も誰か一人いなかったら成し得なかった結果ではないかと思います。コートの中では、決してあきらめることなくシャトルを追い続け、スタンド・ベンチからは、かれる声の大声援。この生徒たちが一番に賞賛されるべきであります。そして、こんな素晴らしい部員を育てられたご家族に、彼らが成長するそれぞれの段階でご指導いただいた方々に、本校バドミントン部を支えてくださった方々に深く感謝いたします。また、この優勝が地元の小中校生の心に響いてくれて、より高い目標を子供たちが持っていただけたら幸いです。

最後に県協会関係各位、静岡県高体連バドミントン専門部関係各位、富士宮市実行委員会の皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

コーチ　木村 雅俊

このたびの第３１回全国高等学校選抜バドミントン大会学校対抗女子の部において優勝できたことは何よりの喜びです。まだまだ歴史の浅いチームですが今回の優勝により、新たな歴史が刻まれたと感じます。今後もより一層練習に励み、さらに前進して参ります。今回の優勝は、地元の皆様をはじめ多くの皆様の応援のおかげです。応援してくださった皆様に厚く御礼申し上げます。

マネージャー　近藤 久美子

私はこの選抜でバドミントン部の一人として、またマネージャーとして試合に参加できたことがとてもうれしかったです。そして、全国という舞台でチームがひとつになって優勝までできたことが最高の思い出になりました。本当に感動した大会でした。

主将　金森 裕子

今回、私たちが優勝できたのは、地元の方々の応援、委員会やボランティアの方々の支援があったからです。そして、先生や親、仲間に支えられ一生の宝物になる思い出ができました。本番の国体でも優勝を狙い、頑張ろうと思います。ありがとうございました。

選手　村松 瑞穂

準決勝・決勝ともに 2-2 で私にまわってきた時は大変なプレッシャーでした。しかし、絶対に勝つという気持ちで床にシャトルが落ちるまであきらめませんでした。優勝の瞬間は本当にうれしかったです。インハイ・国体でも頑張ります。

選手　塩澤 彩子

この大会では、練習の成果が発揮でき、優勝することができてとてもうれしいです。地元の方々の応援が励ましになり、地元の体育館でのびのび試合ができました。インハイ・国体に向けてさらに頑張ります。

選手　清水 つかさ

優勝できて本当に嬉しかったです。地元の多くの方の応援のおかげです。しかし、まだ多くの課題がありました。インハイや国体に向けて今まで以上に頑張り、絶対優勝したいと思います。

選手　米川 優貴

優勝できてうれしいです。地元の応援のおかげであまり緊張せずに自分のプレーができました。地元での選抜で優勝できたのでこの後のインハイ・国体も優勝できるように頑張ります。

選手　佐野 悠

優勝が決まったあの瞬間、やったという胸の底からこみ上げてくる喜びとチームの気持ちがひとつになって勝ち取ったという感動で、自然と涙があふれました。優勝できてとてもうれしかったです。

選手　遠藤 亜耶

優勝することがとてもうれしく思います。私は今回、応援という形で参加しましたが今までのどんな試合の中でも一番感動し、最高の思い出となる試合でした。こんなに涙の出ることも初めてでした。

あ い さ つ

静岡県バドミントン協会　会長　上野 忠

星稜高校女子部の全国選抜大会（国体リハーサル大会）学校対抗戦優勝おめでとう。心よりお祝い申し上げます。静岡県バドミントン協会創立以来５４年目にして初の高校団体優勝を成し遂げ、又個人戦でもシングルス金森裕子選手の３位、村松瑞穂選手のベスト８入り、両選手のダブルスベスト８入りとその活躍は立派の一言に尽きます。又一年生で先兵を務め無敗で団体優勝の原動力となった米川優貴選手の頑張りも見事なものでした。不撓不屈の精神で日頃の練習の成果を充分に発揮しての勝利は、感動を呼び高い評価をいただきました。過去に個人戦優勝（望野政枝・富士見高校）はありましたが、団体戦での日本一は初の快挙であります。選手諸君はもとより監督の吉永先生をはじめ学校、父兄、地域の皆様のご理解とご協力そして協会員の応援の賜物かと思います。その上に忘れてならない事は、バドミントン静岡の復活を目指してジュニア対策を提唱し、小中学生の指導をされて来られた七澤宏光氏の存在こそ今日の優勝をもたらしたものと思います。これからも一層のご指導をお願いする次第であります。

ＮＥＷ!!わかふじ国体開催まで後５ヶ月と秒読みとなり、優勝した選手諸君は驕ることなくインターハイ・国体に向かって邁進して下さい。大会運営・競技運営など若干の反省点もありましたが、競技役員・補助役員の皆様の協力そして努力により盛会裏に終わることができましたことに感謝申し上げます。

星稜高校に続けと成年男女・高校男子の選手諸君はインターハイ・国体に向かって全力を尽くして頑張って下さい。

協会員も全員が知恵と力を出し合って、ＮＥＷ!!わかふじ国体開催準備にご協力をお願い致します。



全国優勝した星陵高校チーム

全国高等学校選抜バドミントン大会 兼 国体リハーハル大会を終えて

静岡県高体連バドミントン専門部　部長　工藤 達朗

開会宣言と共にファンファーレが高らかに会場に鳴り響き、感動の４日間が始まった。この度、大会宣言と閉会宣言を仰せつかり光栄であり、上野忠静岡県バドミントン協会長様始め関係の皆様にお礼申し上げます。

立派な会場と効率的な大会運営、受付や整理係、補助係等の爽やかな挨拶と案内は、全国から来られた方々にも大変良い印象を与えた様でした。

この大会を契機に、静岡県高等学校バドミントン界ばかりでなく、県全体の一層の技術レベル向上と競技人口の増大に繋がり、秋に実施される国体が盛大で華やかな式典を迎え、競技運営がスムーズに実施されるであろうと確信しました。

全国各地から選抜された高校の一流選手が、目の前で繰り広げる華麗で激しい１点を争う試合内容は、技術的・精神的な枠を超越した運命的な結果を生んだ。地元、星陵高校の女子チームが、学校対抗の部で有力校を次々と撃破し、優勝するという、本大会、最高の盛り上がりを演出してくれ、大会関係者の一人として感動の４日間であった。日々努力を重ねた監督・生徒始め関係の皆さんに、心からお祝いを申し上げたいと思います。また、静岡県選抜の高校生諸君も至る所で素晴らしいプレーを発揮しており、今後に期待がもてました。

私は、シングルス戦よりダブルス戦に、個人戦より団体戦に興味があります。何故かと言うと、ダブルスは個人の技術がいくら優れていても必ずしも勝てない。選手の特徴を見極め、最適な組合せによりお互いの欠点を補い合い、あたかも一人の完璧な選手となっているかの様なコンビが強く、試合も面白い。また、団体戦は個人戦と異なり、目に見えないバトンがあり、シングルス戦、ダブルス戦と繋がれていき、それらが完成されたとき勝利のゴールが飛び込んでくる。真の総合力の勝利と思うだけに、星陵高校の試合は多くの応援者に感動以上のものを与えてくれた。今後もバドミントン関係者に永く語り継がれていくに違いない。

最後に、本大会を成功に導いた県バドミントン協会、バドミントン専門部の先生方、富士宮市実行委員の皆様に厚く御礼申し上げると共に、静岡県のバドミントン競技が益々発展することを心から祈念します。

第１３号　平成15年9月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あ　い　さ　つ

静岡県バドミントン協会　会長　上野 忠

いよいよ NEW!!わかふじ国体を間近にして想いは過去数年間に及ぶ準備、そしてこの春のリハーサル大会（全国高校選抜大会）の開催であります。協会員一同の協力で今日まで来ました。
本番まで残すは１ヶ月余りとなりました。万全を期して、全国から参加されます役員・選手を笑顔でお迎えできますように最後の知恵を出し合いましょう。

競技運営、選手強化と頑張ってきました結果、全国高校選抜大会での星稜高校女子の団体優勝、そして先のインターハイでの女子個人戦ダブルスで金森・村松組（星稜高校）の優勝、学校対抗戦の星稜高校女子の３位入賞があり、また一般男子ジャトコチームの日本リーグ１部昇格など目を見張るものがあります。

この勢いで国体開催県としての自覚のもと頑張って下さい。

去る８月３１日（日）の常任理事会において国体選手・監督が決定されました。今月２４日が国体参加申込みの締め切りです。２７日には日本体育協会での組合せ会議と日に日に緊迫の度が増すこの頃ですが、富士宮実行委員会のご協力により諸準備は万端整いつつあります。協会役員及び競技役員、補助役員の皆様も共々、この機会にバドミントン静岡の名を富士山のように高揚しましょう。

協会創立 50 余年、協会発展のためご尽力下さった諸先輩、関係者の皆様方に大会の成功をもってその労に報いたく思います。

いざ出陣です。役員・選手共に兜の緒を締めて頑張りましょう。



NEW!!わかふじ国体　開催にあたって

静岡県バドミントン協会　副会長　井出 浩文

私たちバドミントン愛好者が、一致団結して開催する「NEW!!わかふじ国体バドミントン競技大会」まで、残り僅かとなりました。

富士宮市では、１０月５日（日）炬火リレー（６区間7.4ｋｍ）、１２日（日）国体クリーン運動、１９日（日）式典リハーサル、２６日（日）開始式（９：００～）、最終日２９日（水）まで競技、その後１４時より表彰式を予定しています。
また、市民運動として「花いっぱい運動」「クリーン運動」「ようこそ運動」「スタンドいっぱい運動」を展開して歓迎しようとしています。私たちも全国各地から参加される選手及び関係者の皆様から、「素晴らしい大会だった」と喜んで頂けるような大会に盛り上げるべく、みんなで努力していきたいと思います。

「笑顔いっぱい」であいさつを交わし、優しく接し、時間があればスタンドへ出かけ、地元の選手への応援は勿論、よいプレーには大きな拍手を送り、精一杯応援しましょう。
役員の皆様、日頃よりお忙しい中、バドミントンの普及発展に、また国体のためにご尽力下さり、心から感謝を申し上げます。

私も、市の「花いっぱい運動」の責任者として、体育館周辺を中心に美しい花で飾り、歓迎の気持ちを表したいと思います。

皆様、みんなで国体を盛り上げましょう。（富士宮市バドミントン協会会長）

星陵高校

金森・村松組女子複優勝！



今夏、長崎市で行われた全国高校総体で金森裕子・村松瑞穂組（星陵高校）が優勝という快挙を成し遂げました。県勢の同種目での優勝は初めてであり、ＮＥＷ!!わかふじ国体への大きなステップになるといえます。

優勝の喜び　金森裕子

優勝した瞬間は頭が真っ白になりました。本当に嬉しいとしか言いようがありません。団体戦も優勝を狙っていましたが、負けてしまいましたのでとても悔しく、だからダブルスは絶対に優勝したいと思っていました。準々決勝、準決勝、決勝とどの試合も苦しい試合になりましたが、パートナーの村松さんの励ましや、声を嗄らしながらも応援をしてくれた仲間、陰で支えてくれた両親、今まで温かい指導をして下さった先生方、沢山の人々のお陰でインターハイという最高の舞台で優勝することができました。感謝の気持ちでいっぱいです。これからは、遠征や合宿、試合も増えると思うけれど常に前向きで目標を高く持ち、練習に取り組んでいきたいです。まずは、ＮＥＷ！！わかふじ国体で優勝したいです。これからも応援をよろしくお願いします。

優勝の喜び　村松瑞穂

「インターハイは絶対優勝してやる」選抜のダブルスでベスト８に終わってしまった時からリベンジを誓って練習してきた。夏の暑さ対策のために今まで以上に厳しい練習だったが、最後のインターハイで絶対勝ちたかったので乗り越えられた。そして、いよいよ最後のインターハイ。いくつも苦しい試合があったが、絶対に最後まであきらめなかったし、パートナーを信じていた。決勝戦でも１ゲームを取られ、２ゲーム目もリードされていたが逆転勝ちできたのは、お互いの気持ちが一つになって信じ合えていたからだと思う。優勝した瞬間はこれが現実なのか分からなかった。とにかく嬉しかった。今回のインターハイで優勝できたのは私達の力だけではない。今まで一生懸命指導してくれた先生や、私達が試合をしやすいような環境を作ったり声を嗄らして応援してくれたチームメイトや親やバドミントン関係者の方々。沢山の人の応援のお陰でこのような結果を得ることができたと思う。とても感謝している。今後は国体に向けてまた頑張りたい。





第58回ＮＥＷ!!わかふじ国体　種別監督の抱負

成年男子の展望　　成年男子監督　中島 信頼

成年男子のチーム構成は、ジャトコ（株）バドミントンチームの主力３人での構成となる。

ジャトコバドミントンチームは昨年度日本リーグ２部にて優勝し、５月に行われた入替戦でも勝利し、悲願の１部復帰を果たした。この勢いをそのまま国体へとつなげたいと思っています。チームの実力・精神的な柱となるのが３年前にトナミ運輸から移籍した本田和裕選手である。昨年も全日本総合選手権２位と好成績を残している。しかし、心配なのは２年前に痛めた膝の怪我が再発しており、今回もその復調状態が鍵を握っている。本田とダブルスを組むことになるのが、選手の中で最も若い山下豪選手となるが、本田選手と組んだダブルスでは、日本リーグ２部で全勝をマークしており、好成績が期待される。シングルスの中心となるのが、古川祐輔選手で社会人２年目となる今年は昨年以上の期待が掛かる。正直、彼のシングルスが勝負の分れ目となると予想される。

ここ数年ブロック大会では好成績を残しているが、本大会では１・２回戦敗退が残している。地元開催となる今大会では今大会では、過去の最高成績である「ベスト４」を目指して頑張りたいと思います。

第１４号　平成16年1月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部



あ　い　さ　つ

静岡県バドミントン協会　会長　上野 忠

明けましておめでとうございます。
昨年は本協会にとりまして正に真価を問われる年でありました。国体に明け国体に終わり、その成果は協会創立以来の成績である天皇杯５位を収めました。会員一致団結しての見事な成績でした。

真っ赤なカーペットに囲まれて緑のコートが設置されたＮＥＷ!！わかふじ国体バドミントン競技会場は開会式を待つ会場一杯の観客を魅了し、バドミントン競技への認識を深めてくれたことと思います。幼稚園児８０余名による素晴らしい鼓隊の演奏のあと選手入場、ソプラノ歌手のリードによる国歌及び大会歌の斉唱で始まった開会式、鳥肌の立つ感動を覚える立派なスタートでした。

国体開催決定以来７年、会員の皆様の全面的なご協力により準備を進めて参りました。リハーサル大会である３月の全国高校選抜大会での星稜高校女子団体戦の優勝を始め、全国高校総体女子ダブルス優勝、女子団体３位、全日本ジュニア選手権大会ダブルス優勝を成し遂げた原動力金森裕子・村松瑞穂両選手の活躍は誠に見事なものでした。又、国体での成年男子の準決勝進出、成年女子及び少年女子の準々決勝進出は開催県として本当に立派にその責務を果たしてくれたと思います。それに加えて大会運営、競技運営、補助役員の活躍など日本協会を始め関係各位により多大の評価を受けましたことは静岡県協会の面目躍如たるものがありました。過去４年間、役員諸氏による協賛金の応援など本当にありがとうございました。又、国体開催を主催して下さいました富士宮市を始め関係各位には心よりお礼を申し上げる次第であります。今後とも当協会に対してご指導ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。我々はこの経験を生かして会員相互の結束を固め、県協会の益々の発展を進めようではありませんか。

会員の皆様、ご苦労様でした。

塩川甫名誉会長　国民体育大会功労者表彰

１０月２５日（土）、ＮＥＷ!!わかふじ国体総合開会式後にレセプションがあり、その席上で行われた表彰式において、塩川甫名誉会長が「国体功労者表彰」を受けられた。これは、「国民体育大会に　都道府県選手団本部役員・監督・選手・大会役員・競技会役員・競技役員として３０回以上参加した者」という表彰基準に該当したことで、天皇陛下より表彰状を授与されました。
国体５８回の半分以上に関わって来られたということになります。受章の感想は、「天皇陛下の目が非常にきれいだった」とのことでした。誠におめでとうございます。

２度の地元国体を味わった幸福

静岡県バドミントン協会　副会長　本多 常民

ＮＥＷ!!わかふじ国体、再度のオレンジ旋風を巻き起こし、大盛況の内に閉会を迎え、誠におめでとうございました。思い起こせば前回、私は大学卒業直後でまだまだ若く、何のお手伝いが出来るかと思っていたところ、上野（現会長）・町田（現副会長）両君の誘いにより少年女子のコーチをさせていただきました。今と違い、練習場も時間もままならない中で、故斉藤或先生のご好意により富士見高校練習場を使用させていただき、思う存分の練習が出来ました。夜遅くまで練習し、フト気がつくと 10 時・11 時になっていることも再々でした。当時は自家用車などなく、慌てて練習を終了し選手を町田君は自転車の後ろに乗せて、私は電車で帰る２人を富士駅までエスコートしたという、きつい内にも楽しかったことを思い出します。結果は少年女子が見事準優勝。その時の喜びは何にも替える事は出来ません。佐野・西村（富士見高校）、掛橋（沼津西高校）の姿は今でも忘れられません。ただ残念ながら当時の会場であった富士中体育館は改築され姿をとどめておりません。

今回、バドミントン競技は全国総合５位という素晴らしい成績を残しました。これは、選手の郷土愛、学校の誇りを心に秘めた練習の成果だと思います。又彼らを育てた競技力向上委員、サポートしてくれた関係者に感謝の限りを尽くしたいと思います。更に、競技面だけでなく、この大会を成功裏に終了させて下さった諸関係者・団体・ボランティアの皆様、特に地元富士宮市・同バドミントン協会の皆様方本当にありがとうございました。

第３・第４のオレンジ旋風を起こすべく、今後とも益々の応援をよろしくお願いいたします。若い世代、若い力に期待しています。

２度も地元の国体に関わり。味わえたことを非常に嬉しく思っています。

ＮＥＷ!!わかふじ国体を終えて

静岡県バドミントン協会　国体総監督　井出 裕雄

ＮＥＷ!!わかふじ国体バドミントン競技が１０月２５日～２９.日、富士宮市民体育館を会場に行われた。今年度は地元開催で全種別が出場した。

初日は成年女子と少年男子が出場!!成年女子は１回戦目の山形県を２対Ｏのストレートで破り、２回戦の高知県戦に進み、見事２対１で逆転勝ちを収め３回戦に進んだ。少年男子も１回戦で秋田県を２対Ｏのストレート勝ちで２回戦に進んだ。

２日目は成年男・女、少年男・女の全種別が出場した。少年女子が広島県にストレート勝ちでベスト８入り、成年男子も大接戦の末、第４シードの滋賀県を２対１で破り久しぶりのベスト８入りを果たし、成年女子も第７シードの島根県に大逆転で勝利を収めベスト８に入る大健闘をみせた。残念ながら少年男子は高知県にＯ対２で敗退したが、２年生主体の若いチームなので来年に期待したい。

３日目はいよいよ準々決勝、少年女子は長崎県と対戦、ダブルスをストレートで勝ち幸先よいスタートをきったが残すシングルス２本を落とし、逆転負けを喫してしまった。成年男子は長崎県相手に粘り強い試合運びで逆転に次ぐ逆転で見事に勝利を収めベスト４に勝ち上がった。成年女子は強豪宮城県に善戦したがストレートで破れベスト８に終わった。しかし、これは非常に価値のある成績だった。

最終日に残った成年男子は準決勝を東京都と戦ったが善戦の末１対２で破れた。３位決定戦の宮城県との試合も最後まで正々堂々と戦った姿は地元の人達に好印象を残した。結果も男女総合５位、女子総合６位という立派な成績を収めることができたのも、今までの練習の成果と地元の人達の温かい声援に支えられた結果と厚く御礼申し上げます。（静岡県バドミントン協会選手強化委員長）



少年女子ダブルス村松（左）金森（右）選手
（岳南朝日新聞社提供）



成年女子ダブルス山下（左）尾崎（右）選手とベンチで見守る
吉野監督（左）杉谷選手（右）



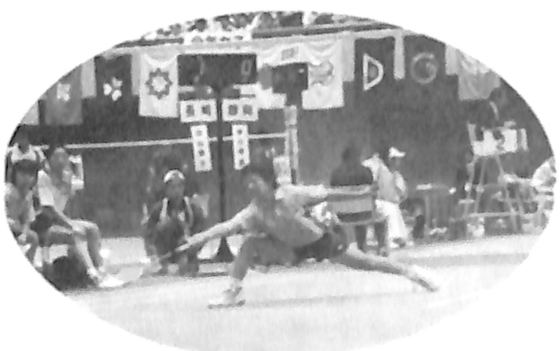
少年男子ダブルス
高田（左）荒川（右）選手
（岳南朝日新聞社提供）



成年男子ダブルス
山下（左）古川（右）選手
（岳南朝日新聞社提供）



成年男子シングルス　古川選手
（岳南朝日新聞社提供）



少年女子シングルス　米川選手
（岳南朝日新聞社提供）



成年女子ダブルス　山下（左）尾崎（右）選手
（岳南朝日新聞社提供）



審判団



審判団



◀ 遠井稔男日バ専務理事のあいさつ



会場風景



◀ ４位入賞の表彰状を受ける本田和裕成年男子監督



５位入賞の少年女子 ▶
金森裕子選手



４位入賞の成年男子



５位入賞の成年女子



５位入賞の少年女子



上野忠会長よりねぎらいのあいさつを受ける

第１５号　平成16年5月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あいさつ

静岡県バドミントン協会　会長　上野 忠

最近、「自己責任」と言う言葉を見聞すると同時に「義理人情」を問われることがよくあります。

戦後５０有余年を経て平成不況からの脱出に懸命な今日、それは戦後最大の転換期を迎えて変革・改善の時かとも思います。スポーツを愛する我々も、昨年のＮＥＷ！！わかふじ国体を契機として老若男女を問わず目覚めるときかも知れません。昨年の国体での活躍を見るように、漸く長いトンネルを抜け出したように思います。その陰には底辺の拡大と競技力の向上を図るべき多くの指導者・関係者の協力と研鑽、そして、次なる目標に向かって頑張って下さい。

新年度を迎えて既に各大会が始まりました。各自が目的意識をしっかりもって目標に挑戦して下さい。

今年度は本協会にあっては全国規模の大会開催はありませんが、８月には日韓青少年スポーツ交流大会（小学生及び中学生対象）が湖西市であり、１２月（予定）には東海地区日韓高校親善大会が本県当番で韓国遠征します。選手の皆様は代表権獲得が出来ますように頑張って下さい。又、役員の皆様には一層のご協力をお願い致します。

本年度の国体予選も始まります。昨年の実績を越えるべく練習に励んで下さい。昨年のインターハイで高校チャンピオンに輝いた金森・村松両選手はナショナルユースのメンバーとなり、進学（早稲田大・筑波大）も果たされました。協会員の応援を背にナショナルチーム入りが出来ますように頑張って下さい。

そして、２００６年日本開催が決定している世界選手権大会出場を果たしてくれるよう願っています。

バドミントンしずおか　創刊当時のこと

静岡県バドミントン協会　副会長　内田 壽夫

早いもので、本誌も第１５号を数えることになりました。創刊は、５年前の平成１１年７月です。

当時､静岡県バドミントン協会創立５０周年で、記念式典を１月２７日に行ったばかりでした。

「ＮＥＷ!!わかふじ国体」を４年後に控えて、バドミントン協会でも選手強化は勿論のこと、県内会員相互の情報交換の場をもちたいと考え、ＰＲも兼ねて広報誌を発刊することになりました。そのとき私が記念誌の編集に関わったことから、広報担当の仕事が廻ってきたというわけです。

当初は予算も用紙代と郵送費位でほとんどなく、私は編集委員長とは名ばかりで、原稿の打ち込みからレイアウトまで栗田俊行氏（元県協会事務局長）にお願いする始末でした。印刷は学校の輪転機を使わせていただきましたが、折角の写真もコントラストが強すぎて顔が真っ白になったり真っ黒になったりであまり綺麗に出ず、申し訳ないことをした思いです。Ｂ４サイズの用紙に両面印刷でしたので、半分に折るわけですが、インクがよく乾かないうちに折るものですから手が真っ黒になったこともしばしばでした。

創刊号は、協会創立５０周年記念特集で、年間事業計画が入りＢ５判１０ページ、第２号は６ページ、第３、４号はそれぞれ８ページ印刷でした。ここまでは､年２回の発行でした。平成１３年度になりようやく予算がつくようになったと同時に年３回発行となり、サイズもＡ４判で字も大きくし見やすくなったと思います。

印刷を富士ニュース社にお願いすることで写真が鮮明になってホットしたことを思い出します。

４ヶ月毎の発行ですのでニュース性に欠ける嫌いはありますが、できる限りご要望に応えたいと考えていますので、ご意見など是非お寄せ下さるようお願い致します。

想い出の記（１１）　日本体育協会功労者表彰について

静岡県バドミントン協会　名誉会長　塩川 甫

平成１５年１０月２５日、第５８回国民体育大会静岡国体総合開会式の終了後、浜松グランドホテルで、国体出場３０回以上出場者の表彰式が行われた。私も昭和２１年第１回国体以来３０回を超えたので、その栄誉に浴することができた。

表彰式には、天皇・皇后両陛下がご台臨になり、特に受賞者は一人ひとり両陛下からお言葉を賜った。天皇様の私を見るお目が、本当に優しかったし、皇后様の私の話を聴こうとする姿勢が余りにも真剣そのものであったことには、心から敬服すると共に、恐縮の極みでもあった。

両陛下に拝謁したのは今回が２回目である。第１回目は昭和３８年、日本体育協会創立３０周年記念パーティーの時である。立食パーティーであったから直ぐお側まで近寄れた。ご結婚後間もない皇太子殿下は、お若くすがすがしかったし、美智子妃殿下は、初々しく美しかったのが、今更のように思い出される。

何れにせよ、光栄なことであり、人生における最高の記念であり嬉しいことでもあった。

更に、今回の日本体育協会の表彰により、スポーツ人として文部大臣表彰をはじめ、全ての団体表彰を頂くことになったのはまことに名誉なことであり、今までご協力いただいた皆様方に心から感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

富士宮バドミントン　スポーツ少年団　代表　七澤 宏光

本少年団の発足は、昭和４８年（１９７３年）で、昨年３０周年を迎えました。

現在団員は小学校１年生から６年生まで（予備軍の幼児数名とゲストの中学生数名）、男子３０名、女子２５名で、育成指導者１名、認定指導者２名、小学校教諭１名、社会体育での経験者３名､他にお手伝いの父母数名が指導にあたっています。練習日は、毎週原則として水・土曜日の午後５時から７時までで、富士宮市民体育館の第１体育室Ａ・Ｂ面を使用させてもらっています。



基礎体力作り､基本ストロークの習得を主目的としています。卒団後、上のクラスの段階に少しでも対応できるように考え指導しています。

３０年経過していますので､卒団生も数百名となるでしょう。活躍中の卒団生は男子では東日本小学生大会シングルス２位の佐野祐樹（関東第一高卒）、向井智治（松崎高教員）、女子では青森山田高時代全国制覇した杉谷淳美（東海大学）、全国高校総体ダブルス優勝の金森裕子（早稲田大学）、村松瑞穂（筑波大学）、全国高校選抜団体優勝の塩沢彩子（静岡大学）がおります。また、高校では星陵高校、富士宮北高校、富士東高校等で多数の卒団生が活躍中です。

目指すぞ全国優勝！　羽球友の会（大井川Ｊｒ）代表　早川 芳朗



私どもの会は、創部６年目を迎えるにあたり、大井川Ｊｒと羽球友の会を統合し､更にレベルを上げるため再スタートしました。

大井川Ｊｒを立ち上げた当時は､十数名で週１回の練習、基本練習を中心に活動していましたが、大会に参加しても中々勝つことができず､他の団体の指導者に指導方法をお聞きし、２年目には練習回数も週２回とし､練習内容も一部変更して何とか東海大会に出場できる選手が育ってきました。ところが東海大会に出場しますと、上には上がいるものと高さの違いを見せつけられ考えさせられました。３年目には練習回数も週３回（８時間）に増やし､途中から練習内容もトレーニング重視に変え、学年によっては県大会で優勝できるようになり、４年目には初めて全国大会（若葉の男子）を経験することが出来ました。更に昨年は若葉に２年連続出場、全国ＡＢＣ大会・都道府県対抗小学生大会にも出場という選手を育てることが出来ました。私自身も昨年、日韓交流大会・都道府県対抗小学生大会に監督として参加させて頂き、更なるレベルアップの必要性を再度痛感しました。

子供たちのレベルが着実にＵＰしているのに、指導者もレベルＵＰしなければと思い、日バの指導者研修会に一昨年の箱根及び今年の新潟に参加させて頂き、学ぶことばかりでした・・・！

大井川Ｊｒを卒団した中学生も学校に部活がない為、羽球友の会（一般）でバドミントンを続けたい中学生を残し練習してきましたが、更なる上を目指す為に、本年から統合し、小・中学生強化を図り、会員４０名（内Ｊｒ２９名）で練習回数も週６回（２０時間）としてスタートをきり、練習計画を立てて日々練習をしている毎日です。

第１６号　平成16年9月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部



あいさつ

静岡県バドミントン協会　会長　上野 忠

１０８年ぶりに開催されたアテネでのオリンピックもフィナーレを迎え、連日のメダルラッシュに日本国中沸きに沸いた夏も終わり、スポーツのもつ素晴らしさに感動を覚えたことと思います。

各種目の競技者は固より、監督・コーチ、そしてサポーターとの一体感は正に人間愛を実感するものでした。今大会の日本選手団の成績は過去最高であり、二連覇、三連覇した谷、野村選手を初めとしてマラソン野口、水泳の北島選手など立派の一言に尽きますが、私はなんといっても柔道で初栄冠を手にした阿武選手の不屈の努力と頑張りには、全身震える思いでした。彼女の試合後のコメント「三度目の正直・・・・・・。あの屈辱（二大会初戦敗退）があったからこそ今がある」の言葉ほど競技者に求められるものはないと思います。

「女子選手の活躍」と「復活」が今大会のキーワードでした。２０年・３０年を経て復活した種目も多くありました。それはジュニア対策に長い年月を費やしての結果です。思えば、３０数年前ユーバー杯を獲得した掛川西高出身の高木紀子（現姓中山）選手が、「将来はきっと中国が世界を制するでしょう」と言ったことがあります。それは、当時中国はジュニア対策に全力を挙げていたからです。

本協会でも昨年活躍した金森・村松両選手にしても、１０年余年の期間を費やしての結果であります。

本県も各地区でバドミントンスポーツ少年団が誕生しそれぞれ指導者の下でレベルアップを図っています。東海地区でも少しずつ成果が上がり、全国大会出場を果たすようになってまいりました。昨年の静岡国体では、富士宮市市内の幼稚園児によるデモンストレーションもありました。鉄は早い内に打ての言葉通り、早い時期からラケットに慣れることが大切だと思います。

指導者育成と共にジュニア強化に全力で向かいましょう。



静岡学連と共に

静岡県バドミントン協会　副会長　齋藤聡

静岡県学生バドミントン連盟（学連）は、平成４年に発足して以来、今年で足かけ１３年目になろうとしている。私は当時東海大学海洋学部羽球部の部長教員として、幸いにも学連の発足から現在までの歩みをつぶさに見ることができた。今回は、普段皆様にあまりなじみのない学連の活動を紹介することにしたい。

平成４年に発足した学連は、会長に当時の静岡県協会会長の塩川甫先生にお願いし、加盟校は静大、県大、東海大、常葉大、日大、浜医大の６大学を中心に結成された。その後、塩川会長の県協会会長勇退に伴い、現在は上野忠県協会会長に学連会長をお願いし、塩川先生には名誉会長をお願いしている。

学連は、加盟校（現在１２加盟単位で構成）からの代表による常任委員会を執行機関として、常任委員長の所属する大学が幹事校となって学連主催の競技会その他の行事の運営を行っている。また、学連の活動は、春と秋に大学選手権大会（男女団体戦）を行い、年度替わりの３月に学生選手権大会（男女個人戦）を行っている。また、県協会の協賛で年度初めに審判講習会を行って、バドミントン競技の正確なルールや審判技術を広く習得するようにつとめている。

団体戦は、２複３単で行い第１シングルはダブルスと兼ねることが出来ない。また、男女２部リーグ制を引いて加盟校１校あたり最大２チームまで登録することが出来る。個人戦は男女単複２部制で競技を行い、１部の３位チームまでは静岡県国体予選会への出場権が認められている。

これまで大学連について紹介してきたが、紙面の都合でこの辺にする。大学連はまだまだ発展途中なので、関係各位のご支援を得てますます充実していくつもりである。学連から国体選手を輩出する夢をいつか実現したい。

第８回日韓青少年スポーツ交流　静岡県バドミントン協会　理事長　石川 博義

ワールドカップ・サッカー大会の日韓共同開催決定を契機に、スポーツを通じて両国の親善と友好をより一層深め、更には両国のスポーツ振興と競技力向上を図ることを目的に、１９９７年から各県持ち回りで実施されてきたこの交流も第８回を迎え、２０６名（初等部・中等部）の韓国選手団を受け入れて、日本側も同数の２０６名（小学生・中学生）と共に実施されました。

種目はサッカー、バレーボール、バスケットボール、卓球、バドミントンの５種目です。
バドミントンの会場は、湖西市アメニティプラザで、公式試合結果（２複３単）は次の通りでした。

昨年の韓国遠征に比べるとかなりの進歩はあったようである。中学生男子がよく頑張り、あと一歩のところで勝ちを逸した。小・中学生共に男子はかなりの戦いが出来たが、女子は共に力の差が大きいようであった。

全体的に見て、心技体共に大きな差があり、学ぶところが多くあった。これは国の体制とか、組織力の差であるが、それらを乗り越えて行かなければならない部分があると思われる。

選手達は、試合もさることながら、目的の一つである親善と友好は大いに深められたようで、会場や宿舎で楽しい日々が過ごせたようです。これを機会に少しでも国際感覚を養い、自分自身を見つめて、更なる進歩に繋げて行ってくれることを期待したい。


第８回日韓青少年スポーツ交流集合写

参加した役員・選手は、運営委員　伊倉吟好以下６名
競技委員　山本秀和以下14名　補 助 員　湖西高校バドミントン部員２４名
監　　督　（小男）早川芳朗　　（小女）早川敦子　　（中男）太田祐樹　　（中女）岩渕倫敏
選　　手　小男、小女、中男、中女各６名

日本バドミントン協会顕讃賞を戴き　静岡県バドミントン協会　副会長　本多 常民



２００４年6月２０日、東京の日本バドミントン協会評議員会の席で、全国の仲間の１人としまして日本バドミントン協会顕讃賞を受賞して　参りました。
私は、静岡県で初めてバドミントンのラケットを握った中の１人として、それを誇りと糧にして静岡県バドミントンの発展を願って日々を送って来ただけです。こんな私に上記のような賞を与えて下さるなんて。
今日の私のあるのは、先輩諸氏の引っ張り上げ、同輩の協力、また後輩やバドミントン愛好の皆様方の後押しがあったからこそです。心より感謝申し上げます。
これからも出来る限り皆様方と協力して微力ながらも静岡県協会・東海地区・日本協会の為に努力して行きたいと思います。
バドミントン以外には何の取り柄もない私ですが、今後ともよろしく御鞭撻お引き回し下さるよう心よりお願い致します。本当にありがとうございました。

静岡県体育協会功労章受章のこと　静岡県バドミントン協会　副会長　和田 夏樹



この度、（財）静岡県体育協会功労章受章の栄誉に浴する事が出来ました事は、私にとりまして身に余る光栄であり、県並びに市のバドミントン協会の方々を始め、多くの関係者の皆様方に心から感謝を申し上げると共に、厚く御礼申し上げます。
去る６月３日、ホテルアソシア静岡ターミナルで行われました「平成１５年度第４５回体育章贈与式」におきまして、功労章を戴きました。
この度の受章につきましては、私自身、誇れるような成績を挙げた事もなく、また、これといった実績も残しておらず、唯々、当たり前の事を当たり前のようにしてきて、受章したという事で、恥ずかしく思っております。
私以上に功績の有る方々がいらっしゃる中で今回受章したという事は、私をこれまで育てて下さった協会の先輩の方々や、私を守り立て、支えてきて下さった多くの仲間の皆様方の功績が認められ、それらの方々を代表して、私が受章したのだと受け止めております。昭和２８年４月、ボート部に入部したい私に、バドミントン部入部を熱心に勧めてくれた、亡き鈴木安祥先輩のお陰でバドミントンを始める事が出来、今回の受章があるのだと、贈与式の時に当時の事が思い出されて参りました。今回の受章を機に、更に精進して参る所存でありますので、今後とも宜しくご指導を賜りますようお願い申し上げます。本当に有難うございました。

「はしれ！」蒲原バドミントンスポーツ少年団　代表　磯部 佐江子



本少年団の発足は平成６年で、今年１０周年を迎えました。現在団員は、小学校１年から６年まで、男子４名、女子２１名で、育成指導者１名、お手伝いの父母数名が指導に当たっています。

練習日は、毎週原則として火・木曜日の午後５時から７時までと土曜日の午後１時から４時までで、蒲原東小学校体育館を使用させてもらっています。体育館に入ると、すぐに大きな声で「こんにちは、お願いします!!」のあいさつをしっかりすることから始まり、準備体操、体力作り、フットワークをやり、基本練習に入っていきます。

最近では、２５人の練習に加え、他のチームとの交流練習なども取り入れ、大勢の子供達と触れ合い、お互いを向上させる事も行っています。

団の児童育成方針として「集中力を高める」があり、バドミントン競技の中から、三つの「い」、楽しい、くやしい、うれしいを通して集中力を覚え、大きく育ってほしいと願っています。

平成１２年に東海大会に出場して以来、本年度の目標である５年連続出場をみごと達成することができました。

１０周年を迎えるにあたり、発足当時の子供達から、この１０年間に卒団していった子供達までの全員に連絡をして、皆で記念の会を行いたいと計画中です。また、記念の１つとして、「はしれ!!　蒲原バドミントンスポーツ少年団」の文字が入った垂れ幕を作ります。

これからも、基本方針の「集中力」を常に頭に置き練習に励みたいと思います。

１０周年記念の垂れ幕を多くの試合会場で垂らし、１つでも多く勝つことを目指して行きたいです。

御殿場ジュニアバトミントン　代表　伊倉 吟好



御殿場ジュニアバドミントンは、今年発足から１０周年を迎えました。現在団員数４６名、練習は毎週水、土曜日の２回、市体育館で行っています。ランニングから始まり、フットワーク、各コートレベルに分けて基本打ち、パターン練習等を行っています。発足当時は富士宮の試合に参加してもレベルの差に驚きました。他のスポーツ少年団に交流練習会をしてもらい、練習方法もいろいろと教わりました。こうして平成１１年に初めて男子ダブルスで全国大会に出場することができました。全国大会に出場するようになってくると、遠征費等で問題が生じないよう、団則と育成会の会則の規約を作り、組織作りの強化を図りました。

育成会活動では、練習日ごとに当番を決め、指導員の補助をしてもらっています。シャトルの管理が徹底しており、練習で使用したシャトルは次の当番が家に持ち帰り１個１個羽根の毛づくろいをして手直しします。

使用済みシャトルも新品同様に修正して毎回練習時には１６ダース全部がきれいな状態です。

子供達にも「いつも新しいシャトルで練習できるのは、お母さん達が手直ししてくれるおかげたよ」と感謝の気持ちを持って使うよう指導しています。昨年の秋から各自、練習の目標と反省をＡ４用紙に記入し、後日指導員がコメントを書いて返し、ファイリングをさせています。毎回記入していく中で、子供たちの意識がステップアップしていく様子や、悩み事、イラストを描いて自に表現する子など、様々です。

対外試合の時にも会場で記入しています。朝食内容も書いていますが、試合の朝に菓子パンやコーンフレーク、ホットケーキだけというのもあり、食育の大切さを感じます。技術向上と同時に指導員、育成会が、普通ではとても面倒くさくてやらないような活動で子供達と絆を強く結び、将来はオリンピック選手誕生を夢に成長していきたいと思います。

第１７号　平成17年1月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あ　い　さ　つ　静岡県バドミントン協会　会長　上野 忠

明けましておめでとうございます。

昨年は、オリンピックでスポーツ界は沸きに沸きましたが、我々のバドミントン競技は目標を極めることが出来ず、誠に残念でした。関係者全員で反省し、２年後に開催が決定している世界大会に向かわなくてはと思います。　暗いニュースのみでなく、年末には明るいニュースも入ってきました。本県出身の村松瑞穂選手（筑波大）が世界学生選手権大会に一年生として唯一人出場しました。

第１９回東海選抜日韓ジュニア交換大会が１２月１９日から２３日まで韓国の釜山市において開催され、東海地区の高校生男女の選抜選手が参加して参りました。過去の大会においては韓国選手の優位差が目立っておりましたが、男子においては充分対等に戦えたかと思います。女子に関しては、技術面では対等かと思いますが、体力・気力の面で劣るように思いました。出場された皆さんは大いに勉強になったのではないでしょうか。

また、国際交流の場としても思い出に残る素晴らしい成果を挙げたことと思います。

さて、新年を迎えて、本年は７月にミニ国体、８月に日韓ジュニア交換大会、１２月東海オープンと大事な大会の開催が予定されております。会員の皆様の絶大なるご協力をお願いするところです。

選手強化・ジュニア育成はもとより、特に指導者育成を重点目標としていく所存ですので、会員の皆様の各種講習会への参加を熱望する次第であります。



部　活　動　静岡県バドミントン協会　副会長　大石 収

平成１６年度、静岡県高等学校連盟からバドミントン専門部長を委嘱され、その関係で県バドミントン協会の副会長をお引き受けすることになりました。バドミントン競技について私は全くの門外漢、果たしてお役に立てるかどうか不安感の方が先に立ちますが、皆様の教えを受けて努力したいと思います。よろしくお願いします。

５月に県高校総合体育大会、１１月には県高校新人大会に出席しました。各地区の予選を勝ち抜いてきた強豪チーム、粒選りの選手だけあって、私のような素人目にも高いレベルで競技が行われている様子がよくわかり、大変頼もしく思いました。また、他のスポーツ競技と比較しても、総じて選手諸君のマナーがよく、これも日頃直接にあたっている部顧問・監督・コーチの皆様のご尽力、また協会の皆様のご指導・ご支援の賜と感謝申し上げる次第です。ご案内のことと思いますが、学校週五日制が進行する中で、従来必修とされてきたクラブ活動が廃止されました。そのため、クラブ活動と密接なつながりがあった部活動も衰退するのではないかと一時危惧されましたが、多くの学校で部活動の教育的意義を認め、ほぼ従来どおり存続しているようです。本校においても、運動部・文化部のいずれかに全員が加入するようにしております。

生徒たちは、日々の練習、また名種の大会を通して、学校の授業だけでは得られない様々なことを学んでいきます。困難に打ち勝つ強靭な体力・精神力、仲間との深い結びつき、これらは部活動ならではのものでしょうか。最近、大学のスポーツ界で不祥事があいついで報道されました。人間教育をおろそかにした勝利至上主義がもたらしたものとの批判あります。例外的事件とはいえ、スポーツ主導に携わるものにとって他山の石としなければならないと改めて思いました。

アテネオリンピック選手山本静香氏を迎えて



去る１１月２７日（土）、県高体連バドミントン部主催で、高校中学指導者講習会が県立沼津東高校で開催されました。講師は、女子ダブルスと混合ダブルスの選手としてアテネオリンピックに出場し活躍された山本静香氏（ヨネックス）でした。

「アテネオリンピックを終えて」という演題で、自らの経験を中心に苦難を乗り越え、なぜオリンピック出場までたどり着いたのかをわかりやすく話してくださいました。指導者講習ということで、高校中学の先生方が中心だったのですが、会場校の沼津東高校の生徒も参加し。講演の後の実技指導もしていただき、楽しく充実した研修会となりました。

（県高体連バドミントン専門部鏡技力向上担当　小島一郎）

『第５３回静岡新聞社・静岡放送スポーツ賞』受賞について

静岡県バドミントン協会　理事長　石川 博義

この賞は、「各種競技や地域スポーツをたゆまない尽力によって支える指導者の方々、あるいは、力の限り記録に挑戦し続ける選手、チームの皆様のご努力を讃えるとともに、静岡県下のスポーツ発展、普及を図るもの」として、静岡新聞社・静岡放送が制定したものです。

今回は、静岡県バドミントン協会より次の２氏が受賞されることとなりました。

◎体育功労章　上野 忠：静岡県バドミントン協会会長　静岡県体育協会評議員
富士市バドミントン協会顧問　静岡県大学バドミントン連盟会長

昭和２４年４月静岡県バドミントン協会設立後、初の本格的プレーヤーとして、高校３年間、社会人３年間の６年間無敗の戦績を残し、インターハイ、国体、全日本選手権大会に活躍した。その後４５年間に渡り県バドミントン協会常任理事、理事長、副会長を歴任し、平成１１年４月より県協会会長に就任し、協会広報誌「バドミントンしずおか」の発刊、国体のリハーサル大会である全国高校選抜大会、第５８回国体に向けて、選手強化対策を充実させ全国高校選抜では、女子学校対抗の部優勝、国体では、天皇杯総合５位の成績に導いた。また、国体を期に幼児バドミントン教室を主催し、ジュニア養成をさらに充実させる等、バドミントン発展のために尽力した。

◎優秀指導者賞　吉永 将史：星稜高等学校バドミントン部監督　静岡県バドミントン協会理事・強化委員
(財) 日本バドミントン協会ジュニア協化部員

昭和６１年４月ヤマハ㈱バドミントン部コーチに就任、ヤマハ女子チームを率いて福岡国体では準優勝を果たすなど国体では常に静岡県成年女子を上位に入賞させ、日本リーグ１部でも毎年上位入賞をし、平成６年監督に就任し常に日本バドミントン界をリードする優秀なチームの監督、コーチとして活躍した。

平成９年４月に星稜高等学校の教諭となり、同校監督としてその手腕を発揮し、平成１４年度全国高校選抜大会で本県初の女子学校対抗の部で優勝の偉業を果たし、翌平成１５年度全国高校総体女子学校対抗の部３位、女子個人対抗ダブルスの部優勝の優秀な成績を残した。

現在、県協会強化委員であるとともに、(財) 日本体育協会公認 C 級コーチの資格を有し、指導者育成に尽力し、また、(財) 日本バドミントン協会ジュニア強化部員として、全国のジュニア指導に当たり日本ジュニアチームを率いて、国外遠征チームのコーチとしても活躍している。

※表彰式日時：平成１７年１月１７日（月）１６時～
会場：静岡市静岡放送会館１８階蘇峰の間

富士宮スポーツ少年団　　文部化学大臣表彰

去る１０月、富士宮バドミントン　スポーツ少年団（代表七澤宏光氏）が、文部科学大臣の生涯学習優良団体表彰を受けた。同団は創立が昭和４８年という県内で最も歴史のあるバドミントンスポーツ少年団である。（本誌第１５号のクラブ紹介）

今回の受賞は、歴史の長さも勿論のこと、卒団者の活躍ぶりが評価の対象になったと思われます。

因みに今回の第８回世界学生選手権大会に出場し活躍した村松瑞穂選手も同団卒団者の一人である。

１月８日（土）に、卒団者も含めて、受賞記念親睦大会が富士宮市民体育館で盛大に開催された。

第８回世界学生選手権大会

１２月９日（木）から１２日（金）に渡り、タイのバンコク市において標記の大会が開催され、日本代表として、富士宮市出身の村松瑞穂さん（筑波大学）が女子ダブルス・シングルスの２種目に出場した。

村松さんは、富士宮スポーツ少年団で七澤氏に、星稜高校時代に吉永監督のもとに指導を受け、一昨年の全国高校選抜大会・インターハイで星稜高校が大活躍したときの中心選手である


カセサート大学体育館にて。日本代表選手
（前列1番右が村松さん）

菊川町スポーツ少年団　指導者　　岩水 素江

私かバドミントンを始めたのは掛川西高校時代です。大学、教職時代と続け現在に至っております。

菊川町体育協会にバドミントン部が出来たのが昭和４４年頃でした。少し遅れて少年団を作りましたので、３０数年係わって来た事になります。バドミントンは菊川町では大変人気のあるスポーツです。体協のバドミントン部を初め多くのクラブ、愛好会があり、体育館は一杯です。町でも力を入れています。私は現在、体育指導員をしています。その教室でも４０数名の親子の参加があり大盛況でした。このように人気があるのは「バスケットボールの次に激しく、運動最のあるスポーツ」と言われてもやり方によっていろいろな強度で楽しめるという幅があるからだと思います。



現在団員は３年生から６年生までの２８名です。今年は女子ばかりです。活発な子が多く元気一杯活動しています。私は小学生時代はいろいろな運動を体験させ、運動好きな元気で明るく逞しい子供に育てたいと指導しています。ストレッチの準備運動から始め、レクリエーションゲーム、ドッジボールなどと楽しんだ後バドミントンに入ります。今までの悩みは、少年団で練習しても、中学、高校で続けることが出来ない事でした。今でも中学では続けられませんが、最近は近隣の高校のほとんどにバドミントン部が出来、再び高校でプレーをする子もいる様になりました。

平成１７年１月１７日に小笠町と合併します。小笠町にはバドミントン少年団はありません。合併後は団員も増えると予想されます。練習会場や指導者の問題など新たな課題も出て来ました。

これからもバドミントンを通じて心身ともに健やかな子ども達が育ってくれたらと思っています。
また、私が子ども達から元気を一杯貰っている事を感じます。

みんなで楽しく！　伊東ワールドクラブ　代表　岩城 智佳子

当クラブは、小学生を受け入れてくれるバドミントンクラブが身近になかったため、バドミントンをしたい小学生と、その保護者達により、子供達の技術向上と家族でバドミントンを楽しむ事を目的として平成８年に発足しました。当時は、学校が休みの土曜日（月２回）の活動でしたが、学校の週休２日制に伴い毎週土曜日の午後１時から５時まで市民体育センターで活動を行うようになりました。年々会員数も増え、現在では、６０家族（幼児・小学生・中学生・高校生・大人）常時４０人近くの会員が自由に参加し、ビジターも幅広く受け入れ、誰もが身近に楽しめる場としてバドミントンを楽しんでいます。

６面のコートを、親子で楽しむコート、自由にプレーできるコート（小学生・部活動のない日に参加する中学生・高校生用）、大会出場など技術向上を目指す子供達用のコートに分けて使用していましたが、県大会、東海大会、全国大会に出場し活躍する小学生の選手が増えてきたことから、伊東市バドミントン協会の主催する強化練習会（月・水曜日の午後７時から９時まで）の延長として、小学生の技術的なレベルアップを目指し、協会の指導者の方々に協力して頂き、２面のコートを使用しての練習を平成１６年７月より行っています。



ランニング、ステップ、素振り、フットワーク、基本ストローク、ノック、試合と一連の流れに沿って、普段の強化練習会では時間の都合でできない練習も取り入れて充実した内容で練習に励んでいます。

第１８号　平成17年5月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あ　い　さ　つ

静岡県バドミントン協会　会長　上野 忠

「ＮＥＷ!!わかふじ国体」担当として、５期１０年の長きに亘りご尽力をいただきました井出浩文副会長が本年総会をもって勇退されました。全国高校選抜大会、ＮＥＷ!!わかふじ国体開催に当たりその成果はもとより、協会最年長者として会員融和の柱となってご協力を賜りました。本当にご苦労様でした。心より感謝の意を表します。これからも協会参与としてご指導ご協力をお願いする次第であります。

また、審判委員長の山本秀和様、強化委員長の井出裕雄様も全国高校選抜大会及び国体開催という重責を果たされ、後任にバトンタッチされました。ご苦労様でした。他の委員会に移られましても、協会の重鎮としてご協力のほどをお願い致します。

さて、本年度総会も終了し、すでに各種大会が行われておりますが、東海地区大会のうち本県で開催予定の大会は、７月１６・１７日に富士市立体育館で国体東海予選会が、また８月１７～２１日に同じく富士市立体育館で日韓高校交流大会が開催されます。高校生にとってはまたとない機会ですので、是非観戦して下さい。

本年度の協会重点目標として「ジュニア選手の強化」「ジュニア指導者の育成」を挙げており、各講習会には積極的に参加を望むところです。

役員の皆様には、国体予選会、日韓交流大会とご苦労をお掛けしますが、ご協力のほどお願い致します。



指導者養成とその課題

静岡県バドミントン協会　副理事長　杉山　敏充

現代社会においてスポーツはクオリティ・ライフの中核をなすものになっており、市民生活のレベルや質を左右する重要な役割を担っています。つまり、スポーツの質、スポーツの文化的意味やその内容が問われる時代に入っているということであり、これはスポーツ社会学などの分野からも多く論ぜられております。
このことは即ち、今後におけるスポーツ指導者にかかる期待とその使命が、一段と重要な意味を持つことになるということを明確に示唆するものであります。

このような社会状況を踏まえて、県バドミントン協会としては、時代の要請に応えるべき準備を図ってきたところでありますが、特に今年度の活動方針として、指導者の養成・確保を重点目標とし、その確立・体制づくりに着手したところであります。

因みに、県下におけるバドミントン人口も以前と比して、クラブチームやジュニアチーム、レディースなどを始め多くの増加傾向が見られ、中体連や高体連においても新たな大会出場高や県西部地区の増加などが著しく、より活性化の向きが感じられます。

このような実情から当協会は、昨年まで指導者養成の一貫として、日本体育協会公認のスポーツ指導員養成講習会を開催するなど、着実に指導者の養成及び確保を図ってまいりましたが、それぞれの地域のニーズに対応でき得る絶対数確保にはまだまだ遠く及ばないのが実情であります。

指導者の養成・確保に当たっては、他団体においても講習会や研修会など様々な方法での取り組みが見られますが、某競技団体に於いては、数年前よりその指導に当たっては公認スポーツ指導員資格を有することを条件と定め、無資格ではその指導に当たることができないとしている。

とりわけ、この是非についての論議は別としても、人々の価値観の多様化に伴いスポーツへの関心がより高まれば高まるほど、より高度な専門的知識や技術の学習に加え、スポーツ観やスポーツ規範などの道徳的（モラル）な学習も指導者に課せられた重要なものであることは否定できないことでありましょう。

「我々は、学ぶことをやめたとき、教えることをやめなければならない、」（サッカー元フランス代表監督）

もとより県内には、バドミントンに精通し情熱を傾け、地道な活動をしていらっしゃる方々が多くおられます。これらの方々が、このような実情を鑑みつつ、自己の持つノウハウを今ひとつ指導者として発揮していただけたらと切に願わずにはいられません。

皆様のご協力、お力添えを何卒宜しくお願い申し上げます。

富士山バドミントンクラブ　代表　井出裕雄



富士山バドミントンクラブが発足して１４年を迎え、県内でも２番目に古いスポーツ少年団です。　設立当時は地区の子供たち１０名位でＹＯＤＯＳＨＩバドミントンクラブを発足、平成６年に富丘学区の子供たちが集まり富丘バドミントンスポーツ少年団と改名、その後富士宮市内の小学校からの入団希望者が増え、平成１０年に３回目の改名を決意した。

この団から日本一の選手を育成するという意味で富士山（ふじやま）バドミントンクラブと改名した。

その後、６年連続して全国大会（団体戦、個人戦）に出場する選手を育ててきたが、まだまだ全国の壁は厚く目標には程遠いが、あきらめず子供たちと一緒に目標に向かって頑張っていきたい。　練習日は、富士フイルム体育館で毎週水曜日と土曜日の２回であるが、市の強化選手は更に火曜日に富士宮スポーツ少年団の選手と合同練習を行っている。

団員数は５０名と大所帯だが、学年によってかたよりがあり、１０名以上いる学年があるかと思えば１名しかいない学年もあり、継続して強化していくのが難しくなってきている。今年度から、幼児の頃からラケット感覚を養うことを目的に、幼児のクラスを設け、活動を開始した。

団のモットーは、“あいさつをしっかりする。”です。指導者・父母への挨拶、体育館へ入るときにお願いします、こんにちは！”まだまだ声の小さい子供もいますが、挨拶だけは他の団の子供たちに負けないよう指導していきたいと思います。

また、将来富士山バドミントンクラブを卒団した子供たちが一人でも多くバドミントンを続けることを望んでいます。

吉田町体育協会バドミントン部　代表　塚本 久雄



「今晩は」「今晩は」毎週土曜日午後７時、吉田町総合体育館へ吉田町体育協会バドミントン部員が三々五々集まって来ます、部員は小学生から古希を迎えた方までの老若男女と幅広くなっております。これらの方々が初心者教室と高校生対象の競技者育成教室の教室が二つ、そして、体力の限界まで挑戦するグループから体力の保持増進を図るグループに分かれ、バドミントンコート８面、ところ狭しと活躍しています。また、ネット張り・片付け、床のモップ掛け等は誰もが率先して行い、競技者としてのマナーも大切にしております。

創部は１９６４年（昭和３９年）４月１日で、４１年の歴史があります。主催する大会は、例年３大会です。①吉田町スポーツ祭バドミントン大会（８月下旬）は、当日抽選によってパートナーを決定するというユニークなものです。②吉田町バドミントン大会（９月上旬）は、町内の松浦食品様のご好意により、通称「かりんとう大会」といわれています。１２コートを使っての盛況振りです。③クラス別・年齢別バドミントン大会（２月上旬）は、上級者は上級者同士、中級者は中級者同士、初心者は初心者同士、中年齢者は中年同士、高齢者は高齢者同士で終日バドミントンを楽しむ大会です。この３大会ともダブルスのみで、リーグ戦方式で行います。「強者がコートを独占することも無く、サービスジャッジに留意すれば誰でも審判が勤められるし、当日の天候に左右されることも無い、有難いことだ。」これは他球技団体からの移行者の一言です。これ等の事は、よき伝統としてこれからも存続していく所存です。

現在、近隣の高等学校においてバドミントン競技を部活動として取り上げられており、当地域がレベルアップされつつあることを喜んでおります。

第２回　世界シニアバドミントン選手権大会結果

標記大会が、昨年１１月２９日～１２月５日　マレーシアのクアラルンプールバドミントンスタジアムで盛大に開催された。

日本から男女３３名の選手が参加し、３種目で金メダルを獲得した。静岡県からも５名が参加し、４０歳以上混合ダブルスで、神代・湯山組が銀メダル、５０歳以上混合ダブルスで井出・米口（東京）が銅メダル、５５歳以上女子ダブルスで、山城・林組が銅メダルを獲得した。



50 歳以上 XD
3 位　井出裕雄



40 歳以上 XD
準優勝の神代・湯山選手

第１９号　平成17年９月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あ　い　さ　つ

静岡県バドミントン協会　会長　上野 忠

改革と云う言葉が渦巻く昨今ではありますが、いつも反対する意見が出るのもまた常なるものです。
改革イコール前進とは必ずしも云えないと思いますが、何処かの政党のような分裂するなど如何なものでしょうか？お互いに驕ることなく、和をもって話し合えば、志を共有する同志であれば答えは自然に出てくるのではないかと思います。長い歴史と経験を積み重ねて継続する中で新たな発想と知恵を生み、それが力となって求めるものが得られるのではないかと思います。
選手・指導者の育成なども、小・中・高と指導者同士が連携を密にして焦ることなく努力しましょう。
さて、第20回東海地区選抜日韓ジュニアバドミントン交歓大会も皆様のご協力により、無事に終了することができ、技術の向上及び国際親善と、目的は達成できたと思います。その中で、韓国選手団の勝負への執念と、選手・監督・コーチの確かなチームワークをもって目標に向かう姿勢は見習うべきかと痛感いたしました。
暑い夏も過ぎようとしていますが、今年から国民体育大会のバドミントン競技は夏季大会に併合されました。本県は、７月１６日（土）、１７日（日）に富士市立体育館で行われた東海地区予選の結果、成年女子・少年男子のみ参加となりました。しかし、成年女子は本県のホープである金森裕子・村松瑞穂両選手を擁して出場ですので、総監督の元で一致団結奮闘して好結果を出して下さることを、協会員一同期待しております。

全日本実業団大会　初出場の思い出

静岡県バドミントン協会　副会長　町田 守正



昭和２８年本州製紙に入社した当時、県内には実業団チームはなく、普及していませんでした。そんな仲、先輩の望月薫さん、同期の高田辰志さんと共にクラブ発足を計画し、翌年岡徹さん、杉沢正義さんが入社してメンバーが揃ったので、部長に塚本太三郎さんを迎えて念願のバドミントン部を結成することができました。しかし、自社の体育館がなく、近くの富士高校、富士見高校へ練習会場を求め、ジプシー生活を送る状態でした。
昭和３１年３月、寒い高岡市で第５回全日本実業団大会に企業単位での団体戦初参加を果たしました。創部直後のこと、全国のレベルについては全く無知の状態で臨みました。参加チーム数は男子２９、女子１２という、今思えばほんとに小規模の大会でした。試合は２複３単の形式で行われ、初戦の相手は新潟県の三菱金属鉱業でした。初出場ということで、大会の雰囲気に呑まれラケットが手につかない状態で、力を十分に発揮することができませんでした。ダブルスが１勝１敗、シングルスも１勝１敗となり、勝敗は私のシングルスにかかったのです。ところが、フルセットの末敗れ、健闘むなしく初戦突破はなりませんでした。
これを契機に、「まずは１勝を」と、全員が一層の練習に取り組んだことが思い出されます。尚、この大会では地元の十条製紙伏木工場の方々には大変お世話になり楽しい思い出となりました。その後、内田兼義、望月富弘、佐野行正、裏栄三氏の入社があり、本州製紙バドミントン部の全盛期を迎えることができました。
また、昭和４３年には女子チームが誕生し、昭和５７年まで、全日本実業団・中部日本・東海の名大会で、輝かしい成績を収めました。それを思うと今は寂しい限りです。
またの活躍を夢見て。　　（元本州製紙バドミントン部監督）

はじめまして、広幡バドキッズです　代表　天野 雅之



私たち広幡バドキッズは藤枝市で活動しています。現在は広幡小学校の２年～５年の児童、それも女子のみ10名の部員です。女子に限って募集しているわけではありませんし是非男子も参加して欲しいのですが今のところ男子はいません。また、活動を始めてわずか２年という「ひよっこクラブ」です。指導をする監督・コーチもジュニアの指導歴はありませんので、手さぐりでの指導そして練習ですので悪戦苦闘の毎日であり、また勉強することばかりです。もちろんまだまだ試合になど出られるようなレベルではないのですが、何事も経験そしてチャレンジと思い、今年度より県小学生連盟に登録し、皆様のお仲間入りさせて頂くこととなりました。活動は週２～３回、木・土・日曜日です。
日曜の練習は月に数回ですが自由参加という形をとり、主にゲーム練習の日にしています。
広幡小学校の体育館を使用していますので、木曜日は部活動のように放課後そのまま練習になります。
私たちの願いは、とにかくバドミントンを好きになること。この藤枝市内には中学校の部活動にバドミントン部はありません。ですから子供たちが高校生になった時、迷わずバドミントン部に入部してくれるようになることを願っています。もちろんただ楽しいだけでなく、基本技術をしっかりと身につけて、また試合の楽しさや厳しさも味わって欲しいものです。まだまだ学ぶことだらけの弱小クラブですが、今後ともよろしく御指導のほどお願いいたします。

岩松ジュニアバドミントンクラブ　代表　後藤 政博



クラブを発足させた時の６年生が今、大学４年生になりますから、丁度１０年が経過したことになります。まさに光陰矢の如しです。
平成元年の頃から、土曜の夜毎に市のバドミントン教室の終了後、大石恵司・古郡文博・後藤和之・長島稔・宮崎寿夫と私を含めたメンバーで、ビール片手に反省会を行っていましたが、ジュニアの育成については毎回話が盛り上がり、クラブの発足に向け動き出すに至った次第です。当初、練習会場探し等に大変苦労しましたが、会場が決まり、募集をはかって見れば、４５名程の生徒が集まりました。しかし、始めたはよいのですが、何せ古い仲間の集まりですから、新しい技術を我々自信も修得しなければなりません。ジャトコチームにお願いして、生徒に模範試合を見せたり、飯野佳孝氏に２日間に亘って生徒・指導者の講習をお願いしたこともありました。
そうこうして何とか軌道に乗せることできました。２年が過ぎ、３年が過ぎて、ここまでクラブを継続することができたのは、我々が仕事等でクラブに一同揃って参加できない日が多くある中で、父兄の多く方々及び仲間にもコーチとして手伝っていただいたおかげでもあります。
現在は、山田文香を中心に、高山恵理子、佐野弘子といった女性コーチ陣が中心となって行っています。彼女らの努力により、練習日も１日増え、上位入賞も数多く、静岡県代表として、各地にも遠征に行くようになり、１０年前に比べると夢のようです。　今後とも、ご支援よろしくお願い致します。

第２０回東海地区選抜　日韓ジュニアバドミントン交歓大会

２０回を迎えた標記大会も、１７日に中部国際空港に到着した韓国選手団を迎えて２１日見送りまでのスケジュールを無事終了した。一昨年までソウル市内の高校生との交歓を、昨年より釜山市内の釜山第一高校（男子）、誠一女子高校（女子）に変更して、2回目である。そのため、顔見知りの監督で従来にない和やかな雰囲気の中で実施できた。大会では、合同練習と試合を交互に行った。



結果は、男子複（1勝4敗）男子単（3勝13敗）
女子複（0勝10敗）女子単（1勝16敗）であった。
韓国選手は、昨年も参加して３年生になっている選手がいて、かなり上達していたとは言え力の差は大きかったようである。
東海地区の選手は、力の差を見せ付けられたが日常の練習や試合の中で、外国の選手と練習や対戦をすることがない中での貴重な経験となったと思うので、今後に充分生かしてほしいと思う。

第２０号　平成18年1月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あいさつ

静岡県バドミントン協会　会長　上野 忠

明けましておめでとうございます。

昨年の漢字に「愛」が決まり世相を象徴するかのようでした。愛にも善し悪し（成就した愛、愛の不足）が目立ったからでしょう。新年を迎えて、今年は南州の「敬天愛人」であってほしいと思います。

昨年１１月３日、前副会長大箸昭司さんが本県最高の顕彰であります「県知事賞」にスポーツ界で唯一人受賞されました。誠におめでたく、協会員一同心よりお祝い申しあげます。本年は、４月２８日から５月７日まで東京及び仙台で世界選手権大会が開催されます。この機会にぜひ世界最高のプレーを観戦してください。

さて、本県出身の金森、村松両選手が全日本選手権、学生選手権においてすばらしい活躍をされています。あと一歩で頂点に届くところまで来ています。頑張ってください。県内選手（高校生）に目を向けますと、東高西低に変化の兆しが見えて来ています。西部地区の皆様、あと一歩です。

東中西３地区の力が拮抗してこそ本県選手のレベルアップにつながるわけです。

また、本年は「ねんりんピック大会」が本県で開催されますが、バドミントン競技も協賛種目として急遽開催が決定しました。開催地富士宮市協会の皆様には大変お世話になるかと思いますが、ご協力のほどよろしくお願い致します。

なお、参加要項は、市町協会に後日送付されますので、全国のシルバーチームとの交流大会に奮ってご参加くださるようお願い致します。

２００５ぬまづオープン レディース大会

静岡県バドミントン協会　副理事長　工藤 喜久雄

沼津市協会の主催により２０００年から始めたレディースオープン大会も６回目となり、東は山形、西は大阪までの県内外から３６０人を超えるバドミントン愛好者の参加を得て、昨年１２月３日に沼津市民体育館で開催されました。

この大会は市内外の多くの競技者に全国の人との試合を楽しんでいただく機会を提供し、これを契機としてさらに上を目指したいという目標や夢を持つことにより日頃の練習にも目的意識が高まり、技術等の向上が図られるのではないかといという主旨で開催をしています。

例年、参加者の多くがこの大会の来る日を待ち望んでおり、試合を通して多くの友人を作り、人間関係のネットワークが出来つつあり、バドミントンだけでなく多様な情報も共有しあうようになってきていることを感じています。そしてこれからの高齢化社会をいかにして生きがいを持って過ごすかというということが中高年の大きな課題の中にあって、参加している選手の皆さんがバドミントンを生涯スポーツの友として大いに楽しみバドミントンを通して日頃の生活を明るく豊かにしているなということを参加者の会話や表情から感じとることができました。今年も１２月に開催する予定ですので県内の多くのバドミントン競技者に参加していただき、全国各地から参加される競技者と試合を通して自己のレベルアップを図ると共に交流や触れ合いが深まることを期待しています。

(財) 日本体育協会公認指導員養成講習会について

静岡県バドミントン協会　理事長　石川 博義

地域スポーツクラブ等において、スポーツに初めて出会う子供達や初心者を対象に、競技別の専門的な知識を活かし、個々の人に年齢や性別などの対象に合わせた指導に当たるとともに施設開放において利用者の指導支援を行なう者を養成する」（旧Ｃ級スポーツ指導員）ことを目的としている当講習会も、静岡県で永らく中断されていましたが、平成１３年度から、上級指導員を含めて実施してきました。

本年度もバドミントン指導員（旧Ｃ級指導員）講習会を、ＮＨＫ通信講座を修了後、１１月２７日から２月５日までの間に８回の講習会を実施しています。

現在、静岡県での有資格者は、コーチ（２級）、旧Ｃ級コーチ３名、上級指導員（３級）、旧Ａ・Ｂ級指導員２９名、指導員　（４級）、旧Ｃ級指導員１５名、本年受講で資格取得予定者１４名となっています。

バドミントンの指導は、基本的な考え方も年々変化し、技術的にも大幅に進歩・変化して来ています。これも、バドミントン用具の改良（ラケット、シャトルコック）、近い将来のポイント数の改正等を考えると当然のことであり、もう旧態依然とした物の考え方や技術では到底技術の向上も期待出来ないし、世界にも着いていけない。

（財）日本バドミントン協会も、近年ジュニア養成に力を入れて来ている。特に、６歳～９歳（プレゴールデンエイジ）、１０歳～１２歳（ゴールデンエイジ）の養成には特に力を入れていて、この時期に、発達段階に応じての身体づくり、動きづくり、技術づくり、戦術づくりを徹底していく必要があり、次のユース（１３歳～１８歳）へと引き継いで行くことになる、ユース以降についても、バドミントン愛好者全体についても同じことが言える。

当講習会も前記、公認コーチ（２級）吉氷将史氏（星陵高校教諭）を講師に招いて新しい理念・技術を導入しながら密度の濃い内容で丁寧な指導にて実施している。

なお、本年度から当有資格者は、（財）日本バドミントン協会規定により、審判資格を有する者とする規定になりました、この件については、静岡県バドミントン協会審判委員会（委員長芹沢英彦）に依頼し、この講習会の中の審判技術の演習で資格取得に向けて実施して行くことにしている。

平成１７年度　静岡県知事表彰受賞に感謝

静岡県バドミントン協会　参与　大箸 昭司



去る１１月３日「文化の日」、県庁別館において、地方自治、教育学術文化スポーツ、産業開発、社会福祉などの分野で活躍し、功績顕著な功労者の表彰式がありました。

私もスポーツの分野で、バドミントン競技の普及・競技力の向上・組織の確立、国体への参加と国体開催に当たってその運営に尽力したということで、受賞者の一員とさせていただきました。

石川知事からは式辞の中で、「各分野で県の隆盛に多大な貢献をされた」と身に余るお褒めと激励の言葉をいただき感無量でした。

省みますと、私は長年にわたり全日本バドミントン協会関係、静岡県・富士市バドミントン協会の役員を勤めさせていただきましたが、自分が思う程の成果が挙げられず、協会員のご支援・ご協力を仰ぎながら時が過ぎたように思われます。現在は参与として５０有余年の今日を迎えることが出来ましたので夢をみている様です。

にもかかわらず、お褒めや、お祝いの言葉をいただきますとお恥ずかしい次第です。

これからも、これに力を得まして微力ですが変わらぬ精進につとめてまいります。

この上ともよろしくご敬示くださいますようお願い申しあげて、感謝の言葉とさせていただきます。

スルガウィングス　代表　川島 充子



我がスルガウィングスクラブは、１８年ほど前に市のバドミントン教室で知り合った仲間たち数人が、もっと練習をしたいと集まり始まった女性たちのクラブチームです。

現在では部員数２９名と増え、年齢は２０歳代から６０歳代までの幅広い年代の女性たちが集まっています。いろんな年代の方がいるので、クラブにはお母さんがいたり娘がいたり、時にはおばあちゃん？になったりといろんな相談のできる仲の良いクラブです。

活動は、週１～２回程度ですが、週１回は１日練習をしています。午前中はノック練習、パターン練習をし、午後はゲーム練習と元気なオバサンたちはバドミントンがうまくなりたくて日々がんばっています。

現在のクラブの悩みは、活動場所がなかなか取れないことです。部員数２９名のところコートが３面しか取れない体育館が多く、思うような練習ができません。

こんなバドミントン好き、練習好きの集まった我がクラブ、日ごろのストレスもバドミントンをやって一気に吹き飛ばし、毎日を元気に明るく過ごしている女性軍団です。

第２１号　平成18年5月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あ　い　さ　つ

静岡県バドミントン協会　会長　上野　忠

「日本選手は、本番に弱い」という言葉を耳にして久しいが、大和民族の持つ国民性とは決して思わないが、戦後の教育の何かが不足していたのではないかと思うのは私だけだろうか。五常の欠落はまさに現代の病に等しく思うこの頃であります。剣豪宮本武蔵が戦に挑むその心境を述べた言葉に「寒流帯月如鏡」とあるが、すべての競技にあっても本番で実力を充分に発揮するためにはメンタル面での強化を図り且つ実行しなければと思います。方法論として種々あるかと思いますが、指導者の皆様の一層の研鑽を期待するところであります。

本紙が発行される頃には１６年ぶりに日本で開催されるトーマス杯・ユーバー杯の決勝大会も結果が出ていますが、今大会の予選参加国は男子７４カ国、女子６５カ国と史上最多の参加国を得ての大会になりました。そして、今大会は新スコアリングシステムが採用され、ラリーポイント制で行なわれるわけですが、一長一短はあれ試合時間の短縮、よりスピーディーな展開が期待出来るかと思います。

皆様も、わが国代表チームへの応援と共に世界のトップレベルのプレーを観戦されたかと思います。

さて、いよいよ本年度の協会行事もスタートしました。静岡国体開催後３年目になり、祭時を引き締めて、組織の充実、選手強化、指導者の育成を図っていかなければと思います。

本年は、１０月に「ねんりんピック静岡２００６」が開催されます。バドミントン競技はオープン種目ではありますが、全国より多数をお迎えしての開催であり、国体同様万全の準備を整えて温かくお迎えできますよう皆様のご協力をお願いする次第であります。

「心・技・体」

静岡県バドミントン協会　副会長　和田 夏樹

阪神タイガースの４番打者・金本知憲選手が４月９日、連続フルイニング出場の世界新記録を更新した事は、ご承知の方も多いと思います。この記録は、平成１１年から約７年間、９０４試合にもわたり、１イニングも休まず試合に出場するという大記録です。

マスコミは、金本選手を鉄人と称賛しましたが、初めから鉄人でもなく、平成３年広島東洋カープに、ドラフト４位で入団したごく普通の選手でした。その選手が不断の努力で、己の、精神力・技術力・肉体を鍛えぬき、磨き上げたその結果が今回の世界新記録更新に結びついたものと思います。

金本選手は、精神力を鍛える為に、真言密教の修行である「護摩行」を続けているとの事です。

この「護摩行」とは、護摩壇で護摩木を焚いて、その炎の前で読経等をし、精神を集中させていくもので、火傷も負い兼ねない程の熱さの中での荒行です。この修行を毎年続けて強い精神力を培っているとの事です。技術力の面では、「１００回バットを振った者よりも１０１回バットを振った者が勝つ」という信念のもとに、シーズンオフでも毎日素振りをして技術の向上に努めており、またその肉体を鍛えるためには、１年中休む事なく筋力トレーニングに励んでいるとの事です。

私達は、日ごろの練習では、技術力と体力の向上には重点をおいておりますが、精神力の強化の面はないがしろにしている嫌いがあります。「精神面での跪さが出て、実力を十分出しきれなかった」と敗因を分析する指導者がおりますが、実力を出しきれなかったのではなく、それが実力なのです。

金本選手まではしなくても、精神力を鍛える事で不屈の精神が培われ、苦しみに耐えて己を鍛える事が出来、どんな状況下でも実力を発揮出来る選手になります。

指導者の方々には技術力や体力の強化だけでなく、精神面の強化も併せてご指導頂ければと考えます。

芝川バドミントンクラブ　代表　篠原 安行



芝川バドミントンクラブは、芝川町が主催するバドミントン教室の第１回修了者が、「もっと続けたい」ということで発足し、すでに２０年近くになります。現在のメンバーは約２０名、毎週土曜日の午後７時から８時４５分まで、芝川Ｂ＆Ｇ海洋センターで練習しています。当初からのメンバーは数名になりましたが、その後のバドミントン教室の修了者などが順次入会してきます。

学生時代の経験者はほとんどいないため、レベル的には高くありませんが、ストレス解消、健康増進、まさに生涯スポーツになりつつあります。最近は２０代前半の若い方々や高校生、大学生も、参加してくれるようになり、平均年齢もかなり若返りました。練習は、簡単な基礎打ち後はすべてダブルスの試合を行います。コートは１ないし２面、ペアーはジャンケンで決め、７ポイント１セットで、次から次へと交代してゆきます。息切れせず、うっすら汗をかく程度がちょうど良いようです。

１０年ほど前から、大人たちとは別に、子供たちへの指導も始めました。きっかけはやはりバドミントン教室です。人数は数名ですが、こちらは将来の競技者を目指し、基本をしっかり身につけさせたいと考えています。指導者講習会に参加したり、実際に教えたりしながら、逆に教えられることがいっぱいありました。子供たちへの指導は成果が目に見えて現れるので楽しくもあり、責任の重さも感じています。

清水バドミントンスポーツ少年団

指導者　日下部敏弘　松浦義和　木田成昭　粂田綾子　日下部和子

少年団の発足は平成８年９月で、今年で１０周年を迎えます。結成の目的は、市協会の基盤強化を図るため、若年層の拡大が不可欠と考え、１６名でスタートしました。　活動日・時は、毎週土曜日の午後１時３０分～３時３０分、会場は、㈱小糸製作所体育館で４面を使用しています。

清水の場合は、先ずバドミントンに対する父母への意思改革(大げさかな)から、始めなければなりません。このことは用具の選択にも影響しており、話をして理解してもらっています。学校の週休２日制に伴い、団員も増え、現在小学２年生～中学生まで４０名を数え、レベルに合わせ４クラスに分けています。



少年団のモットーは「元気にあいさつ」です。「あいさつ」をしっかりやれない子どもか多く見られ、スポーツをする上での心構えとして先ず「あいさつ」がしっかり出来る子供であってほしいと思う願いもあり、モットーとして掲げています。練習方法は、①体力作り（フットワーク・ダッシュ等）②ラケット振り・フットワーク③基礎練習・ゲームと大きく３部に分けています。

少年団の悩みは、折角一生懸命練習しても、清水には部活として活動している中学校が無く、上に繋がらないという事です。しかし、中には中学生になっても続けて少年団に留まり、その後高校で活動する子供が何人か出て来たことは、うれしい事です。

今までの活動の中で、県外遠征を１回経験しました。清水と北海道室蘭市・新潟県上越市とが姉妹都市を結んでいる関係で、平成１４年７月に少年団１０名・役員２名が参加し、室蘭市にて交流試合を行ないました。初めての交流試合で、会場や宿泊場で子供同士が情報・意見交換を行い良い経験となりました。

子供達は、入団して初めてバドミントンと接するわけで、指導者としてバドミントンの楽しさ・面白さを伝え、指導する中で「うまくなりたい」「強くなりたい」という「心」を養えればと思っています。

第２２号　平成18年9月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あいさつ　静岡県バドミントン協会　会長　上野 忠

異常気象の続く昨今ですが、処署も過ぎて初秋の風を感じるこの頃です。昨年より国体開催が１ヶ月早まった関係で地区予選会も終わりましたが、今年も成年女子が宿敵岐阜県(昨年の国体覇者)に逆転で敗れ、念願の国体優勝の夢を絶たれました。敗因を充分反省する必要があろうかと思います。

また、少年女子の力が東海地区の中で差をつけられた思いがしますが、ジュニア選手の発掘・育成に関して再度見直す必要があるのではないでしょうか。

さて、前号でもお知らせしました「ねんりんピック静岡２００６」協賛大会開催も１ヵ月後に迫りました。準備期間も少なく大変ですが、全国より嘗ての名選手を初め、ベテランの皆様をお迎えしての大会です。バドミントン競技を愛し育ててくださった方々の交流の場としては勿論のこと、ご指導を賜る絶好の機械かとも思います。主管協会の富士宮市協会を初め、役員・会員の皆様の絶大なるご協力をお願いする次第であります。

去る５月３０日、平成１８年度静岡県体育協会授章式で町田守正副会長が栄えある「功労章」受章に輝きました。多年にわたるバドミントン競技への貢献が評価されての受章であり、誠におめでとうございます。また、日下部敏弘、滝正孝両副理事長も日本バドミントン協会よりその実績が評価され、「顕讃賞」の受章に浴されました。本協会の重鎮として、これからもますますのご活躍を期待するところであります。

高体連バドミントン専門部長　就任に当たって

静岡県バドミントン協会　副会長　大河平 才穀

高体連バドミントン専門部長就任に当たってひとこと御挨拶申し上げます。日頃は高体連関連の様々な業務に御協力をいただくと共に、高校生の技量向上などに御協力いただいていることに感謝申し上げます。

さて、私は富士高等学校に赴任する前は県教育委員会におり、しばらく生徒たちに直接接する立場から離れておりました。インターハイや国体などの高校生の活躍も、新聞紙上で客観的事実として確認するだけであり、夏の甲子園や冬のサッカー選手権なども手に汗を握って勝敗を見つめるという経験から遠ざかっていました。そしてこの４月高等学校の現場に戻ってまいりましたが、部屋の中での事務仕事から解放されたことを最初に実感させてくれたのは、グランドに顔を出した時の野球部員からの大声のあいさつであり、講堂の覗いた時のバドミントン部員の明るいあいさつと汗びっしょりになってシャトルを追い駆ける姿でした。

学校教育の中で部活動の占める教育的価値の重要性は誰もが認めるところであります。しかし、制度的側面から申しますとその価値に見合ったものにするために課題があることも、皆様御承知のことと思います。

バドミントン競技に絞って考えても、高校時代の３年間の重要性は計り知れないものがあり、それを支える部活動の基盤をさらに確固たるものにしていく必要性があると思っています。

今までバドミントン競技に直接関わった経験はありませんが、静岡県バドミントン協会の皆様方の御支援をいただきながら、高体連バドミントン専門部長と静岡県バドミントン協会の副会長の職責をまっとうする所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。（富士高等学校長）

県体育協会功労章を受章して静岡県バドミントン協会　副会長　町田 守正

平成１８年５月３０日、静岡県体育協会授章式が静岡市にて開催され、私は、バドミントン関係として体育功労章を受章することができました。

この顕彰制度は、昭和３５年に制定され、本県アマチュアスポーツ界の最高栄誉章と言われています。

私は、昭和２８年創設間もない静岡県バドミントン協会の一員として名を連ねました。就任以来、組織作りに努めると共に、競技の普及と競技力向上にも努めました。また、当時の実業団連盟は名ばかりでほとんど機能していませんでした。そこで、組織の確立と充実発展をあわせて行なってまいりました。その後、協会事務局長、昭和６２年４月より１０年間理事長を勤めさせていただき、諸大会の運営に携わり、現在は副会長として協会発展のために力不足ではありますが、務めているところであります。しかしこれらは全て諸先輩のご指導や洞輩・後輩の皆様に支えられてきたことで、このたびの受章は、県バドミントン協会の諸活動が認められての受章と受け止めております。



今後も微力ながらバドミントン協会の発展に尽力する覚悟でございますので、よろしくお願い致します。最後になりましたが、関係各位に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

第２３号　平成19年1月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あ　い　さ　つ

静岡県バドミントン協会　会長　上野 忠

明けましておめでとうございます。

最近中国の歴史書の中に「道雖近不公不至」の一行を目にして思い出すのは名誉会長塩川先生の「理屈の前に行動を」の言葉である。新しい年を迎えて「先ず行動に移そうではないか！」これこそ勝利への最短距離かと思います。

最近の多くの親たちは、教育熱心で、「地域一番校と言われる学校への入学を」と、子供たちの尻をたたいて勉強させようと懸命である。そして、末は役所か大会社だと夢を追いかけている。「人間関係も何も知らない人間を作り上げてしまった」という暗い報道を見聞するこの頃である。

そんな今日の教育環境を正そうとしてゆとり教育を進めれば、今度は学力が落ちたと言い出して塾通いをさせる。スポーツこそ人間形成に大いに役立つはずなのに、勉強だけ出来て将来の出世のみ夢見てスポーツを軽視する。子供が親の犠牲になってしまいそうだ。

今、社会は優秀な人間より立派な人間を求めているのではないでしょうか。平等主義は大切かもしれないが、スポーツに強い子供にとってはそれがその子供にとってはそれがその子供の立派な才能であります。このような場合は、是非とも才能を伸ばしてあげたいものです。

スポーツを通して体を鍛え、教養を身につけ、素晴らしい人間性豊かな子供を育てることこそ大事であり、スポーツこそ、その役割を担っていると思います。

泥臭くても、パワーとスピードを！

静岡県バドミントン協会　副会長　本多 常民

バドミントン愛好家の皆様方、お元気でお過ごしでしょうか。先日の「ねんりんピック」には多数の皆様方の選手としての出場、役員としてのご協力、誠にありがとうございました。私もエコパにおける総合開会式に参加させていただき、久しぶりに楽しい一日をすごしてまいりました。

さてここ数日の新聞を賑やかしているアジア大会バドミントン競技において日本女子選手の活躍が大きく載せられ、嬉しい限りです。

世界に日本の強さを強烈にアピールした本県出身の中山紀子(旧姓高木)・天野博江両選手の再来も近いかと明るい期待をしています。ただ、今大会女子ダブルス潮田選手の反省の言葉に「パワーとスピードについていけなかった」とありました。

私も、先年の岡山国体に応援にまいりましたが、本県の選手もそのように見えました。技術的には決して見劣りしないのですが、やはり潮田選手の反省の通りを目の当たりにしてきました。華麗なプレー・ファインプレーも時にはあってもいいかとも思いますが、泥臭くても結構、パワーあふれるゲーム運びを望みます。どうか、年寄りの古い考えだと一蹴せずに、選手を目指す皆さん、これからの練習に心して励んで欲しいと思います。

末尾を頂きましてご報告を。私は、この８月の全日本教職員大会に２０回出場を、またほかに数名の方々が１０回出場の表彰を受けてまいりました。これも、皆様方の応援のお蔭と感謝しております。ありがとうございました。今後もできうる限りバドミントンに関わっていきたいと思います。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

ねんりんピック２００６　第５回ふれあいバドミントン大会を終えて

静岡県バドミントン協会　理事長　石川 博義

第１９回全国健康福祉祭しずおか大会ねんりんピック静岡２００６第５回ふれあいバドミントン大会（協賛）が無事終了しました。協賛大会のため問題が多くあり危ぶまれましたが何とか開催することができました。

参加チーム数は過去４回のどの大会よりも多い２６チーム１７８名の参加となりました。

７０歳以上の参加者も１４名と大変多かったと思います。

開会式では、各チームは富士宮市内のスポーツ少年団員のプラカードの先導で、お孫さんと並んだようで微笑ましく和やかな入場でした。富士宮市長のご挨拶をいただき、静岡県「ふじやま」チームの角谷泰子選手の元気でユーモア溢れる選手宣誓は大会の雰囲気を大いに盛り上げるものでした。

参加者は、北は福島県、南は福岡県と遠方よりの参加もあり、出来うる限り数多くの試合が出来るように配慮し、予選リーグ、決勝トーナメント（各リーグの１位、２位、３・４位各トーナメント）の他に交流試合を空いたコートで実施し、参加者は目一杯の試合を楽しんだようでした。


ねんりんピック会場風景

当大会は、現在協賛大会として開催され、ねんりんピックの正式種目になっていないため参加チーム数にも、予算面でも問題があり、できるだけ早い時期に正式種目としてスタートできるようになったらと思います。

大会前日には、歓迎レセプションを開催したところ、参加者のほとんどの方が出席されて盛大な会となりました。

最後に、大会を主管していただいた富士宮市バドミントン協会をはじめ開催にご協力いただいた関係各位に深く感謝いたします。

2006年第４回スペシャルオリンピックス

日本夏季ナショナルゲーム熊本大会報告

富士宮市バドミントン協会　川原崎仁



知的障害者のスポーツの祭典「第４回スペシャルオリンピックス（ＳＯ）日本夏季ナショナルゲーム・熊本」が、１１月３日から５日まで、熊本県内８会場で１２競技が実施された。今回静岡県からバドミントンとフライングディスク競技に初参加しました。

バドミントンに出場したアスリート(選手)は、富士宮市の井出智之さん、富士市から吉田江梨子さんの２名が参加しました。２人は、富士養護学校の出身です。富士宮市民体育館で、バド協会員や中学生と毎週土曜日に練習を重ねてきました。アスリートは、事前に個人技能競技の６種目を行い、６種目の合計得点を２回計測した平均点を予選のディビジョニングの元とします。２人は、レベルが一番高いディビジョニング７に出場しました。試合は日本バドミントン協会競技規則を遵守し、１５ポイント１ゲームで行なわれました。

２人は、金メダルは逃しましたが、競技責任者として会場におられた熊本中央高校の工藤先生にお褒めの言葉を頂き大変感激しました。また、吉田さんは、試合毎に上達し、会場の注目を浴び、地元の熊本日日新聞に写真大で載りました。

この大会は、全国のアスリートが日頃のトレーニングを競い合い、喜びを共にするオリンピック形式の素晴らしいスポーツ大会です。トーチラン(聖火)の先導は、各自治体の市長や議長、最終ランナーはバスケット・萩原、水泳・岩崎、柔道・山下と豪華メンバーでした。２００７年１０月に中国・上海で開催される「スペシャルオリンピックス夏季世界大会」の予選も兼ねているため、実行委員会の意気込みか伺えました。

また、競技会場、観光地、開・閉会式や宿舎でのボランティアの活動は大変素晴らしく、アスリート・コーチ１５００人に対し３０００人の支援体制で対応してくれました。

バドミントン会場は、熊本の有力高校のバドミントン部員か３日間に亘り、線審やプラカード、会場準備の役を務めてくれ、時に起こる珍プレーにも惜しみなく拍手をしてくれ、アスリートも笑顔やガッツポーズで応えていました。

私も含め多くの人たちか彼らと接し、心のバリアフリーを促進する機会となる素晴らしい大会でした。

（県協会副理事長）

沼津ジュニア　代表　安田 れい子

「明るく楽しく」をモットーに総勢３５名（中学生を含む）のチームです。

１０数年前、沼津市バドミントン協会が「親子教室」を開催しました。その子供達を中心に活動を始めたのが「沼津ジュニア」の誕生です。山あり谷あり（泣き・笑い）ですが、市内・近隣から集まり、週２回市民体育館にて活動をしています。



時には、日本リーグ参戦チームや、各地で指導されている方を招聘して講習会を開催しています。少しでもイメージを持つことができたり、考えること、意識をすること等々‥‥。習得して欲しい。そして、「人と人との出会いの大切さを伝えていけたらいい」かなと思っています。

バドミントンは奥が深く、上手くなればなる程楽しくなるスポーツだと思います。

この子供達が、「楽しさ・明るさ」を忘れることなくこの先もいろんな分野で活躍してくれるよう願っております。

只今成長中　富士中央バドミントンクラブ　会長　望月 今日子



富士中央バドミントンクラブは、今年で設立４年目に入りました。現在、小学部３３名、中学部 12 名で毎週土曜日に小学部は午後１時から４時、中学部は午後４時から７時まで富士中央小学校の体育館を借りて中田稔先生・山本秀和先生・佐野時男先生の指導のもと練習に励んでいます。

先生方の熱心なご指導と子供たちの努力もあり、今年度は、小学部においては「若葉カップ予選」団体３位　(女子)、「都道府県大会予選」では５年女子の鈴木秋海さんが２位となり全国大会出場を果たし、その他の試合においてもダブルス・シングルスともに上位に入る活躍をしています。中学部においても、ジュニアオリンピックではシングルス男子の山田啓洵君が１位、井口卓也君が２位、シングルス女子は吉田しはさんが２位の成績を収め、全国大会出場を果たし、焼津交流戦では男女とも優勝することが出来ました。他の試合でも、小学部同様上位の成績を収めています。

富士中央バドミントンクラブの子供達は、皆バドミントンが大好きな子供達ばかりです。



だから、ハードな練習にも向かっていけるのかもしれません。下級生たちも、そんな上級生を見てそれに続けと頑張っています。

この子達が他の子達にもバドミントンの楽しさを広めていってくれたらバドミントン人口も増え、何年か先には静岡といえばサッカーではなく、バドミントンと言われる種目になってほしいと願っています。

第２４号　平成19年5月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あ　い　さ　つ　静岡県バドミントン協会　会長　上野 忠

協会設立以来、実に５０数年にわたりその発展に御尽力下さいました町田守正副会長が本年度総会を期に退任されました。誠に御苦労さまでした。心より感謝申し上げます。特に実業団連盟の創設をはじめ本州製紙㈱富士工場の選手兼監督として活躍され東海大会での優勝をはじめ全国大会での上位入賞など本県実業団の発展に寄与された功績は大なるものがあります。　又協会理事長として１０年間の長きにわたり務められ平３総体開催には責任者としてその重責を果たされたことは高く評価されました。
これからも参与としてその豊富な経験をもとに御指導の程よろしくお願い致します。

又石川博義理事長もその職務を辞され副会長に就任されました。氏は高校の部専門委員長として平３総体を指揮され平成９年度より１０年間協会理事長として全国高校選抜大会、NEW わかふじ国体、ねんりんぴっく大会と全国大会を開催するなどまさに激務の任期であったと思います。

その指導力、統率力をもって副会長としてこれからも協会発展に御尽力をお願いする次第であります。
新理事長に就任されました杉山敏充氏は高校生の指導者として多くの優秀選手を育成された経験を糧に協会改革と選手強化を期待するところであります。扨て既に本年度の事業も進んでおりますが、本年度の重点目標を基に各専門委員会が連携を密にして国体での上位成績の確保、ジュニア選手の育成そして審判委員会の組織の充実を計るべく会員全員で頑張りたいと思います。

理事長退任にあたって　静岡県バドミントン協会　副会長　石川 博義

平成９年４月より、静岡県バドミントン協会理事長を引き受けてから１０年が経ちました。

バドミントンに対して、たいした専門的知識も技術も持たない私がこの役を引き受けるには、かなりの抵抗がありました。しかも目前に国体開催がぶら下がっている中であります。案の定、選手強化、役員養成、審判養成、先催県への視察、行政との交渉等々判らないことばかりが、こんなに早くからやらなくてはならないのかと思うほど前から息つく暇もない毎日でありました。高校総体の開催経験はありますが、行政を相手の仕事は未経験のことばかりでした。理事長になったからには協会内もいろいろと改革とか改善もしなければと思いながら何も手に着かず時間だけが過ぎて行った様な気がします。

国体リハーサル大会も、全日本社会人大会を全国高校選抜大会に変更するには、２０年も続いてきた体制を変えるには、会長以下大変な苦労がありました。この１０年間に、ねんりんピックを含めて３大会を経験してきましたが実際に多くの県協会会員の皆様や関係名方面の方々の絶大なるご支援がありまして成功に導くことができました。こういう大きな行事を経験してみるとつくづく、金や物は無くても何とかなるが、人と人とのつながり、人の和はこれが無くてはどうにもならない事がよく判りました。そういう意味で今回の大会に、対する、会員の皆様のご協力は絶大なものがあり改めて心より感謝致します。

この度、新理事長として就任された杉山敏充氏は経験豊かで人望厚い方であります。私以上のご協力ご支援をお願い致します。私は、今年度より、実業団・東海連盟担当の副会長として務めさせて頂きますが、理事長経験を生かして　微力ながら協力させて頂きたいと思っております。

新年度に向けて　静岡県バドミントン協会　理事長　杉山 敏充

平成１９年度協会組織、活動骨子が去る４月１４日の総会において決定し、新年度がスタートいたしましたそのなかでも今回、５期１０年の長期に渡る理事長として多大なるご実績とご活躍をされました石川理事長が退任され、協会副会長に就任されましたことを先ず以って御報告させて頂きます。その後任として本年度より理事長という重責を担うことになりましたが、日頃は当協会の発展と円滑な運営に御協力を賜り、誠に有り難く厚く感謝申し上げます。併せて今回の理事長就任に当たり、今後より一層の競技の振興と競技力の向上並びに会員の皆様における連携と親睦に力を傾注する所存でありますので宜しくお願い申し上げます。
さて、本年度の活動骨子といたしましてその中心となるものは次の通りでございます。活動方針は、バドミントンの特性を活かしより底辺の拡大と選手の発掘育成に努め一層の競技力の向上と強化を通じ、国体及び国内大会並びに世界において優秀な成績を修めるための活動を展開する というものであります。特にそのための重

点目標の一部としましては、ここ数年間実施しております指導者の養成・確保に向けて一段の拡大を図りつつ、且つ、その指導に当る指導者の皆様における組織的指導体系の確立を構築し、その実践に向けるというものであります。具体的に申し上げますれば、もとより県内にはバドミントンに精通し情熱を傾け高度な知識と技術をお持ちの優秀な指導者が多数おられますが、その方々の折角のノウハウが、小さな特定の地域や個人にのみしか反映せず全体的な広い視野に立っての形としてそれが活かし切れていないという現状がある訳であります。折しも昨年１０月に競技規則、審判規程の大幅な改正があり、事実上それは既にスタートを切っていることでもあり、今後一段と今までにも増して新たな指導展開が求められるものであります。指導者における互いの技術の伝達継承並びに情報交換、更にはより専門的で学術的な部分での指導者としての知識も最早欠かせない部分となることは決して疑いのないところでありましょう。ジュニアの育成においても発育・発達段階から見た一貫指導システム即ち、神経系・筋骨格系・リンパ系・生殖系などからのアプローチが成されずして的確な育成指導は不可能である訳であります。

競技力の向上、大会の成績イコール指導者のレベルということに他なりません。

いずれにしましても本年度の重点目標を達成すべく、また、生涯スポーツとしてのバドミントンの一層の確立に向け、今後の皆様のご支援ご協力を大いに期待する所であり、何卒宜しくお願い申し上げる次第であります。



副会長退任の伴う思い出　静岡県バドミントン協会　参与　町田 守正

私は、この度の役員改選において一身上の都合により退任致しました。５０有余年の永きに亘り上野忠会長をはじめ大勢の皆様方のご指導の下、無事努めることが出来ました。心より感謝申し上げます。

さて、広報委員会から戴いたタイトルの「思い出」ということですが、私とバドミントンとの出会いは、昭和２７年富士高２年生からであります。それ以降多くの大会を経験させて頂きました。中でも特に印象深いものは、次の２大会です。

その一つは、昭和３２年富士市開催の第１２回静岡国体です。当時県内にバドミントン競技は普及していませんでした。経験者は少なく、特に審判員が不足していました。このような状態の中で、塩川甫氏(現名誉会長)、大箸昭司氏(現顧問)。植松忠裕氏(故人)、影山隆亮氏(故人)が中心となり、日夜企画・運営に明け暮れていたときに、私も役員の一人として名を連ね、早朝の準備から夜の片づけまで飛び回ったことが思い出されます。大会期間中、第１会場の富士中の宿直室に泊まったこともありました。高校女子が２位になったこともあり大成功に終わることが出来ました。これが、私の役員人生の原点となりました。

二つ目は、平３総体です。理事長としての初めてのビッグ大会でしたので、非常にプレッシャーが掛かったことを覚えています。会場が市立富士体育館他５会場に跨ったので、運営面を心配しましたが県高体連石川博義委員長(現副会長)の下で各校顧問の先生方の惜しみない協力により乗り切ることが出来ました。又、審判員については望月富弘審判委員長(現理事)の努力により解決され、一安心したものでした。

大会は、役員、各学校の顧問、レディース、高校生など多くの皆様に支えられて大成功だったことはまだ記憶に残っているかと思います。特に、閉会式において、高体連専門部長遠井稔男氏より「今大会は、過去最高の大会であった。」とのお褒めの言葉を頂き、心から良かったと思いました。

その他、中部日本大会・東海大会・日韓交換大会等、心に残る大会もありますが、今は懐かしい思い出となっています。

これからも微力ながら皆様方と共に県協会発展に努力していきたいと思っていますのでよろしくお願い致します。

伊豆ウイングス　代表　西川　光親



伊豆ウイングスは２年前に伊豆市を拠点として発足したクラブであります。団員は伊豆市を中心として参加され、沼津市からの参加者もおります。指導者には修善寺工業高等学校の小島先生に指導をしていただき、週一回の木曜日を練習日とし、修善寺工業高校の体育館を　練習会場として練習を行なっております。入部当時に４年生であった団員が最上級生になり、各大会に参加し上位入賞ができる様、　　切磋琢磨して練習に励んでおります。その練習の成果が現れるのを　楽しみに期待しております。

第２５号　平成19年9月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あ　い　さ　つ　静岡県バドミントン協会　会長　上野 忠

処暑もすぎたこの頃ですが、異常なほどの猛暑つづきの中で各種大会が行われています。

過日開催された高校野球（甲子園大会）での佐賀北高校の奇跡とも言える逆転勝利は、同じスポーツを愛好する者として正にスポーツこそ人間のみがもつ文化であり、そこに感動を覚え、涙することに人生の喜びを得、進歩を生むものかと実感しました。それに引き換え、逆転負けを喫した方も反省の中に次なる進歩を求めるものと思います。静岡国体開催後の高校生の成績が低迷を続けていますが、一日も早く復活すべく再度足元を固めて下さい。一方、ジュニア（小学生）の活躍は目を見張るものがあり、特に大井川（羽球友の会）の躍進は将来に期待するところであり、御指導下さっている皆さまには一段と上を目指して頑張って下さい。

扨て、本年度国体の出場は成年女子のみですが、期待の村松、金森、杉谷の本県最強メンバーでの出場であり、上位入賞のチャンスかとその期待は大きく膨らんでいます。頑張って下さい。

去る 7 月 28 日、伊東市協会創立 30 周年記念式典が市関係者及び友好都市諏訪市協会の出席のもと盛大に行われました、おめでとうございます。多くの優秀選手を育成した実績は高く評価され、県内支部協会の模範として、益々の発展を祈念いたします。

本年度日本協会より長年にわたり本競技への実績が評価され、内田壽夫副会長、工藤喜久雄副理事長の両氏が「顕讃賞」を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。今後とも御指導協力のほどお願い申しあげます。

静岡県学生バドミントン連盟と共に　静岡県バドミントン協会　副会長　齋藤 聡

今私の手元に一冊のプログラムがあります。そのプログラムの表紙には、第３１回静岡県大学バドミントン選手権大会と書かれています。私が、静岡県学生バドミントン連盟とおつきあいを始めて早いものでもう１５年以上も経ってしまいました。静岡県学生バドミントン連盟は、平成４年に発足した若い連盟です。

当時の塩川県協会会長（現名誉会長）の肝いりで県内の６大学のバドミントン部が合同して発足しました。私も発足当時に関わった関係で微力ではありますが副会長として連盟の学生諸君と活動して参りました。その間様々な方にお世話になりながら発展して参りました。

現在は、上野県協会会長を連盟の会長に戴き、県内の大学バドミントン部のほとんどが加盟し、春と秋の年２回の団体戦と年度末に個人戦の年３回の大会を主催しています。団体戦は、男女ともに１部リーグと２部リーグに分かれて、各加盟大学から１ないし２チームが参加して２複３単で試合が行われています。個人戦は、男女１部２部に分かれて、それぞれの優勝を競っています。これらの戦いは、主に県中部の大学の体育館を会場に行われています。また、年１回県協会審判部のご協力のもと審判講習会を開催し、加盟各大学バドミントン部の競技規則遵守意識の向上と親睦交流を図っています。

今回は、静岡県学生バドミントン連盟の活動について簡単に紹介させて頂きました。今後は、学生連盟が静岡県のバドミントン競技の競技力向上に少しでも寄与できることを目指して活動を行っていく所存でございます。会員の皆様には今後とも更なるご指導ご鞭撻をお願いすると共に、試合会場にも足を運んで頂き、学生諸君のはつらつとしたプレーを見て直接ご指導をして頂けたらと思っております。

日バ顕讃賞受賞にあたって　静岡県バドミントン協会　副会長　内田 壽夫



去る６月２４日（日）東京大塚の茗渓会館において日本バドミントン協会評議員会があり、その席で行なわれた顕讃授賞式に出席しました。

この賞は、本協会では既に七澤宏光氏初め本多常民氏、日下部敏弘氏、滝正孝氏が受章されており、今回は副理事長で沼津市バドミントン協会長の工藤喜久雄氏と一緒に表彰されました。私のバドミントンとの出会いは、１９６４年、富士高校に転勤早々、「あなたは若いから運動部の副顧問を引き受けてもらう」と言われバドミントン部に配属されたことである。当時は、中嶋鎭也先生が顧問をやっておられ、素人の私は生徒が練習に入る前に部長の萩原考章君から指導を受けたのが、そもそもの始まりである。

初めの頃は、陸上部の手伝いをしたり、音楽部の顧問をやったりと、バドミントン部は掛け持ちでした。６８年３月、中嶋先生が沼津東高校へ転勤の際、「内田さんは、部の様子がわかっているから、バドミントン部を頼む」を言われ、実はあまりよくわかっていなかったのに気軽に「はい」と言ったのが、本学的にバドミントン界へかかわる第１歩になりました。その時の部長は、現在富士市バドミントン協会副会長の古郡文博君である。富士高校のバドミントン部は、その頃はインターハイ出場が至上命令であり、生徒は自主的にハード

なトレーニング計画を立て、バドミントン素人の私は、ただ生徒の練習を見ているだけでした。
この年のインターハイは、男子団体１位・単１位・複１位・女子単１位で県予選を通過し、福山市に連れて行ってもらいました。１１年間顧問を勤めましたが、そのうち６回のインターハイ出場が果たせました。この間、竹本広一先生、杉本一美先生、原洋男先生を始め、大勢のＯＢには大変お世話になりました。
富士高校は、職員もバドミントンが盛んで、校内大会を少しずつ拡大して、塩川甫先生（名誉会長）、大箸昭司先生（参与）にご指導いただき、県教職員連盟を立ち上げました。
７９年４月富士東高校へ転勤して高体連から離れましたが、県協会の理事・常任理事として創立３０周年記念誌・５０周年記念誌作成のお手伝いをさせていただいたり、広報委員長賭して編集委員他大勢の方々の応援をいただきながら２３号を発行できましたことは、本当にありがたいと思っています。特に、栗田俊行氏には、創刊当時から大変ご協力をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。
今までに受章された方々は、いずれも高校時代から選手としても華々しい活躍をされているのに反し、プレーでは何の実績もない今回の私の受章は、「部活動の指導」、「教職員連盟の設立」、「広報委員会活動」と言った裏方の仕事に頂いたものと考えています。　上野忠会長始め協会役員の皆様に感謝いたします。
これからも微力ながら皆様方と共に県協会発展に努力していきたいと思っていますのでよろしくお願い致します。

顕讃賞を受賞して　静岡県バドミントン協会　副理事長　工藤 喜久雄

この度、日本バドミントン協会の平成１９年度顕讃賞を受章することができましたことは、塩川名誉会長並びに上野会長をはじめ協会役員の皆様等のご指導・ご協力の賜物であり感謝申し上げます。
顧みますと、私のバドミントンとの付き合いは、昭和３６年沼津商高に入ってからであり、当時、吉原高から赴任して来ました（故）植松忠裕先生との出合いがバドミントンの始まりでありました。以後、その魅力に取り付かれたかどうか今日まで４６年もの間、自分なりにバドミントンを楽しみ、また協会の多くの皆様に支えられながら役員として運営に携わってくることができました。
この間、本県で開催されました教職員大会(昭和５８年)、高校総体、国体という大きな全国大会にも微力ながらその運営に携わることができ、今でも当時の様子が脳裏に残っており、貴重な経験をさせていただきました。
今後も静岡県バドミントン協会の更なる発展のために私のできることを協会の皆様とともに努力してまいりたいと考えております。

第６２回　国民体育大会　「秋田わか杉国体」へ向けて

バドミントン競技総監督　杉山　敏充

平成 19 年度第 62 回国民体育大会は、秋田県美郷町仙南総合体育館を会場に 10 月５日から８日までの４日間開催される。本県での出場種別は、成年女子のみの参加となる。
本年度は成年女子が東海ブロック予選なしでの本大会への出場権を得られる年回りでもあるが、成年女子は昨年、東海ブロック大会で宿敵岐阜県に１対１で迎えた第３ゲームがファイナルゲームにもつれ込む大接戦の末、惜しくも敗れ、本大会への出場を阻止された経緯がある。ましてやその岐阜県が本大会において栄えある第３位入賞を手にするなど輝かしい実績を上げるに至った事は未だ記憶に新しい。そういった意味においても今回の本大会に賭ける思い、意気込みというものは以前にも増して事の外強いものがある。
今回のメンバーは昨年同様に、国際大会でも実績を踏まえた名コンビ金森、村松に加え、全国名種大会への出場経験豊かな杉谷が加わり、オーダー的にも昨年に比して一段の厚みを増したチームとなっている。
更に、監督は金森、村松のジュニアからの指導者として名高い星稜高校の吉永先生が当たり、その手腕は定評とするところである。この８月１９・２０日は東海ブロック予選(三重県伊勢市)であったが、本大会への出場を期待した成年男子とジュニア男女は、今一歩のところで残念ながら出場権を逃してしまった。その選手、監督の皆さんのためにも、　本大会で何としても一矢報いたいところでもある。
いよいよ本大会に向けて残り１ヶ月余り、昨年の雪辱を果たすべく最終の強化と調整に全力を似て傾注する成年女子選手、監督に皆様方からの厚いエールを送って頂ければ幸いであります。
静岡県バドミントン選手の代表として、納得の出来る感動渦巻く大会の一員となれるよう、そして、皆様のご期待に沿えるよう選手監督一同強い決意で臨みたいと思っております。

第２６号　平成20年1月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あ　い　さ　つ　静岡県バドミントン協会　会長　上野 忠

平成２０年という節目の年を皆さまと共に元気で迎えることができ誠におめでとうございます。
昨年は青森国体において期待の成年女子が４位入賞を果たすすばらしい成績を挙げました。
本県最強のメンバーでの出場で優勝のチャンスも充分あったとの戦評も報告されました。
監督、選手の皆さまの頑張りにエールを送り健闘を讃えます。

国体開催期間中に副会長の石川博義氏が多年にわたる本競技への功績が認められ日本協会より功労賞が授与されました。本県協会創立以来４人目の受賞であり誠にめでたく心よりお祝い申し上げます。

年末、県協会にすばらしい吉報が入りました。大井川 Jr 羽球友の会の小川桂沙君が第１６回全国小学生大会（男子単４年生以下の部）で優勝に輝きました。おめでとうございます。これに満足せず指導者ともども、３年５年先を目指して下さい。又第２４回全日本シニア大会において日下部敏弘氏が、６０才代複の部で念願の優勝を致しました。誠にその努力には感服のかぎりです。若い選手の皆さまも是非見習って下さい。

扨てここ１～２年審判資格に関する件で該当者のみなさまに大変御心配御迷惑をお掛けしました。
原因を精査し審判委員会の改革を進めてまいりました。再びこのような事の無いように指導監督に務める所存であります。本年度行事も県総合選手権大会等々残すのみとなりました。又平成２１年度には日本マスターズ大会が本県での開催も決定（富士宮市）しました。
年頭にあたり協会員皆さまの益々の御活躍と御協力をお願いする次第であります。

平成１９年度　静岡県知事表彰受賞の報告

静岡県バドミントン協会　会長　上野 忠



昨年１１月３日「文化の日」静岡県の地方自治、教育文化スポーツ、産業開発、社会福祉などの分野で活躍し、功績顕著な功労者の表彰式が行われました。
私もスポーツの分野でただ一人受賞者の一員とさせていただきました。

思いがけない名誉ある受賞に戸惑いましたが戦後のスポーツとして発展をつづけてまいりました。バドミントン競技が漸く県民に認められ県内最初のプレーヤーの一人として、又協会の役員としてこの受賞に浴したことは５８年をふり返り感慨もひとしおです。

これもひとえに御指導を賜りました諸先生、先輩そして同僚、後輩、協会員の皆さまの御協力の賜物であり私が皆さまを代表して受賞したものと心より感謝しております。
これからも今までの経験を糧としてバドミントン競技はもとより県民スポーツの発展に少しでもお役に立てればと思います。

功労賞（中部日本協会）　受賞の御礼

静岡県バドミントン協会　県副会長　本多 常民

バドミントン競技愛好者に皆様方御元気で御活躍のことと存じ上げます。情報機関等により各地で種々の大会が盛大に催されていることを耳にし目にし喜びに耐えません。役員、指導者、後援者の皆様方有難う御座居ます。

さて私ごとになりますが１１月１７日、新潟県阿賀野市ささかみ体育館を主会場として行われました。第６０回中部日本バドミントン選手権大会開会式席上におきまして上野会長と共に私本多も名誉ある功労賞表彰を受けてまいりました。このことは私のバドミントン競技生活６０年を滞りなく、又楽しく過ごさせていただきました諸先輩、同僚、後輩の皆様方の御尽力の賜と心の奥底より御礼申し上げます。
私もこの表彰を糧といたしましてこれからもバドミントン競技に関する活動に努力して行く覚悟で御座居ます。愛好家の皆様方今後もますます御支援、御協力のほど御願い申し上げます。

皆様方、有難う御座居ました。
平成20年度も皆様方、バドミントン競技にも良き年でありますように祈念いたします。

(財)日本バドミントン協会　功労賞を受賞して

静岡県バドミントン協会　副会長　石川 博義

平成１９年度秋田国体において、功労賞を受賞いたしました。誠に光栄に思っており恐縮している次第です。昭和４８年に富士宮東高のバドミントン部顧問になって３５年が経ちました。「体育の教員だから何でも出来るだろう」の校長の一言で、ついぞラケットなど握った事もない私か３７歳にして苦難の道が始まりました。私のコーチングに対して、「先生それは違うでしょう」などと生徒に言われながら必死に勉強しました。

平成２年に翌３年に迫った静岡インターハイをひかえて、あろう事が、私か静岡県高体連バドミントン専門委員長に推されましたが、高体連の事情など全く判らず、これ又苦難の道でした。幸い当時の全国高体連専門委員長の遠井稔男氏、県バドミントン協会事務局長の栗田俊行氏の強力なバックアップと、富士地区高校顧問の本多、原田、梶井、田中、吉野の諸先生方が毎日部活の終わった後、富士市役所の準備室に来て、夜中までお手伝いをして下さった事で高校総体はなんとか切り抜け、それから３期６年を大過無く務めることが出来ました。平成８年、突如として県協会理事長にとの話が舞い込んで来ました。承諾には、かなりの抵抗がありましたが、２度あることは３度の喩えに、どうせバドミントンの道に入ったのだからと、平成９年から平成１８年まで５期１０年を務めました。その間、全国高校選抜大会、国民体育大会、ねんりんピック大会と三つの全国大会を開催し、県バドミントン協会の主管として、恥ずかしくない尺会が運営できたと思っております。これも一重に協会のみなさま、関係諸団体のみなさまのお陰と思っております。

今回の受賞も多くのみなさま方のご指導ご協により職務を遂行できた事によるものと考え感謝すると同時に今後副会長として、県協会の発展に微力ながら尽くしたいと思っております。

第６２回　国民体育大会総括

静岡県バドミントン協会　理事長　杉山 敏充

平成１９年度第６２回国民体育大会は、成年女子　「種目別第４位」「総合第６位」入賞という大変価値ある輝かしい結果を得ることが出来ましたが、これも偏に協会関係各位の皆様における厚い声援、心温まるご支援の賜物と深く感謝いたしておるところであり、先ず以って御礼申し上げます。

今回のメンバーは３名全員が地元のスポーツ少年団や教室においてジュニア期よりいち早くラケットを握り、それぞれが遊びながら楽しみながらシャトルに触れてきた選手達ばかりであり、幼年期より各種の大会にも参加するなど必然的にある程度の豊かなキャリアを積み上げ育ってきている経歴があります。さて、今国体の成績は前段の通りでありますが、このような好成績はそんななか至極当然にして生まれたものなのでありますでしょうか。それとも元々持っているもの（天才的能力）によるところのもので「当然なのさ」と言い切れますでしょうか。確かに持って生まれた能力（素質）に秀でたものを持ち合わせその上に練習という努力を積み重ねた結果であることには疑いのないところでありますが、でも果たしてそれがすべてでありますでしょうか。勝つために必要なものはすべて備わっていたのでしょうか。

バドミントン指導理論（著…阿部一佳）によれば「競技するにどうしても必要な能力をバドミントン・ディマインド」といい、主要なファクターを技術・戦術・体力・心と精神の４つに分けこれら相互の関係（バランス）に重要な分析と科学的アプローチが競技的達成に欠かせないということを明確に論じている。
そして、このディマインドをどこまで知っているかは指導能力の差となって現れると断言している。

どんなに優れた逸材も指導者如何ではただのプレーヤー以下に終わってしまうということを痛烈に訴えているわけである。如何に優秀な指導者に恵まれる（遭遇）かが『鍵』となるということを明確に示唆している。

今年度、当協会が重点目標としているものの１つとしての指導者養成（現在４級を実施中）は、プレーヤーのために指導者として何を成すべきなのか、指導の目標や課題に根拠と目安を与えているだろうか、臨界期（発育・発達段階）に応じた適切な競技育成が成されているかなど科学に裏づけされたトータル的指導が発揮、展開されているのであろうか等々について検証、研鑽を図って頂くためのものであります。

今国体を総括するに当たり、改めて、指導者における役割、資質向上が必要不可欠であることの認識を今にも増して強く思う次第であります。

「ＡＬＬ ｆｏｒ ＰＬＡＹＥＲＳ」 すべてはプレーヤーのために

伊東高校バドミントン部

顧問　老川 元久(男)　顧問　河野 健太郎(女)　副顧問　所 康俊(男女)

私達、伊東高校バドミントン部は、男子８名、女子８名の１６名で活動しています 男女ともに、県大会出場を果たしましたが、東海大会までは出場できませんでした。この悔しさをバネに、冬期練習に力を入れ、来年度は全国大会出場を目標に頑張って行きたいと思います。

第２７号　平成20年5月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あ　い　さ　つ　静岡県バドミントン協会　会長　上野 忠

北京オリンピックの開催まで１００日を切りスポーツを愛する者にとっては期待に胸を弾ませるのが常なのに、聖火ランナーが倉庫に消え、聖火防衛隊なるものが随走したり、コース変更するなど隠密聖火リレーは何を意味するのか、平和の祭典の将来を案ずるのは私のみでしょうか。

新年度に入り役員総会も無事終了いたしました。大河平才毅(高校専門部長兼協会副会長)様が退任され新たに吉田昌弘(富士高校校長)様が後任として就任されました。大河平先生には高校の責任者として御指導、御協力を賜り誠に感謝にたえません。又吉田先生には協会一同おおいに期待しておりよろしくお願い致します。

本年度より指導者委員会が設置され強化委員会と連携を密にして指導者の育成及び競技力の向上を更に強化して行きたく思います。すでに本年度事業の各種大会も行われていますが、特に中学校関係者には組織の充実を計るべく努力のほどをお願いする次第であります。

各種大会の運営に関しては主管する責任者は細心の注意をもって確認事項をチェックして下さい。
来年度開催が決定しております日本マスターズ大会も６月実行委員会の設立が決まり本格的に準備に入ります。全国より参加されます選手・役員の皆さまを国体の時のように温かくお迎え出来ますよう皆さまの協力を期待いたします。

高体連バドミントン専門部長就任にあたって

静岡県バドミントン協会　副会長　吉田 昌弘

日頃、高体連関係のさまざまな業務に御協力をいただき、感謝申し上げます。このたびの異動により、清水東高校より富士高校に赴任することになりました。４月１日、自宅の静岡から富士高校に向かっていく途中、今まで見たことのない雄大でたくましい富士山に迎えてもらいました。改めて富士山に見守られて学習できる環境にしたいと思いました。富士地区の学校は以前富士宮西高校が開校して２年目の年に勤めて以来、20数年ぶりのことになります。多くの教え子たちや当時お世話になった方々との出会いを楽しみに富士高校に勤めております。

さて高体連の各部活動の大会日程も決まり、それぞれの種目で選手たちは日々心身の鍛錬を目指し精進していることと思います。バドミントン専門部におきましても県大会は５月１７日、１８日に沼津市民体育館で団体戦が行われ、個人戦は５月２４日、２５日に磐田市総合体育館で開催されることが決まりました。

埼玉県所沢市での高校総体及び岐阜県名務原市で開催される東海大会出場をかけ、高校生の熱のこもった試合が展開されると思います。是非多くの方々に御来場いただき、御声援をいただければ嬉しく思います。
今社会が大きく変化をしていく中で、学校教育における部活動の果たす役割は大変重要なものがあります。

大人になるための助走期間として高校時代は、指導をしていただいた先生との出会いや先輩、後輩とのつながり、同級生との友情を通して今後の人生にかけがえのない大きな力を与えてくれるものが数多くあると思います。是非高校生たちがバドミントン競技を通して心身の鍛錬を図るとともに本県選手の競技力がより一層向上することを期待しております。

今までバドミントン競技には直接関わった経験はありませんが、静岡県バドミントン協会の皆様方の御支援をいただきながら、高体連バドミントン専門部長と静岡県バドミントン協会の副会長の重責をまっとうする所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

静岡県バドミントン協会　理事長　杉山 敏充

平成２０年度協会組織、活動骨子が去る４月２８日の総会において承認され、新年度がスタートいたしました。私自身、理事長に就任し、早一年が経過いたしましたが、日頃は当協会の発展と円滑な運営に御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本年度の活動骨子といたしましては昨年度同様、より底辺の拡大と選手の発掘育成に努め、一層の競技力の向上と強化を通じ国体及び国内大会並びに世界において優秀な成績を修めるための活動を展開するというものであります。取り分け、特にそのための重点目標の一部として昨年来より掲げて参りました指導者養成は、その講習会を通じ一段の成果が認められておりますが、更にその指導者の皆様における組織的指導体系の確立と実践に向け、本年度は協会における委員会組織の中に新たに「指導委員会」を設置し、選手強化委員会との濃密な連携のなかにジュニア養成の盤石な体制と実践を図るというものであります。委員長には前選手強化委員長の吉水将史氏が就任されました。また、「選手強化委員会」と「ジュニア対策委員会」を統合し、ジュニア養成における長期的一貫指導の強化に向け、より実践的な活動体制に着手するというもので、委員長には岩沢猛氏が副委員長にジュニア指導で実績豊富な早川芳朗氏が就任されました。

更に、長年の懸案であります「社会人クラブ」は各地域における社会人クラブ・チームのより活性、拡大化を図るとともに会員の確保にも全力を挙げるという目的のもとに、協会組織団体の連盟組織として加えるべく検討委員会を発足し、副会長の石川博義氏がその代表になられました。今後は組織の設立準備期間として向こう一年間を持ってして様々な懸案に取り組むことになります。

以上主立っての重点目標ではありますが、本年度もまた、県バドミントン界の一層の発展に向け、今後の皆様のご支援ご協力を大いに期待する所であり、何卒宜しくお願い申し上げる次第であります。

新年度の選手　強化について　強化委員長　吉氷 将史

このバドミントンしずおかが発行される頃、２０年度新選手強化委員長も決定し、私からバトンタッチしていようと思います。新委員長の下、選手のための強化策が実施されていくと思います。私としてはこの数年、委員長として感じたことを今後への課題ということで述べさせていただきます。選手強化にとって不可欠なものは二つあります。ひとつはタレントの発掘、二つ目は優秀な指導者の存在となります。

タレットの発掘・ジュニア育成という点では、全国小学生大会優勝に見られるように成果をあげられております。

問題となるのはそうした小学生が中学に入学してからとなります。県外に目を向けてみますと全国規模で小六生が学校選びをしており、公立中学が通常の部活動の中、全国で勝つのは至難の技となっております。

今後は中学生指導を既存の形態ではないシステムで実施しなければならないでしょう。そのためにはまず、指導者育成をすすめなければなりません。現在、協会としては指導員養成事業を積極的に行なっております。これがいつの日か実を結ぶものと信じて夢を持ってゆきたいと思います。

我こそはと思われる方は是非、同事業へご参加ください。よろしくお願いいたします。

静岡工業高校バドミントン部　顧問　大海 俊幸

平成７年４月に始まった週１度の必修クラブが創部のきっかけとなった。翌年、必修クラブの１年生１０人による同好会が発足。学校での練習は朝だけ、放課後は市内の体育館を転々とした。その年１年生シングルス大会で６人が県大会に出場したのを皮切りに、新人戦も団体で県大会出場を果たすなど短期間で急成長を遂げた。この実績が認められ、部に昇格した。

体育館にバドミントンコートのラインが引かれ移動式の支柱が用意されるなど設備が整うとともに選手も着実に　力を伸ばしていった。平成１０年４月には新人戦中部地区予選で完全優勝、県大会団体で初のベスト８入りした。

平成１２年には東海大会出場を果たし、現在の基盤作りが　完成した。来年度、清水工業と合併し科学技術高校となるが、声を出せ、汗を流せ、足跡を残せを部訓としてさらなる発展を遂げたいと思う。卒業生には生涯にわたってバドミントンにかかわってほしい。



どんぐりジュニアバドミントンクラブ　代表　加藤 朝海

「どんぐりジュニア」は「世界征服」を目標に掲げ、毎週土曜日午前中に中川小学校をメインに５人の子供たちで始まりました。名称も誰でも親しめそうな「どんぐりジュニア」とし、その後、県小学生対象の「富士の国ゆうゆうクラブ」のバドミントン種目の講習終了後、続けたい子供達を引き取って現在に至ります。

現在は小学２年～中学３年まで２２名で、基本的な技術からゲームまで時間内で出来ることを行なっていて、子供達にバドミントンの楽しさ、おもしろさを解ってもらえるように四苦八苦しています。

他の選手を見て刺激されればと思い、県の小学生連盟にも登録して大会にも参加させてもらっています。

また、中学生を中心に極少数ですが、さらに強くなりたい人を金・土曜日の夜に練習しています。こちらは県上位を目標に練習内容も厳しくしています。

「バドミントン」という共通な言葉でいろいろな学校・学年の子供達が集まれる場所です。強くさせることも重要かと思いますが、「明るく・楽しく・真剣に」をモットーにみんなが助け合い、お互いを思いやれるような指導ができればと思います。



第２８号　平成20年9月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あ　い　さ　つ

静岡県バドミントン協会　会長　上野 忠

猛暑つづきこの夏も一気に秋めいて来たこの頃です。
燃えに燃えた北京五輪も終幕を迎え、国の威信をかけ経済発展の流れの中、先進国入りを目ざしての中国政府の思惑は如何なものだったか？

平和の祭典のその外での出来事を思うと閉塞感を感じたのは私のみでしょうか。
各種の競技に多くの感動をいただき出場された選手の皆さまには「ありがとう」の言葉しかありません。
記録とメダルへの挑戦にかける選手の姿を見るとき審判員の正確、平等の重要さを多々感じたものでした。

バドミントン競技も女子ダブルス戦で第一シードを撃破しメダルにあと一歩まで迫り頂点に手の届くところに来ていると思います。テレビでの観戦で感じたことは「攻撃は最大の防御」であることを再認識させられました。

五輪での連覇と言う偉業を成し遂げた選手の皆さまの偉大さは感服するのみです。最短でも８年間、否１０～１５年間に及ぶ努力は心技体の研鑽、充実を計り維持し続けることは正に継続は宝なりであります。
スポーツを愛好する者だけでなく、それは人生の指針として学ぶべきことと思います。

扨て、本年度に入って県内選手の成績をみるに、金森、村松、両選手の抜けたあとの空洞化を一日も早く埋めなければなりません。ジュニア選手の発掘、育成を重点に再度足元を見直して行きましょう。来年度は日本マスターズ、中部日本大会と全国規模の大会開催が待っています。協会員はもとより特に審判委員会の皆さまには万全を期して準備をお願いする次第であります。

広報発行を振り返って

静岡県バドミントン協会　副会長　内田 壽夫

平成１１年４月、上野忠会長より広報委員長の任を仰せつかり同年７月の“バドミントンしずおか”創刊から平成１９年１月発行の第２３号まで、編集を担当させて頂きました。
退任してからまだあまり日は経っていませんが、少し振り返ってみようと思います。
委員会としてスタートしたものの、委員は元県協会事務局長栗田俊行氏と私の２人だけ、予算０円(用紙代・印刷代・送料などは発行後清算)で、バドミントン協会創立５０周年記念式典の特集号を組みました。B5 版の謄写版刷り１０ページに、タイトル、構成、写真のレイアウト全てを栗田さんにお願いし、得意のパソコンで原稿を作成して頂きました。
それを当時私が勤務していた富士見高校の輪転機をお借りして印刷したわけです。素人印刷のため、せっかく綺麗な写真を使っても真っ黒になってしまったことは、提供者や写っているご本人に対し今も申し訳なく思っています。

４ 号を発行した時点で形ができてきましたので、５号については年度途中でしたが追加予算を組んで頂き、印刷をプロにということで富士ニュース社にお願いすることになりました。体裁も A4 版と大きくなり、紙面がきれいになったことで大いに感激しました。

３年目の平成１３年度、副委員長武井弘征、委員に大澤学・宮崎寿夫・石川由樹・佐野明彦の５氏を加え、私と併せ６名、予算も２５万円で新たに出発しました。

今は、社会の情報化にともない、「ホームページに公開したら」といったご意見もあります。全予算の半分近くを占めているのが送料であることからすれば、経費節減のためには、それも一つの見識でしょう。
しかし、ページ管理者の問題もありますし、また協会員が全員ホームページを読めるというわけではありません。いろいろと課題が残る中、小倉広報委員長には今後もよろしくお願いしたいと思います。

最後になりましたが、広報委員の皆様、お忙しい中にもかかわらず、原稿をお送りくださった方々に支えられて８年間過ごすことができましたことにお礼申し上げます。ありがとうございました。

指導者育成強化について

指導委員長　吉氷 将史

暑い夏も影を潜めました。この夏､小中高の大きな大会が各地で行なわれましたが静岡県の選手はこれが発刊される頃には結果がでているでしょう。指導委員会としてできることを精一杯やって静岡県の選手のレベルアップにつながって欲しいと思います。

過日､今年度の指導員養成事業を中止いたしました。理由は希望される方が規定の人数に達しなかったことなのですが、委員会として告知の方法や期限の短さなど課題は多くありました。紙面をお借りして応募された皆様にお詫び申し上げます。

この指導員資格なのですが、２０１２年には国体・スポレク・マスターズ・ジュニアグランプリの監督は公認スポーツ指導者でなければならないと義務付けされます。逆算しますと２０１０年に受講しなければこれらには間に合わないということになりますので指導委員会といたしましては来年度、または再来年度に実施を検討しております。

また、大会に義務付けられたからという理由だけでなく、現在のバドミントン界をみるとジュニア期の強化は当たり前となっています。この時期に指導力のあるコーチに出会うか否かがその選手の可能性を決定付けるといっても過言ではありません。子供たちの可能性を高くしていくためにも資格を持ったというよりもバドミントンやスポーツの勉強をしたコーチを一人でも多くしていく必要があります。それが私たち年長者の使命だと思います。それによって静岡県の選手が活躍するようになり、将来オリンピックに出場してくれたら素晴らしいことだと思います。
次同の指導者養成事業に一人でも多くの方がご参加いただけることを希望します。

御殿場ジュニア　伊倉　吟好

勝俣莉里香（玉穂小学校６年生）



現在６年生の勝俣莉里香は、３歳頃より兄二人が練習に来ている体育館の隅っこでラケットを持って素振りをして遊んでいました。１年生になり自分もジュニアで練習できるようになると、いつも二コニコしながら楽しそうにシャトルを打っていました。学年が上るにつれて技術も向上し手首の使い方やラケットワークが上手くネット際の処理やクロスのドロップショットを本人のセンスで絶妙に使いこなします､試合時の勝負強さも凄く４年生の東海大会では優勝、大分県で行われた、全国小学生バドミントン大会では４位入賞という輝かしい成績を残しました。小柄な体には、この先進化していく可能性を沢山持っています。

これからも一生懸命練習して心身共に成長していってほしいと思います。

歴史と伝統を守るために

清水商業高等学校バドミントン部　　顧問　石部 守好

清水商業高等学校バドミントン部の創設は昭和３３年で、５０年以上の歴史を持つ部活動である。

しかし、その歴史の中で輝かしい成績は見当たらない。だが、現顧問としては、５０年以上にわたり清水商業バドミントン部が存続し活動できることに､多くの先人方々に感謝申し上げたい。

現在のバドミントン部は､数年前からクラス学級減の影響で男子と女子のバドミントン部が統合され、バドミントン部として男女共に活動している。残念ながら清水地区の中学校およびジュニアチームは少なく、部員のほとんどが高校からラケットを握る。正直言って､県大会に出場するのも困難な状態である。
しかし、本校の伝統は、高校生活の短い時間を部活動に注ぎ込み、他校の選手と戦うために強い心技体を養うことだと考えている。今後も、静岡県および清水地区のバドミントン競技の発展に貢献し、部活動の歴史と伝統を守り、新たな足跡を刻んでいきたい。

バドを通じ学ぶ場として

掛川東高等学校バドミントン部　顧問　山崎 朝子

本校バド部は２４名の部員で成り立っている。なぜかオリンピックムードに乗り１４名の１年生が入部、狭いコートでも必死にシャトルを追う姿が印象的だ。モットーは､バドを通じ人生を学ぶことが私の１番大切にしている所でもある。練習を形に、形を結果に。個性豊かな生徒が個々の持ち味をどれだけ発揮して練習に試合に取り組めるかがとても楽しみだ。時々コートに雷が落ちるが、これも生徒にとっては大切だと信じている。ママになってもバドを目ざし､そして、楽しむことが出来る人になってほしい。高校からラケットを握り、初めて知り合いになり､ひとつのシャトルを追う友と共通のシャトルを追う事の楽しさを味わい、厳しい練習を経験する事で個々の目標を立て、それに向かい日々を送る事のくり返しなのだ。うれしい事にふれ、ひとりクラブから離れることはないのが私の自慢だ。この生徒達がまた次の子供へと輪を広げていく事に少しでも手助けが出来れば最高だ、やがて西部地区に大輪の花をさかせたいね。

第２９号　平成21年1月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あ　い　さ　つ　静岡県バドミントン協会　会長　上野 忠

あけましておめでとうございます。

百年に一度と言われる世界的金融危機と同時不況の波が日本のスポーツ界にも波及し、大手企業の競技スポーツからの撤退、休廃部など暗い年明けとなりましたが協会員の皆さまは、初打ちでシャトルコックを力強く打って気分転換をはかり新年を迎えられることと思います。

このような不況下ですが今こそ企業スポーツに頼って来たスポーツ界も転換を計り変革を進め、地域連携型のクラブ組織の確立を急がなくては日本のスポーツ文化の未来が危惧されます。

県内バドミントン競技にあってもジヤトコチームを最後として実業団チームは皆無であり同好会として細々として存続しているありさまです。

一方県内各地区に結成されているジュニアクラブは年々その数は増えています。真に地域密着連携型の原型であります。多くの課題（練習会場、財源）がありますが今後地域の支援をどのように確保するかを成否のカギになると思います。既に選手の育成には実績を上げて来ている Jr 羽球友の会の例もあり協会あげて再重点目標として取り組む計画であります。昨年の北京オリンピックをはじめ「オグ・シオ、スエ・マエ」の愛称での活躍がバドミントン競技も広く存在感を示すことが出来ました。これをバドミントン元年と位置づけ一層の発展につなげ変革への好機として捉えたらと思います。

あ　い　さ　つ　静岡県バドミントン協会　副会長　和田 夏樹

静岡新聞を購読しております私が、特に楽しみにしておりますのは、火曜日の朝刊の「市民スポーツ」欄を見る事です。普段の日は一面から順に見ております私が、この日だけは、先ずこの面から先に見ます。読者の方はご承知の事と思いますが「市民スポーツ」と言う欄が二面にわたって有ります。これは各団体が実施した大会から地区の大会まで様々な種目の大会の結果が掲載されております。

バドミントン大会の結果を探す事は言うまでもありませんが、私は大会の結果より、先ず大会名と会場に目がいきます。それは、近年多くの大会が各地で開催様になってきたからであります。毎週２、３の大会が県内の何処かで開催されており、今週も３つの大会の結果が開催されておりました。結果を送付しない大会も有りますのでそれらを入れますと、更に多くの大会が開催されていた事と思います。バドミントン競技がここまで普及してきたのかと思うと感慨が一人です。

私が総務委員長の時に、県内の状況を把握する為、各市町村に組織状況等照会した事が有ります。結果は、未組織の市町村や、クラブチームが無い所が多かったように記憶しております。

その様な状況から、ここまで盛んになってきた事は、体育施設等が整備されてきた事は勿論の事でありますが、一方で、リーダーの方々が普及に努めた結果であり、その熱意と努力には敬意を表すものであります。

この様に普及してきた現在、更にチーム等を発展させ、又活動をより盛んにする為には、自分達の殻に閉じ込まらないで、横との連携を密にして、更には大同団結が必要となります。その時期は近い将来必ず来ると思います。その為には、当然県協会の指導・助言等が必要になりますが、先ず自らが考え、自らが行動に移すと言う進取の意気に燃える事が必要であります。

クラブチームを仕上げ、普及・発展に努力された指導者の方々に、期待するところが多大であります。

静岡県体育協会創立８０周年記念表彰

平成２０年１　１月９日(日)静岡県体育協会創立８０周年記念式典が静岡市のホテルセンチュリー静岡で　　開催され、加盟団体の記念表彰者に表彰状が授与されました。

静岡県バドミントン協会から斎藤聡(副会長)、杉山敏充(理事長)、川原崎仁(副理事長)、角谷泰子(常任理事)、小倉照夫(常任理事)の各氏が受賞されました。



左から　小倉、角谷、川原崎、齋藤、杉山の各氏

第３０号　平成21年5月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あ　い　さ　つ

静岡県バドミントン協会　会長　上野 忠

本協会の創設者であり育ての親である名誉会長塩川 甫さまが８９才という御高齢になられ奥さまとの二人暮らしを楽しまれておられましたが、去る４月に獅子息のもと（仙台市）に転居されました。塩川さまのことは今更わたくしが話すこともありませんが、日本協会の重鎮としてまた、静岡県のスポーツ振興の指導者としてその功績は叙勲をはじめ、多くの受賞に輝かれたことで御理解いただけると思います。仙台で御子息との生活をお楽しみいただき一日も早く環境にも馴染まれて、御自愛くださることを協会員一同祈念するころであります。

さて、５月９日平成２１年度の総会が開催されまして、全ての報告、審議事項が承認されました。
また、本年は役員改選の年にあたりましたが私をはじめとして大半の役員が留任されました。微力ですが皆さまの御協力を得て協会発展のため頑張ります。本年度は８月ミニ国体、９月には日本マスターズ大会、１１月中部日本大会と開催県としてまことに多忙な年となりました。百年に一度と言われる経済不況の中、予算面でも厳しいものがあり各大会を成功に導くためには協会員全員の協力が必要でありよろしくお願いします。

特に補助役員として御協力をいただく高校生の皆さまには心より感謝の意を表しますとともに、これらの機会にバドミントン競技全般についての勉強会として参加して将来に備えてください。また、レディース連盟の皆さまには審判員及び競技役員として協会の中枢としての存在は大なるものがあります。益々の御協力をお願いするところであります。２期４年の任期をつとめていただいた渡邊　治事務局長が退任されました。

本当に御苦労さまでした。後任人事が決定しておりませんが暫定処置として杉山理事長が兼任することになりました。一部ご不便をお掛けしたかと思いますが御理解をいただきたく思います。

「バドミントンしずおか」について

静岡県バドミントン協会　副会長　石川 博義

今回「バドミントンしずおか」が第３０号を迎えることになりますが、思い起こせば創刊号が発行されたのが、丁度１０年前平成１１年７月でした。この年は、静岡県バドミントン協会創立５０周年記念式典が多数の参加者のもと大々的に行われ、会長も創立に貢献され以来多大な活躍をされた塩川甫前会長にバドンタッチされた年でもありました。その上野会長の発案で創立５０記念特集号として、「バドミントンしずおか」創刊号を発行することになりました。

創刊号から第４号まで全て手作りで、パソコン打ち出してプリンターで印刷のものでした。

詳細については、第２８号で元編集委員長の内田氏が語っておりますが、年３回の発行は予算面や原稿収集等かなり大変なことで、広報委員長はじめ各委員の方々が発行の都度ご苦労をなさっていたことであったと思います。私も当時、理事長兼専務局長として予算捻出に苦労した事を思い出します。

広報誌は、県協会の顔ですから３０号を経てますます充実していって欲しいと思っています。
それには、もっと一般会員の方々の関心とご協力が必要となって来ると思います。現在は、原稿のほとんどが委員会からの依頼原稿だと思います。創刊当時、塩川名誉会長からのバドミントンにかかわる思い出話が連載で掲載されていましたが、これからも一般会員の皆様からの自由な投稿による紙面があってもいいのではないかと思います。紙面や予算面の制限はありますが、それには多くの会員の広報誌に寄せる関心を高めていく必要があるかと思います。広報委員会の皆様の日頃の努力に感謝しながら第３０号が発行されるにあたってこのようなことを考えています。

平成２１年度事業

静岡県バドミントン協会　理事長　杉山 敏充

去る５月９日､今年度の「総会」が開催された。今年度は、国体東海ブロック・日本マスターズ・中部日本バドミントン選手権大会という三大イベントが本県開催を迎え、その開催時期も夏季から秋季まで連続しての大会日程ということでその準備体制作りに万難を排し臨まなければならない。その為には、経験豊富な人材の確保が必需であるが、折しも今年度は役員改選年度でもあり各団体・連盟の代表者も一段も強力な布陣・組織作りが行なわれ、大いに期待出来るものとなった。当協会の基本的活動方針はバドミントンの特性を活かし、より一層の普及・振興を図ると共に選手の発掘育成に努め、競技力の向上と強化を通じ国内外における優秀な成績を確保する為の活動を展開すると言うものであるが､これらの大会を踏まえ各専門部及び会員の活発な活動により必ずや好成績の達成が得られる事を確信致すものでありますが、一層のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

富士中央バドミントンクラブ　指導者代表　中田 稔



富士中央バドミントンクラブは１５年 ８ 月に富士中央小学校体育館（３面）を借りて４０名で開講した。
当初はバドミントンが楽しく打ち合いができる程度で満足していたが、３年目を迎えた頃、子供たちの「もっと上達したい」という思いから、１９年４月からは、水・金・土の週３回の練習日を確保し、３６名で活動している。　週３回に練習日が増えたことで、今までできなかった体力トレーニングに時間をかけて取り組み、その結果、体力的にも技術的にも頭角を現してきたのが、この年の６年生（現在中２女子）で、見事に東海大会と全国大会の出場権を獲得できた。
これは富士中央バドミントンクラブとしては快挙であった。
これを機に部員３６名が、さらに厳しい練習に積極的に取り組む姿勢が見られ、特に現在の５年生・６年生の成長はすばらしいものである。今年度の静岡県大会では、大いに期待したい。

部員の成長を願って…　静岡北高等学校バドミントン部　監督　澤田 典男

私は、指導するにあたり生徒に対し、いつも口癖の様に伝えている事が２つあります。
一つは、「体育館・ラケット・シャトル等に感謝の気持ちを持つこと」です。これは、プレーに反映することを生徒に強調しています。感謝することによって、持っている力以上の何かが湧いてくる、エネルギー源になることを強調して伝えています。
二つ目は、「努力はうらぎらない…私はできる」です。強い人が必ず勝つとは限らない。
「私はできる」そう信じている人が結局は勝つこと。
「自分の心」次第であることも指導しています。可能性への挑戦を続け、あきらめが限界をつくることに気がついてもらいたいです。そして、高校生活でバドミントン終了ではなく、息の長い選手育成に心掛け、真の学ぶ姿勢を育てたいです。部員４６名（男女）の夢の実現に向けて、個々の生徒の成長を願い頑張る姿にエールを送りたいと思います。

声を出し、一丸となって　池新田高等学校バドミントン部　顧問　吉永 貴宏



先輩達が引退し、まだ慣れない環境の中で、私達１，２年生は期待と不安を抱きながら新たなスタートをきりました。現在私達は、「日々の練習の中で１人１人が声を出して、一丸になって練習すること」をモットーに取り組んでいます。苦しい練習も全員で支え合いながら、楽しく充実した部活動を送ることができています。これから今よりもっとチームが団結し、成長する姿を見守っていて下さい。目指せ、県大会出場！

日々研鑽
伊東商業高等学校バドミントン部　部長　村瀬 友哉



僕達バドミントン部は日々厳しい練習に取り組んでいます。
日々の積み重ねの結果、東海大会の出場権を勝ち取ることができました。
３年生が引退し、１、２年生中心のチームとなりましたが、先輩達に比べると、まだまだ実力がありません。これからも練習に励み、良い成績を残せるように活動していきたいと思います。
これからも１試合でも多く勝てるように頑張ります。
応援よろしくお願いします。

県大会出場を目標　小笠高等学校バドミントン部

小笠高校バドミントン部は、前身の小笠農業高校時代の昭和４０年（１９６５年）に創部されました。
以来今日まで４０年以上にわたって活動しています。小笠高校は平成７年に総合学科になりました。その結果、女子生徒の比率が高くなりました。現在の部員は、女子３９名、男子８名です。本校体育館は、全面で８面コートが取れますが、毎日の練習では他の部活と半分ずつ使用し、普段は４面でやっています。
ここ十数年、よい結果を残していませんが、県大会出場を目標にがんばっています。

第３１号　平成21年9月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あ　い　さ　つ

静岡県バドミントン協会　　会長　上野　忠

政権の交代でスポーツ界の戸惑いも隠せない事実ではなかろうか、それは政権党であった自民党の重鎮が各競技団体のトップとしているからである。今日、スポーツは国民の生活の一部であり歴史的にも人間社会の基礎になっていると言っても過言ではないと思います。これを好機として超党派で行きたいものです。
処暑もすぎ秋の気配を感ずるこの頃ですが、体育館の中は真夏日です。

去８月２２日・２３日、国体東海地区予選会が富士市で開催されましたが残念ですが全種別とも通過できませんでした。技術的には互角かと思いましたがパワーの差が勝敗を分けたかと思います。
反省材料として今後につなげたく選手、指導者の皆様の糧として下さい。
唯一国体出場が出来ます少年男子に期待するところです。日頃の練習の成果を充分に発揮して頑張って下さい。

過密スケジュールの本年度行事でありますが９月１９日より日本スポーツマスターズ大会、１１月１９日には中部日本選手権大会と開催地富士宮市と富士市の協会の皆様に一層の御協力を御願いする次第であります。
全国各地より参加されます選手役員の皆様を心より歓迎し「思い出に残る」大会として成功させましょう。
最後の準備に追われているわけですが協会員一致団結してバドミントン静岡の名を示す機会かと思います。
尚、両大会に出場されます選手の皆様は静岡県の代表として優勝を目指して頑張って下さい。

全国高校総合体育大会を振り返って

静岡県バドミントン協会　　副会長　吉田 昌弘

２００９近畿まほろば総体バドミントン選手権大会が大阪府立体育館を中心に８月２日から７日まで行われ、各会場で熱戦が繰り広げられました。男子においては、埼玉栄高校の星野翔平君が団体、ダブルス、シングルスとすべてにわたり優勝を飾り見事に３冠を成し遂げました。ここ３年間埼玉栄高校は男子３冠を達成しています。団体戦においては史上初の５連覇を果たすとともにダブルス、シングルスにおいても決勝戦は埼玉栄高校同士の対戦となり、まさに黄金時代となっております、今後どのチームが埼玉栄高校を破るのか注目したいと思います。女子の団体戦については青森山田高校と金沢向陽高校の決勝戦となり、総合力で上回った青森山田高校が優勝を果たしました。東海四県の中からはダブルスで２位となった名古屋経済大市邨高校が目を引きました。今年は全国的に新型インフルエンザの流行で体調の管理が万全ではなく涙を呑んだ選手も多くいたのではないでしょうか。その中で実力を発揮され素晴らしい成績を残された選手たちに大きな拍手を送りたいと思います。　本県の選手たちも高校総体に向けて良く頑張りました。県予選では男女とも星陵高校が圧倒的な実力で優勝を飾り、男子は６年連続８回目、女子は９年連続９回目の出場を果たしました。星陵高校の選手たちには、それぞれが自分の役割を理解するとともにひとつひとつのプレーに気迫がこもっていたのが印象に残っています。また団体戦の勝ち方をよく知り尽くしていることも勝利につながったことと思います。
ダブルスでは男子が星陵高校の稲葉航平君、中野裕太君のペアと伊東高校の高嶋晋司君、岩城潤君組が決勝を戦いましたが、３年生の意地を見せた星陵高校ペアが僅差で優勝を果たしました、２年生の伊東高校チームにはこれからの期待が高まることと思います、女子は伊東高校の桜井麻那さん、加藤静さんのペアと星陵高校の吉氷夏奈さん、吉田しほさん組の決勝戦となりました、攻守に安定感のある伊東高校ペアの勝利となりましたが、星陵高校の長身から破壊力ある攻撃は見事なものがありました。シングルスでは男子が安定感のある富士高校の米山修平君、女子が御殿場西高校の２年生檀淵かれらさんが優勝を果たしました。米山君は相手に攻撃をさせて相手選手が攻撃の手を緩めたときにカウンター攻撃を仕掛けるのが特徴です。檀淵さんはコートの４隅を丁寧に配給しチャンス球を決めるディフェンス型のプレーヤーですが、決勝戦で対戦した伊東高校の加藤静さんも２年生ですので両選手には今後の成長が大いに期待されます。

各チームとも新しいチームとしてスタートを切った今、新人戦での戦いを楽しみにしています。
頑張ってください。

総監督として国体に向けて

指導委員長　吉氷 将史

今年の国体は、新潟県五泉市で行われます。静岡県選手団は過日の東海ブロック大会において通過種目が残念ながらありませんでしたので少年男子のみの本大会出場となります。

選手は、インハイ予選県大会シングルス優勝の米山修平選手（富士高校）、同ダブルス優勝の中野裕太選手（星陵高校）、同シングルス準優勝の岩城潤（伊東高校）となりました。監督には少年男子の指導ではベテラ

ンとなってきた岩沢猛氏（伊東高校教諭）にお願いしております。組み合わせは未だわかりませんがオーダーとしては米山・中野組のダブルス、岩城の第１シングルス、米山の第２シングルスという形になろうかと思います。同じ学校の選手がいないためダブルスに不安がありますが強化練習を何回かこなし、より良い形になってきたものと思われます。他方、シングルの力は選抜本大会出場、インハイ出場の米山選手の活躍が期待されます。近年、ジュニアの育成によって国体の成績も決まるような傾向があります。成年においてもふるさと登録選手の大学生や企業選手の多い都道府県の活躍が見られます。静岡県にはご承知のように実業団といわれるチームがほとんどない状態です。
こういった地方都市ではいまさら企業に依存したスポーツの展開は期待できません。早い段階でクラブチームなどの新しいチームのあり方がのぞまれることと思います。今年の国体においても他の都道府県がどのようなチーム編成を行っているかを情報収集したいと思います。
選手たちは夏の練習を乗り越えて、さらに力をつけていることと思います。ぜひとも活躍を期待したいと思います。ご支援宜しくお願いいたします。



西伊豆クレッシェンド　部長　窪田 英之

西伊豆クレッシェンドは伊豆半島の西海岸、景勝地の堂ヶ島や夕日の町で知られている西伊豆町でバドミントンが大好きな仲間が集まるクラブです。
初心者から何十年という経験者が集いバドミントンを和気藹々と楽しんでいます。そんな西伊豆クレッシェンドを紹介します。
創部は平成３年に教育委員会主催のバドミントン教室が開催され、終了後本格的にバドミントンを続けたいという仲間が集まり「だんだんうまくなりたい」という強い気持ちを込めてチーム名をクレッシェンド（だんだん強く）と命名しました。
部員は現在２９名。下田市、南伊豆町、松崎町、西伊豆町内の愛好者で運営し、私生活においても強い絆でお互いを信頼しあっていますが、若い人が少なく中高年が主流となって頑張っています。
活動については「自分の目標に向けて楽しくバドミントンをすること」をメインに毎年１月の第３日曜日にオープン大会の開催や、近隣の市町で行われる大会に参加し技術の向上をはかっています。
練習は、毎週月曜日の 19:30～21:30 まで町体育館で基礎打ちを４０分～５０分、その後はダブルスのゲームを中心に行っていますが、身近にお手本になる経験者や指導者がいないため、年に数度富士市バドミントン協会の方々が来町され技術はもとより精神面に至るまで親切、丁寧な教えは部員みんなの良い刺激となっています。また将来に向けてバドミントンのおもしろさや楽しさを多くの人達に知って欲しい、その為に今以上に技術や知識を習得しバドミントンクラブの充実と、若い会員を増やし、県大会や各市町で行われる大会に積極的に参加して技術の向上と、人との出会いを大切に西伊豆町にもバドミントン協会を設立し多くの協会と交流を深めて行けるよう頑張って行きたいとおもいます。

一人ひとりが自覚を持って

静岡大成高等学校バドミントン部　顧問　浅野　誠

静岡精華から共学となり静岡大成高等学校と校名が変更となって５年目。徐々にではあるが、技術力も身につき地区予選突破、県大会出場と実績が出てきた。我が部は男子９名、女子２４名だが中学からの経験者は少ない。また学校の体育館も他の部活動との兼ね合いから満足に使用できていない。そのため、短い時間で効率的に練習を行っている。部員一人ひとりが自覚を持ってトレーニングに励み、取り組む姿勢が伺われる。だから、部員同士厳しい練習の中でもお互い協力し合える雰囲気が出来ているのかもしれない。

感謝・自立・自律をスローガンに

熱海高等学校バドミントン部　顧問石川　雅俊

皆さんこんにちは、熱海高校バドミントン部です。私たちは、男子１３名、女子７名で活動しています。
練習は平日３時間・土日４時間で、毎週月曜日はミーティングと奉仕作業を行っています。部員のほとんどが初心者であるため、体力作りと基礎練習が中心ですが、平成２０年度はダブルスで県総体ベスト１６、新人戦では学校対抗の部で県大会に出場することができました。また、今年度はシングルスで県総体ベスト１６、選手権ではシングルス１年生の部で県大会出場ということで、少しずつですが力をつけつつあります。
熱海高校のバドミントン部には、ずば抜けた選手はいません。しかし、県大会に出場し勝ち上がっていくために何をやらなければいけないかということを選手全員が自分自身で考え、日々の練習に取り組んでいます。まだまだ発展途上のチームですが、感謝・自立・自律をスローガンにこれからも頑張っていきたいと思います。

第３２号　平成22年1月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あ　い　さ　つ

静岡県バドミントン協会　　会長　上野　忠

新年あけましておめでとうございます。

昨年はミニ国体、日本マスターズ大会、中部日本大会と４ヶ月間に３大会を開催するという苛酷なスケジュールでしたができました。特に富士宮市、富士市の協会のみなさまには御苦労をおかけ致しました、心より御礼申し上げます。日本協会、中部日本連盟より高い評価をいただきました。本年もこのパワーを１００％競技力の向上に集中して行きたく思います。

昨年１２月に行われました全日本大会で本県出身の金森裕子選手が混合ダブルスで第３位と、全国小学生大会でも大井川Jr羽球友の会の小川桂汰選手が第３位と活躍し、今後の成長に大いに期待するところであります。扨、近年一般女子（１部）大会への参加が減っておりますが、本県出身で元世界女王の中山紀子（旧姓高木）さんは第６回ユーバー杯にはミセス選手として、第７回大会にはママさん選手としてシングルスで勝利しており、当時の女子スポーツ界に旋風を起こして下さいました。是非とも一般女子のみなさまの奮起を期待するところです。

本年度の行事予定も県総合選手権をはじめとして残り少なくなりましたが、来年度に向って協会員全員で協力し選手強化を一番の目標と定め頑張りましょう。年頭にあたり会員の皆さまの益々の御活躍と御協力お願いする次第であります。

寅年を迎え　新たな飛躍を誓う

静岡県学生バドミントン連盟　　会長　齋藤　聡

この冊子を手にされている頃はすでに新しい年を迎え、会員の皆様には健やかに過ごされていることとお慶び申し上げます。改めて新年あけましておめでとうございます。私は昨年春より静岡県バドミントン協会（以下県協会と省略）の上野会長が兼務されていた静岡県学生バドミントン連盟（以下学連と省略）会長を引き継がせて頂きました。

学連は、平成４年に当時県協会会長を務められていた塩川甫現名誉会長の骨折りにより発足することができまました。本年で足かけ１８年となります。発足当時塩川先生に学連の会長をお願いし、私は副会長として学連と関わってまいりました。その後塩川会長の勇退に伴い上野会長へと会長職をお願いし、長い間学連の活動を見守って頂きました。本年春から私が会長職を拝命致しましたが、上野会長には名誉会長として引き続き学連の活動に関わって頂いております。

三大大会を顧みて

静岡県バドミントン協会　　理事長　杉山敏充

本年度は、国民体育大会第３０回東海ブロック大会、日本マスターズ２００９・富士山静岡大会、第６２回中部日本バンドミントン選手権大会という大きな大会が夏から秋にかけての４ヶ月間の間立て続けに開催されるという大変に慌ただしい年度となりましたが、今その大会も無事に終了し、先ず以ってご協力を頂いた関係各位の皆様方を始め競技・審判・補助員、更には大会の協賛をしていただきました関係の皆様に対し、衷心よりお礼を申し上げる次第であります。

この３つの大会は、それぞれが国内第一種大会の規定に基づき行われるものですが、それ故にいずれも競技志向の高い、言わば頂点を目指す選手の参加が中心であるということから大会本部、主管となる開催地協会としましてはその準備・運営に万全の態勢で臨むこととなりました。

県協会といたしましては、過去、各種大会の開催運営など経験豊富な富士市と富士宮市協会であることからその準備・運営には安堵感を抱きつつも、さりとて４ヶ月の間に立て続けにやってくるこのような規模の大会運営に於いて果たして競技会場や競技・審判などの運営人員の確保、輸送手段・宿泊等々は可能であるのか、伴い限られた予算上のやり繰りは出来るのかなど不安な面も決して否定は出来ませんでした。

しかし、今ここに大会を終了し振り返りますれば大会の主催市を始め、主管団体である富士市と富士宮市の協会はもとより、レディース連盟、高体連。中体連、更にはスポーツ少年団、クラブチームに至るまで多くの皆様がこの大会の成功に向けて結束し。惜しみない支援をして下さったということで、正にそれら皆様方のご尽力なしにして今大会の成功は有りえなかったと思うのであり、改めて頭の下がる思いであります。

皆様方のご協力、お力添えに深く感謝申し上げます。

本当に有り難うございました。

シニア世代の現状　市民バドラー　山内 將史



現在５０歳以上の人達のバドミントン大会に対しての考え方の一端を話してみたいと思います。５０歳を過ぎた頃には一般のバドラーは地域大会に出場しても勝ち残れなくなり、だんだんと大会への参加がとおのきます。しかし練習は熱心です。

５０歳以上の人達で交流大会を開いている方々が居ます。

ＦＬＢ（フレンドリーバドミントンの略）以前はＧＬＢ大会と言いまして県内に呼びかけて年２回開催しています。趣旨は誰でも楽しくバドミントンをやりましょうと言う事で個人エントリー自由参加できます。レベルは問いませんから１部の人から３部まで色々な人が居ます。各回とも８０名から１００名ほどの参加人数です。１０年以上開催していますので参加者が多くなり会場が６面では運営が大変になってきています。そこで一つの案として６０歳以上の大会を開き徐々に分けたら良いかなと、ＨＳＢ（ハイシニアバドミントン）大会を開催しまして４回になります。こちらの参加者も５０名近くになり３面のコートでは手狭になり６面のコート探しに苦労しています。

６０歳以上の仲間は先日、富士市で開催されました中部日本大会にも参加しております。たくさんの人達と楽しくバドミントンが出来る事に意義が有ると全員和気あいあいと１日を楽しんで帰られます。千円の参加費で多少の賞品を頂き、そして心地よい汗をかき、ストレスを発散出来る、こんなに良いスポーツと巡り会えた事は最上の喜びで有ると思います。この喜びを多くの人達と共用する為場所の確保にバドミントン協会の協力をお願い致したいと思います。静岡県バドミントン協会の益々の発展を期待しております。

全員が一回戦突破を

静岡英和女学院中学校・高等学校バドミントン部　顧問　小山 祥史

本校は、中高一貫教育を取り入れており、部活動も中学１年生から高校２年生までが一緒に練習しています。現在３４名が所属し、火・木・金・土の週４日練習に励んでいます。中学１年と高校２年では、技術・体力ともにかなりの差があり、また３面のコートのみで活動しているため、練習の質・量ともかなり制限があります。特に冬場は、授業などの関係で、学年によっては３０分しか練習時間が取れない日があったりします。

このような環境の中、掲げている第一目標は「六年間やり遂げる！」です。ひとつのことを最後までやり遂げることは、卒業してから自分自身への大きな誇りと自信になり得ると考えているからです。

また、最近は少なくなってきた学年を超えた縦の繋がりを大切にし、特に上級生として、上に立つ厳しさを学んでほしいと考えています。他校ではコートに入って練習している時間を、下級生（中学生）への指導に充てています。技術の向上として考えればマイナスかもしれませんが、指導を通して自分自身を見つめ直し、課題を見つけ克服する自主性を身につけて欲しいと願っているからです。そのためには、口ではなく行動で示さなければ相手に伝わらず、結局は下級生の指導を通して自分の技術と精神面の向上に繋がるはずです。

大会に参加させていただき、決して良い成績をおさめていませんが、スポーツでしか味わえない勝つ喜びと負ける悔しさをバドミントンを通して経験させたいと思っています。ですから英和では、全員が１回戦突破を目標に大会に挑んでいます。

袋高バドミントン部新年の抱負

袋井高等学校バドミントン部　　顧問　岡安 秀夫

袋井高校の歴史は比較的新しく、昭和５１年に新入生を迎え、今年で３３年目になります。今回この原稿を書くため、本校の歴史を生徒会誌のバックナンバーを参考に調べました。創立当初と運動部数は変化なく（男女別に分かれたところはあるが）現在まで来ているようです。バドミントン部は創立当初はなく、３年目に作られたようです。当時の様子を生徒会誌で見ると、地区戦から県大会まで素晴らしい戦績をあげています。やっとのことで県大会進出の権利を得ている今の状況とは大きく違い、当時の部活動顧問の情熱が伝わってくるようで、現顧問としては申し訳ない限りです。

本校には体育館が１つしかなく、そこで男女バレー・バスケとバドミントンの５団体が活動しています。

放課後は体育館を２分割し、１時間３０分の前後半で入れ換えます。したがって４団体しか活動できなく、１日体育館を使用できない日があります。また本校はほぼ男女比が同じであるためバドミントン部入部希望者が多く、コート内で技術練習をする一人当たりの時間は極めて不足しているのが現状です。本校は校外を走り基礎体力を身につけるには格好の立地条件にあるので、活動が後半になるときや体育館を使用できないときにはランニングをしています。しかし技術練習には置き換えることができず、技術練習不足が大きな悩みです。

第３３号　平成22年5月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あ　い　さ　つ　　ー惜別ー

静岡県バドミントン協会　　会長　上野　忠

本協会顧問鈴木清見さまが去る３月１日闘病中のところ御逝去されました。
鈴木清見さまは本県高校バドミントン競技の最初の顧問教師として富士高校の創部に尽力され、名門富士高校バドミントン部の礎を築かれました。「文武両道」を座右の銘として県内高校教育界の発展に寄与され弱冠３８才にして高校々長に就任され県下有名校の校長を歴任し、退職後は富士市長として地方自治の首長として活躍されました。

平成３年本県開催の高校総体には富士市長として富士市にバドミントン競技の開催を誘致していただき、皇太子殿下のお成りをいただくなど富士市とともに本協会の名を全国にとどろかせていただきました。長年にわたり本協会顧問として御指導、御協力を賜り本当にありがとうございました。又同志本多常民副会長が２月１０日４年間に及ぶ闘病生活でしたが、ご親族のけんめいな看病にもかかわらず御逝去されました。

本多副会長とは竹馬の友として、たがいに切磋琢磨しバドミントン競技の発展と選手の育成に生涯を捧げて下さったと言っても過言ではありません。ともに歩んだ７０年余年の人生の思い出は萬余に尽きません、まことに残念でなりません。鈴木清見顧問、そして本多副会長の県バドミントン界に尽くされたご功績を讃えるとともに感謝の念で一ぱいです。お二人の意志を継承し県協会の発展に全力を尽くす覚悟であります。謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

扨て、本年度県協会の総会も議案すべてが承認されスタートしました。協会財政も大変厳しく会員諸氏の御協力を切にお願いするところです。本年度は全国規模の主催大会はありませんが２年後の開催が決定しており全国小学生大会、３年後に予定される全国中学生大会開催に向かって、ジュニア選手の強化に全力を傾注して行きたく思います。会員各位の御協力をお願いする次第であります。
尚、御不便をお掛けしておりました事務局及び事務局長は山本秀和氏が就任いたしました。
よろしくお願い致します。

本多常民副会長を偲ぶ

静岡県バドミントン協会　　副会長　内田 壽夫

去る２月 10 日、本協会副会長本多常民先生が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

本多先生は、昭和２５年４月県立富士高等学校に入学し、創設されたばかりのバドミントン部に上野忠会長と共に入部、将に静岡県バドミントン界のスタートを切ったわけです。

その初代顧問が県協会顧問であり前富士市長の鈴木清見先生でありまして、鈴木先生も去る３月 １ 日にお亡くなりになりました。併せてご冥福をお祈り申し上げます。

本多先生は高校・大学在学中バドミントンを続けられ、富士見高校に赴任、名監督斉藤威先生の下で幾多の名選手を育て、富士見高校バドミントン部の黄金時代を築かれたのです。県協会の常任理事、副会長、富士市の協会長、高体連の部長（委員長）などを歴任、審判として県外へ出かけ、若い役員・選手にきめ細かい指導をされました。私も３０数年前の富士高校のバドミントン部顧問時代以来、練習会や大会等でいろいろとご指導をいただいてきました。改めてお礼申し上げます。又、全日本教職員大会でご一緒したときは、県外の友人との交流も含め、心からバドミントンを愛し且つ楽しんでおられる様子が伺えました。

先生は定年退職後も、大勢を誘って教職員大会に参加され、その普及活動に対して、日本教職員連盟より功労賞を、又日本バドミントン協会より顕讃賞を援与されていることは皆様ご存知の通りであります。

手先の器用な先生は、ミニチュアのシャトルコックを作って、富士市バドミントン教室の皆勤賞として贈っていました。最近では能面作りにも力を入れておられたと伺っています。今後は趣味を楽しみながら、バドミントン界の発展を見守っていただきたいと思います。安らかにお眠りください。　合掌

平成２２年度　県協会事業計画

静岡県バドミントン協会　　理事長　杉山 敏充

平成２２年度静岡県バドミントン協会「総会」が去る５月８日（土）富士川総合体育館会議室にて開催され昨年度の報告事項に続き、本年度の事業計画案が提案され承認されました。

本年度の重点目標としては協会組織の運営・充実に向けて各連盟・専門委員会及び会員の活発な活動と一層の連盟強化を通じ今後予定される大会の円滑な運営に備えるというものであります。

また、競技力向上に向けての予算の策定、強化策の一環として指導者及び競技審判員の養成を推進し、選手

強化の組織的指導体系の確立を通じ、ジュニア選手の普及・強化を拡大し全国で戦える選手の育成を図ると言うものであります。

次に、県協会への会員登録人数につきましてはお陰様で昨年度は４０００名を超えましたが、これは主立っては小・中・高ジュニア層の増加によるものでありますが、このところの県内名所におけるジュニア・クラブの立ち上げや指導者の熱意も加わり今年度も一段の増加が見込まれます。

この他、新たな県協会の事業として障害者大会の支援として第１回スペシャルオリンピックス日本・静岡大会の開催・後援に向けての準備委員会が発足され、今後その大会及び支援活動にも皆様のご協力をお願いすることとなりました。以上が本年度の総会の大要です。

尚、近々予定される本県開催の全国大会をお知らせいたしますが、平成２４年度に全国小学生大会が、更に２５年度には全国中学校選手権大会（全中）が予定されております。

これらの大会は、たいへん関心度の高い大会の一つでもあり地元選手の活躍に誰もが期待を寄せるところでありましょう。

県協会としましても、これらの大会に臨む選手達の熱い思いには誠意を持ち全力で応えるための努力を行ない、より一層の普及発展に努めたいと考えるものであります。

今年度も会員の皆様方の更なるご研鑽とご活躍を期待いたしますと共に事業の円滑な運営推進に一層のお力添えをお願い申し上げます。

三島地域におけるジュニア養成

―数年後の理想地域を求めて―　　会長　中野 淳子

県内多くの地域で児童生徒から高齢者迄、バドミントンを楽しみ、又育成している環境を見聞きするにつけ、三島地域もと常々「ジュニア育成」も話題になっていましたが、良きアドバイザー（県協会杉山理事長）及び指導者を得、三島市バドミントン協会ジュニア教室として「三島ジュニアバドミントンクラブ」を昨年平成２１年４月に発足しました。クラブの趣旨は「基本技術を習得しバドミントンを楽しむ」とし、基本技術習得を主に、健全育成、社会性、親子のコミュニケーション等考慮し、俊敏力、体力を付ける為のバトミントン以外のゲームを取り入れたり、天候に恵まれさわやかな時季は、野外でランニング、野花摘み、館内の約５０ｍ の雑巾がけも行うなど楽しく学べるクラスです。現在クラブ員２２名（小学校３年生から中学校１年生）毎週土曜日３時間、指導者（３名）を主に保護者、協会役員数名で指導しています。



内容は前述の基本技術を無理する事なく、体力にあった指導、練習を行っています。それは数年後体力が付く時機、高校、大学とバドミントン競技を大いに楽しみ、熟成し、次代の良き指導者となり、三島地域の理想的発展の基礎となる事を願い指導しています。

勿論一流プレーヤーを育てる事も視野に入れています。

発足して１年、指導者（含保護者協会役員）は協会が主催する年２回の指導者講習会（講師は㈱ラケットショツプフジに依頼）を受講する等、良き指導法を学び熱意ある指導を行い、又クラブ員もそれに応えるべく、楽しむ中にも、真剣に取り組んでいます。　長い道のりですが１年１年を大切に進めて行きます。

誇りを持ってプレーを

韮山高等学校バドミントン部　部長　稲葉 文香

こんにちは。私たちバドミントン部は、男子２３名、女子１７名の部活です。普段は男女別々に活動しています。今回は女子についての紹介です。

私たちは、『県大会で戦えるチーム』を目標に日々練習しています。私たちのチームは、毎年、初心者ばかりですが、現在は大変珍しく、経験者が５人もいます。経験者も初心者も、お互いに精神面やプレー面においてよい刺激を受け、さらなるレベル向上を目指して頑張ってきました。そして今年、念願の総体県大会への切符を獲得することができました。県大会で勝つために、限られた時間を大切に、頑張っていきます。自分たちの記憶にも、韮高の記録にも、後輩にも多くのものを残していきたいです。

休日を返上して練習に来てくださるコーチ、先生、そしてOGの方への感謝の気持ちや、拙い部長についてきてくれる、支えてくれる部員への感謝の気持ちなど、部活動を通して学んだこと、得たものがたくさんありました。また、大会を通して、他校の選手とも関わることができ、充実した部活動にすることができました。

『チーム韮山』、韮山高校の一員として、誇りをもったプレーをしていきたいです。韮山高校バドミントン部をよろしくお願いします。

第３４号　平成22年9月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あ　い　さ　つ

静岡県バドミントン協会　　会長　上野　忠

世界各地で異常気象による被害が発生し、自然の猛威の前に人類はその知恵を生かすことが出来ないでいます。日本国内も連日の猛暑に熱中症で数万人が倒れるなでまさに異常であり、科学の進歩が逆に禍いをもたらしているようです。全てに表があれば裏があるように、相関関係を常に認識しなければと思っています。
本年度国体東海地区予選が８月２１、２２日岐阜県にて開催されましたが、選手のみなさまの健闘むなしく惜敗しました。あと一歩かと思います。反省材料を糧として、来年を目指して下さい。
古道のトンネルに入ると屋外の暑さも忘れる別天地でありますが、居心地の良さに長居せず前に進みましょう。国体開催から７年が過ぎようとしている今日ですが、長く暗いトンネルの出口が見えています。小学生で期待された芹澤妃耶子、小川桂汰選手など県外強豪中学生へ入学され、レギュラーとして活躍しています。その勇気と努力は大いに讃えべきかと思いますが、一日も早く県内にその受け皿校の出現を期待するところです。選手の強化策の中では基本の練習を充実させ、目標は高く、練習即試合であることを前提に努力を重ねる事こそ大事かと思います。
扨て、去る５月２７日本県アマチュアスポーツ界の最高顕彰であります県体育協会体育章「功労章」に、副会長であります石川博義氏が受章の栄に浴されました。氏の多年にわたるバドミントン競技への貢献が認められての受章であり、誠におめでとうございます。また角谷泰子、河原崎仁両氏が日本バドミントン教会よりその実績が評価され「顕讃賞」の受賞に浴されました。特に角谷さんは本県協会の女性としては初の受賞であります。御両氏とも本当におめでとうございます。これからも県協会に対しての御指導御協力のほど切にお願い致します。

静岡県体育協会功労章を受章して

静岡県バドミントン協会　　副会長　石川 博義



平成２２年５月２７日静岡市のホテルアソシアにて、第５１回静岡県体育協会体育章贈与式が行われ私はバドミントン関係者として、体育功労章を他の５名の受章者の方々と共に贈与されました。
この顕彰制度は昭和３５年に制定され、本県アマチュアスポーツ界の最高栄誉章と言われています。このような名誉ある章を贈与されたことは、誠に身に余る光栄と思い感謝しております。
昭和４６年に県立富士宮東高校バドミントン部の顧問を波切りに、この世界に入って４０年となりました。この間、県高体連バドミントン部委員長として、平成３年度全国高校総合体育大会を富士市で開催。県バドミントン協会理事長として、平成１４年全国高校選抜バドミントン大会、平成１５年第５８回 NEW！！わかふじ国体を富士宮市にて開催。平成１８年度ねんりんピック静岡２００６を富士宮市にて開催など大きな全国大会に関わりを持って参りましたが、何とか無事にその責任を果たして参る事が出来ました。これも偏に協会並びに関係各方面の皆様から絶大なるご支援による賜であると感謝しております。
これからも、静岡県バドミントン協会並びにバドミントン界の発展のために微力ながら尽力して参りたいと思いますので、宜しくお願い致します。

国体に向けて　総監督として!!

国体総監督　山本 秀和

今年度の国民体育大会は、９月３０日より千葉県野田市で開催されます。事務局を仰せつかり５ヶ月を経過し県内のバドミントンの現状を色々の場面で見る事が出来、その集大成として今回の総監督の推挙になったと思われます。先に行なわれた東海地区ブロック大会でも、実施された３種別全てが予選通過出来ずという結果となってしまいました。本大会へ出場するのは成年男子のみとなってしまいましたが、代表として１回戦でも多く勝ち上がるべく、選手を叱咤激励し頑張って参ります。

「已に打ち勝て」　～悔し涙を流さぬように～

静岡市立商業高等学校バドミントン部　部長　石上 智晴

私たちバドミントン部は、３年生が引退した今、１年生８名、２年生６名の計１４名で活動しています。

中村先生と深深コーチによる指導の下、互いに切磋琢磨し、内容の濃い練習をしています。しかし、先日それぞれの思いを以て臨んだ選手権中部地区予選では、練習の成果が出し切れず、悔しい思いをしました。

何名かは県大会出場を手にすることは出来たのですが、体力や技術以外にも気力の面で、まだまだ相手を上回る気迫が足りないことに気づきました。

最後の大会まで半年余りとなった今、已に負けることなく、さらなる鍛練に励み、忙しい最中、練習や応援に駆けつけてくれた社会人やＯＢの方々と共に、念願の「東海大会出場」を手にしたいと思います。



そのために、やらなければならないことは多数ありますが、先ずは負けない自分作りを行い、相手を上回る気力・体力を養い、一回り大きくなった自分がコートに立てるよう日々の練習に励みたいと思いますので、今後とも、市商バドミントン部を宜しくお願いします。

「目標に向かって」

天竜林業高等学校バドミントン部　部長　金田 千明

こんにちは。私たちバドミントン部は１年生５人で活動しています。２年生がいないので、不安になることがよくあります。特に大会では、分からない事が多く、不安も募ります。素早く行動することもなかなかできません。部長としての役割の大切さと責任の重さを痛感しました。そんな中、日々練習に励んでいます。

私たちは全員高校に入って初めてラケットを握った初心者です。引退した３年生のプレーに憧れてバドミントンを始めました。練習をすればするほど上達していることを実感しています。そして、仲間と切磋琢磨しながら強くなろうと思っています。今ではよいライバルもでき、負けないよう努力をしています。また、休みを返上してまで指導してくださる顧問の先生や、卒業したバドミントン部の先輩や、未熟な部長の私についてきてくれる部員には、言葉では言い表せないほど感謝しています。バドミントン部を応援してくださっている方々のため、そして自分達のために、大会で勝ち上がっていけるよう、もっともっと努力を重ね成長していきたいと思っています。そのためには強い人のプレーをよく観察したり、練習試合などで経験を積んでいくことも大事だと思います。もっと強くなり、先輩方が築きあげてきた、天竜林業高校バドミントン部の歴史に、素晴らしい結果を残したいです。そのために、１つ１つの練習メニューの意味をしっかり理解し、日々の練習を全力で頑張ります。

夏休み、他校と合同合宿をしました。そこでは部長としても、プレーヤーとしても、大きく成長できたのではないかと思っています。このような経験を通じて、他校の生徒との関わりを大切にするとともに、実力もつけていきたいです。天竜林業バドミントン部をよろしくお願いします。

第３５号　平成23年6月　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者　広報委員会　印刷　富士ニュース社印刷事業部

あ　い　さ　つ

静岡県バドミントン協会　　会長　上野　忠

３月１１日三陸沖を震源とする東日本大震災が発生し我が国が国観測史上最大のマグニチュード 9.0 を記録し大津波の襲来とともに火災の発生、原子力発電所の末曾有の災害となりました。この災害によりお亡くなりになった方々のご冥福をお祈り上げるとともに被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
そして一日も早い復興を願ってやみません。

テレビ、新聞などによる報道を見聞するに東海地震の発生が危惧される本県にあっては決して他人事とは思えません。日本国民が一丸となって支援協力をしなくてはと思います。
この大震災の陰にかくれて大きく報道されませんでしたが３月１５日富士宮市、富士市を中心に東日本地震による誘発地震とも思える地震があり多くの被害がありました。自然被害の発生は予測が難しいのが現状です。日頃より備えを忘れないようにしましょう。なお富士市協会ではこの大震災で被害にあわれた岩手、宮城、福島県の同志（バドミントン愛好者）に少しでも援助出来ればと用具（ラケット、ウェア）等不用な品があったら提供をお願いしたく募集しています。御協力をお願いします。

さて、２３年度総会が４月３０日開催され大震災に対しての義援金の拠出が承認されました。また先年より課題でありました団体加盟金も審議されましたが次回理事会まで結論は延期されました。協会財政の健全化、選手強化費の充実を計るうえでも是非とも御協力をお願いする次第であります。その他審議事項はすべて承認され、人事に関しては新たに副会長に工藤喜久雄氏（沼津市協会）が就任されました。その経験と実績に期待するところです。

本年度行事もすでに始まり各種予選会が開催されておりますが目標を高くして頑張って下さい。
また来年度開催予定の全国小学生大会まで１年余となりました。関係者はもとより協会員全員で成功に向かって団結しましょう。
おわりに協会広報紙の発刊（３５号）が担当者病気入院のため遅れまして申し訳ありませんでした。
新たに広報委員長として大石惠司さんが就任されました。しばらく御協力をお願いします。

大会申込書に寄せて

静岡県バドミントン協会　　副会長　和田 夏樹

東日本大震災でお亡くなりなられた方々のご冥福をお祈りすると共に、震災地の一日も早い復興を心からお祈り致します。
多くの方がお亡くなりになった中で、私達はこの様に日々平穏に生かされております。この事に感謝を致し、精進して参りたいと思います。
私の所が、申込先になっている県大会が二つあります。もう何年も受付をしておりますと、その間に色々な事があります。

その１、強い選手がいるチームは申込書がしっかり書けており、一方、乱雑・なぐり書きの申込書のチームは、概してそうでない事が多く有ります。強い選手のいるチームは組織がしっかりしており、マネージャーも居るから書けるのだと言うかも知れませんがそうでしょうか。私はそうは思いません。集中力を高め、全ての事に当たる、その姿勢が練習効果を高め、競技力を向上させるものだと思います。申込書を書く時も同じ事が言えるのではないでしょうか。ただ漫然と書くのではなく、意識して書くことが必要だと思います。

その２、要項には、申込方法として「参加料と一緒に申込む」と記載されているのに、申込書だけのチームが高体連に依然として有ります。参加料だけのチームが高体連に依然として有ります。参加料を入れ忘れたのではない証拠に、「参加料は当日持参します」と書いてあります。現金書留で送るには、郵便局まで行かなければならずならず面倒なので、申込書だけなのを承知でポストに入れるのだと思います。書類不備で送り返す事は百も承知ですが、顧問の先生の不手際で、生徒が出場出来なくなる事も忍び難く、受理しております。

入学願書もこの様にしていますかと、一度お聞きしたいとも思います。

その３、申込みの締切り当日、郵送では間に合わないと、私の所まで申込書を持って来たチームも有ります。また、シングルス一人だけの申込みなので、参加料は 1,０００円です。それに５００円の郵送料を使って申込みする人がおります。この人達等には大会に出場したいという意気込みが痛いほど感じられます。

申込み締切り当日、「速達で送りましたので、お願いします」と電話があります。いくら速達でもその日には着きません。申込み期限は守って欲しいものです。

平成２３年度　県協会事業計画

静岡県バドミントン協会　　理事長　杉山 敏充

去る３月１１日の東日本大震災における被災者の皆様に心からお見舞いを申し上げますとともにお亡くなりになられました方々に謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

さて、平成２３年度静岡県バドミントン協会「総会」がさる４月３０日（土）に開催され、本年度の事業計画案が提案され承認されました。本年度は協会の柱である『協会規約』の一部改正を行い、競技団体としての目的である競技の振興と競技力の向上を一段と強固なものとし、協会組織の運営・充実並びに各連盟・専門委員会及び会員の活発な活動に向けて組織を挙げて遂行するというものであります。

具体的には、先ず競技力向上策としてはジュニアの育成・強化のために指導者の指導力アップを図るための公認バドミントン指導者の養成（上級指導員・指導員のための資格講習会・義務講習会）の養成を推進し、同時に地域におけるジュニア指導者、小学生連、中体連、レディース連などの指導者に対する技術者に対する技術支援としての講習会を東部・中部・西部の各地区において実施し、コーチング知識のフォローアップや技術・戦術・トレーニング法などより高い技術指導力の向上や情報の共有化を図るなどバドミントンの競技的魅力を広く現場に生かして頂くというものであります。

次には、２４・２５年度に予定される全国大会の開催準備や県内大会の円滑な活動及び前年度発足の障害者支援普及活動の推進などの事業計画が重点目標となっております。

また、県協会への会員登録人数につきましては特に小・中学生の増加を一段と期待したいものですが、国際的にも活躍しているメジャー競技種目はすべてこのジュニア層の占める登録割合が極めて高いといったこともあり、これは普及が強化発展の表れであることを示しておりますので何卒皆様の更なるご協力をお願いいたしたいと思います。

今、スポーツは文化として世代を問わず私たちの生活に心地よく密着し、健康的な思考における大きな役割と効果をもたらしてくれております。スポーツには私たちの心に感動と計り知れないほどの活力を生み出す魔力というものがありますが、県協会としましてはバドミントン競技を通して人々に夢と希望とそして少しでも社会に貢献できるような選手の育成に真摯な取り組みを心がけるものでございます。

今回の大震災においても被災され絶望のどん底に追いやられたなかにあっても冷静さと秩序・礼節を失わず明るく強く立ち向かう被災者の皆様に対しても、今、私たちのスポーツを通じてその復旧・復興に向けての大きな原動力とも成り得る出来る限りの支援をしなければならないと考えるものであります。

今年度も円滑な事業の推進に会員の皆様方の更なるお力添えを切にお願い申し上げます。

誇りを持ってプレーを

御殿場西高校にバドミントン部　顧問　大箕 智



御殿場西高校にバドミントン部が発足したのは昭和６０年ですので、今年で創部２６年目になります。創部した頃は、女子は富士宮東、男子は沼津学園（現在の飛龍）高校が強く、全国大会に出場していました。本校の目標は当初、県大会に出場することでしたが、目標を達成するまでに７年を費やしました。その後、県大会には出場出来るようになりましたが、目標も更に大きくなり、東海大会や全国大会に出場する事に変わってきました。しかし、高校からバドミントンを始めた生徒を、東海大会や全国大会に出場させる事は至難の業です。ところが、「御殿場ジュニア」の誕生により小学生でバドミントンを経験した子供たちが入部するようになり、創部２０年目で東海大会へ出場、２３年目で全国大会へ出場する事が出来ました。また、卒業生の中には社会人や大学で活躍する生徒も出ています。部訓は「感謝心」。

日々バドミントンができる環境にあることに、感謝する事を生徒に伝えています。今後の目標は、全国大会等で更に上位に進出する事。そして、御殿場市のバドミントンの益々の発展を図る事です。

全国大会出場を目指して

静岡女子高等学校バドミントン部



日々全国大会出場に向けて練習しています。

技術だけでなく、高校生として恥じることがないよう、一生懸命活動しているチームです。

第３６号　平成23年9月30日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会

あ　い　さ　つ

静岡県バドミントン協会　　会長　上野　忠

東日本大震災の発生により早や半年が過ぎ、その復興に国民の総力を結集して頑張っておりその姿は世界の注目するところであります。

この間女子サッカーの「なでしこJAPAN」の世界制覇は日本に力と活力をあたえてくれました。

あきらめずに頑張ることの重要さを証明してくれました。まさに「不撓不屈」の大和魂を発揮しての栄冠でした。

過日東北への支援物資の送付に対して気仙沼向洋高校バド部よりお礼の書面と共に被災した学校、体育館、近隣市街の写真が同封されて来ましたことをお知らせ致します。

この大災害に向って同志は頑張っています。我々も少しでも応援を続けなければと思っております。

秋の気配が少しずつ増しているこの頃ですが節電、放射能汚染と有史以来の苦難の道が永く続くかと思いますが大和民族なら克服できると確信しています。全国小学生大会を一年半後に控えて小学生連盟の役員の皆さま方は準備で大変かと思いますが各々の責任を分担して進めて下さい。選手強化と大会運営は別々に構成して下部組織との連携を重要視し協力し合って進めて下さい。

本年度行事も順調に進んでいますが結果はもう一歩ですが全日本教職員大会女子シングルスでは村松瑞穂選手（星陵高校職員）が優勝しました。おめでとうございます。本年度山口県国体には成年女子で村松瑞穂選手、金森裕子選手を擁しての参加です。期待は大きく県代表として頑張って下さい。



高校総体を振り返って

静岡県バドミントン協会　副会長　吉田　昌弘

高校総体バトミントン競技大会が８月１５日から２０日まで青森県弘前市の５会場で開催されました。日程の関係で男女のダブルスとシングルスを視察しましたが、全国レベルの高さには圧倒されるばかりでした。本県の選手たちも懸命な戦いを繰り広げましたが、おそらく今まで経験したことのないような激しいプレーに戸惑いを感じたことだと思います。女子ダブルスの伊東高校鈴木・田渡組は１回戦で徳島県１位の徳島商業高校を破りましたが、次に対戦した佐賀女子高校とは一方的な試合展開となりました。九州地区で鍛えられた佐賀女子高校の力強い試合運びは、東海大会では見られないほどの迫力がありました。試合を通じて、全国大会に出場するチームには気迫がみなぎっていることを実感しました。男子では本件１位の星陵高校河野・樋口組に大きな期待がかけられましたが、初戦で群馬代表の伊勢崎清明高校に敗れ、残念ながら上位進出が果たせませんでした。

シングルスでは、星陵高校の桂巻さんが初戦で、男子は河野君が初戦シードで２回戦から出場しましたが、３回戦で敗れる結果となりました。

高校総体では、どの種目についても一部のアスリートを要する強豪校同士の戦いの場となっています。今年も学校対抗では、男子は埼玉栄高校が７年連続８回目の優勝を飾り、女子では２年ぶり８回目の優勝を地元青森山田高校が勝ち取りました。全国から集まってきた選手たちを鍛え上げ、チーム力を強化し、優勝へと導いていくアスリート校は、甲子園出場校が多く入っています。甲子園ではまだなじみの薄い新興の高校でもバトミントン競技に大きな力を注いでいることがわかりました。

本県のチームには、まず全国で２勝する力をつけ、そこから上位進出ができるように期待したいと思います。

そのためには、小学校・中学校での指導や社会体育の裾野を広げて行くことが大切です。

地道な取り組みがきっと花を咲かせるときが来ると思います。来年の戦いを期待しています。

国体監督として　　成年女子監督　吉永 将司

今年の国体は成年女子がフルエントリーということでブロック予選を経ずに１０月に山口県光市において開催される山口国体に向かいます。他のカテゴリーは残念ながら東海ブロック予選を突破できませんでした。

彼らの分も成年女子には勝ってほしいと思います。今年度のチームは今春より三洋電機（現パナソニック）を退任し、母校星陵高校へ教員として戻った村松瑞穂選手。現在日本ユニシスバトミントン部で活躍する金森裕子選手（星陵高校出身）。現在トヨタバトミントン部で活躍する増田由緒里選手（伊東商業高校出身）の三名で戦います。金森・増田両選手は全日本実業団や全日本社会人、日本リーグで戦っている現役の力とキャリヤも積む選手として主にダブルスにおける活躍が期待されます。村松選手は８月に行なわれた全日本教職員大会女子シングルスにおいて優勝を果たしました。現在指導者としてもコートに立っている村松選手は競った場面や以前であれば力んでいた場面において客観的にプレーを分析できるようになったと話しており、選手・指導者の二足のわらじの良さが出ている状況であります。

近年のメンバー構成としてはレベルの高いチームであると思います。所属が違い、まとまって練習ということは現地に行くまで不可能であろうと思われますがそこはキャリヤでカバーし、山口県で暴れてくれるものと期待しておりますので本協会会員の皆様、ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。



中高一貫について

静岡県バドミントン協会　指導委員長
星陵中学校・高等学校　顧問　吉永 将史

今年の４月より星陵高等学校は中高一貫を併設し、中学１年生が入学し、バトミントン部には男子２名・女子４名の計６名が入部しました。彼らは小学校ではスポーツ少年団においてバトミントンをしてきました。いずれの選手も普通レベル以上の経験者ということで本校に入部しております。今後彼らは６年間、本校において高校生とともにバトミントンの強化に励んでいきます。

一方、既存中学校バトミントン部の現状はどのようなものでしょうか。顧問の先生からお話をお聞きすると「部員は数十人で２コート、おまけに男女。」・「冬の練習時間は日によっては３０分もとれない。」・「県大会優勝者など経験者から全くの初心者までレベルが多様。」など大変な状況であるのが現実です。

外部環境といえば、全中をみてみると団体で上位に入賞するのは中高一貫校、個人戦を見ると前述の学校か、学校以外のクラブで活動している選手と、以前のイメージの純粋に公立中学内部活動で育った選手というのは非常に少なくなっているというのが現状です。

中高一貫の利点は６年間というスパンで選手育成を考えられるということです。例えば、中一で東海中学を経験し、中二で全中を経験。中三の静岡で開催される全中において入賞。高校１年でインハイや選抜を経験。高校 2 年でこれらの大会でベスト８入賞。高校３年でシードをとって、インハイ上位とレベルは様々ですが長い目で見ていられるということです。また星陵中では団体戦を組めません。人数が不足しています。

私は全く気にしていません。中学ではまずは個人の力量を大きく育てることを主としており、高校段階になれば団体は自動的に組めると考えているからです。もうひとつは彼らの身体の発達に合わせた育成方法をとりやすいということです。本校中一男子はスマッシュ力がありません。構いません。筋力の発達は彼らの身体の成長後に訪れるためです。

今、彼らにスマッシュ力を求めても無駄とは言いませんが効果的ではありません。むしろ細かな技術を今の段階でつけてあげないと取り返しの付かない結果になります。

現在の目標は静岡全中での活躍ですが彼らの指導に当たる村松先生と私との出会いは１３年前、今年の山口国体に選手と監督としてともに参加します。これが中高一貫指導者の醍醐味であり、楽しみでもあるのです。スタートしたばかりのシステムですが良い結果が静岡県にもたらせるよう努力してまいりますので温かく見守っていただければ幸いです。ご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

沼津東高等学校　バドミントン部　顧問　日吉 健久　　小林 綾子

こんにちは、沼津東高校バドミントン部です。
本校バドミントン部の歴史は古く、創設以来多くの OB,OG を輩出しており、過去にはインターハイ出場など輝かしい歴史を持っています。現在は、男子２３人、女子２３人（３年生含む）で活動しております。

本校の部員の多くは、沼津、御殿場等の御殿場線沿線の出身であり、バドミントンを高校に入学してから始めた生徒がほとんどです。したがって、１年生はラケットの握り方、面の作り方から練習を始めます。
中には、それまで所属していた部活動の癖が抜けなかったり、関節をなかなか上手に使えなかったりする生徒もおり、しっかりシャトルを当てるまでに時間がかかってしまい、続けられるか心配することもあります。
しかし、上級生が下級生に丁寧に指導したり、大学へ進学し、バドミントンを続けている卒業生が長期休みに指導を助けてくれたりするおかげで、それなりに上達し高校生活の良き１ページとなっているようです。
私の目からは、上手下手に関わらず、約２コートほどのあまり広くない練習場所の中、一生懸命にシャトルを追う姿から、バドミントンの奥深さに惹かれているように感じています。
練習内容は多人数かつ様々なレベルに対応したメニューを考慮するため、基本的なショットやフットワークなどを身につけることが中心となっています。その中でも、個々の目標に合わせた意識を持ち練習することで、技術の向上を目指しています。



大会で入賞するなど結果を求めるだけでなく、初心者同士対戦する大会、経験者と対戦する大会のどちらであっても、自らの力を出すこと目標として、自己の心身を伸ばすことが出来るよう指導していきたいと思っております。

今後とも、ご指導よろしくお願いいたします。

静岡県立磐田南高等学校　バドミントン部

磐田南高校バトミントン部は、現在、男子２２名、女子２１名の計４３で活動しています。
生徒も初心者、顧問も未経験者のため、質の高い練習という訳には行きませんが、試行錯誤しながら楽しく上達する部活動を目指しています。



今年度のインターハイ予選団体戦では、男女ともに県大会へ出場することができました。県大会で経験者と対戦すると力不足は否めませんが、今後も県大会出場を目指してがんばって練習していきたいと思います。

東日本大震災等災害義援募金へのご協力について

さる３月 11 日に襲った東北地方太平洋沖地震は東北地方各県及び関東地方まで勘大な被害をもたらしました。
被害に遭われた方々には心からお見舞いを申し上げますとともに、数多くのお亡くなりになられました方々に謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

下記に振込先を記載しましたので、ご協力の程を何卒よろしくお願いいたします。
静岡県バドミントン協会　会長上野忠　　義援金振込先　静岡銀行富士支店　　口座番号　普通 0794607
口座名　静岡県バドミントン協会事務局長　山本秀和
【取扱期間】第１次平成 23 年４月 30 日～7 月 31 日
　　第２次平成 23 年８月１日～12 月 31 日

第３７号　　平成24年1月30日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会

あ　い　さ　つ　　静岡県バドミントン協会　会長上野 忠

昨年は有史に残る大災害に見まわれ、まさに国難の年でありました、本年は復興、復活の年であり大和民族の絆を更に広げ一日も早い復興への希望にあふれる年となりますよう念じております。
会員の皆さまには日頃より本協会の諸事業に格別の御理解、御協力を賜り厚くお礼申しあげます。
県協会ではバドミントン競技の振興と競技力の向上並びに会員相互の親睦と融和を達成すべき活動を展開してまいりましたが、来年度平成２４年度４月１日より協会規約の一部改定をさせていただくことになりました。
改定の内容は、規約第５章「会計及び会費」（会費）第２８条です。各会員の会費を一律５００円の値上をさせて頂きます（日本協会の登録料を含む）改定に至る経緯を報告させていただきます。協会運営につきましては、規約第２７条に基づき長年の間、運営をしてまいりましたが、県協会主催大会を始め東海、中部、全日本関連など各種大会に伴う経費、審判員、競技役員の確保、派遣等々の運営に伴う資金の捻出及び確保は、越年の検討課題となっており、選手強化、指導者養成、審判員育成等々の事業も停滞気味など危惧される状況化にあり、平成１８年度の総会、常任理事会を皮切りに現在まで運営資金の捻出及び確保について様々な議論の中その方策について名連盟組織の皆さまにも検討を頂いてまいりました。
そして昨年４月の総会に於いて賛助会費及び賛助会費の導入と云うことで協会規約を一部改定し承認を得たところでありますが、それだけではまだまだ逼迫した状況を打破するには至りません。
協会運営資金は、会費交付金・寄付金となっておりますが、主だった協会への歳入については会員の皆様の登録料（日本協会の登録料を含む）のみであり、交付金につきましても県の歳出規定に基づく運用のみであり指定事業の補助であり更に上部関係団体（日本協会・県体協・地域連盟等）の会費加盟金の支出を加えると運営資金として予算立て出きる原資は限られてしまいます。こんな事から先の総会では、賛助金の導入と同時に各連盟組織における県協会への「加盟金の導入を議案提起」させて頂きましたが、各々の抱える諸事情等々を斟酌しますと難解な部分も多く決議には至らず引き続き審議事項となり第２回、第３回の常任理事会での継続審議を経た中で加盟金の導入に代わり、新たに会員登録費の値上げに関する提案が各理事よりだされ結果的には値上げ幅は会員一人一律「５００円」とすることで満場一致で決議されました。
以上県協会運営費の確保に伴い今後は選手強化・指導者養成・審判員養成等々の各事業及び大会運営に於いて有効に活用させて頂きたいと考えておりますので何率趣旨を御理解頂きご協力を賜りたくお願い申し上げます。
尚、本年はいよいよ全国小学生大会の開催が待ち受けております。皆様方のご支援ご協力を切にお願い申し上げる次第であります。

新しい年に向けて　　静岡県バドミントン協会　副会長　齋藤 聡

平成２３年は、様々な意味で激動の１年であったと思います。なんと言っても、３月１１日に起こった東日本大震災、地震の揺れよりもその後襲った予想外の大津波によって多くの犠牲者が出た事は皆様ご承知の事と存じます。さらに、福島第一原子力発電所を襲った津波による電源喪失で原子炉が水素爆発を起こし、福島県をはじめとして東日本の広い範囲が放射能で汚染されてしまうという我が国がかって経験しなかった出来事が発生し、未だにその影響が心配されております。
本震災で被害に遭われた方々には、心から哀悼の意を表します。静岡県学生バドミントン連盟（学連）でも、当初予定していた学生選手権大会（個人戦）を中止せざるおえない事態となり激動の年度末でした。
学連は、前会長塩川先生のご尽力で平成４年（１９９１年）に発足し、本年で足かけ２０年になります。
この間、県協会のご協力とご援助の基、順調に発展して参りました。初代会長に塩川先生をお願いし、平成１２年度からは、現協会会長の上野忠先生に会長を務めて頂きました。平成２１年度より私が３代目の会長を引き継いでおります。現在では、県内ほとんどの大学および学部の部活が登録されており、春と秋の２回行なわれる団体戦と年度末開催の個人戦を主催し、県協会審判部の協力で年１回、審判講習会を開催しております。
組織は、幹事校の代表が常任委員長として学連をまとめ、各加盟単位の代表が常任委員として会議を開き会の運営を行ないます。常任委員長の下に事務局と会計を置き、会の実務を執行します。大学教育の中で課外活動の果たす役割は大きく、会の運営は歴代の役員にとって良い経験になっていると聞いております。
現在、学連として取り組んでいることをご紹介しますと、競技ルールの徹底をかけ声に正しいルールを理解して競技を行なうことと、公式戦での厳正な審判を行なう事を目的にクラブ員の意識の向上に努めております。
このため、昨年度から協会審判部のご協力で年に１回、審判講習会を開催いたしております。このおかげで公式戦の運営もスムーズでルールの浸透も順調に行なわれていると思っています。皆様には、このような学連の活動をご理解いただき、今後ともご支援、ご協力をお願いしたいと考えております。

県協会の現状と課題

静岡県バドミントン協会　理事長　杉山 敏充

平成２３年度の県協会主催大会も残すところ県総合選手権及び中学生選手権大会となりましたが、会員の皆様には今年度も数々のご支援ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、平成２０年１２月に国の公益法人制度改革が施行され特例民法法人の位置づけとなった日本体育協会を始め各種目の日本中央協会・各県体育協会、競技団体などが従来の財団・社団法人から公益法人化への移行に踏み切り、当県協会の上部団体である（財）日本バドミントン協会も平成２５年１１月の認定締め切り日を前にその移行申請を完了し、本年度から新たな体制によるスタートを切ったところであります。

また、これとは別に今年度はこれまで国の中心的なスポーツ施策であったスポーツ振興法（１９６１年制定）に代わって新たにスポーツ基本法が成立し８月の施行となりましたが、その前文では「スポーツは人類共通の文化である」と位置づけ、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利であるとし、スポーツ立国を実現することは二十一世紀の我が国の発展のために不可欠な重要課題であるとされるなど、これまでの努力目標に留まっていた地域振興や競技力向上が新たに国の責務としてのスポーツ活動として明確に打ち出されたことは大変意義深いものとなりました。

しかしながら、今回のこの変革は私達のような団体組織に於いては、その活動趣旨・重点目標・組織形態・財政面等々の運営基盤そのものに多くの課題や不安を齎すところともなり注視すべきことであります。

ご承知の通り、当県協会は任意団体として設立から既に６０有余年が経過するなか、先人のご努力によりバドミントン競技活動を通じてスポーツの普及・競技力の向上、地域の発展に多大なる貢献を果たして参りました。しかし一方では、時の経過は競技の普及・発展と共に大会規模の拡大と膨大な資金・労力を要することとなり、関係者の熱い関心も相俟って一層の社会的責任も求められるところとなりました。

更に、大会の運営に当たっては円滑な競技の進行は基より災害時の対策や事故防止など様々な問題への対応能力やまたその責任の所在など明確な危機管理体制が不可欠となるなど、それらに携わる大会・競技関係者は正直、本業をさて置いての重責且つ多忙な取り組みをも強いられる現実があり、東海地区及び全国大会なども開催地が輪番制と化している現状での安定した人材の供給・確保など協会の運営は図らずも順調とは言えずまま成らない状況化にあると言えます。

今回、これらの改正によりいずれスポーツ省庁などが設立されスポーツ行政としての具体的施策が打ち出され、その推進は中央団体を通じて益々、私達競技団体に寄せられて来ること疑いのないところですが、それでなくとも様々な課題を抱える現運営基盤では一層の懸念を抱かずにはいられません。

敢えて申し上げれば、私達団体はその組織の構成上、法人格と同様の外観を生ずるために、あたかも権利・義務の主体を有するが如きの解釈及び評価が成されてしまいがちですが、私達は共通の趣旨目的・活動方針に基づく信頼の上に於いて成り立つ団体組織（任意団体）であり、運営の基本は飽くまでも自主的な参加による公共の福祉などの奉仕的活動が前提となるものであります。従い、仮にも業務指示的行為や営利活動などは厳に慎まなければならないものであります。

とは言うものの、現実は先にも述べました様々な実情や昨今の目まぐるしい社会情勢もあって任意・自主性に委ねる運営体制では今後、一層の厳しさを増すばかりか行き詰まりの感も否定できません。

また、財政上の事についても県協会の基本財源や上部組織との一連の財務体系など財政構造そのものの課題も皆様に一段の理解を求めたいところであります。

協会運営に当たっての年間予算・決算は、「協会規約」に則り総会・理事会・会計監査などの承認を経た上で執り行われますが、基本的財源が限定される収益構造や法的性質上、本来の協会事業目標である競技力向上予算や関連する各専門委員会活動費などが計上出来ず運営に直接携わる委員会関係者への経費捻出さえも滞る状況にもあり憂慮に堪えません。来年度は、これら喫緊の課題に直面、対処すべく財源確保として会員登録費の値上げを実施いたしますが、何卒、趣旨をご理解の上、厚いご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

以上、山積する課題を抱えつつも予定される各事業の成功に向けては全力で臨まなければなりません。

来年度も、既存の県内主催大会は基よりいよいよ全国小学生バドミントン選手権大会（袋井市エコパ）の開催年度となり、また、その翌年には全国中学校バドミントン選手権大会（富士宮市民体育館）もやって参ります。

県協会の在り方や任意団体としての法的位置付けが様々な課題を生み出していることは以上の通りですが、円滑な事業の推進は他ならぬ皆様方を於いてあり得ません。

全ては私達の気骨稜稜たる姿勢によるところ大なると思うのですが、今後も皆様方のご支援ご協力を切にお願い申し上げます



最近のルール　静岡県バドミントン協会　審判委員長　斉藤　勲

競技で行なわれるバドミントンにはルール(競技規則)があります。バドミントンのルールは２００６年に　大幅なルール改正が行なわれました。その後、大幅なルール改正はありませんが、若干ルール変更がされているのが現状です。ルールについては、日本バドミントン協会が２年毎に発行している「競技規則(諸規定集)」(通称赤本)に記載されておりますが、赤本を読んだだけでは理解、解釈できない所もあると思います。

最近のルールを知っていただくために、今年も各地にて審判講習会を開催していく予定ですので競技者、指導者及び審判資格取得者の方々にも講習会へ参加していただきたいと思います。

焼津水産高校バドミントン部　顧問　大澤　健

現在、１・２年生男子１７人と女子マネージャー（兼選手）１人の計１８人で活動しています。
今年度の高校総体中部地区予選では４位で県大会出場を果たしましたが、３年生が抜けた新人戦では、県大会出場はおろか初戦を勝ち抜くことすらできませんでした。この悔しさをバネに、県大会出場をチームの目標に頑張っています。練習環境としては、１週間のうち２日間は３面、残りの３日間は２面が使えるので、比較的恵まれている方だと思います。しかし、練習中の意識はまだまだ高くはありません。言われたことをやらない訳ではないけれど、主体性や覇気に欠けると感じることがしばしばです。目標に向かって努力して、自分を向上する姿勢や意識を、日々の部活動を通して身に付けさせたいと考えています。



自主性の尊重　磐田北高校　顧問　加藤 裕子

本校では、今年度よりコーチが就きましたが、数年間バドミントン専門の教員がいない環境が続きました。
その中で、生徒たちは自ら自分たちの課題を見出す努力をし、練習メニューを考えて取り組んできました。
初心者である彼女たちにとって「上手くなりたい、試合で勝ちたい」という強い思いを抱きつつ、満足な練習が出来ない非常に厳しい環境でした。今年度は念願のコーチの指導のもと練習に励んでいますが、自主性の精神を大切にして誰かにやらされている部活動ではなく、自分たちで運営する部活動であることを意識しながら活動しています。生徒たちは技術の向上だけでなく、仲間と練習メニューや運営方針などについて話し合い考え、実践する事を通してバドミントンの楽しさと面白さを実感していると思います。そして、社会で生きる上でのコミュニケーション能力や客観的に物事を捉える力なども身につけられるのではないかと顧問として感じています。初心者の顧問のもとでの練習では強豪校には、適わないですが、生徒が自らつくり上げている部活動であることを誇りにして今後も積極的に活動していきたいと思います。



沼津西高等学校バドミントン部　部長　星野 陽香

本校は昨年１１０周年を迎えた伝統のある高校です。年に１度のOG会では大先輩の方々も来てくださいます。
現在、私たちは１年生１１名、２年生２名、３年生７名の計２０名で活動しています。経験者がいないため全員が一からのスタートとなります。先輩から後輩へ、ラケットの持ち方から教えていきます。



最上級生になると、自分たちに足りないものは何かをみんなで考え、その強化のために自分たちで練習メニューを組みます。そして仲間同士でもアドバイスし合い、部全体の技術の向上を図っています。また、顧問の先生方やコーチには、技術面だけでなく体力やメンタル面でも強くなれるよう、御指導いただいています。私たち３年生が中心となってからもうすぐ一年、「団体戦での県大会出場」を目標に、自分自身に厳しく、全員が一丸となって練習に取り組んできました。時には話し合いを行うこともありましたが、このメンバーだからこそ、辛い時も乗り越えることができたと思います。総体予選まであとわずかとなりました。
勝ち進むために練習するのはもちろんのこと、私たちを支えてくれている多くの方々への感謝の気持ちを忘れずに、残り少ない部活動・バドミントンを全員で楽しめたらと思います。

第３８号　　平成24年6月1日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会

あ　い　さ　つ　静岡県バドミントン協会　会長　上野　忠

平成２４年度総会が５月６日開催され審議案件が全て承認されました。協会設立以来の大型予算でのスタートとなりました。会員の皆様の御協力をいただき登録費の値上げ、又前年度よりの賛助会費制度の導入など運営資金・選手強化・その他懸案々件の解決を計りつつ協会発展に大きく寄与すると信じております。

既に各種大会が行われていますが、本年度最大の事業であります全国小学生大会の開催も半年後に迫っており小学生連盟の皆様には準備で大変かと思いますが斉藤連盟会長を中心に頑張って下さい。特に準備委員会の皆様には情報の透明性及び大会運営・選手強化には、その責任の分担を企って進めて下さい。

本年度国体は近県（岐阜県）の開催であり全種別参加すべく協力してください。

平成２０年より高校専門部長（協会副会長）として御尽力御協力を賜りました吉田昌弘様が御退職により退任されました。ありがとう御座いました。これからも御指導御協力のほどお願いします。

又、後任には宇佐美壽英（富士高校長）様が就任されました。協会員一同おおいに期待しております。

平成２４年度が始まりました　静岡県バドミントン協会　　副会長　内田 壽夫

総会も終わり、新年度が発足いたしました。１か月を経過しましたので、各団体とも活動計画に沿ってすでに動き始めていることでしょう。

選手の皆さんは、県大会・全国大会を目指して予選会への準備・研鎖に励んでおられることと拝察いたします。試合では、日ごろの練習の成果を存分に発揮してください。各団体の役員の皆様には、各大会が円滑かつ実り多いものになるよう、運営せれるようお願いいたします。

今年度の本協会が主催・主管する大会は、東海地区４大会、全国１大会です。東海地区大会としては、８月に「第３回全国中学校総合体育大会東海地区大会」が富士宮市民体育館で、９月には「平成２４年度東海総合選手権大会」が、富士川体育館で、１１月は「第２６回東海レディース大会」が掛川さんりーなで、また年が明けて１月には「第４１回全国高等学校選抜大会東海地区予選」が沼津市民体育館でそれぞれ開催されます。

全国大会としては、年末に「第２１回全国小学生選手権大会」が袋井市で開催されます。

特にこの全国大会につきましては、準備から当日の運営まで大変ご苦労が多いかと思われます。

関係団体だけでは成り立ちません。大会を成功させる為に、開催地区はもちろん、会員の皆様の絶大なる応援・ご協力をお願いいたします。

また、大会出場を目指す選手の皆さんの今後の益々の精進に対し、大きな期待をしています。

本年度より、前号で上野会長が触れておられる通り、会費が値上げしました。選手強化・審判員および指導者養成等、以前から問題視されていましたが、十分な予算がつけられず、ここ数年常任理事会・　総会等で議論をしてまいりました。事務局の窮状をご理解いただき、賛助会費とともによろしくお願いいたします。

『平成２４年度県協会事業計画』　静岡県バドミントン協会　　理事長　杉山 敏充

平成２４年度、静岡県バドミントン協会における「総会」が５月６日（日）富士市に於いて開催され今年度も新たな事業に向けいよいよ本格的なスタートをいたしました。

今年度は協会運営の基本的財源となる会員登録費の改定が行なわれたことにより協会組織の運営及び各連盟並びに専門委員会活動など各事業が遅滞なく円滑に取り行われるものと期待が寄せられます。

因みに、平成23年度会員登録人数（東海地区）ですが、静岡県4,135名、愛知県11,548名、岐阜県4,878名、三重県 4,168 名という事で本県の登録人数が東海地区の中でも下位となっており、特に一般、中学生、小学生における会員登録数は他県に比べて劣っている実情は国体など各競技大会における競技レベルの指針ともなる部分ですので一段の普及（会員登録）活動にご協力をお願いしたいと思います。

さて、今年度の大きな事業としてはいよいよ「全国小学生選手権大会（袋井市エコパ）」が１２月に開催され、また翌年には全国中学校選手権も予定されることからこれらの大会に向けてのジュニア強化・指導者養成・公認審判員養成などに一段の拍車を掛けるというものであります。

特に、全小大会は将来のオリンピック選手輩出の場ともなる大会であり、折しも今年度は「ロンドン・オリンピック」が今夏７月に、また、「世界ジュニア・バドミントン選手権」が１０月下旬に国内（千葉県）開催されるということもあり、例年を凌ぐ活気ある大会となること間違いないところでありましょう。県内ジュニア選手の大いなる活躍に期待を寄せるものであります。

さて、この他特筆すべきは今年度の協会組織では新たな専門委員会として「障害者専門委員会」が発足し、承認をされました。委員長には障害者支援教育に熟達し、スペシャル・オリンピックスなどの世界大会、全国大会などに多くの実績を持つ神田いずみ氏が就任され、委員には審判委員会の現委員が、そしてサポート役とし

て障害者スポーツ指導に経験豊富な副理事長の川原崎　仁氏がそれぞれ就任されましたが、この他、現障害者支援学校教育に直接携わる先生方による協力体制も得られることにもなっており盤石な体制でのスタートが切れることになりました。県協会としては障害を抱える選手の皆様に対しては平成２２年度より障害者支援普及活動事業としてその推進に取り組んで参りましたが、その間、各競技大会に於いてはレディース連盟の皆様を始め審判・指導委員会などの絶大なる支援活動のお陰を持ちまして今回の委員会発足に繋がったものであり、これら関係の皆様には深く感謝と敬意を表するものでございます。
以上、主だったものを挙げましたが今年度も各種東海地区大会や県主催大会・講習会等々多くの事業が予定されており、それぞれの円滑な推進と各委員会活動の充実・発展に向けて会員の皆様の益々の厚いご支援ご協力をお願い申し上げます。

時の人　　伊豆高原バドミントンクラブ　芝崎 侑司



昨年の第２８回全日本シニア７０才台ミックスダブルスで念願の優勝、金メダルを獲得しました。パートナーは埼玉の田中静子さん過去 WD で優勝している試合巧者、決勝迄随分助けられました。私がバドミントンを始めたのは３０歳後半、デインギーヨット競技で体力不足を痛感、何か補う方法は無いかと探している時、進められ練習してみました。

望んでいた条件にぴったりハードで楽しいスポーツでした。早速クラブに入会しましたが、初心者のおじさんでは誰も教えてくれず自己流と真似で週１日の練習に行きました。その内１日では物足りなくなり又経験者になぜ上手にならないのかと聞くと、センスがないからと言われ、上級者のゲームに入りたかったら這い上がって来いとも言われ、もうこれは練習以外にないと。少ない週でも５日多いときは毎日通いました。そしてどうにか市の大会で３部２部で勝てるようになり目標を５０才で関東大会シニア、６０才で全日本シニア参加とし、共に実現しましたが参加のみでした。

その後、高校時代からの経験者であり八王子で共に戦った亀田武志氏とペアを組んでいただき６５才７０才台で３位になれました。しかしその後強気で元気だった彼は年末体調を崩し入院一度は退院したものの大晦日に永眠されました。あまりにもあっけなく非常に残念でした。私はお陰で体力もつき病気もせず目的のヨットも疎かになりましたが、ディンギーからクルザーに変わりレースを楽しんでおります。

今は生きてる限り「元気で」をモットーに進歩めざし練習しています。

時の人　　村松 瑞穂



昨年の夏に行われた全日本教職員大会女子シングルスで優勝でき、とても嬉しく思います。三洋電機（現パナソニック）を引退してからは、しばらくバドミントンに対しての目標がなく、バドミントンから離れておりラケットを握っていませんでした。しかし、３月頃静岡に戻ってきて、星陵中学校・高等学校の生徒たちの部活に顔を出すと、生徒たちの一生懸命な姿に、私もこの子たちと一緒に指導者としてまた第２のバドミントン人生を頑張りたいと思いました。そして、私はやはりバドミントンが大好きなのだと感じました。

教員になってすぐにインターハイ予選や中体連の予選が始まりました。中高校生の最後まで諦めない姿に力をもらいました。また、中高生の試合を考えながらじっくり観察して見ることで、今まで見えていなかった部分が少しだけ見えてきたような気がしていました。

そのような中、全日本教職員大会に参加させていただき、簡単な言い方ですが、自分のバドミントンができたと思います。少しだけプレッシャーもあり、苦しい試合もありましたが、生徒たちの姿を思い浮かべ、それをエネルギーに変え、最後まで相手とのゲームを楽しむことができました。

来年は静岡での全中が控えております。私は指導者としては駆け出しですが、静岡県選手が活躍できるよう、静岡県の指導者の方々と共に精一杯努めていきたいと思っています。
今後もよろしくお願い致します。

藤枝東高校バドミントン部

男子３０人、女子２８人で活動しています。部員のほぼ全員が初心者であり、練習は上級生から教わった方法を基に、工夫をして行っています。平日の練習は男女で３面と狭いため、筋力トレーニングと組み合わせています。
男子はインターハイ、新人戦団体戦で県大会に出場することができました。新チームにおいても男女とも県大会出場を目標に、向上心をもって練習に取り組む活動を目指したいと考えています。



第３９号　平成24年10月1日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会



あいさつ　― 惜別 ―

静岡県バドミントン協会　　会長　上野　忠



故塩川甫氏

会員の皆さまに悲しいお知らせをしなくてはなりません。
本協会の創設者であり育成の親でもありました塩川甫名誉会長が誠に残念ですが去る８月２日仙台市にて９３才という天寿を全とうされ永眠されました。

既に８月４日仙台市において家族葬にて葬儀は済まされ、４９日の法要も去る９月１６日菩提寺であります富士宮市の大泉寺にて行われ納骨の儀も済まされました。

翌１７日には塩川甫さまを「偲び送る会」が思い出の場所であります黒田幼稚園体育館で多数の関係者の参加を得て行われました。塩川様は昭和２４年本協会の設立を渡辺福太郎顧問（故人）と共に成され当年の第４回国民体育大会（東京都）にオープン競技として参加され本県バドミントン競技のスタートを切って下さいました。

以来５０年間役員として理事長・副会長・会長として努めていただきました。

その間中山紀子・天野博江の世界チャンピオンを望野正枝の高校チャンピオンを育て又富士高校・吉原高校など常に全国大会での上位校としての成績をおさめるなど静岡県強よしの黄金期を築くなど、その指導力は全国的評価され日本協会の常務理事、監事として１５年間歴任されました。
本来塩川さまは教職に身を置かれ小中高の教師校長として、又幼児教育・社会教育とその活動は多岐にわたり指導者として他に類を見ない活動の人生であったと思います。
本県バドミントン競技の発展に尽されたご功績は前述のとおり余りにも偉大であり言葉では言い表す事は出来ません。

塩川さまの基本理念であります「まずは実践・理屈は後だ」の教えを基にその志しを継承し本協会の発展に全力を尽すことをお誓いして送別の言葉といたします。
塩川甫名誉会長さま、ほんとうに永い間ご苦労さまでした、ありがとうございました。
安らかにお眠り下さい、ご冥福をお祈りいたします。

ジュニア育成に向けて

静岡県バドミントン協会　　副会長　工藤 喜久雄

今夏のロンドンオリンピックも幾多の感動のドラマを残して終わりました。この場に立った競技者の多くが順風な日々ではありませんでした。怪我に苦しみ、挫折を味わいながら強い気持ちをもった競技者だけがこの場に立つことができたのではないかと思います。そして多くの競技者が幼少期からスポーツに親しみながら成長してきたことが報道されていましたが、改めて幼少期におけるスポーツの重要性を認識しました。
バドミントンでも女子ダブルスで初めてメダルを獲得しましたが、全般的にはまだまだ世界との差を感じさせる試合も多かったのが現実ではないかと思いますが、今、日本のバドミントン界は若いうちに経験を多く積ませる機会を増やすこと等によるジュニア強化策の効果が現れてきており、中高生が全国大会等で跳進し今後が楽しみになってきています。

翻って、静岡県のバドミントン界を見てみますと先進県とは大きな差になっているのが現実ではないかと思います。この差を埋めていくには今以上に根底の育成とジュニアの強化に力を注がなくてはならないと思います。このため指導者の養成と資質の向上を図ることが緊急の課題ではないかと思います。幸い指導委員会等関係者のご協力で指導者養成講習会が毎年開催され多くの指導者が育ってきています。こうした中で、本年１２月には全国小学生バドミントン選手権大会がエコパアリーナで、来年８月には全国中学生バドミントン選手権大会が富士宮市で開催され全国の指導者が集まります。指導者の皆さんは、これからの大会を通じて多くの指導者との交流が図られる絶好の機会となることからジュニア育成・強化の情報を入手し日頃の指導に取り入れ、更なる指導の向上が図られることを期待しています。

磐田農業高校バドミントン部　顧問　高尾 修司

私たちは、３年生２人、２年生６人、１年生５人の計１３名で活動しています。部員全員が初心者であるため、フットワークや基礎打ちなどの基本を中心に練習を行っています。どこの学校にも負けないくらい練習し、私たちの目標である「団体戦での県大会出場」を合言葉に、チーム全体で日々練習に取り組んでいます。

体力をつけるためにとてもハードな練習をすることもありますが、互いに声を掛け合い、気持ちを高め、一つ一つコツコツとこなしています。



自分のプレーの目標が、まだ十分でないところを明確にするために、「バド部ノート」を作り、技術の向上を目指すだけではなく、気持ちもしっかりと目標に向かっていくような工夫をし、部全体の技術力や精神面の向上を図っています。

土日の練習には、社会人の人たちが来て教えてくださり、試合形式の練習をすることができるので、とても力になっています。このように、多くの人々から御指導をしていただいているので、感謝の気持ちを忘れず日々の練習に取り組み、是非とも部の目標を達成したいと考えています。

沼津工業高等学校バドミントン部　顧問　渡邉 治　　大石 一秀

部員　３年生男子１１名　２年生男子７名　女子１名　１年生男子１４名　女子１名　戦歴　現在は特になし

平成１４年度県総体団体３位　東海総体出場
平成９年度県新人団体３位　東海選抜出場
平成１０年度県総体団体優勝　東海総体出場
平成１０年度全国総体出場



活動状況　本校選手は、初心者がほとんどです。まず、ルールや基礎基本から学び３年生の春には、上級者と対当に闘う事ができ県大会に出場する事が現在の目標です。また、競技の楽しさを体得し卒業後もずっとバドミントンを続け競技人口の増加、バドミントンの普及発展につながればと思っています。さらに、高校部活動なのでバドミントンを通じて高校生としての礼儀やマナー、学業との両立、試合に勝つ為の努力、勝った時の喜びなど様々な事を学んで人間的に成長してくれる事を目的に日々活動しています。卒業した先輩達の実績に少しでも近づけるように頑張っています。活動場所　本校グランド・体育館 （4～8 面）

大自在

バドミントンの試合を見ていると、その魅力は初速３００キロともいわれるシャトルのスピードと、高度な技を駆使したラリーの応酬にあるのではないかと思う。長く続くラリーは激しく、時に美しくさえ映る▼逆に言えば、その二つが欠ければもはやバドミントン競技とは言えない。ロンドン五輪という最高の舞台で、そんな信じがたい出来事が起きた。準々決勝以降の試合で自国ペアとの対戦を先延ばしするため1次リーグ2位通過を狙い、負けようとしたらしい▼世界ランク1位の中国ペアと、韓国ペアの対戦はフェアプレー精神とは懸け離れたものだった。ニュース映像で見たが、サーブをネットに引っかけたり、速度の遅いショットを外したり、意図的に負けようとしている姿勢がありありだった。長ければ10本、20本と続くラリーが問題の試合では4本しか続かなかった▼世界バドミントン連盟は無気力プレーを続けたとして中国、韓国ペアなど4組8選手を失格処分にした。当然だろう。最高のプレーを期待してやってきた観客の存在は無視されたと言わざるを得ない▼一方、同じバドミントンでこんな出来事があった。女子シングルス1回戦で佐藤冴香選手は格上の選手を相手に優勢に進めていたが、ショットの着地で左足を痛め、その場に倒れ込んだ▼監督に棄権するよう促されたが、首を横に振って試合続行を選択。痛みで脚を引きずりながら戦ったが、ついに無念の途中棄権となり、車いすに乗せられた。勝利のために全力を挙げる。スポーツ選手の鉄則だろう。

2012.8.3

大自在　静岡新聞　平成 24 年 8 月 3 日　朝刊より

第４０号　平成25年1月30日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会



あ　い　さ　つ　静岡県バドミントン協会　　会長　上野　忠

明けましておめでとうございます

昨年末開催されました全国小学生大会も連盟役員の皆さまをはじめ選手の御父母の献身的な御協力により組織の不充分な本県連盟でありましたが無事成功裏に終ることが出来ました御苦労さまでした。

小学生連盟としては初の全国大会の開催とあって数年前より準備をされ大変御苦労をされたと思いますが、この経験を糧として今後に生かして下さい。

特に連盟組織の拡大、指導者の養成と資質の向上は急務な問題かと思います、県協会の指導委員会のもと連携して対策を講じるべきであります。その他多くの問題点もあったかと思いますが皆さんで反省し連盟の拡大発展に繋げて下さい。本年は８月に全国中学生大会の開催も控えております。中体連を中心に準備が進んでいますが県協会との連携を密にして全国の中学生をお迎え出来ますよう協会員全員が協力しましょう。

平成１５年の国体開催以来１０年目を迎えようとしています、この節目の時に協会員全員で選手強化、運営等見直しも必要かと思います。１０年間を反省し将来への目標など新しい指針を確立して一層の発展を計るべきかと思います。本年度事業も県総合選手権大会を残すのみとなりました。

県協会参下の各連盟の役員の皆さまをはじめ協会員全員で末年度に向って前進しましょう。

県協会新年に当たり　静岡県バドミントン協会　理事長　杉山敏充

明けましておめでとうございます。

先ず以って、昨年、年の瀬も押し迫るなか開催されました第２１回全国小学生バドミントン選手権大会（袋井市エコパアリーナ）におきましては、２年前に遡る大会準備から大会終了に至るまで競技運営全般に関わる数々のご支援ご協力を賜り関係の皆様には衷心より厚くお礼申し上げます。

お陰様を持ちまして、競技成績につきましても団体戦の部では県内では初となる３位入賞を果たし、また、個人戦でも入賞者が続出するなど大会の成功に華を添える栄誉を勝ち取ることができ、選手強化にご尽力頂きました指導者の皆様方に敬意を表するとともに改めて関係の皆様に深くお礼を申し上げるものでございます。

さて、平成２４年度も残すところ僅かとなりましたが、取り分け、以下、今、私達を取り巻くバドミントン界の近況をお知らせさせて頂きます。先ず、普及を司る会員登録者数ですがニチバの過去４年間の全国会員登録数（平均値）は全体登録者数が２４．３万人、このうちジュニア層は高校生が軸となるが１７．６万人で全体の７２%である。また、中学生の登録数は６．６万人、小学生２．４万人と毎年横ばい状態が続くが実質的（潜在的（未登録）な競技者を含む）には年々増加しているものと推測されます。

これは、昨夏のオリンピックでのメダル獲得やジュニアによる国際舞台での華々しい活躍ぶりも競技人口増加に拍車をかけている要因と思われますが、特に最近ではメディアでの報道や新聞紙面などの賑わいもあり子供たちの間でも話題に上がるスポーツとなっている点もあるようだ。

ところで、私達の間では以前からメジャー・スポーツへの道としてそれは国際舞台での輝くメダル獲得や入賞賞金などがその要因として最大の近道であり、特にオリンピックは中でも別物で効果は絶大であると評されてきた。このところのバドミントン界は正にその呟き通りの様相を呈しており、新たな年を迎え今後も“駆け馬に鞭”と更なる飛躍を望みだいところである。因みに、日本選手のこの様な国際舞台での活躍は今後も間違いなく期待できるのであるがそれには根拠となる裏付けがある。

先ず、その一つにはタレント性豊かな選手の発掘にある。タレントという言葉は日本ではとかく芸能活動的な解釈で使われることが多いが、本来、タレント（talent）とは直訳すれば才能という事であり物事を巧みに成し遂げる能力、スポーツで言えば、投げる・打つ・走るなどの三拍子がそろった選手を言い、更にかっこいい、絵になる（オーラ aura）などそれはどの年代層にも共通して受容され得る独特の雰囲気を醸し出すなどの注目度、話題性を秘めた人材ということになるが、その人材の発掘作業と育成の成果が今ここで出始めてきたという二とが言えるのです。野球、陸上、サッカー、バスケ、バレー、水泳などの学校体育下での人気種目の中から総合的身体能力の優秀な選手を地域の社会体育指導者がその活動を通じてバドミントン競技に引き寄せるなどの積極的なアプローチ（発掘作業）が形となって表れて来ているということであります。それは、バドミントンをやりに来る子供を待ち構えているのではなく、運動が好きで明るく活発な子供を積極的に求め、ラケットを握らせ、シャトルに触れさせ、打って楽しめる機会を提供するなどバドミントンへの参加機会や加入への積極的な取り込みが図られているのです。二つめとしては、指導者の研鑽にある。

今までの経験や競技実績に頼るだけの指導者及び指導体系から転じ、スポーツ諸科学的知識に基づくトレーニ

ング実践や自らの指導レベルの向上を図るべき指導者の「学ぶ姿勢」である。
昨今では、どの競技種目も競技開始年齢の低年齢化け推し進んでいるが、特に、幼児期から小学校６～７歳を経て１２・３歳のゴールデンエイジ～１８歳までのジュニア・ユース期と称される時期の基本トレーニングの重要性に鑑み、指導者自らが資質の向上に努め目標を明確化した指導の展開が成されているということであります。選手個々の成長・発達に応じて、課題を段階的に抽出して行われる指導体制（一貫指導）の推進が奏効してきたと言えるのであり、正しく指導レベルの向上に他なりません。
二のように今、私達のバドミントン界は全国各地で常に世界を見据えた研鑽に励む指導者たちによって優秀な選手の発掘・育成が図られ、なかでも全国から選ばれた選手達にはナショナル・トレーニング・センターを拠点として常に世界と戦えるトレーニング・プランに基づく育成が実践されているのです。
以上ですが、県協会としては何としても私達の静岡県から世界に羽ばたく選手の発掘と育成が成されますよう皆様のご協力を仰ぎつつ一段の努力をしなければと念頭に当たり心新たにするものでございます。
最後となりますが、平成25年度の県協会事業として主立ったものを挙げさせて頂きますと、全国中学校バドミントン選手権大会（富士宮市民体育館）が８月１７日～２０日、国民体育大会東海ブロック予選（富士市立体育館）が　７月１３・１４日に予定されております。
全国規模大会が２年連続での静岡県開催となりますが、今年度同様大会の成功に向けて皆様のご支援ご協力を賜りたく何卒よろしくお願い申し上げます。



全国小学生バドミントン選手権大会を振り返って

静岡県小学生バドミントン連盟　　事務局　井出 裕雄

第２１回全国小学生バドミントン選手権大会が、
平成２４年１２月２３日（日）から２７日（木）袋井市エコパアリーナで開催され全国４７都道府県延べ１１７９名が男女団体戦・個人戦で熱戦を展開した。
地元開催で静岡にメダルをとの思いから選手強化を実施してきた事が実を結び女子団体で静岡Ａチームが、初の全国３位に入賞した事は大変喜ばしい限りであります。個人戦においてもメダルまで届かなかったもののベスト８（５位入賞）に４種目が入賞し来年につながる大会となった。大会運営にも日本バドミントン協会、日本小学生バドミントン連盟、静岡県バドミントン協会、県内各連盟の絶大なる支援を頂き大会を無事終了できた事、大変感謝申し上げます。皆様一人一人のご協力、本当にありがとうございました。

藤枝北高等学校バドミントン部　　顧問　小田切 希芳　　山河 永治

私達は、２年生６人、１年生８人の計１４名で活動しています。私達は全員高校に大ってからバドミントンを始めました。
１年生が入学したのと同時に、顧問の先生が変わりました。そして私達の代になって新体制となりました。今までの練習とは打って変わり、とても厳しくなりました。私達には直さなければいけない所が多くあり、怒られたこともたくさんありました。しかし、それは私達にとってプラスとなることばかりでした。その中で私達は少しずつですが、雰囲気も変わりバドミントンに対する思いも強くなっていきました。その反面、良いことばかりではなく、辞めたいという部員も出てきて何度も話し合いをしました。こういう問題に直面したのも初めてでどうしていいかわからず、辞めてほしくないとただ思うだけで行動に移すことができませんでした。
顧問の先生の助けもあり、誰も欠けることなく１４人全員で頑張っています。
目標である「団体戦県大会出場」は私達にとって簡単なことではありません。ですが、実現するためには全員がこの目標を本気で目指し、プレーでは絶対に最後まで諦めないこと、どんなに強い相手と戦うことになっても絶対に声を切らさないということをこれからも続けていきたいです。
最後の大会までの残り少ない時間を大切にし、悔いの残らないよう全力でやっていきます。

部長　神戸 香穂



第４１号　平成25年6月15日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会



あ　い　さ　つ　静岡県バドミントン協会　　会長　石川 博義

この度会長に就任致しましたのでご挨拶を申し上げます。

静岡県バドミントン協会も皆様のご努力により現在会員数４千名を超える大きな協会となりました。大変頼もしいかぎりで御座います。これからもさらに、５千名を超えるような努力をして行けば協会のさらなる発展が得られるものと思います。

こ　の「バドミントンしずおか」も平成１０年の協会創立５０周年を記念して、上野前会長の発案で創刊されました。以来年３回の発行で今回が４１号となります。県協会が年３回の広報紙を発行している県は他にはないと聞いております。この広報紙をさらに充実して、広く活動をお伝え出来たらと思っています。昨年静岡県で全国小学生大会が開催されました。立派に大会を終了し、女子団体で３位入賞、個人戦でも４組が５位入賞を果たしました。これらの選手を含めて多くの選手が小学校、中学校、高等学校と一貫してバドミントンを続けられる環境づくりが必要かと思われます。

今年度は、８月に全国中学生大会が富士宮市で開催されます。昨年に続いての大きな大会であります。中体連を中心として準備を進めているところですが、大会当日までにはプレ大会を始め多くの課題が残されています。多くの方々のご協力のもとに立派に成功させていきたいと思いますので宜しくお願い申し上げます。

最後に、上野前会長１４年間の偉大な実績のあとを引き受けることとなりましたが、微力ながら精一杯静岡県バドミントン界発展のために精進したいと思いますので宜しくご協力をお願い申し上げます。



退任にあたり　静岡県バドミントン協会　　名誉会長　上野　忠

「光陰矢の如し」とは能く云ったものです。

平成１１年４月、故塩川甫会長御勇退の後、会長職を拝命して７期１４年の間皆さまの絶大なる御協力のもとに、全国高校選抜大会、わかふじ国体、日本マスターズ、全小大会、中部日本大会等の開催の主管。４回の東海地区日韓高校大会の団長を経験させていただきました。また、協会創立５０周年事業の協会史編集にあたり記録の散在でその収集の苦労を思い、会員相互の情報交換など考え協会広報紙「バドミントンしずおか」の発刊を企画実行に移せた事、会長就任時に比べて、登録人員が倍増したことが一番の思い出です。

これもひとえに当時の理事長　石川博義氏、現理事長　杉山敏充氏の絶大なるお力添えと各連盟の御協力の賜物と思います。これからは協会創立当時からの生き字引として皆様のお役に立てればと思います。

退任に当り私自身の力不足のため成年女子の再興、小学生連盟の組織の充実がはかれなかったこと等、多々ありますが次期会長に就任されました石川博義氏を中心に役員、協会員の絆を大切に実現に向かって下さい。

終わりに誠に残念なことでありますが、去る５月１７日協会顧問であり元理事長、副会長を歴任されました大箸昭司氏（県知事表彰・日バ功労賞・県体協功労賞　受賞）が永眠されました。協会創立当時よりご自宅を役員会合の場所として提供していただき御家族の協力をいただきましたことをお知らせいたしますと共に紙面をもってお礼を申し上げ、ここに御冥福をお祈り申し上げます。

協会員の皆様、長年にわたり御協力ありがとうございました。静岡県バドミントン協会の益々の発展を祈念して退任のあいさつといたします。



『平成２５年度県協会事業計画』

静岡県バドミントン協会　　理事長　杉山 敏充

平成２５年度、静岡県バドミントン協会における「総会」が５月１１日(土)富士市に於いて開催されました。今年度は県協会役員の改選年度に当たり新たな役員が総会で承認されました。なかでも７期１４年間に亘り会長職を全うされた上野会長が退任され、新たな会長には現副会長の　石川博義氏が就任されました。また、現副会長の内田壽夫氏も退任され今後は参与として各事業に引き続きのご協力を仰ぐこととなりました。

その他、関連して組織団体役員代表を始めとして各専門委員会委員及び理事が新たに選出、承認され新体制による平成２５年度がスタートいたしました。

尚、これまで長期に亘り会長職を全うされた上野　忠前会長におかれましては長年のご労苦に対し改めて深い敬意と感謝を申し上げるとともに今後は名誉会長として協会運営並びに県バドミントン競技の発展にご指導ご助言を賜りたくお願い申し上げる次第であります。

さて、今年度の県協会事業としては先ずジュニア大会としては全国中学校バドミントン選手権大会のプレ大会として「富士山オープンジュニア大会」が６月８(土)・９日(日)富士宮市民体育館で、「全国中学校バドミントン選手権大会」が８月１７(土)～２０日(火)に富士宮市民体育館、国民体育大会第３４回東海ブロック大会が７月１３(土)・１４日(日)に富士市立体育館にて開催されます。

特に、全中大会は中学生における最高にして最大のイベントであり県内参加選手の活躍を大いに期待するところでありますが、県協会としては主催団体である中学校体育連盟における円滑な大会の運営には総力挙げての協力体制で臨みたいと考えますが、開催市である富士宮市協会、競技・審判役員・補助員、各連盟役員の皆様の厚いご支援ご協力を切にお願い申し上げる次第であります。

また、その他の事業としては例年の協会継続事業としてのジュニア強化、指導者養成、公認審判員養成などを中心に事業展開を図るものでありますが、とりわけ昨年度来、指導者に関わる体罰問題や事業の運営資金(交付金)などそのガバナンス・コンプライアンスにおける大変憂慮すべき事態が学校教育下並びに某競技団体において大きな社会問題化されている現況を踏まえ、県協会としても新しい会長の下、スポーツの持つ本来の楽しさを互いに分かち合える各事業の推進、環境整備、倫理体制などスポーツ文化の確立に一層の力を傾注したいと考えるものでございます。今年度も何卒よろしく願い申し上げます。

浜名高校　　男子・女子バドミントン部

私たちの浜名高校は浜松市浜北区にあり、今年創立１０１年目を迎えました。１学年９学級編成で、全校生徒数 １１００名近い大規模校です。運動部が盛んな本校ですが、バドミントン部は部員数が３学年男女併せて例年１００名以上、全校生徒の１割を占める本校１番の大所帯です(本年度は男子６４名、女子５７名の合計１２１名で、全校生徒の１割強)。

体育館はバドミントン部専用ですが、狭いため正規のコート３面をコート間にネットを張って４面として利用しています。４面練習を多くするため、土曜日、日曜日、休日は男女で午前練習、午後練習を交互に行っています。また、水曜日は男子が休み、木曜日は女子が休みとしています。

コート数が少ないため、実戦的なパターン練習や、ゲーム練習(特にシングルス)が十分できず、時間差練習、ノック練習の多用などで対応しています。オンコートでの練習量が不足しがちですが、西部大会では良い成績を収め県大会に出場することができています。

ただ初心者ばかりであるため、県大会で東部・中部の経験者との対戦はかなり厳しいのが現状です。３年生の高校総体県大会に照準を合わせて少しでもよい結果を残せること、「バドミントン部に入って良かった」と思えることを目標に活動しています。



沼津商業高等学校バドミントン部　顧問　飯嶋雄三、曽根裕子

沼津商業高校のバドミントン部は、先日行われた高校総体の東部地区予選で３年生が引退し、現在は２年生１７名、１年生１３名、計３０名で活動しています。バドミントンの経験は１名だけで、残り２９名は高校から始めた初心者です。水曜日を除く週６日間、平日は１６時から１９時(時間は他の体育館部活と３ローテーション)、休日は午前か午後の半日練習をしています。走り込み、筋トレ、フットワーク、基礎打ち、ノックなどの基本練習を中心に行っており、休日の部活動にはＯＢの方が熱心に指導をしてくれています。

今年の目標は県大会に出場し１勝することです。

部員一丸となって頑張っていきます。



第４２号　平成25年10月15日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会

あ　い　さ　つ　　静岡県バドミントン協会　　会長　石川 博義

会員の皆様お元気ですか、異常気象ともいうべき酷暑の夏も過ぎようとしていますがまだ続く気配があります。これから秋に向かって夏の疲れが出て体調を崩さないようご自愛下さい。

さて、本県では昨年の全国小学生大会に続いて、平成２５年度全国中学生体育大会・第４３回全国中学校バドミントン大会が富士宮市の市民体育館で８月１７日より２０日まで実施されまして、多くの中学生が集まり熱戦が繰り広げられました。

試合結果は、福島県の猪苗代中学校が３年連続男女共に団体優勝し、個人戦でも全種目に男女とも優勝を含め３位以内入賞という偉業を成し遂げました。

静岡県勢は残念ながら入賞には至りませんでしたが、地元の声援に応えてよく頑張りました。そして、この大会を開催したことで大いに刺激となって今後ますますバドミントンに意欲を燃やすことでしょう。

大会の準備・運営に関しては、実に多くの方々の努力と協力がありました。実行委員会会長の芝川中学校長佐藤隆夫先生、事務局長篠原尚紀先生、県部長深澤聡先生をはじめ多数の先生方や生徒諸君や芝川中学校の用務員方は、看板作りに全面協力して下さるなど大会成功のための準備・運営に全面的な協力をして頂きました。おかげで一つのミスも、事故もなく成功裡に終了することができました。

２０２０年東京オリンピックが正式決定し国中がわきかえっています。７年後といえば現在の小学生、中学生、高校生の選手がその中心となることでしょう。全小大会、全中大会開催を経験し刺激を受けた選手諸君は大きな目標が出来ました。過去には、世界選手権で優勝した選手を輩出したことのある静岡県です。

目標を大きく持って頑張りましょう。

祝　東京オリンピック・パラリンピック　開催決定!!



ご挨拶

静岡県バドミントン協会　　副会長　宇佐美 壽英

昨年度から、静岡県バドミントン協会副会長を務めております、静岡県高等学校体育連盟バドミントン専門部長の宇佐美と申します。高校生に対する、静岡県バドミントン協会の皆様の厚い御支援に対しまして、心より感謝申し上げます。

まず、本年度で会長を御退任されました、上野忠名誉会長のこれまでの御功績に対しまして、心から敬意を表する次第であります。上野会長のバドミントンに寄せる熱い思い、バドミントン競技を通して社会に貢献できる人材を育成しようとする強い気持は高校生にも伝わったことと確信しております。

さて、今年の８月には、富士宮市民体育館において、平成２５年度全国中学校体育大会、第４３回全国中学生バドミントン大会が「東海で君が叶える夏の夢」をスローガンに盛大に開催されました。

大会の開催にご尽力されました皆様に感謝申し上げます。私も開会式に出席し、各県中学生の立派な態度に敬服するとともに、富士宮市内の中学生代表の歓迎のことばを聞き、その堂々とした挨拶に感動し、静岡県民として誇りに思いました。また、全国トップクラスの中学生の技術や試合態度を目の当たりにでき、大変参考になりました。試合の線審を担った高校生や観戦した小・中学生にも大きな刺激になったことと思います。

スポーツ競技の中でも最高レベルの体力を必要とするバドミントン競技、そこで勝ち抜いていくための体力づくりに、猛暑の夏にも負けずに励んだ児童・生徒が多かったこと思います。

バドミントン競技に取り組む目的、出場する試合での目標、練習における課題をきちんと定め、自らの成長を実感しながら充実した毎日を過ごすよう、選手を指導してまいりますので、よろしくお願い致します。



東京国体に向けて

年男子監督　岩沢 猛

今年の国体は１０月４日から東京都町田市総合体育館で行われます。本県からは全県フリーエントリーの少年男子が出場します。

選手は工藤有智（伊東高校）、齊藤尚吾（伊東高校）、川島健（富士高校）の３名です。工藤選手は本年度県高校総体でシングルス・ダブルスとも優勝し、県高校選手権、県新人大会に続き、単複とも年間三冠を達成しました。齊藤選手は工藤選手と組んだダブルスで優勝して年間三冠を達成し、シングルスでも初の決勝進出を果たしました。川島選手は県高校総体シングルスで三位に入賞しました。

８月の全国高校総体では工藤･齊藤両選手とも力を出し切れず国体での雪辱、そして、三年間の練習の成果を発揮し、有終の美を飾ろうと毎日の練習に励んでいます。川島選手も全国高校総体には出場できなかったものの、国体に向けて練習に余念がありません。

以上三名の選手とともに、静岡県の代表として出場してきます。ご声援の程よろしくお願い申し上げます。

藤枝西高等学校バドミントン部　顧問　鬼束 浩子　山本 幸憲

私たち藤枝西高バドミントン部は、１年８人、２年１１人、３年１２人、マネージャー２人の計３３人で活動しています。現在は3年生が引退し、1、2年20人で頑張っています。ほとんどが高校から始めた初心者です。

火曜日以外の６日間、先生の指導のもとで練習しています。平日の放課後は体育館の４分の１しか使えず、その中でどれだけ濃い練習ができるか先生が考えてくれています。また初心者が多いので、基礎体力をつけるために走り込みをしています。階段トレーニングやダッシュ練習はとてもきつく、体調が悪くなったり、ケガをする人がでたりします。ですが、部活の仲間と一緒にやることで、いつも以上の力がでたり、きついことも乗り超えることができます。また、コートが使えるときは、ノック練習やパターン練習を中心に行います。パターン練習は実際の試合を想定してできるので、とても練習になります。きつい練習も多いですが仲間同士で切磋琢磨し、お互いを高め合っています。

私たちの目標は「全国大会一回戦突破」です。県でも勝てていない私たちからすると、大きな目標かもしれません。しかし、目標は高いところに持ち、向上心を忘れないためにもこの目標に向けて努力していこうと思います。初心者が多く、県で勝つことも難しいのですが、仲間と一緒に努力し、経験者が多い学校にも負けたくないぐらい強くなりたいと思います。



次の大きな大会は、新人です。新しいチームになってから、初めての団体戦になるので良い結果を収め、県大会でも勝ち進めるようにしたいと思っています。静岡県東部は強いチームが多いのですが、中部でも上位で戦える所を見せられるように、部員一丸となって頑張ります。（文責 部長 大畑　愛）

浜松江之島高校バドミントン部　顧問　岡田　高

私たち浜松江之島高校バドミントン部は、外部コーチの先生、ＯＢ、ＯＧ、顧問の先生などたくさんの方々の指導のもと、１年生男子９名、１年生女子６名。２年生女子６名の計２１名で活動をしています。

平日は２時間かけて体幹強化やフットワーク、基礎打ちといったメニューを全員で行い、その後自主練習２時間のなかで自分のできないところを直し長所を伸ばすため、コーチにアドバイスを利きながらノックや試合形式の練習を行っています。



全員が初心者ですが、恵まれた環境の中で練習ができているので、本年度県高校総体西部大会では学校対抗１位（男子）という成績も残すことが出来ました。

「一試合でも多く勝ち、県大会に出場する」という目標に向けて、部員全員が日々頑張っています。（部長　鳥海　亜実）

第４３号　平成26年1月30日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会

あ　い　さ　つ　静岡県バドミントン協会　会長　石川 博義

新年明けましておめでとうございます。

２０１４年の年頭にあたり会員の皆様のこの一年のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

昨年は全国中学校バドミントン大会も皆様の絶大なるご協力により無事終了いたしました。一昨年の全小と昨年の全中この二つの大会を開催して思うことは、ジュニアの養成が重要であることを痛感しています。

２０２０年東京オリンピック開催が決定いたしました。この機に静岡県からバドミントンのオリンピック選手を出したいと思います。新年にあたりこんな夢を持つことも楽しいではありませんか。

そのために、ゴールデンエイジと呼ばれるジュニア養成が急務となります。６年後の彼らの活躍を思うとき、環境の整備・指導者の養成・選手強化が必要となりますが、どの分野を見ても静岡県は多難であります。

すべて一朝一夕にできるものではありません。環境の整備は、選手はどうしても日常の練習が重要になって来ますが、指導者を含め整って居ません。特に小・中・高の一貫した活動環境が少ない。早急に指導者の配置・新部や新クラブの創設を図る必要があります。

指導者の養成も大切な分野です。現在、理事長を中心に全県にわたって養成講座を開いております。幸い多くの方々が参加をして頂き盛況であります。現在、コーチ・上級指導員・指導員を含め１３０名以上となっている状況です。この数は、全都道府県の中で五本の指に入る数であります。誠に頼もしいことであります。今後この指導者の活躍が期待されるところです。

選手強化では、数々なかたちがありますが、日本バトミントン協会も小・中・高の一貫強化体制の下、予算を組み全国で展開しています。静岡県も１月１１・１２・１３日ジャトコ体育館で県下小・中・高のトップクラスの選手約３０名が一堂に会して、伊東市出身で元全日本チャンピオンの片山卓哉氏を招待して３日間の強化合宿を実施しました。理学療法士でもある彼は身体の構造、動きから来る問題点を小学生は理解力を考慮して、印象に残ればいいものと、明確に覚えてもらうものを分けて指導する等、素晴らしい指導でした。

最後に静岡県がバドミントンの強豪県に成ることを楽しみにしていると語ってくれました。今後も機会ある毎に強化合宿や遠征を組んで行けたらと思います。静岡県からオリンピック選手をと最初に述べましたが、それぞれが新年に当たり大きな夢を持って行って頂きたいと思います。



学連の一層の飛躍を願って

静岡県バドミントン協会　副会長

静岡県学生バドミントン連盟　　会長　齋藤　聡

新しい年を迎え皆様には健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。今から２２年前の平成４年に静岡県学生バドミントン連盟が産声を上げました。

それは当時協会会長の故塩川甫先生のご尽力のおかげでした。初代会長を塩川先生にお願いし、平成１２年度からは、現協会名誉会長の上野　忠先生に会長を務めて頂きました。平成２１年より私が３代目の会長を引き継いでおります。この間、県協会のご協力とご援助の基、順調に発展して参りました。現在では、県内ほとんどの大学および学部の部活が登録されており、春と秋の２回行われる団体戦と年度末開催の個人戦を主催し、県協会審判部の協力で年１回、審判講習会を開催しております。平成２５年２月に開催された常任委員会の席上、当時浜松大学(現常葉大学浜松キャンパス)の松永君から学連の試合数が少ないのでもっと試合数を増やして欲しいという提案があり、議論を重ねて、新しい試合を開く方向で決議されました。

その際、宮原副会長から冠大会にして学連会長杯としてはいかがかとの提案がありました。私としても現在主催している団体戦と個人戦で年間に３試合では学連の目的である「静岡県における学生バドミントン競技の進行と技術の向上に務め、併せて、会員相互の親睦と融和を図ること」に鑑み、その提案を受け入れることにしました。提案のあった浜松大学を中心に試合の計画をお願いすることとなりました。

会長杯は、団体戦でスチルマンカップという男女のシングル、男女のダブルス、ミックスダブルスという男女が一緒になった試合形式で行われました。新しい形式の試合で普段とは違った様子で各大学とも応援に非常に力が入り大会は非常に盛り上がりました。このように自分たちの現状から、新しい方向性を探って物事を実現していくことは、社会人として重要なスキルになると思います。この大会の成功は、この大会が学連の新しい顔として歩み始めたことを示しています。皆様には、今後とも学連の活動を温かく見守りいただき、学連が益々発展することを願っております。



県協会新年に当たり

静岡県バドミントン協会　理事長　杉山　敏充

明けましておめでとうございます。

昨年の夏、日本中が猛暑に見舞われたなかでの開催となった第４３回全国中学校バドミントン大会（富士宮市民体育館）におきましては地元の皆様を始め県内多くの皆様から温かい励ましやご声援を頂き誠に有り難うございました。

当協会としても、中学校における全国大会の開催は初めてということもあり３年前の岡山大会からの視察に始まり大会成功に向けての準備に取り掛かりましたが、リハーサル大会を経て本大会の無事終了に至るまで競技運営全般に関わる数々のご支援ご協力を賜りました関係の皆様には厚くお礼申し上げます。

この大会では全国各地から参加して来られる選手や皆様を「おもてなしの心で出迎えよう」と関係中学校職員及び生徒の皆様は連携の輪を組んで大会の準備、運営に携わったと伺いましたが、そのきめ細やかな数々の心配りは大会成功の根幹を成した部分であり深く敬意を表する次第であります。

また、大会終了後は、県中学校体育連盟会長の大長　功様を始め大会実行委員会の佐藤隆夫会長（芝川中校長）及び全中バドミントン事務局長の篠原尚紀先生（県中体連専門委員長）から本協会に対して丁重なるお礼のお言葉を頂戴致しましたが、関係の皆様にはこの場をお借りし改めてお伝え申し上げます。

さて、昨年はスポーツ界における明るい話題として６年後の東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し日本国中が歓喜の渦に包まれたが、私達、スポーツに関わる人間としてこの上ない喜びと期待に胸弾む思いである。

開催の決定要因については、その招致活動において「お・も・て・な・し」の呼びかけが選考委員の共感を生み、決定のポイントとなったことは言うまでもありません。心を込めてお世話をするというこの「一言」は端的にして的確に人心をつかんだが、今後は二言なき確かな実行力が問われることになります。

おそらく、開催都市東京に程近い私達の静岡県には６年後を前にして各国からのアスリートやその関係者の訪れで県内各地は多くの賑わいと盛り上がりを見せるでしょうが、その中にあって私達競技団体も精一杯の心遣いと誠意ある取り組みを果たしたいものである。

ところで、年末に本県バドミントン界の現状と今後の展望について某スポーツライターと幾度か話す機会を得たのであるが、当協会も昭和２４年の発足から数えて６４年を経過するに至り、先人のご労苦や大会の開催、運営、また競技記録など一つ一つの歴史を紐解く中、その活動の持つ意義・役割など協会運営に携わる一員として改めて責任の重さを痛感した次第であります。

当協会は、その歴史上取り分け本県出身者による世界選手権優勝や全日本総合選手権優勝などの輝かしい競技歴が私達の誇りとなり普及・発展の礎となってきた経緯がある。

が、しかし残念ながらここ数年はそれに甘んずるが如く本県バドミントン界における明るく華々しい活躍は影を潜め全国上位入賞や世界へ向けての壁は思いのほか厚く圧し掛かっている。

そんな状況の中、この東京五輪開催は私達にとって捲土重来、復活の第一歩と期すべき大きな意義を持つ。

私達団体は、言うまでもなく『スポーツ競技団体』であり紛れもない。その主たる目的の中にあって競技力向上は究極の使命であり、普及の原点でもある事を断じて忘れてはならないのであって、その一環として数年前より実施している指導者養成についてはジュニア指導者の関心や高まりもあって、今年度で有資格者数は130名を超えるなど全国でも上位県の内にある。

現実、これら有資格者におけるスポーツ諸科学に裏打ちされた指導体系は功を奏し、全国に名を連ねる小学生選手を毎年のように輩出する勢いを見せるなどこの段階での育成は極めて順調と言える。

しかし、この伸び盛りにあるゴールデンエイジ期の若きアスリート達が更に上達を目指す専門・競技トレーニング時期となるジュニアユース段階に入る過程に於いて、その受け皿となるべき活動場所や指導者などその一貫指導体制を取り巻く環境は必ずしもこれら選手の期待に沿うものではなく、現実問題として中学校段階で大会への参加もままならない状況下に置かれる選手や新たな活動の場を求め条件の見合う地域や県外にまでも活躍の場を移す選手など山積する課題は余りにも多く深刻である。

折しも、平成３０年に開催予定の全国高校総体は東海ブロック地区合同開催となり競技種別はそれぞれ４県にまたがるのであるが、バドミントン競技は静岡県と決定した。

“All　for　player　全てはプレーヤーのために”　これら 喫緊の課題を無理難題と手を拱いてばかりはいられない。年頭に当たり心新たにしつつ、本年も皆様の厚いご支援ご協力を切にお願い申し上げます。

静岡新聞　掲載記事　特集　静岡の風　バドミントン　上・下

世界制覇貢献 逸材生む


スポーツ 静岡の風
バドミントン 上
世界制覇貢献 逸材生む

終戦２年後の１９４７年(昭和２２年)、新制の富士中が学校体育のモデル校に指定されたのを受け、体育主任を務めていた塩川甫(元県バドミントン協会長)が女子体育の教材にバドミントンを取り入れた。ここから本県バドミントンの歴史が始まったと、同協会理事長の杉山敏充は県高体連５０周年記念誌に記している。

５０年に第１回県選手権が開かれ、この年、富士、富士見、沼津東の３高校にバドミントン部が誕生。その後、中部、西部地区の高校にも波及、１中学校に端を発した動きは県内に波及した。国体は、公開競技だった４９年の東京大会から参加、５７年１巡目静岡大会で掛橋良子（沼津西）、西村弘子、佐野禎子（ともに富士見）の高校女子が準優勝し、県勢初の全国大会上位入賞を記録した。

５９年の２巡目東京大会は高校女子が伊沢利子、志村セツ子、石原待子の富士見トリオで臨み、再び準優勝した。

６１年には初の全国チャンピオンが誕生した。高校総体に出場した望野政枝（富士見）で、女子シングルスで見事に金メダルを手にした。この年の国体秋田大会では高校女子が高木紀子、天野博江（ともに掛川西）影山昭子(吉原)の布陣で三たび準優勝。高木と天野はプレーヤーとして成長を続け、５年後には世界タイトルを獲得する。

６６年のユーバー杯で日本は初優勝した。ユーバー杯はバドミントン女子の国・地域別対抗戦で、日本は決勝で米国を退けた。高木と天野は主軸として活躍、世界制覇に大きく貢献した。高木は７２年のミュンヘン五輪にも参加し、公開競技ながらシングルスで金メダルに輝いた。

女子が気を吐く中で、男子は富士高勢が高校総体で奮闘した。５８年に三浦三作がシングルスで準優勝し、高校総体では男女を合わせ、初めて上位に進出した。６２年には斉藤正勝がシングルスで３位と健闘、さらに６７年、笠井好美・笠井教行のペアがダブルスで準優勝している。

富士高ペアの活躍を最後に、県勢は全国上位の座から遠ざかった。だが、８２年の国体島根大会で成年女子が３位と、久々に上位に駒を進めた。

国体は８３年の群馬大会で成年女子が２位、成年男子３位、９０年の福岡大会でも成年女子が２位に入った。いずれも日本楽器（現ヤマハ）など、企業組が存在感を示した結果だった。

指導者育て 低迷打開へ


スポーツ 静岡の風
バドミントン 下
指導者育て 低迷打開へ

２００３年(平成１５年)３月、富士宮市でバドミントンの全国高校選抜大会が開かれ、地元の舞台で星陵女子が躍動した。星陵は２回戦から登場すると、旭川実(北海道)、淑徳巣鴨(東京)、聖ウルスラ学院(宮城)を連破して決勝進出、熊本中央(熊本)と対戦した。　伝統校を相手にした一戦はダブルス二つを落とし、1−2の窮地に追い込まれた。しかし、残るシングルスでまず村松瑞穂がタイに持ち込み、最後は主将の金森裕子が、確実にポイントを奪って3−2で逆転勝ち。本県に初の団体優勝をもたらした。

星陵の金森・村松ペアは、夏の高校総体ダブルスでも決勝に勝ち上がった。相手は団体優勝の聖ウルスラの平山・松村。第一セットを失ったが、粘りを発揮して2−1と逆転、県勢として４２年前に望野政枝(富士見)がシングルスを制して以来の総体チャンピオンの座に就いた。

この年、２巡目静岡国体が開かれ、高校勢の選抜、総体の活躍もあって期待を集める中、競技別天皇杯（男女総合）で６位に食い込んだ。

天皇杯入賞は１３年ぶりだった。

ところが、０３年を除けば、全国舞台で上位に勝ち上がることができないのが県バドミントン界の現状である。県バドミントン協会前会長の上野忠と理事長の杉山敏充は、「指導者不足」を低迷の最大要因に挙げる。

現在、県内の高校でバドミントン部が活動しているのは６０校で、部員総数は約２千人を数える。しかし、中学校は２４校、約７００人にとどまっている。指導者不足は中学校が特に顕著であり、それが高校の半分にも満たない部活実態につながっている。もともと競技熱の高かった東部だけでなく、中部、西部地区でも小学校生を対象にしたクラブが活動し、ジュニア層のレベルは高まっている。だが、中学校段階になると受け皿不足が目立ち、県外へ活動の場を求めるケースも生まれている。取組やすいことから生涯スポーツとして普及し、バドミントン人口は増加傾向にある。しかし、競技スポーツとしての裾野は広がりを見せていない。

こうした状況をいかに打破するか―。そのカギは指導者不足の解消に懸かっているのは間違いない。

このため、県バドミントン協会は研修会の実施し、指導者の養成と質の向上に力を注いでいる。

（敬称略）　（スポーツライター・加藤訓義）

（新聞掲載文）

BWF 世界シニア・バドミントン選手権大会２０１３（トルコ・アンカラ）

芝崎侑司様　７０歳複　金メダル
湯山浩子様　５５歳複　金メダル・５５歳混合銅メダル



県協会石川会長と湯山様





湯山様　金メダル

県ﾚﾃﾞｨｰｽ連盟会長角谷と湯山様

県大会に向けて

沼津中央高校バドミントン部　顧問　秋庭 直輝

私達、沼津中央高校バドミントン部は、現在男子６名、女子８名の計１４名で活動しております。
体育館やホールにて、切磋琢磨して練習に励んでいます。
まだ実績はないですが、自分にストイックに日々の練習に励み、様々な高校と合同練習や練習試合をしてもらった結果、着々と力をつけることが出来ました。２年生は引退まで残すことあとわずかです。チーム一丸となり、県大会出場という目標を果たすために頑張ります。（文責　部長　伊藤 純菜）



島田樟誠バドミントン部　顧問　中田　昇

島田樟誠高校バドミントン部の創部は今でははっきりしていませんが、静岡の中部に男子バドミントン部が４校しか無かったころからあったようです。現顧問の中田先生は２００３年から顧問を続けています。現在の部員で中学校以前のバドミントン経験者はおらず、今年度の大会も個人ではベスト十六が最高です。
平成２２年度、２３年度、２４年度には経験者が入部し最高で地区三位、団体では県ベスト８まで行っています。
普段の練習は外を走りアップの後、ストレッチ、決められたトレーニングそしてフットワークを１時間半かけてやります。その後はノック中心に練習をします。内容はスピード練習・技術練習・体力練習と目的に応じて練習内容を考えてやっています。（以下は部員の作文を載せます）

僕はバドミントン部に入り、とても難しくて大変なスポーツだと思いました。でも体力や筋力がつくので、頑張り甲斐があります。（Ｉ君）

僕にとっての高校生活におけるバドミントン部は思い出になるし将来働く時のための体力作りにもなり有意義なものだと思います。（A君）

僕の高校生活におけるバドミントン部は心身や体力を鍛える場であり、部内や他校との人間関係の交流の場でもあります。（N君）

高校でバドミントン部に入ってバドミントンがとても難しいということがわかりました。体力も中学の時よりも付いてメンタルもちょっと強くなりました。（N君）

高校生活におけるバドミントン部は一日一日の練習を大切に行い集中力や体を鍛えて自分を成長させる場だと思います。（K君）

私は２年半のバドミントン部を通して礼儀と仲間との絆を学ぶことができました。一人では強くなれないし、礼儀ななくては社会でうまく過ごしていけません。（S君）

バドミントンは最初にイメージしていたのと全然違って、とても難しく体力と技術が必要なスポーツだと思いました。（S君）



第４４号　　平成 26 年 6 月 15 日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会

あ　い　さ　つ　静岡県バドミントン協会　　会長　石川 博義

新緑の５月、シーズンたけなわであり、何処の地域、連盟もご多忙の中ご活躍のことと思います。

そして静岡県のバドミントン振興、推進の為にご尽力頂き感謝しております。

前号でも申し上げましたが、東京オリンピック開催に向けて、各方面で盛り上がっております。

静岡県でも、静岡県文化・観光部交流推進課スポーツ交流室に静岡県東京オリンピック・パラリンピック推進本部を立ち上げ、競技力の向上や事前合宿の誘致、観光誘客を進めています。

オリンピックの開催効果を本県へ波及させるべく、特にアスリートの事前合宿の誘致について、スピード感を持って対応していくと考えております。

静岡県バドミントン協会もこれらに則り各方面で活動していかなければなりません。

今回、小川圭太・平岡祐太両君が県のオリンピック強化指定選手に選ばれました。これから彼等の活躍の場が広がって行くと思い応援して行きたいと考えております。同時に広くジュニアの養成に力を注ぎ、県全体のレベルアップのため指導者の養成、強化練習の充実、機材の充実等を合わせながら推進して行きより効果の上がる体制をつくりたいと考えております。会員の皆様宜しくご協力をお願いいたします。

御　挨　拶　静岡県バドミントン協会　副会長　岩城　明



この四月に県高校体育連盟のバドミントン専門部長に就任しました。

県立富士高等学校校長の岩城と申します。どうぞよろしくお願いします。

バドミントンの魅力は、あらゆる球技のなかで、最も初速が速いと言われるスマッシュと、それを打ち、拾うフットワークのスピード感に加え、緩急を使い分ける相手との駆け引き、ダブルスにおけるパートナーとの　コンビネーションなど、とても奥深いものがあります。そうした魅力に惹かれた多くの高校生がバドミントンに取り組んでいます。

彼らには勝負へのこだわりとともに、バドミントンを通して心身を鍛え、人間形成や友情を培って欲しいと思っています。さて、今年度も八月に東京を中心とした南関東(バドミントン競技は千葉県)で開催される全国高校総体(インターハイ)の出場権をかけた熱い戦いが各地で繰り広げられています。全国を目指す高校生にとって、２０２０年の東京オリンピック招致決定のニュースは大変大きな励みになるものでした。一人でも多くの静岡県出身の選手がオリンピックの舞台で活躍することを期待したいと思います。

高体連の役割は、教育活動の一環として行われる健全で有意義な部活動を推進することにより、インターハイ、さらにはオリンピックに代表されるような全国大会・国際大会で活躍できるトップアスリートの育成と、年齢・性別を問わず、生涯スポーツとしてバドミントンを楽しむ愛好者の拡大です。

今後とも高校生の活躍のため御支援、御協力をよろしくお願いします。

小学生強化合宿　　東京オリンピックを目指す選手たち







２６年度事業計画とバドミントン協会の今後の抱負

静岡県バドミントン協会　　事務局長　山本 秀和



平成２６年度も４月１日スタートしました。本協会４月１９日に総会を行い、活動方針・活動計画・予算等ご確認を戴き、実質スタートを切る事が出来ました。

また、大会も４月１３日には、最初の行事として、全日本シニア県予選会が行われ２６年の競技会のスタートも切られました。昨年度は全国中学校総合体育大会、国民体育大会東海ブロック大会と大きな大会が行われ多くの方々のご協力により無事終了する事が出来ました。特に主会場としてご協力戴きました中学校体育連盟、富士宮市・富士市協会には大変な暑さの中ご苦労戴いたことに感謝を申し上げます。昨年の大会を振り返り空調設備のある体育館の必要性が更に感じられた大会であったと痛感いたしました。今年度は東海小学生個人戦以外大きな大会の予定はありませんが、平成30年度に実施される予定の全国高校総合体育大会開催に向け新たな準備を進める初年度ともなりますので今まで以上のご協力をお願い致します。

浜松大平台高校バドミントン部　　顧問　笹川 真一

浜松大平台高校バドミントン部は、高校創立とともに誕生し、今年で９年目となる新しいチームです。現在、男子部員１６名、女子部員１８名、マネージャー１名の計３５名が毎日の練習に励んでいます。体育館は、定時制の授業や部活動との共用のため、平日は練習時間が２時間弱だったり、練習スペースが、コート２面分に限られたりと、十分練習が行なえない日もあります。そのため、近くの佐鳴湖の湖岸を走って、脚力アップを図ったり、限られた時間や場所を有効に使えるようメニューを工夫しています。練習の効果を上げるためには高い目的意識と、何ができるかを常に考え、無駄なく動くことが求められます。その点では、まだまだ不十分な面も見られますが、顧問の先生の指導を受け、よりよい練習ができるよう、部員全員で努力していきたいと思います。バドミントン部では、技術の向上だけでなく、あいさつや礼儀をはじめ、勉強面でも行動面でもしっかりした高校生活を送る中で、部活に全力を尽くすことを目標としています。しっかりとした部員であってこそ、ゲームで持てる力を全て出し悔いなく戦うことができると考えています。この気持ちを忘れずに、男子は県大会ベスト８以上、女子は県大会出場を目標に、部員全員が一丸となって頑張っていきたいと思います。



島田商業高校バドミントン部　　顧問　渡仲 美央

私達バドミントン部は男子１４名、女子２４名計３８名で活動しています。最近は経験者の入部も少なく、戦績は下降気味ですが、高校から始めた選手、中学時代の実績のない選手でも島商で大きく成長し毎年県大会で良いゲームができるようになっていることが本校の特徴であり自慢です。

練習は毎日３時間、土日は４時間、欠席者も少なく男女共とても仲が良く、緊張感の中にも和気あいあいとした雰囲気の中で練習できています。女子に比べ男子の人数が少ない分、少しおとなしい面があるので男子にはもっと活発になってもらいたいと思います。

私達はこれからも県大会上位進出を目標に、部員一同心をひとつにして努力していきたいと思います。　部長　松田瑞希



誠恵高等学校バドミントン部　　顧問　服部 太郎

今年で、創部２６年目になりました。

私は、高校時代バドミントン部に所属し、全中で大活躍された荒井氏や杉山氏と共に練習する機会を与えられました。講堂での練習が、まるで昨日のことのようです。さて、本校のバドミントン部は、部長の藤田君（清水中）を中心に練習を重ねています。今夏は、スマッシュ・ヘアピン（連結）の完成を目指しつつ、レシーブやショートスマッシュに慣れることを課題としました。初心者は、前後の動き、クリアーやサーブ練習をたくさん致しました。コート外では、①「三歩以上は駆け足」②「視界に入ったら挨拶」③協力原理に基づくバドミントン主任制度を中心に、仲間や自分を大切にするような組織作りに力を入れております。

秋以降は、ウエイトトレーニングを取り入れて、足腰の強化を図ります。この夏休みは、笑いあり、涙ありの充実した時間を楽しむことが出来ました。ところで、今こうしてバドミントンに携わることが出来るのも、顧問になりたての頃、当時静岡県で７連続　インターハイ出場という快挙を果たされ沼津市からは、ベスト指導者賞を受賞された、沼津学園（現飛龍高等学校）の顧問をされた杉山敏充先生のおかげです。駆け出しの私は、３年間先生のもとに教えを乞い、「金曜練習会」に参加させていただいたりしました。生徒さんからは「鬼さん」と呼ばれ『集中力』という部旗のもと、厳しさと絶大な信頼をもとに徹底した指導を実践されておられました。これからも先生のご指導に近づけるよう、頑張りたいと思います。



第４５号　平成26年10月15日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会

第６２回静岡県高等学校総合体育大会バドミントン競技

期日：平成26年５月18日　会場：沼津市民体育館



男子団体
優勝　星陵高等学校

女子団体
優勝　星陵高等学校





男子ダブルス　決勝
仁藤・米山（星陵）



男子シングルス　決勝
深澤浩弥（星陵）



女子ダブルス　決勝
河合・山田（星陵）



女子シングルス　決勝
勝俣莉里香（御殿場西）

国体と生涯スポーツ　静岡県バドミントン協会　副会長　工藤 喜久雄

平成２６年度も早いもので上半期が終わりますが、各連盟の指導者の皆さんには本年度の協会の活動方針に従い「競技力の向上と強化を通じ国内外の大会において優秀な成績を獲得する」ため選手の指導に取り組んでいただいておりご苦労様です。今年も７，８月の猛暑のなか各種の全国大会が行われました。
参加された選手は自分の実力を十分発揮することが出来たでしょうか。不十分であるならこれらの試合を良き経験として更に上を目指して技術等向上に励んでもらいたいと思います。競技力の向上は短期的に出来ることではありませんが他県の選手と本県の選手の違いは何なのかその差を生めるために何をすべきかということを選手も含め協会全体で考えていくことが必要ではないかと感じています。

生涯スポーツとしての、バドミントンは多くの市町で毎週のように大会が行われており、その人口が増加し大変喜ばしいことであります。
反面、県総合や社会人大会といった県内の頂点を目指す大会への出場者は減少傾向にあり競技スポーツとして広がっていないのが現状ではないかと思いジュニア選手の育成の重要性を痛感しています。
このジュニア世代を育てることが競技力の向上に繋がっていくものとおもいます。協会として指導者の養成と資質の向上を図ることや選手強化に取り組んでおりますが指導者の皆さんには自身の豊富な知識や経験で培ったことを生かし全国で戦える選手を育て頂くことを願っています。

１０月の長崎国体に出場される選手は県代表として頑張って下さい。

生涯スポーツとしてバドミントン　静岡県バドミントン協会　副理事長　日下部 敏弘

バドミントンを始めて半世紀，良くも長く続けていると思う。バドミントンの面白さ、魅力についてひと言では難しいですね。私なりに思う事は、心理的な駆け引きの中にシャトルのスピード変化を使った「攻めぎ合い」で、読みが合致した時の満足感ですかね！
気力・体力が必要なことは勿論ですが、半世紀を経験している現在でも思う様にプレーできないもどかしさ、奥の深さを感じます。このバドミントンの魅力を多くの人に伝えたいと、現在「少年団」と６０歳以上の「高齢者」を教えています。今回、静岡市清水区で行っている「高齢者教室」について紹介したいと思います。

教室は週１回、清水区内の体育館で活動しています。定員７０名の所、定員をオーバーする程、人気があります。当初２０名程度でしたが、健康志向の機運が高まり、年々参加者が増えました。高齢者の方は皆さん元気で出席率が良く意欲があります。指導する中で一番怖いのが怪我です。特に転倒による頭部を強く打つことが心配です。この為、準備体操として毎回フットワークを兼ねて後ろ向きのスッテプを取り入れています。
それから、ストレッチ体操は時間を掛けて行っています。高齢者は、これからの生き生きした人生を過ごす為に体を動かす事が必要と考えます。それにはバドミントンが最適ではないでしょうか！
先月号で副会長の岩城先生が述べていた様に、生涯スポーツの拡大、正に同感です。
私も、生涯スポーツとしてバドミントンを高齢者の方に、広くひろめて行きたいと考えています。

ジュニア育成について　富士市バドミントン協会　会長　小倉　照夫

富士市バドミントン協会は昭和４１年２市１町の合併により旧富士市・旧吉原市バドミントン協会が合併して、富士市バドミントン協会が新しく設立され今日に至っております。昭和２２年に富士中学校が体育のモデル校として指定を受けた時、同校に導入されました。これが県バドミントン史の開幕となったと言えましょう。従って富士市は静岡県バドミントン発祥地となったのであります。
以前は岩松中学校・富士中学校・吉原第１中学校(女子のみ)にバドミントン部があり優秀な選手を排出して参りました。現在は富士市にはありません。
ジュニアクラブは岩松ジュニアと富士中央ジュニアがあり年間２回外部コーチを招き強化練習会を実施しています。この選手たちが卒業していくと中学校に部活が無いため３年間他の部活に入り高校からまた始める子たちが多くいる現状です。富士市はバドミントン人口が以前よりだいぶ多くなってきておりますが、優秀な選手がなかなか出てきておりません。ジュニア育成について県協会・市協会の連携を密にして、いろいろなご意見などを受けながら邁進していきたいと思います。

国　体　抱　負

長崎がんばらんば国体 2014
2014年10月12日(日)～22日(水)

成年男子は４年ぶりの本国体出場です。前回（千葉国体）は初戦敗退と不甲斐ない結果でした。
今回まずは初戦突破はｍｕｓｔ！目標はベスト８以上！メンバー的にオーダーも多彩に組め大変楽しみです。
選手には結果に拘りつつ楽しんでプレーしてもらいたいと思います。
私的にも国体出場１０回目となり楽しんできたいと思います。応援よろしくお願いします。

成年男子監督山下豪　国体出場選手　　成年男子：細田慎二・山崎大嗣・河野大地
少年女子：河合莉咲・勝俣莉里香・山田圭菜

加藤学園高校バドミントン部　　顧問　高橋 升美


（写真は平成２６年度３年生　男子１５名　女子１５名）

本校バドミントン部は、ほぼ高校初心者の集まりですが、男女３学年で７０名を超える大所帯です。
練習環境は男女で２面と決して恵まれた環境ではありませんが、それを言い訳にせず工夫しながら日々の練習に取り組んでいます。また「どうせやるなら一生懸命、心をひとつに」をテーマに、１つ１つの練習を全力で行い、仲間と心をひとつにすることを大切にしています。さらに朝清掃などを積極的に行い、自分達が、　　バドミントンをできることに　感謝し、周囲から応援される　選手チームを目指しています。今は地区大会敗退が現状ですが、少しでも県内上位校に近づけるようこれからもチーム**「心をひとつに」**頑張りたいと思います。

指導者養成講習会





平成２６年度公認スポーツ指導員(バドミントン競技)養成講習会は、８月９日(土)から９月２７日(土)までの２カ月間の間に８回の講習会が行われました。
講師は、静岡県バドミントン協会理事長の杉山敏充先生で、「バドミントンの指導理論・トレーニング理論・スポーツ心理学・バドミントンの歴史など」の内容を御教授頂きました。
（内容については、盛沢山で、文章では書ききれませんので、一部を抜粋したものです。）
受講生は講義内容を基に、ご自身の指導にあたる対象者に合わせた、課題克服のためのトレーニング計画立て、実際に指導にあたる際の実践指導方法なども、身をもって実践していました。

～受講生の声～：・最近始めた人たちに、どの様に教えたらよいか悩んでいましたが、杉山先生のおかげで、教え方が、明確に論理的になりました。・自分自身のプレーにも非常に役に立ちました、ラギングバック、タンブル大切ですね。発育・発達上達の違いの多い年齢に対しての指導法勉強になりました。

第４６号　平成 27 年 1 月 30 日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会

第31回 全日本シニアバドミントン選手権大会 2014 in 愛知 11/21(金)→24(月)

愛知県で行われました標記大会で、栗　佑貴さんが、30 歳以上男子シングルスの部で、優勝という輝かしい成績を修めました。





石川会長より表彰

平成二十六年度静岡県高等学校新人バドミントン大会

期日：平成 26 年 10 月 25・26 日　会場：沼津市民体育館

学校対抗　1位から 3 位は東海大会に出場



男子団体　優勝　星陵高等学校



女子団体　優勝

星陵高等学校



女子団体　準優勝

富士見高等学校



男子団体　準優勝　伊東高等学校



男子団体　3位

伊東商業高等学校



女子団体　3位

常葉菊川高等学校

第23回 全国小学生バドミントン選手権大会



6 年生女子ダブルス準優勝

鈴木彩也花・内田優衣

（広幡バドキッズ）

第 26 回　東海小学生選手権大会（個人戦）



6年生以下男子ダブルス

優勝　海野凌我・森遼太

（富士山バド）

第 31 回全日本シニアバドミントン選手権大会

平成 26 年 11 月 21 日～24 日　愛知県

ベスト 8

35 歳以上男子シングルス　佐野智久

35 歳以上女子シングルス　中山祐美

35 歳以上男子ダブルス

佐野智久・中澤健亮（静岡・茨城）

70 歳以上男子ダブルス

芝崎侑司・伊藤晴光（静岡・神奈川）

55 歳以上女子ダブルス

太田清子・湯山浩子

新年のあいさつ　　静岡県バドミントン協会　　会長　石川 博義

新年明けましておめでとうございます。
２０１５年の年頭にあたり会員の皆様のこの一年のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げますと共に静岡県バドミントン協会の発展のためにご尽力頂きますようお願い申し上げます。
去年のバドントン界の様子を見ますと日本バドミントン協会は、多くの国際大会に選手を派遣し素晴らしい成績を残しております。
その筆頭は、トマス杯優勝、ユーバー杯２位の成績でしょう。その他ジュニア、ユース、各国オープンに参加をし、そのほとんどの大会で優勝又は上位入賞をはたし、日本が世界の中で確固たる地位を保持しています。大変喜ばしいことです。
国内を見ると全日本総合で高校生の山口茜さんがシングルスで優勝するという快挙を成し遂げて居ます。
彼女は中学２年生の時から全日本総合に出場して予選を突破して本線で大学生相手に大健闘しています。
県内では小学生が全国小学生大会、ＡＢＣ大会で上位入賞果たしています。
これらの選手を含めて多くのジュニアの選手の皆さん山口さんを目標に頑張ってください。
今後の県内の行事について見ると、平成２９年の全国レディース大会、平成３０年に全国高校総合体育大会が静岡県で開催されます。その会場地と決定と運営の為の人員の確保を早急に進めなくてはなりません。
私は過去において、国体をはじめ大きな大会の開催に係わってきましたが、何といっても大事なことは「人」です。お金や物は無くても人さえ居ればどんな困難でも乗り越えられるというのが私の持論です。
これらの大会を成功させるには、非常に多くの人が係わります。
それも目的意識を持った人と云えるでしょう。
もちろん中心となるのは、レディース連盟であり、高体連という事になりますが、県協会は全面的にバックアップして支えていきます。
今後、審判資格、指導者資格と様々な問題も起こって来て皆様のご協力が必要となってきます。全国から参加する選手の皆さんが気持よく、楽しく試合が出来るように、余り時間がありませんが、今から心がけていきましょう。本年もよろしくお願い申しあげます。

「県協会近況報告」東京オリンピック・パラリンピックを前にして

静岡県バドミントン協会　理事長　杉山 敏充

明けましておめでとうございます。
昨年は、県協会の各事業にご協力を賜り誠に有り難うございました。本年もまた昨年同様のご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。
さて、一年が本当に早く感じられますが昨年の冒頭、東京オリンピック・パラリンピックの開催決定を機に静岡県は今後各国のアスリートやその関係者で多くの賑わいを見せることでしょうと予測しましたが、いよいよそれが現実的なものとなって参りました。
皆様ご承知の通り、平成２３年にスポーツ基本法が制定されましたがその前文には「スポーツは世界共通の人類の文化」であるとし、スポーツは人と人との交流を促進し地域の一体感や活力を醸成する重要な役割を果たすとされているのですが、その実現に向けての取り組みの一環として「ホストシティ・タウン構想」があります。この「ホストシティ・タウン構想」とは２０２０年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、全国の　自治体と参加国の人的、経済的、文化的な相互交流を図ることにより地域の活性化、観光振興に資する観点から政府全体で推進する取り組みであります。
従い、政府としては自治体の取り組みが東京大会の直前ではなく大会開催の数年前から開始されることを期待し、自治体の創意工夫による多様な取り組みを後押しつつ大会の機運を日本全体で盛り上げていくこととしているのである。
これを受け本県では、逸早くこの構想の実現に向けての推進本部が庁内に立ち上げられ地元選手の競技力の向上や事前合宿の誘致、観光誘客等を進めるための第１回東京オリンピック・パラリンピック推進会議が、昨年の５月に開催されたのであります。
委員会の構成員はスポーツ振興に関わる体育協会、競技団体及び市町の教育、文化、観光、商工会等で、全県一体となる体制での準備に入り当然、私達県協会もその一員としてこの事業への推進、協力、支援、に名を連ねたのであります。
そんななか、第２回目の推進会議が９月末に開催され事前誘致合宿についての具体的戦略（骨子）についての議論を開始したのですが、折しもその直後に中華台北（台湾）から本県における合宿候補地としての下見要望

が届いたのであります。それは、中華台北羽球協會（Chinese Taipei Badminton Association）からであった。本県として初めての誘致合宿への取り組みが私達のバドミントン競技となったのである。

以来、事は急速に進み１１月には中華台北羽球協會秘書長の蔡鴻鵬氏が来静、静岡市及び富士宮市への入念な視察も行われたのであるが、聞くところによれば、中華台北におけるバドミントン人口は百万人に達すると言い、会員登録二十六万人を目指す日本とは比較にならないメジャースポーツとして広く国民に親しまれているとのことで、県協会としても会員の普及に向け新たな交流先として多く期待を寄せるものである。

いずれにしましても、私達競技団体としてはこの取り組みにおける県内一番煎じとしてその役割と重責を担う立場にもあることから万全の準備を図りつつ今後は関係各位の皆様の特段のご支援ご協力の下にその実現に最大限の努力をしたいと考えるものであります。

ところで、昨年、私達バドミントン界は正に飛躍の一年となった。

なかでも、国別対抗団体戦「男子トマス杯」及び「女子ユーバー杯」の制覇は私達の永年の悲願であったのですがその歴史的瞬間にバドミントン界は至福の境地に至ったのである。また、それに続きワールドスーパーシリーズファイナルでも女子複が日本選手として初優勝、女子単が３位入賞するなどこのところの日本選手における世界への躍進振りは眼を見張るばかりであり、なかでも十代の若手選手の活躍は今後に向けてより明るい展望と言える。また、本県ジュニア層も全国小学生大会での頑張りもありＪナショナル・チーム入りする選手も出るなど今後の活躍に胸弾む思いである。

一方、世界の動向であるが『世界バドミントン連盟（BWF）』は現在、バドミントン競技の一層の拡大、メジャー化に向けて「新スコアリング・システム」を策定中であり遅くとも２０１６年のリオデジャネイロ・オリンピック以降に決定、導入を図るべき準備を進めている。正直、これはオリンピックにおけるマスメディア（Live 放送）との絡みが強いがバドミントンの競技特性そのものに関わる重要な問題だけに慎重な議論が続いている。因みに、「新スコアリング・システム」の概要（案）は次の通りである。

【現行の 21 ポイント制を 11 ポイント 5 ゲーム制に変更】

①10 ポイントオールで 15 ポイントまでの延長ゲーム案

②10 ポイントオールで 3 ポイント先取のセッティング案

③ゲーム間のインターバルは 1 分

これらは、既に BWF 下の大会で試行中であるが今後様々な検証がなされ 2016 年の BWF 総会で提案、理事会の承認を得られれば以後、国際、国内大会及び東京オリンピック・パラリンピックはこの「新スコアリング・システム」が実行に移されることになる。

以上、今年度も多くの賑わいと話題性たっぷりのバドミントン界になるものと思われますが、県協会としましても会員の皆様との一層の連携確立を図り選手の育成、強化並びに会員の拡大に努めたいと考えるものでございます。本年も皆様のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げます。

トマス杯&ユーバー杯 2014 は、団体戦によるバドミントンの世界選手権、第 28 回世界男子バドミントン選手権（トマス杯）及び第 25 回世界女子バドミントン選手権（ユーバー杯）である。本大会は 2014 年５月 18 日から５月 25 日にかけて、インドのニューデリーで開催された。トマス杯は決勝を日本とマレーシアが争い、3-2 で日本が初優勝した。ユーバー杯は決勝を中国と日本が争い、3-1 で中国が２大会連続 13 回目の優勝を果たした。

島田高校バドミントン部　　顧問　藤原 士郎

本校は県の中部大井川のすぐ東側に位置しています。前身は女学校の男女共学普通高校です。

女子バドミントン部の創部はいつごろかはっきりしませんが、おそらく４０年以上は経っていると思われます。図書館にある卒業アルバム４３年前のものに部活動の写真が載っていました。

現在部員数は２７名、ほとんどが高校入学後にバドミントンを始めた者です。

ここ２年はクラブチームでの経験者が若干名入部しましたが、それまでは間違いなく、中学校体育の経験者がいる程度であったと思います。

放課後練習は２時間２０分程度、週３回は１時間半、週末にようやく３時間練習ができます。

体育館は卓球部と共有、正式にはコート３面分取れますが、平常時は白の簡易テープと簡易ネットで体育館の半分に無理やり２面分を作って活動しています。当然２７名は同時にコートに立てる訳はなく、３年生がいなくなった後でも２０名の部員は交代で走ったりトレーニングをしたりして活動しています。

しかしながら、上達しようという気持ちだけはどのチームにも負けまいと、一人ひとりが工夫して、時間を見つけては素振りをしたり壁打ちをしたりして毎日の放課後の部活動を充実したものにしようとしています。

今年度新人戦、シングルで１人が県大会へ出場しました。現段階の目標は、学校対抗戦での県大会出場です。個人だけではなくチームの力として、島田高校のバドミントンを見てもらえるよう頑張っていきます。

湖西高校バドミントン部　　顧問　竹内 栄治

本校バドミントン部は、現在、女子部員１３名で活動しています。礼儀、挨拶、大きな声、思いやりの心、感謝の心の５つをチームの信念として大切にし、一人ひとりが目標を定め、自分を高めるように頑張っています。高校からスタートした者が多いチームですが、県大会出場、県大会上位入賞をめざし、毎日、練習に励んでいます。横の連帯と縦の規律を大切にし、コミュニケーション力を高め、辛い時や苦しい時も仲間同士で支えあっています。



練習は、基礎打ちやパターン練習、ゲーム練習を中心にしたメニューに取り組んでいます。体幹や足腰を鍛えるトレーニングも行い、強い体と精神力を養っています。また、曜日毎にメニューを変え、月、水、金曜日はシングルスのメニュー、火、木、土曜日はダブルスのメニューに計画的に取り組み、技術の向上に努めています。

新人戦では、ダブルスが県でベスト８に入りました。次の大会は高校総体です。残りの日々の練習を高い意識で取り組み、全員悔いが残らないよう試合に臨み、ベストをつくしてほしいと思います。

（文責　副顧問　杉尾初音）



第１０１回静岡県教職員バドミントン選手権大会」を終えて

静岡県教職員バドミントン連盟　　理事長　岩城 保久



平成２６年１１月３０日（日）、伊東市立東小学校において教職員バドミントン大会が開催されました。今回は、６月に行われた第１００回大会を記念して、元全日本総合選手権優勝者（ダブルスで２回）である片山卓哉氏を招き、講習を行う運びとなりました。

片山選手は、伊東市出身で、現在県小学生連盟会長である斉藤俊仁氏が中学校の部活動で指導した経緯があり、今回の招聘も快く承諾していただきました。当日は、午前中に教職員大会のダブルスを行い、午後に講習会を行いました。講習の内容は、「バドミントンで必要な体幹の鍛え方」「バドミントンのゲームスキルを向上するためのトレーニング方法」等、試合に直結した内容であり、参加者からの質問にも練習方法を例示するなど、具体的に回答していただき、好評を博しました。また、夕刻より行った懇親会では、県内各地からの参加者の皆様と膝を交えて、和気漓々の雰囲気の中で、バドミントン談義に花を咲かせることができました。県協会会長の石川様、理事長の杉山様には、ご多忙の中を講習会・懇親会共、ご参加いただき心より感謝申し上げます。また、講習会経費を県協会で負担していただいたことにもお礼申し上げます。終わりに、この度、県教職員大会が１０１回を迎えることができましたのは、第１回大会から現在まで、脈々と繋がって参りました先輩諸氏のご尽力によるところが大きいものと拝察いたします。本当にありがとうございました。

今後も、県教職員連盟へのご支援とご協力をお願い申し上げ、記念大会を終えてのご挨拶といたします。

公認スポーツ指導員義務研修会

平成 27 年１月１１日（日）に公認スポーツ指導員義務研修会が県協会の吉氷将史指導委員長を講師に、焼津市人井川体育館で、開催されました。この義務研修はすでにスポーツ指導員（4 級）・上級指導員（3 級）資格を取得された方が４年に一度の更新時に必要となる物です。

内容は「ジュニア選手におけるトレーニング・基本パターン練習」





第４７号　平成27年6月15日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会

第３６回静岡県バドミントン総合選手権大会（団体）平成27年3月15日　富士市立体育館





男子の部　１位　ジャトコＡ（山下・山崎・細田・岸野）
女子の部　１位　NMT（望月・松岡・太田川・野田）



「バドミントンを愛する高校生諸君へ」

静岡県バドミントン協会　副会長　岩城　明
（静岡県立富士高等学校校長）

グランドから視界いっぱいに広がる富士山もすっかり雪が解け、夏の装いに変わりつつあります。新入生の入学とともに、また新学期が始まりました。この時期の学校には溌剌とした雰囲気に加え、何とも言えない緊張感と高揚感があふれており、個人的にはとても好きな季節です。部活動にも新入部員が加わり、１年生から３年生までそれぞれの課題に向けた練習に取り組んでいます。

バドミントン部も、３年生やレギュラー部員はインターハイ予選を目前にし、練習に熱が入ってきました。また、２年生が中心となり新入生に対してトレーニングを行ったり、懇切丁寧にラケットの握り方や素振りを指導したりしています。特に、バドミントンの場合は１年生の多くが初心者のため、スイングもまだまだぎこちないものの、目を輝かし一生懸命に練習に取り組む姿は微笑ましく感じます。

この広報誌が発行される頃には、京都府で開催される全国高校総体（インターハイ）や本県で開催される東海総体に出場する学校・選手が決定しているはずです。勝負の世界である以上、出場できる者は限られており、3 年生の多くは敗者となった瞬間に“引退”となるわけですが、部活動で鍛えた体力はもとより集中力や忍耐力、顧問の先生や、先輩、後輩そして同期の仲間と育んだ人間関係や友情は一生の宝物です。進学、就職後もシャトルを追いかけて欲しいと切に願っております。関係の皆様には、東海・全国大会出場選手とともに、これからのバドミントンを担う高校生への御指導・御声援をよろしくお願いします。

「県協会近況報告」　静岡県バドミントン協会　副理事長　川原崎　仁

今、私は障害者専門委員会に係っています。平成１５年 NEW！！わかふじ国体を当富士宮市で開催するにあたり、国体準備室から、市民にバドミントン競技をPRするよう依頼がありました。そこで障害のあるなしに係らず、「ワイワイバドミントン」を企画しました。この時に、富士特別支援学校の先生と生徒チーム、大人の車椅子チームに参加して頂きました。特に支援学校の生徒は、国体の試合を見てから、バドミントン愛好者が増え、学校側も、継続して練習したい旨の要望がありました。それから、市民体育館を市バドミントン協会が確保し、毎週土曜日を練習日として、市協会関係者と支援学校の教職員が指導をしています。長い間知的障害のある人々は、大きな体育館で活動するチャンスがありませんでした。最初は、うれしさのあまり、飛び跳ねる・奇声を上げる等収束が出来ない事もありました。現在、スペシャルオリンピックス日本・静岡（ＳＯＮ静岡）に所属し、毎年地区大会を県協会の審判部とレディース連盟、線審には、富士山バドミントン少年団や大学生ボランティア等体勢の支援により開催しております。４年に１度全国大会があります。昨年１１月に福岡県で開催され、男性、女性各１名と参加しました。上位入賞は出来ませんでしたが、各自ベストを尽くし、競技してまいりました。福岡県バドミントン協会と会場、宿泊ボランティアには、大きな相手と笑顔での対応、大変お世話になりました。多様な人達がバドミントンで明るくなる。　本年度もよろしくお願いします。



「県協会２７年度事業計画」

静岡県バドミントン協会　理事長　杉山　敏充

平成２７年度静岡県バドミントン協会「総会」が去る４月２５日（土）に開催され、本年度の事業計画案が提案され承認されました。
今年度は県協会規約に則る役員の改選年度に当たることから石川会長の二期目として新たな理事、専門委員会委員も加わり今後予定される全国規模大会の開催に対応すべく組織体制が図られました。なかでも、中部地区における各事業の推進、取りまとめとして副理事長に宮原和臣氏が、地域全般、ジュニア・シニア層の普及、奨励を図る普及委員会委員長には西島知彦氏がまた、ジュニア育成の要となる小学生連盟理事長には井出裕雄氏がそれぞれ就任しました。

また、（公財）日本バドミントン協会における会員登録システムのデーターベース化に伴う新登録システムに即応し得る体制として新たに「登録事務局」が設置され、登録事務局長に平野謙武氏が就任しました。

因みに、県協会の会員登録数はここ数年間、４，０００名を推移し横ばい状態にあることからこの新登録システムが会員の拡大に繋がるべく円滑な運用推進に期待を寄せるものとなります。

さて、今年度の重点目標ですが昨年度に続き東部・中部・西部地区市町協会の県協会への加盟推進並びに連携強化を図るということで、今後迎えるべく全国規模大会の開催に備える体制づくり、即ち競技に直接携わる役員及び公認審判員の確保、養成を推し進めるというものであります。

今現在予定される大会としては

①　平成２７年１１月下旬から１２月初旬にかけて東京オリンピック・パラリンピック事前誘致合宿
（富士宮市民体育館・このはなアリーナ等々）

②平成２９年７月全日本レディース選手権大会及びプレ大会（このはなアリーナ）

③平成３０年全国高校総体（浜松アリーナ）ですが、この他に平成２９年９月には障害者における全国大会も支援要請が届いております。

県内大会については、既に全日本シニア選考会（御殿場市総合体育館）が終了しこれから小学生、中体連、高体連、大学連、レディース等々の各連盟大会がいよいよ本番を迎えますが加えて各種東海地区大会、講習会（審判・指導者）等々多くの事業が予定されておりそれぞれが円滑に推進できますよう役員、会員の皆様の厚いご支援ご協力を切にお願い申し上げます。

加藤学園暁秀高校バドミントン部

加藤学園暁秀高校バドミントン部は、現在男女併せ３学年２７人で活動しています。活動は週に３時間、コート数は多い時で３コートと限られた環境ではありますが工夫して練習しています。去年から総体では２年連続で個人戦県大会出場を果たし、今年は念願であった団体戦での県大会出場を達成しました。この結果は部員各人の努力に依るものだと思います。先述した通り、部活としての練習は十分とは言えず、それだけでは激戦区である東部地区で勝ち上がることは難しいです。
そこで部員の多くは校外のクラブチームや社会人チームに参加し、練習不足を補っています。ほぼ毎日授業が18時に終わる日課の中、少ない放課後の時間で校外の練習に行くという生活は決して楽ではありません。
しかしその様な部員各人の努力があったからこそ、団体で東部６位という結果が得られたのだと思います。
例え少ない練習であっても努力次第でここまで戦える、という姿を示すことができました。

この５月で３年生は引退します。
総体で主力となった３年生が抜け、これからが本当の勝負です。
去年と今年の結果をここで終わらせず、県大会常連校となれるよう、今まで以上に各人が努力を怠らず精進していって欲しいと思います。

部長　稲玉千夏



第４８号　平成27年10月15日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会

第６３回静岡県高等学校総合体育大会バドミントン競技　平成27年5月16.17日　沼津市民体育館



男子学校対抗
優勝　星陵高校



女子学校対抗
優勝　星陵高校



男子シングルス
優勝 松田蒼太（星陵）



女子シングルス
優勝　山田圭菜（星陵）

男子ダブルス
優勝　仁藤匡裕・米山莉旬（星陵高校）

女子ダブルス
優勝　岩田美咲・高橋李歌（星陵高校）







「ご　挨　拶」静岡県バドミントン協会　副理事長　山下 由紀子

地球温暖化が年々進みこの夏は例年以上の猛暑が続きました。この暑い中、中学生・高校生の諸君は国内の頂点である全国中学総体・全国高校総体をめざし練習に励んできたことと思います。夏にバドミントン練習で流した汗は今後の活力となると確信します。

２０２０年には東京オリンピックが開催され、若者のパワーが　期待されています。

静岡県出身の選手がオリンピックの舞台で、一人でも多く活躍することを願っています。

さて、県協会に要請され予定している大会及び今後の事業について、①～⑤が計画されています。　平成２７年１２月：東京オリンピック・パラリンピック事前誘致　　台湾バドミントン代表合宿

平成２９年７月：全日本レディース選手権大会及び２８年プレ大会（このはなアリーナ）

平成２９年９月：障害者による全国大会

平成３０年：全国高校総体（浜松アリーナ予定）

静岡県バドミントン協会創立７０周年記念・記念誌作り（平成３１年度が創立７０周年となります）等々例年「県２部３部大会」を５月に富士市、２月に浜松市で開催しております。

２８年２月の大会には男女ダブルス・シングルスに、新しく混合ダブルスを加え、皆様の参加しやすい大会に致します。多数の皆様の参加をお待ちしております。



「生涯スポーツとの出会い」静岡県バドミントン協会　副理事長　宮原 和臣

皆々様、今年の夏（特に7月下旬から8月中旬）は例年に無く暑いあつ～い夏でしたがお体の調整は十分出来ておりますか？この度、由緒あるこの広報誌の寄稿依頼を受け、恐縮しております。テーマは自由にということですので、誠に勝手ながら本誌デビューの立場で自己紹介をさせていただきます。私のバドミントンとの出会いは、今から遡ること34年前、それまで続けていたソフトボールが低迷し始め、雨天時に出来るインドア、小人数で末永く出来るスポーツは？と模索していたところ、静岡市で開催している市民スポーツ教室受講生募集の記事でした。それから34年間継続、その間、各種大会への参加、静岡大学バドミントン部、本協会副会長である　齋藤氏との出会いにより県内大学生連盟の学生たち、その他多くの人たちとの出会いが私の人生を豊かなものにさせていただきました。これからもまだまだ続けていく生涯スポーツであるバドミントンを愛し続けながら、シニアクラスの継続・　発展を含め、本協会へ少しでも貢献できるようにお手伝いしたいと思っています。私の前任者は、かの有名な県内屈指のファイター、日下部氏であり、全てにおいて彼の足元には遠く及ばないこ

とは重々承知していますが･･･よろしくお願いいたします。私の近況といえば、8月に奈良県で開催されました全国教職員大会へ 60～65 男 W にエントリーし日々練習に励んでいました。ところが、7月の中旬に突然の肺炎（原因不明？）に罹り止む無く棄権、ペアには大変申し訳ないと思いましたがこの年齢になって無理は禁物と、加齢による体力の衰えには自然体で付き合うことを選択し、来年の大会には･･と残念無念の悔しさの中、決意したのでありました。現在は肺炎も完治し週2回ペースで練習しています。最後に、競技　スポーツ派、生涯スポーツ派に限らず、己の心身を鍛えるためのツールとしてバドミントンをこよなく愛し続けましょう。
病床に伏せるまで、シニアの皆様、その時まで共にがんばりましょう！当然ですが、ヤングもね！

「本県強化の現状と課題」　静岡県バドミントン協会　強化委員長　岩沢　猛



小学生は、小学生連盟のご尽力で順調に強化ができています。
ほぼ毎月全小対策の練習会を行い、それに加えて従来から行っている小中合同のトレセンも実施しています。その甲斐あって、近年は、全国小学生大会でベスト４以上に入賞する選手も増えてきています。　中学生は学校単位での強化が中心で、各中学校が切磋琢磨しつつ強化に励んでいます。並行して、県や地区合同のトレセンも実施しています。その成果が出て、平成２４年度は伊東南中が学校対抗で全中ベスト８入賞を果たすなど、着実に強化を進めてきました。ただ、近年は他の東海３県も中学生の強化に力を入れており、全中出場は年を追うごとに厳しくなってきています。

高校も学校単位での強化に加え、県･地区でトレセンを実施し、各校が切磋琢磨しています。
しかし全国大会では団体･個人とも、一回戦を突破するのが厳しい状況が続いています。

成年は、男子は実業団のジヤトコを中心に、力をつけてきています。若手も育ちつつあります。
女子は、他県への進学･就職者が多く、選手層が極端に薄いので、強化がままならないのが現状です。

さらなる競技力向上の対策の一つとして、年代をまたいだ県全体での合同練習会の開催が考えられます。しかし、現在すでに小中高とも大会やトレセン、合同練習会が目白押しで、スケジュール調整や会場確保など、問題は山積しています。皆様のお知恵をお借りしながらより良い強化体制を作り上げていきたいと思います。
本県をとりまく状況には厳しいものがありますが、今後も皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

吉原高校バドミントン部　顧問　鈴木 啓介　大切な時期　吉原高校　　鈴木 真歩



私たち吉原高校バドミントン部は１４人で活動を行っている。
私たちバドミントン部には、指導者がいない。そして昨年は全員が初心者だった。指導者がいないため、自分たちで練習メニューを考える必要がある。先輩たちや時々来てくださる外部コーチから教わったことを部長、副部長を中心に皆で協力し合って練習を行っている。また、練習が足りないと感じる人は休日の夜の時間を使い外部の練習に参加している。昔は強いと言われていた吉原高校のバドミントン部は、大会で戦っている時間が少なくなっている。そんな中、今年は２人の経験者が入部した。経験者が２人もいる今だからこそ頑張るときであると思う。私たちは強くなれると思う。その２人は、狙いが鋭いショットを行ったり、私たちだけでは考えられなかったであろう粘り強さを持っていたりする。もちろん技術面でも驚かされることがある。練習中に最近で２人の姿を見ることができるのだから、どんどん良いところを真似し、自分のものにしていくことでより強くなれると思う。そして、私たちの目標は県大会出場することとなった。少しでも多くの時間大会で戦うのなら、やはり強くなるしかない。だから、私たちのために、忙しい中、部活を見守ってくださっている顧問の先生や忙しい中来て、教えてくださる外部のコーチ、また、練習をやることができる場所や道具、いつも支えてくれている両親や友達、苦しいときに一緒に頑張れる部員など、たくさんな人や物に感謝の気持ちを忘れず、一致団結し頑張っていきたい。

―　指導員養成講習会　―



今年度の指導員養成講習会は７月１８日から始まり、全８回の日程で行われました。カリキュラムは（公財）日本体育協会及び（公財）日本バドミントン協会の規定に基づき、さらに実質実践的なバドミントン諸科学を多数盛り込まれた内容でした。協会では、常に進歩しているスポーツ諸科学を鑑みれば勉強を怠る指導者と研鑽に励む指導者との違いは明白であると考え、既に資格を取得された現役の指導者の方が自己研鑽のために再受講されることも推進しており今講習会では、１０名以上の方が、再受講されました。

バドミントン しずおか 第49号

発行　平成 28 年 2 月 15 日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会

平成27年
秋の叙勲“受章報告”



静岡県バドミントン協会
名誉会長　上野　忠



平成２７年秋の叙勲（11 月 3 日）に際しまして「スポーツ振興功労」に依り、はからずも旭日双光章の栄誉に浴し身に余る光栄と深く感謝しております。

お陰をもちまして 11 月 10 日国立劇場大劇場にて勲記、勲章の伝達を受け、引き続き皇居へ参内し春秋の間にて天皇陛下への拝謁、激励のお言葉も賜り私にとって最高の喜びと感激でございました。県協会創立以来６６年の歳月がすぎ県内最初のプレーヤーの一人として又役員として初の受章の栄に浴すことが出来たことは多くの先人先輩をはじめ協会員の皆さまの御指導御協力の賜物であり皆さまと共に私が代表して受章したものと思っております。

この受章に依り静岡県のバドミントン競技も公に評価を得られたかと思いますし協会員全員が自信と誇りをもち競技力の向上と組織の充実を計り 2020 年の東京オリンピックに向ってますますの発展を祈念すると共に感謝とお礼の言葉と致します。

上野 忠 氏 旭日双光章受章記念祝賀会



開会の言葉　静岡県バドミントン協会　理事長　杉山敏充



来賓祝辞
静岡県体育協会
会長　斉藤斗志二　様



来賓祝辞
富士市　市長
小長井義正　様





主催者挨拶　発起人代表
静岡県バドミントン協会
会長　石川博義



日本ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ協会
専務理事　銭谷欽治　様





来賓祝辞　日本ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ協会　副会長　関根義雄　様



祝賀会　受付の様子



あ　い　さ　つ

静岡県バドミントン協会　会長　石川 博義

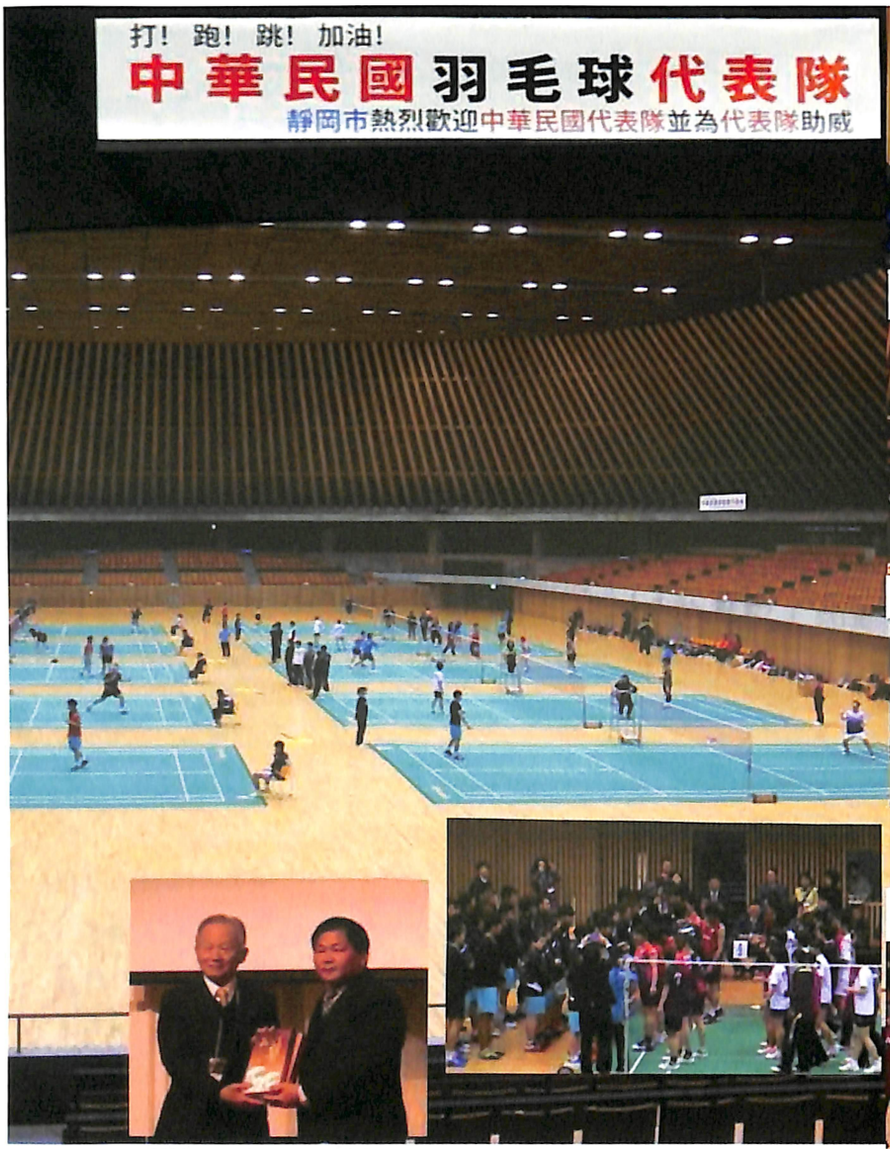
新年明けましておめでとうございます。
２０１６の年頭に当たり会員の皆様のこの１年のご活躍をこころよりお祈り申し上げます。
今年は、リオ・オリンピック、パラリンピックの年であります。
これは、単にオリンピックイヤーということだけでなく、２０２０年の東京オリンピック、パラリンピックに向けての大事な出発年としてこころしなければならない年だと思います。近年、日本のバドミントンも世界で優秀な成績を収め頼もしいかぎりです。是非リオ・オリンピックに一人でも多くの選手が出場して金メダルを獲得して、東京オリンピックに向けて大きな弾みをつけてほしいものです。
我が静岡県に目を向けると、昨年は国が進めているオリンピック事前合宿の一環として台湾バドミントンチームの合宿が県営このはな体育館と静岡中央体育館で行われました。我々も初めての経験で戸惑いもありそれについての問題点も多くあり反省すべき点が多々ありましたが、多くの方々のご協力により終了することが出来まして、少しオリンピックムードに浸れたかなと思います。また、２０１８年に静岡インターハイが浜松で開催されます。高体連を中心に鋭意準備を進めていますが、まだ会場の最終決定を見ない状況です。
静岡で開催となれば、地元選手の活躍が期待される訳ですが、今年の新１年生が中心となるわけです。
この選手強化も考えて行かなければ。選手ばかりでなく多くの高校生が関わっていくので線審を含めてこの養成も進めて行かなければなりません。２０１９年には、全国レディース大会も控えています。ここ数年は会員の皆様に大いに活躍して頂く場が沢山あります。どうかこれらの事業が成功できますように、準備の段階からのご協力を切にお願い致します。



「台湾（チャイニーズタイペイ）静岡キャンプ」報告

静岡県バドミントン協会　　理事長　杉山　敏充

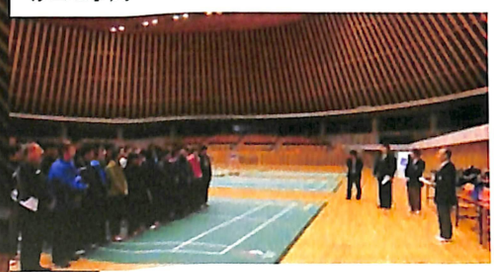
台湾バドミントン代表選手による 静岡キャンプが、昨年の１１月２９日（日）から１２月９日（木）までの１２日間、静岡市「このはなアリーナ」及び「静岡中央体育館」を会場に行われました。
この台湾キャンプは政府の推進する「ホストシティ・タウン構想」に基づき実施されたもので2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会開催に向けてオリパラ参加国と全国の自治体が人的・経済的・文化的な総合交流を図ることにより地域の活性化、観光振興等に資する観点から政府全体がスポーツ立国・グローバル化の推進を目指す本格的な取り組みである。
２７年度は静岡県としてレスリング、ライフル射撃、アーチェリーなどの競技も先行してキャンプの受け入れに着手しているが中でもバドミントンは総勢５０名を超える選手・競技役員を迎え１２日間という長丁場の静岡滞在ということでそのキャンプ規模からしても県全体の期待を担う重要な位置付けとなるキャンプとなった。
さらに、このキャンプでは台湾代表選手に加えて日本代表選手（ナショナルメンバー１２名（男６・女６））・コーチ（２名）、東海地区実業団（ジャトコ、トリッキーパンダース）、静岡高校選抜、東海地区高校生・ジュニアナショナル、県外高校生も多数参加し台湾チームとの強化練習及び実戦を交えた交流大会を行うなどトップアスリートによるハイレベルなキャンプとなった。
この他、キャンプ地である静岡市がトップアスリートによるジュニア選手の育成機会の創出とスポーツ交流の活性化を図ることを目的に台湾選手による静岡市内中学１２校バドミントン部員１２０名を対象にバドミントン教室を開催するなど台湾と静岡市における文化・教育的交流に相応しい成果を齎した。
こうしてこの１２日間の台湾キャンプは一切の事故もなく全てが日程通り無事に終了をしたのであるが、一方ではこの１２日間のキャンプ日程中「ホストシティ・タウン構想」における様々な課題も浮上するなど今後この事業の推進に当たっては一段の検証と準備が重要であると認識を新たにするものであります。
以上、大変雑駁な報告ではありますがこのキャンプを通じご支援ご協力を賜りました関係の皆様には衷心より深く御礼を申し上げます。



歓迎レセプションの様子



杉山理事長 ・ 石川会長 ・ 台湾監督



このはなアリーナ合宿初日　会長挨拶



日本代表の選手とコーチ



合同練習会（日本・台湾ナショナル・チーム）





日本バドミントン協会　山田事業本部長とナショナルメンバー



練習会試合（男子シングルス）



台湾バドミントン代表　選手・コーチ・役員



静岡市の中学生と市民交流会　　中央体育館

バドミントン愛好者の皆様の応援により困難が予想されていたコートマットの設置も敏速に行われました。ありがとうございました。
～ご協力頂きました団体～　静岡大学　静岡大学浜松　常葉大学静岡　常葉大学富士　常葉大学浜松　東海大学　静岡県立大
浜松医科大学　科学技術高校　静岡英和女学院中学校　ＳＢＳクラブ　ＣＬＵＢコスモス　※順不同

東海大会に臨む伊東高バドミントン部監督

この人

岩沢（いわさわ） 猛（たけし）さん （伊東市）



バドミントンの県高校新人大会で男子団体、2年男子ダブルス、2年男子シングルスの3冠を4年ぶりに達成し、15日から始まる東海大会に出場する部員たちを指導する。監督に就任して8年目。伊東高バドミントン部OB。48歳。

―東海大会の目標は。

「他県の出場チームは手ごわく、これまで東海大会は鬼門だった。一つずつ勝ち上がり、多くの部門で全国切符の獲得を狙う。大舞台を経験することで、選手の成長にもつながれば」

―チームの特徴は。

「例年になく選手層が厚い。レギュラーと控え選手の力の差が小さく、互いに競い合っている。大会では強豪校と連戦になる。足腰の強化など体力面を充実させ、最後まで集中して戦えるようにしたい」

―母校を率いる思いは。

「育った学校で指揮を執ることにやりがいを感じる。伊東市はバドミントンの少年団があり、中学高校にも部活がある。地域ぐるみで競技に取り組める恵まれた環境だ。地元に恩返しできるよう頑張りたい」

―バドミントンの魅力は。

「コート内を動き回り続ける過酷なスポーツ。スピードとパワーが正面からぶつかり合うため、その両方の能力を鍛える必要がある。狙い打つ技術や集中力、体力も大切だ」

◇

高校時代は全国出場をあと一歩で逃した。教え子に夢を託す。

静岡新聞平成28年1月14日(木曜日)掲載



上野名誉会長御夫妻とレディース連盟の皆さん

榛原高等学校バドミントン部　顧問　深澤 吉紀　宮澤 誠　外部指導者　杉浦 遥香

「声・絆・心」。　私たちはこの言葉を胸に、日々練習に励んでいます。練習は基本的に週六日で、土日に外部指導者による練習でスキルアップを目指しています。走りこみなどの基本的トレーニングはもちろん、技術面では手投げやノックなどで正確なショットを打つ練習や、実戦での攻め方、試合の組立て方といった練習をバランスよく行っています。平日の練習時間が短いため、練習のポイントを考えながら、意識して取り組むことで、練習の質を高めています。



部員は現在、二年生４名、一年生１２名、計１６名で活動を行っています。先輩、後輩関係なく「絶対勝つ！」という闘争心を胸に、部内でのレギュラー争いを通して、お互いに切磋琢磨していく環境を大切にしています。目標は、県大会出場です。

全員初心者からのスタートですが、練習の質と団結力で目標は達成できると信じています。最後の大会で、選手が「部活を頑張ってきてよかった。」と思えるように、そして、人として大きく成長できるように全力で挑んでいきます。

吉原工業高等学校バドミントン部　顧問　鈴木 孝由　副顧問　日原 紀樹

「人間的成長を目指して」

吉原工業高校のバドミントン部は男子１０名、女子２名の、計１２名で活動しています。練習は週６日行い、練習がない日も部員それぞれが自主練習に励んでいます。厳しい練習の中にも楽しさを見出し、それぞれが前向きに練習に取り組むようになってきました。



また、顧問の鈴木先生、ＯＢの先輩方の熱心な指導のおかげで、部員に成長が見られます。その結果、練習で培ってきた精神力が学校生活にも表れ、勉強面で成果を残すようになってきました。文武両道を目指し、「県大会出場」を目標に、これからも努力してくれると思います。

自分たちの部活を支えてくれている全ての人に感謝し、部活を通じて人間的に大きく成長していくことを願っています。

第５０号　　平成28年6月15日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会



新年度を迎えて

静岡県学生バドミントン連盟　　会長　齋藤　聡

昨年のバドミントン界は、非常に残念な出来事があり、せっかく盛り上がってきた機運に水を挿す形となってしまいました。今年の夏には、ブラジルでオリンピックが開催されメダルが確実視されていただけにバドミントン愛好者にとってショックな出来事でした。今の日本選手は、海外の試合で勝負することが多く、競技者としては非常によい刺激となり競技力向上には役に立つのですが、生活習慣の違いなどからつい誘惑に負けてしまうケースもあったのかと思います。

ここのところは、様々な問題があるとは思いますが、競技者の育成と人間としての倫理観の育成が難しい問題であると改めて考えさせられる出来事でした。しかしながら、最近の日本選手の活躍は皆様ご存じ通りで、新年度を迎えて新たな希望を抱かせてくれます。

さて、静岡県学生バドミントン連盟は、当時県協会の会長の故塩川 甫先生のご尽力で平成４年(１９９１年)に発足し、本年で足かけ２５年になります。この間、県協会のご協力とご援助の基、順調に発展して参りました。初代会長を塩川先生にお願いし、平成１２年度からは、現協会名誉会長の上野　忠先生に会長を務めて頂きました。平成２１年より私が３代目の会長を引き継いでおります。

現在では、県内ほとんどの大学および学部の部活が登録されており、春と秋の２回行われる団体戦と年度末開催の個人戦を主催し、県協会審判部の協力で年１回、審判講習会を開催しております。平成２５年からは、新たな大会として静岡県学生バドミントン連盟会長杯を設けて開催しております。この大会は、スティルマンカップ形式で行われ男女そろっての団体戦で大いに盛り上がっています。学連の組織は、幹事校の代表が常任委員長として学連をまとめ、各加盟単位の代表が常任委員として会議を開き会の運営を行います。常任委員長の下に事務局と会計を置き、会の実務を執行します。大学教育の中で課外活動の果たす役割は大きく、会の運営は歴代の役員にとって良い経験になっていると聞いております。

現在、学連として取り組んでいることをご紹介しますと、競技ルールの徹底をかけ声に正しいルールを理解して競技を行うことと、公式戦での厳正な審判を行うことを目標にクラブ員の意識の向上に努めております。このため、昨年度から協会審判部のご協力で年に１回、審判講習会を開催いたしております。このおかげで公式戦の運営もスムーズでルールの浸透も順調に行われていると思っております。皆様には、このような学連の活動をご理解いただき、今後ともご支援、ご協力をお願いしたいと考えております。



レディースパワー全開に向けて

静岡県レディース連盟　　会長　角谷　泰子

静岡県レディース連盟は発足以来、県協会のご指導のもと、着実に３２年の歩みを続けてまいりました。現在ではクラブ登録数も２２チームとなり会員数は２８４名に至っております。地道に続けてきた強化練習会などの事業も、近年は指導者を招き本格的に取り組みを始めました。ここ数年の全国大会において、静岡県レディースが着実に良い戦績を残しているのは、その成果といえます。

こうした中、次年度の平成２９年度に「全日本レディース選手権大会」が静岡県開催という運びになりました。重責を担ったことに不安を感じながらも、最近の準備委員会の活気あふれる様子を見ていますと頼もしくさえ思えます。

先日このはなアリーナで行われた東海大会では、全国大会を想定した運営を本番さながらに行いました。そして、今年度開催の高知県視察後はいよいよ本格的な準備に入ります。運営に携わる役員、選手として県内大会を盛り上げる会員、そしてクラブ代表者の９割が総会に出席し理解を深め、連盟の事業を支えてくれています。私達レディース連盟は静岡でできることを背伸びすることなく、選手の皆さんが安心してプレーできる大会を目指して頑張ります。

なお、今後のレディースの活動がますます協会の発展に貢献できるよう、与えられた役目を一生懸命果たしてまいります。引き続きご指導をいただきますようお願い申し上げます。

常葉学園菊川高等学校バドミントン部　顧問　吉田 将紀　　副顧問　渡辺 友也

常葉学園菊川バドミントン部は、インターハイを目標に、勝つことにこだわり練習しています。

普段の練習は中学生と合同ですが、上下関係無く意見を出し合って積極的に取り組んでいます。県外遠征に行くことも多く、他県の上位のチームからたくさんの事を学びながら成長しています。



練習外でも自ら考えて行動することを大切にしており精神的にも大きく成長することができます。指示がなくてもどんどん行動できるところがチームの素晴らしいところだと思います。また、勉強にも力をいれており、朝や放課後に皆で集まって勉強しています。

そのような中で私たちは県総体、県新人と７大会連続で団体戦３位という結果をおさめ東海大会にも出場してきました。前回の県新人では準決勝で惜敗していましたが、大きな手ごたえを感じています。このような素晴らしい結果を残せているのは、いつも支えてくれている家族や、指導して下さる先生方のおかげです。これからも周りの方々への感謝を忘れず目標に向かって頑張っていきたいと思います。

静岡県立富士東高等学校バドミントン部　　顧問　渡邉 保和

創部１７年目を迎える富士東高校バドミントン部の実績は、東海大会団体　男子３回　女子１回出場です。



文武両道の校是のもと、「男女そろって団体県大会ベスト８」を目標に練習の毎日です。練習時間は、平日２時間、休日４時間を目安に学習とのバランスを重視しています。

多くの生徒は、高校入学後、バドミントンを始める初心者です。

しかし、「ジュニアからの経験者に追いつけ追い越せ」を目標に努力を積み重ね、着実に実力の向上を見ています。また、大きな特徴の一つは、大学進学後もバドミントンを継続する生徒が多いことです。長期休暇中には、現役生の指導に参加したり、各大学（地方国公立または理系私大：薬学など）で中心選手として活躍している卒業生もいます。就職して地元で競技を継続する人もいます。

今後も多くの卒業生達がバドミントンの裾野を広げ、それぞれの生活圏で活躍することを期待しています。



平成２８年度県協会　事業計画について

静岡県バドミントン協会　事務局長　山本 秀和

平成２８年度静岡県バドミントン協会の「総会」が４月２４日に富士市内にて実施され２８年の業務がスタートしました。今年度は２年１期の中間年度にあたり、大幅な変更はありませんが２９年度に静岡県で開催される全日本レディースの大会に関連しレディース協会から多くの役員に加わって戴く事が承認されました。

さて、今年度の県協会事業ですが、東海・全国レベルの大会ではまず全日本レディース大会のプレプレ大会として５月１５日に静岡市「このはなアリーナ」において第３４回東海レディース大会が実施される予定でおります。７月２・３日には東海地区国立高等専門学校大会が「沼津市民体育館」で、また９月１０・１１日には東海総合選手権大会を「富士宮市市民体育館」にて開催する予定でおります。

高体連では第４５回全国高等学校選抜大会東海地区予選会を年明け１月２０日「磐田市総合体育館」にての開催を予定しております。

また今年度の県内の事業ですが、例年御殿場協会主管で年度当初行事として行われてきた全日本シニア県予選が、実施時期での要望が多々あり見直しを行い７月１７日に富士協会が担当し「富士市立富士川体育館」を会場に開催する事となりました。また昨年富士市で開催された年齢別選手権はスケールアップし、ふじさんシニアオープン兼静岡県年齢別選手権大会として、全国の愛好者にも声掛けし、「静岡市このはなアリーナ」にて５月１日に大会を行う事としました。この大会は、静岡市のシニア愛好者を中心に開催戴き、県協会役員も協力しながらの開催であり、継続的に「このはなアリーナ」を利用し行い、更に大きな大会となるよう今後取り組んでいく事としております。今後、２９年全日本レディース選手権大会・全国ろうあ者体育大会３０年には全国高等学校体育大会と、全国規模の大会が計画されており選手強化・審判員養成等皆様方には協力戴かなければ大会の成功はありえないと思っております。多くの方々に協力戴く事となりますがご協力を宜しくお願い致します。

第５１号　　平成 28 年 10 月 15 日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会

第６４回静岡県高等学校総合体育大会バドミントン競技

平成 28 年 5 月 28 日（土）磐田市総合体育館



男子学校対抗　優勝　伊東



女子学校対抗　優勝　星陵

男子ダブルス
優勝　三枝・高嶋（伊東）
男子シングルス
優勝　松田蒼太（星陵）
女子ダブルス
優勝　髙橋・岩田（星陵）
女子シングルス
優勝　岩田美咲（星陵）









平成２８年度東海総合バドミントン選手権大会　平成 28 年 9 月 10 日、11 日　富士宮市民体育館

準優勝 栗下大毅・岩渕幸穂



ジュニア男子単　準優勝　小野田泰地



三位小野田泰地・稲葉達大



三位　野田彩夏・住吉琴菜

あ　い　さ　つ　　静岡県バドミントン協会　　会長　石川 博義

残暑厳しいなか会員の皆様には如何お過ごしでしょうか。さぞつつがなくお過ごしのことと思います。
さて、今年は夏の暑さにまして暑いオリンピックの夏でした。次回開催東京オリンピック・パラリンピックを控えての各選手の意気込みは凄まじく、その各競技の況に一喜一憂し興奮を覚えました。そして、結果多くのメダルを獲得しました。
バドミントンに関しては、高橋・松友組の快挙は、同じ世界に住む人間として大変な喜びと言えるでしょう。ましてや、現役の選手の皆さんは、あのオリンピックという重圧のかかる最後の場面で５ポイントを連取する決して諦めないプレーをまのあたりにして、多くのものを感じとったのではないでしょうか。
来年度は、全日本レディースバドミントン選手権大会が静岡県営「このはな」体育館で開催されます。
今年度開催の高知県に引き継ぎのため入ってきました。そして、「来年は静岡県開催で御座います。
全国の皆様どうぞお出で下さい。運営と歓迎の準備を整えてお待ちしております。」とご挨拶をして参りました。
大会は、想像以上に大きな大会でびっくりしました。しかし、さすがレディースの大会とあって、非常に細やかなところまで気をくばった運営を見ることができました。
何年も前から、このことにつきましは会員の皆様にご協力のお願いをして参りましたが、いよいよ迫って参りました。
レディース連盟の皆様が鋭意備進めております。
人や機材その他の要請あるかと思いますが、宜しくご協力お願い申し上げます。

副会長就任に当たって　静岡県高体連　バドミントン専門部　部長(富士高校長)杉山 洋一

本年度４月から高体連のバドミントン専門部の部長を務めることになりました。県協会の皆様方には、高校生のバドミントン競技の活動に関し、多大な御支援･御協力をいただいていることにまず、感謝申し上げます。

さて、本年度の全国高校総体バドミントン競技大会は、「美しく咲け　君の笑顔と努力の華２０１６情熱疾走」のスローガンの下、８月にジップアリーナ岡山をメイン会場として行われました。本県からは、学校対抗の部で男子は伊東高校、女子は星陵高校が代表として出場しましたが、残念ながらそれぞれ奈良大附属、京都外大西に初戦で敗退しました。また、個人対抗の部でも全国の厚い壁の前に上位進出はなりませんでした。

しかし、大会に出場した選手はもちろん、その後輩たちも、その会場の雰囲気を味わうことで得たものは大きいと思います。例えばそれは、より高い技術・技量を目指そうという向上心です。

この全国総体は、平成３０年度は東海ブロックが開催地となり、バドミントン競技は浜松市で開催されることが決まっています。大会の準備・運営に当たっては、選手も含めた高校生はもちろん、多くの関係の方々の御協力を必要とします。全国レベルの競技に生で触れることができる貴重な機会として、御予定くださるようお願いいたします。

浜松海の星高等学校バドミントン部　　顧問　佐藤 大介

全国大会出場を目指して　　部長　大竹 梨可



「浜松海の星高等学校バドミントン部」は今年度末をもって活動を終了し、来年度からは、「浜松聖星高等学校バドミントン部」として新たにスタートを切ることになります。

学校が共学化することで校名変更となるのです。現在、新人戦の真っただ中ですが、今年度最後の公式戦となるこの大会で、長年先輩方の伝統と共に歩んできた「浜松海の星」の名を記録と記憶に残すため、部員全員が必死になって戦っています。最後の海の星、そして、最初の聖星を、全国大会の場で共に輝かせたいという強い思いのもと、日々の厳しい練習にも励んでいます。平成３０年には地元浜松にインターハイがやってきます。オリンピックでの日本人選手たちの活躍によって、競技が全国的な盛り上がりを見せていますし、同じ競技に関わっていることにも誇りを感じます。

この節目の年にわたしたちも県大会で「海☆旋風」を巻き起こして、静岡を勝ち上がりたいと思います！

焼津中央高等学校バドミントン部　　顧問　伊藤　秦



焼津中央高校バドミントン部は現在、２年男子１１名、２年女子９名、１年男子１５名、１年女子８名の　計４３名で活動しています。目標は、男女共に団体戦県大会出場です。

私達は、学校の体育館を使わず、公共の体育館や、小・中学生の体育館を使用し、週五日で活動しています。男子を中心に声掛けをし、元気よく部活を行っています。また、一つ一つの練習に集中し、日々自分自身を　心身共に鍛えています。夏の体育館はとても暑く、つらい事も多いですが、それを乗り越えた時に成長できると思い、一生懸命練習しています。

他校とは違い中央には経験者がいません。しかし、部員全員が日々切磋琢磨し、自分達を高め合っています。部員全員が「上手になりたい」「試合に勝ちたい」と意識が高く、先生方から　教えて頂いた事を、確実に習得しようと心掛けています。　公共の体育館、小、中学校を借してもらって練習できているという事、指導して下さっている先生方、応援して下さっている人達への「感謝」を忘れずに、　目標を達成できるように、日々の練習を大切にしていきたいです。キャプテン　久保野　開

平成 28 年度公認スポーツ指導者養成講習会

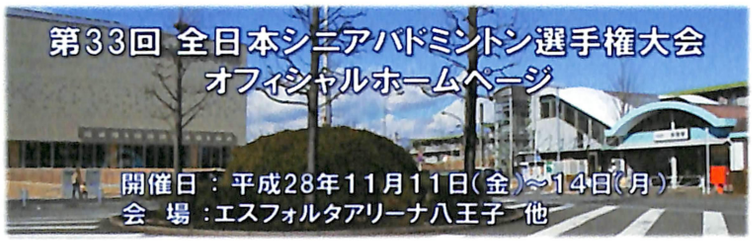


今年の養成講習会は、７月１６日から８月２８日までの短期間に８回の講習会が行われました。

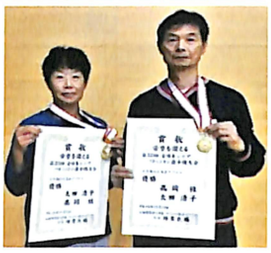
講師は、静岡県バドミントン協会理事長の杉山敏充先生で、受講生は２０代前半から７０代まで幅広い年代層の方が受講されました。内容については盛沢山で、「バドミントンの指導理論・トレーニング理論・スポーツ心理学など」を御教授頂きました。受講生は講義内容を基に、ご自身の指導にあたる対象者に合わせた、課題克服のためのトレーニング計画立て、実際に指導に当たる際の実践指導方法なども、身をもって実践していました。

～受講生の声～　・初心者のバドミントン教室の人達に、どの様に教えたらよいか悩んでいましたが、杉山先生のおかげで、明確に論理的に教え方が解りました。

第５２号　　平成29年2月15日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会







60歳以上混合ダブルス優勝 高岡佳(福井)・太田清子
60歳以上男子ダブルス優勝　芹澤英彦・佐野明彦

祝 全国大会 優勝







30歳以上男子ダブルス
３位尾崎弘一・大野裕茉



60歳以上男子ダブルス
３位大邑富三・大石千利

第 25 回全国小学生選手権大会
平成 28 年 12 月 23～27 日
滋賀県大津市　会場:滋賀県立体育館





４年生以下男子ダブルス優勝
勝又翔哉・勝又悠翔（富士山バドミントン）

あ　い　さ　つ　静岡県バドミントン協会　　副会長　工藤 喜久雄

２０１７年が始まりました。皆さんにとり飛躍の年となることを願っています。

スポーツ界では多くの女性が活躍しています。

バドミントンも昨年はオリンピックをはじめとして多くの大会で活躍し注目を集めました。夏には女性の大会、全日本レディース選手権大会が本県で開催されます。レディース連盟の皆さんが思いを込めて準備をしていますが、この大会を協会全体で大いに盛り上げ、素晴らしい大会になるよう共に頑張りましょう。

従前から古くて新しい課題として会員登録の増加があります。現在約４０００人が登録をされています。

東海４県では一番少ない会員数です。登録の問題でよく話題になるのが登録することのメリットは何かということです。協会主催の試合に出られることなどが最大のメリットです。

しかし、それにも増して一人ひとりが登録しその数が増えることにより協会を支える力が大きくなり、選手の強化・育成に繋がりトップアスリートが育っていくことだと思います。そして、本県選手が大会で優秀な成績を収めれば協会員であることが誇りとなり、自分もあの選手のようになりたいという自覚も芽ばえ、モチベーションも上がってくるのではないかと思います。多くの競技者が登録をして下さることを願い登録者を増やす努力を共にして行こうではありませんか。

本年も皆さんの英知を結集し努力を積み重ね、更なる組織の強化・充実を図っていこうではありませんか。

宜しくお願いします。

新年度に向けて　静岡県学生バドミントン連盟　　会長　齋藤　聡

皆様、あけましておめでとうございます。新年も穏やかな気候が続き、健やかにお過ごしのことと存じます。昨年は、バドミントン界にとって記念すべき年となりました。ご存じかと思いますが、南米ブラジルのリオデジャネイロで開催されたオリンピックで、女子ダブルスでは世界ランク１位で試合に望んだ高橋礼華・松友美佐紀選手が実力を発揮し金メダルを獲得し、バドミントン史上初のオリンピックでの金メダル獲得となりました。また、女子シングルスでは奥原希望選手が銅メダルを獲得し、この快挙に日本中が沸いたのを昨日のことのように思い出されます。

かつては、中国の独壇場だったバドミントンですが、日本協会を始め様々な方が選手の育成に係わり、

練習環境としてはナショナルトレーニングセンターの登場でトップ選手の練習環境が整いました。
このような環境整備によって徐々にその効果が出て、国際大会でも成績を残すようになりこれに伴いバドミントン競技が社会に認知されるようになってきました。この影響もありバドミントン愛好家が増加して競技の裾野が広がってゆきました。トップ選手の活躍で競技としての楽しさやおもしろさを伝え愛好家が増えていったのは言うまでもありません。その結果が今回の快挙につながったと思います。
　私は、現在静岡県学生バドミントン連盟の会長を拝命しています。静岡県学生バドミントン連盟は、平成４年に結成され今年で足かけ２６年となります。
私は、結成当時から係わらせていただいております。現在は、県協会副理事長の宮原和臣様と静岡大学の切岩祥和先生を副会長に迎えて学生役員とともに運営いたしております。運営に当たって心がけていることは、できるだけ学生中心に自主的運営を図っていくことです。
　また、県内の大学同士の交流も心がけています。そのような意味でバドミントン競技の楽しさやおもしろさを学生中心にできるだけ伝えて行ければと考えています。すなわち競技の裾野を広げるという意味でお役に立てればと考えています。今年１年この様なことを肝に銘じて学生たちと楽しみたいと思います。

全国大会にむけて　静岡県レディース連盟　　会長　角谷 泰子



　平成２９年７月、静岡県レディース連盟としては初の全国大会を開催いたします。
決定から既に２年、残り半年で私達は１２００名以上の選手とその関係者の皆様をこの静岡にお迎え致します。これまで２回、全国大会を開催した富山県と、高知県に視察研修に行ってまいりました。何れもいざ開催する立場で大会運営を見ますと、その規模の大きさに驚きと不安を感じ、改めて身が　引きしまる思いが致しました。本部と各担当部署のスムーズな連携。念入りに作成された様々な資料。視察期間中に目にしたものがこの光景に裏付けされたものでした。富山県や高知県では閉会式後安堵の涙のスタッフを多く目にしました。
さて今年はいよいよ静岡県開催です。着々と準備は進んでいますが、大会期間中の審判員は、延べ人数３００名を越える予定です。これにつきましては、県協会の皆様にご協力をお願いするしかありません。石川会長様と杉山理事長様のご指導の下、協会傘下の連盟の皆様と心を１つにして主役である選手達に良いパフォーマンスをして頂くよう、精一杯準備をしたいと考えています。
どうぞ高配の程、宜しくお願い致します。今後は厳しい予算面を少しでも軽減すべく、関係者の皆様にご協力いただけますよう、誠実にお願いしていく事と、思っています。
　大会直前５月のプレ大会で本番さながらに業務をしっかりと確認し、７月の全国大会へ良い形で繋がるよう準備をします。　私達は女性ならではの想いやりの心で、大会でのおもてなしをしようと思っています。皆様におかれましては益々のお力添えと、ご指導の程、重ねてお願い申し上げます。

富士高校バドミントン部　　顧問　芹澤 篤志　太田 堅一朗

　富士高校バドミントン部は、１・２年生男子１５名、女子１１名の計２６名で現在活動しています。本校は、男子バドミントン部と女子バドミントン部と男女で分かれた部となっているので、普段の練習は別々に活動していますが、それぞれチームや個人の目標達成に向けて日々努力しています。練習は平成２４年に新しくなった講堂で行っています。コートが２面しかないため平日の練習は男女で１面ずつとなってしまい、満足のいく練習環境ではありませんが、トレーニング等も混ぜながら工夫して練習を行っています。また、平日は７時間目まで授業があるので平日の練習時間も限られますが、集中して時間を無駄にせず練習に取り組み、文武両道を目指して日々精進しています。男女とも高校からバドミントンを始める生徒がほとんどですが、先輩などからアドバイスをもらいながら、中学校からの経験者とも遜色なく技術を高めることができています。
男女とも部内での生徒同士の仲が、良く良い雰囲気で部活動に取り組んでいます。
男子は県大会ベスト８以上、女子は県大会出場を目標に部員一丸となってがんばっていきたいと思っています。
応援よろしくお願いします。



第５３号　平成29年6月15日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会

第３８回静岡県バトミントン総合選手権大会（団体）　平成29年3月19日(日)富士市立体育館



男子の部
1位　ジャトコＡ（細田・岸野・篠崎・樋口）



女子の部
1位　NMT（太田川・野田・鈴木・田渡・加藤）

第125回東海大学バドミントン選手権大会
平成29年4月3～6日　名古屋市天白スポーツセンター　1部 準優勝

静岡大学団体メンバー：4年　森瑞帆　久米博幸　　3年　嶋崇志　田中大成　糸魚川喜之　中澤章太　掛川智也
2年　鈴木雄貴　清野陽介　東森直紀
試合結果　4勝1敗　1部リーグ準優勝
[1日目]　静岡大学3−0中京大学
　　静岡大学3−1日本福祉大学
[2日目]　静岡大学3−0愛知工業大学
　　静岡大学0−3愛知淑徳大学
[3日目]　静岡大学3−2愛知学院大学



嶋・田中ペア　愛知学院大学戦



試合前に円陣を組んでいる様子



ご 挨 拶　県協会との出会い

静岡県バドミントン協会　　副会長　山下 由紀子

新緑の美しい季節となりました。
皆様方には、日頃より協会の事業に御協力頂き誠に有難うございます。
この度、平成２９年度の総会にて副理事長を退任し、副会長の大役を仰せつかりました浜松の山下由紀子と申します。平成２９年度県協会の活動方針と重点目標を実現できるよう、微力ですが頑張って参りたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

さて、この広報誌面をお借りいたしまして、私の思い出となり、誠に恐縮ですが、「県協会との出会い」を紹介させて頂きます。

日本リーグが過去２回浜松で開催されました。実業団のヤマハ女子チームがあったからと記憶しております。その後、平成３年全国高校総体が富士市で、平成１５年わかふじ国体が富士宮市で、平成１６年日韓親善交流大会が湖西市で開催され、いずれの大会も審判員や本部役員として浜松から多数参加させて頂きました。私もこれらの大会に携わらせて頂き、県協会の皆様と出会い繋がりができ大変良い経験になったと嬉しく思いました。取り分け県協会様や沼津市協会様に大変お世話になり、助けて頂いたのは、平成 13 年東海中学校総体でした。バルセロナ五輪水泳で中学生の岩崎恭子選手が金メタルを取り、喜びで湧き上がる沼津市で開催した時です。当時私は県中体連バドミントン部長の役を担っており県大会以上の大会運営は未経験でしたので不安で一杯でした。会場確保や審判派遣等、両協会様方に快くお引き受け頂き、大会を無事に運営することが出来ました。私は上記の様々な経験をさせて頂き、県協会の皆様方と出会い、バドミントンを通して繋がりが拡がったことに感謝の気持ちで一杯です。

本年７月：全日本レディース選手権大会
本年９月：障害者による全国大会（静岡市北部）
来年８月：全国高校総体（浜松アリーナ）　　上記大会を協会全体で盛り上げましょう！！



障がい者バドミントンについて

静岡県バドミントン協会　　副理事長　川原崎　仁

平成２９年度の障がい者委員会は、６月２５日障がい者バドミントン選手権が富士フィルム体育館、９月２２日～２４日全国ろうあ者大会(バドミントン競技)静岡北部体育館、１２月には、全国障がい者バドミントン選手権が長崎県で行われます。
昨年、千葉県で行われた全国大会では、遠藤聖也・渡辺力組が(知的部門)ダブルス優勝を果たしました。初めての全国制覇です。障がい者のバドミントンはスタートして約１４年になります。
平成１５年１０月、ＮＥＷわかふじ国体のバドミントン競技が富士宮市で開催されることになり、そこで、誰でも参加できる“わいわいバドミントン”を企画しました。初心者や車椅子の人、特に富士特別支援学校の生徒の笑顔が印象に残り、先生にお聞きしたところ、学校には(ハートフル)お楽しみ時間があって、バドミントンは活発な男子に人気があるスポーツと分かりました。そこで毎週土曜日練習会を実施してきました。上達に伴い中学生や、バドミントン愛好者が練習会の相手になってくれました。
今回二人の全国優勝は、練習会に参加している選手や支援者の励みになり、バドミントン普及にも大いに寄与しています。将来パラリンピック競技に参加できるよう希望を持って、一歩・一歩ですが前進して行きます。最後に、全国ろうあ者大会が９月２２日から静岡市全域で実施されます。
バドミントン競技は、会場の設備や審判の確保が大変です。
市内の高校生、大学生やレディースの皆様のお支援をお願いします。

県協会・２９年度「新　体　制」



静岡県バドミントン協会　　理事長　杉山 敏充

平成２９年度静岡県バドミントン協会「総会」が去る４月２３日（日）に開催され、本年度の人事、事業計画案が提案され承認されました。
今年度は県協会役員の改選年度に当たりますが会長就任三期目となる石川会長が全会一致で再任されたことを受け、今後予定される全国規模大会に向けて組織の充実が図られました。特に、県協会窓口となる事務局を会長地元富士宮市に移動し業務のスピード、効率化を図る狙いから新事務局長には吉岡直彦氏が抜擢されました。
新たな理事、専門委員会委員については、迎える浜松インターハイ及び西部地区各事業の推進、活性化に向けて山下由紀子氏を副会長に任命し近隣市町協会・同好会・クラブチームなど県協会への加盟推進並びに連携強化の確立に向けました。東部地区に於いては県協会発祥地である富士市協会から大石恵司氏を新副理事長に充て中学校部活動の促進、ジュニア発掘、バドミントン教室など富士、富士川地区全般の普及、活性化に向けた体制強化を図ることとなりました。
また、専門委員会組織では事業の企画、大会運営、選手経歴など豊富な実績を持つ後藤和之氏を総務委員長に、指導者養成事業に関わる中軸に平野謙武氏を指導委員長に、広報委員長には長年「バドミントンしずおか」の編集にご尽力される長島　稔氏を充て、更には中部地区からは優れたプロデュース能力を備える静岡市協会の鈴木利幸氏を普及副委員長にそれぞれ抜擢し近年やや停滞気味の県協会主催事業（大会）に新風を巻き起こすべく組織の充実が図られました。
尚、東海バドミントン連盟専門委員会組織における委員として競技委員会委員に三島市協会理事長の髙井保典氏を指導委員会には委員長として平野謙武氏が選出されました。その他県協会外郭団体の役員として（公財）静岡県体育協会の評議員を吉岡直彦氏、地域スポーツ指導者協議会理事として平野謙武氏、全日本社会人クラブ連盟の理事として富士宮市協会理事長である佐野明彦氏の推薦が承認されました。
県協会上部団体である（公財）日本バドミントン協会における評議員並びに各地区連盟代表者協議会委員は不肖ながら引き続き杉山が留任することとなりました。
さて、今年度予定される東海地区及び全国規模大会は５月に第２回目となる「ふじさんシニアオープン」大会、「全日本レディース」プレ大会、７月には「第３５回全日本レディース選手権」大会、８月には「国民体育大会東海ブロック予選会」などですがその他、各種講習会、研修会、バドミントン教室等々多くの事業が予定されております。年間事業計画の詳細は静岡県バドミントン協会 HP をご覧いただきまして各種の事業には是非とも奮ってご参加いただきますようお願いを申し上げます。
今年度も県協会事業が円滑に推進できますよう役員、会員の皆様の厚いご支援ご協力を切にお願い申し上げます。

富士見高校等学校バドミントン部　　顧問　早房　大・髙橋 卓真・水上佐 枝子

富士見高校バドミントン部は“ノリと勢い”のある集団として、男女が一緒に個性の磨き合いと人間性の向上を　図っているのが特徴です。高校生活の各場面を充実させ、実りある人生に繋げていく根底には優れた人間性が必要ですし、仲間同士での磨き合いと認め合いによってさらに成長していく場としての役割も部活動にはあると考えています。また、各自が目標を超えようとする重圧に負けまいと妙に肩肘に力の入った全力で臨むよりも、自己を鼓舞し周囲からの応援も得られるような”ノリと勢い”こそが必要不可欠であるという共通した認識を持って、各部員が練習に限らず様々な場面において、明るく前向きに全力で過ごす姿が見られます。このようなスタンスで毎日を過ごしている部員たちの朗らかな人柄や気配りの様子が、学内のみならず地域の方々からも親しまれ、たくさんの応援をいただいています。そして、そのような応援の声を励みにさらに“ノリと勢い”を加速させて部活動としての集団の力を引き上げている真っ最中です。

部活動としての戦績的な目標は『名門の復活・新しい伝統の創造』と思い描いてはいますが、目の前の部員たちが常に全力で動き回り、全力で大笑いする姿を積み重ねていくことができれば、自ずと結果もついてくると考えています。

これからも応援の程、よろしくお願いします!!



静岡県立富士宮北高等学校バドミントン部

男子顧問　勝又　洋　伊藤 年彦　　女子顧問　大宅　崇　谷口 昌弘

本校バドミントン部は男子２４名、女子２４名が所属しています。練習中は、「ファイト～」の声が途切れることなく、お互いを励まし合いながら良い雰囲気で活動しています。平日の練習は、男女でコートが２面しか確保できないため、前半後半の２グループに分け、室内の練習と室外でのトレーニングを交代で行うなど工夫をしています。決して恵まれた環境ではありませんが、「個人戦では県大会出場、団体戦では東海大会出場」を目標に、集中して練習に取り組んでいます。現在、１年生は、声出し、素振り、フットワークの基礎練習が中心ですが、先輩の活躍する姿に将来の自分を重ね合わせ、くじけることなく技術の向上に励んでいます。

２・３年生は、ミスを少なくすること、そして、正確なプレーを心がけ、それぞれがこだわりを持って、日々の練習に臨んでいます。試合で一つでも多く勝つことはもちろんですが、この部活動を通して、周囲に気配りができ、また、周囲から愛される選手、チームになることを目指しています。



富士宮東高校バドミントン部　　顧問　赤池義将・西川和伸

私達バドミントン部は、男子が２年生４人、１年生１１人、女子が２年生５人、１年生１１人の計３１人で活動しています。新チームになり、２年生は一人一人が課題を持って練習に取り組み、１年生は初心者が多いため基礎を身につけるよう努力しています。

今年度のインターハイ東部予選で達成できなかった、「男女ともに団体戦で県大会出場」を目標にしています。

応援宜しくお願いします。



第５４号　平成 29 年 10 月 15 日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会

第 65 回静岡県高等学校総合体育大会バドミントン競技
平成 29 年 5 月 20 日 21 日 27 日 28 日　磐田市総合体育館　浜松アリーナ



男子学校対抗
優勝　星陵

女子学校対抗
優勝 常葉大菊川





男子シングルス優勝
平岡佑太（富士見）



女子シングルス優勝
野田彩夏（星陵）



男子ダブルス優勝
高嶋・稲葉（伊東）



女子ダブルス優勝
野田・住吉（星陵）

平成２９年度東海総合バドミントン選手権大会
平成 29 年９月９日、10 日　ウイングアリーナ刈谷



ジュニア男子シングルス　**優勝**小野田泰也



副理事長就任に当たり

静岡県バドミントン協会　　副理事長　大石 恵司

今年の４月より県協会副理事長に就任いたしました。県協会の内容全体がまだよく理解が出来ておりません。

まずは、各理事会、県協会主催の各試合等に参画していきたいと思います。７月の全日本レディースを見学し、８月の東海４県ミニ国体予選に参画し、改めて大変な役を引き受けたなあと実感しております。昨年この年で、指導者講習を受講し、杉山理事長に指導方法などの教えを請い、９月から始まる富士市委託バドミントン教室で実践しているところです。

静岡県では、富士市がバドミントンの発祥の地という事ですが、今現在富士市には中学校にバドミントン部がありません。ジュニアクラブは、３チームありその後３年間の受け皿がない状態です。生徒は他のクラブ活動に入部しているのが現状です。

富士市長を始めスポーツ振興課、市体育協会等に中学校に部活をと、働きかけています。

その中で、去年の９月よりバドミントン・バレーボールの２種目を富士見高校にて月１回体育協会主催のスポーツ塾を実施しております。バドミントンは早房先生の指導の下、小・中学生を対象に行っております。

富士市のジュニアのレベルも少しずつ上がってきております。“中学校にバドミントン部を”を合言葉にこれから頑張っていくつもりです。

皆様方の良いご意見、ご指導を今後ともよろしくお願い申し上げます。



バドミントンの歴史　(Part 1)

静岡県バドミントン協会　副理事長　宮原和臣

月日が経つのも早いもので前回の寄稿から２年の歳月が流れた。
現在も若者（時には孫年代）たちに迷惑をかけながら週２回程度の練習が出来ることは本当に幸せでありまことにありがたい。健康に、また、練習に参加させていただいている諸団体の皆さんに感謝している毎日である。前回は、自己紹介を兼ねて生涯スポーツバドミントンとの付き合いを紹介したが、今回は、バドミントンの歴史について少しふれてみたい。皆さんご存知のこととは思うが、バドミントンの発祥の地はイギリスとの説が一般的で、インドのプーナを本国に伝えたイギリス人兵士の説よりも前の 1860 年～1870 年（江戸時代の終わりから明治時代初頭）に誕生したとされている。
1893 年（明治２６年）にはイギリスにバドミントン協会が設立。日本では内閣総理大臣が伊藤博文、翌年は日清戦争の始まった頃である。その後、1899 年（明治３２年（東京―大阪間電話開通））ロンドンで第１回全英オープンが開催、その後、カナダ、デンマーク、オランダ、フランスに次々とバドミントン協会が設立、1934 年（昭和９年）ついに世界バドミントン連盟が誕生したのである。前年にはドイツでアドルフ・ヒトラー政権が誕生し、日本も含めて戦争色が次第に濃くなっていく時代である。その後、1972 年（昭和４７年）ミュンヘンオリンピックにオープン競技としてデビューし世界的な競技としてのバドミントンの知名度を上げていき次のモントリオール大会から正式競技になるとの観測があったが国際バドミントン連盟の分裂により立ち消えになってしまった。
しまった！既に文字数オーバー、またの機会があれば続きにふれてみたい。

藤枝明誠高校バドミントン同好会　顧問　宮内　豊



この夏初めて甲子園の土を踏んだ野球部、サッカー、バスケなどの目立つ部の傍らで私たちは同好会としてささやかに活動している。

体育館が使えるのは週に２回２時間。試合が近づけば校舎内のロビーで天井を気にしながら練習することもある。

初心者がほとんどでなかなか大会では勝てないが、卒業後大学や社会人として続ける生徒も多く、生涯スポーツとしてのバドミントンの楽しさを味わいながら活動している。

中野学園オイスカ高等学校　顧問　岩崎 真樹　副顧問　久保 早耶華

私たち、オイスカ高校バドミントン部は男子九名、女子五名で現在活動をしています。
本年度は女子が開部以来初の団体戦にもエントリーできそうです。
部員全員が高校に入ってから始めた初心者です。
今年の夏に開催された選手権大会では二年生男子がダブルスで県大会出場を果たしました。



これからも個人・団体と県大会に出場することを目標に、またそこで一勝できるよう日々の練習に励んでいます。
強い選手がいる訳でもないので全員で練習の質の向上を目指し、地区上位校に追いつけるよう頑張っています。

バドミントンの技術が向上するだけでなく、それ以上に人間性が高められるように挨拶や励ます気持ち、支えあう気持ち、周囲に目や気を配れる人材へと成長できるように努めています。

第35回全日本レディースバドミントン選手権大会

平成29年7月20~23日（都道府県対抗・クラブ対抗）

都道府県対抗

静岡県Ａチーム　　監督　山下奈奈



選手　林綾香・中野妙・太田川真希・橋本裕美
　　橋口知美・石田ゆき・山本晴世
　　遠藤弥生・米田陽子

予選リーグ
静岡Ａ３－０大分県
　２－１茨城県
　３－０山口県
リーグ１位

決勝トーナメント
２回戦２－０岡山県
３回戦０－２愛知県

結果 ベスト８

静岡県Ｂチーム　　監督　山城芳子



選手　野田夏帆・中山裕美・伊藤祐佳
　　松浦妃佐乃・落合純子・三井栄子
　　稲森修子・浅原八重美・小林朋子

予選リーグ
静岡Ｂ０－３千葉県
　３－０奈良県
　２－１長崎県
リーグ２位

決勝トーナメント
１回戦１－２北海道



「がんばった全国大会」　　静岡県レディース連盟　会長　角谷　泰子



７月 21 日全国大会初日、まだ人気もない体育館入口に、緊張した面持ちで役員たちが足早に集まります。笑顔を見せてはいるものの、まさに今から始まる全国大会に私たちはしっかりと準備をしてきた、そんな思いが伝わってくるようです。心配された選手受付も、前夜遅くまで入念なチェックのお陰で混乱もなく、また幾度となくオーダーが出されてからのシミュレーションをしてきた進行役員たちは、スムーズに競技をスタートさせました。

一方、選手や審判員の待機所になったサブアリーナは放送が届かず、焦りもあるだろうに、担当する役員の心中は如何ほどだろうと気をもみました、そんな中にあっても、的確に業務を遂行し、選手を笑顔でコートに送る姿に安堵しました。

大会二日目は、観覧席がほぼ満席となり、選手席確保の対応に追われるほどでした。そんな応援合戦は選手たちの志気を益々高め、まさに全国大会にふさわしい盛り上がりとなったのですが、試合は夜の９時すぎまで続き、選手もスタッフもヘトヘトになった一日でした。

大会三日目、準決・決勝・閉会式と続き、最後まで気の抜けない最終日。サブアリーナから頂点を目指す選手たちの先頭を歩く、凛と背筋を伸ばした主審、選手たちをコートで迎える審判員、堂々としたその振る舞いはとても頼もしく感じました。そして、どの選手もシャトルが床に着くまであきらめない、粘り強いラリーの応酬は、本当に見ごたえのある熱戦ばかりでした。

やがて、全てのコートが取り払われ、静寂に包まれたアリーナの中央、閉会式は、黄色のユニフォームを着た百余名のスタッフに見守られ終了しました、大会中も、また大会後も選手からも日本レディース役員や関係者から、労いの言葉と共に「気配りのきいた良い大会でしたね」と、温かいお声をいただけたことは大変ありがたいことでした。

みんなに支えられた静岡大会でした。みんなで頑張った静岡大会でした。

最後になりますが、惜しみないご支援を賜りました静岡県バドミントン協会の皆さま、誠実できびきびと業務をこなしてくれた高校生と、ご指導くださった諸先生方、そして大会に携わった全ての関係者の皆さまに、レディース連盟役員・スタッフ一同心より御礼申し上げます。

ありがとうございました。





左から静岡県チーム、小林さん・山本さん
静岡県バドミントン協会 石川会長
日本バトミントン協会 綿貫会長
日本バドミントン協会 銭谷専務理事
静岡県レディースバドミントン連盟 角谷会長

クラブ対抗　スルガウィングス
監督兼選手　寺尾順子
選手　中山委佐子・竹下すみ子・碓井陽子
増井ゆき子・近江明美・沢田恵・稲葉珠美
予選リーグ　結果　リーグ３位
１－２ＡＹＡＧＡＷＡ（香川県）
０－３渋川あじさい（群馬県）
３－０八郎潟バドミントン協会（秋田県）

クラブ対抗　プリマドンナ　監督　松本恵子
コーチ　遠藤恵子　マネージャー　太田智子
選手　松本恵子・遠藤恵子・太田智子・可児恵美
大塚智恵子・木下有里・長倉美奈子
予選リーグ　結果　リーグ３位
０－３松山レディース（愛媛県）
１－２NANBU（千葉県）
２－１平野クラブ（大阪府）





平成 29 年度公認スポーツ上級指導者・指導者養成講習会「バドミントン競技」



今年度の養成講習会は、７月１７日から８月２７日までの短期間に８回の指導者講習会が行われ、さらに９月２日、１６日、２３日、２４日の４日間で、上級講習会が行われました。

講師は、静岡県バドミントン協会理事長の杉山敏充先生で、指導者講習会の受講生は２０代前半から６０代まで幅広い年代層の方が受講されました。また、有資格の方が、自己研鑽の為に指導理論や指導技術の向上を測っていました。

内容は、「**バドミントンの指導理論・トレーニング理論・スポーツ心理学**・バドミントンの歴史など」を御教授頂きました。

受講生は講義内容を基に、ご自身の指導対象者に合わせた、課題克服のためのトレーニング計画立て、実践指導方法なども、身をもって体感していました。

上級講習会は、技術的ディマインドとして数多くのヒッティング技術のトレーニング方法、戦術ディマインドは試合における戦術論を複数の項目に分けて御教授頂きました。さらに、ゲーム分析からそれに基づくトレーニングプログラムの作成など内容が豊富で、受講生の皆様が、必死に自分の物にしようとする姿が見られました。

～受講生の声～

・小学校高学年（ゴールデン・エイジ）で、身に着ける技術が大切だと知りました。特に**ラギングバック、タンブル**
・上級指導者を受けるのはまだ早いとも思いましたが、戦術がメインと言う事だったので思い切って受けて、本当に良かったです。講習会で色々な繋がりを作らせて頂き、また戦術がメインだったので座学も実技練習も本当に楽しくあっという間の４日間でした。今回学んだ事を活かして、子供達にしっかりと伝えてさらなる飛躍をさせてあげたいと思います。
・指導対象に合わせた、トレーニング計画を立てる事の重要性に気づかされました。

第５５号　平成30年2月15日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会



公益財団法人　静岡県体育協会功労章受章報告

静岡県バドミントン協会

副会長　工藤喜久雄



平成２９年６月２３日にホテルセンチュリー静岡に於いて静岡県アマチュアスポーツの最高の栄誉である静岡県体育協会功労章を贈与され、身に余る光栄なことと思い深く感謝しております。

静岡県バドミントン協会としては８人目となりますこの章の栄誉を欲することができましたのも昭和４７年から今日まで４５年間県協会の一役員とし多くの役員と共に協会の運営に携わって来た中で、協会の礎となった多くの先人をはじめ協会員の皆様のご指導・ご協力のお陰でありあります。
ですからこの受章は私の気持ちの上では協会員を代表して受章したという思いであり、協会員の皆様に改めて感謝申し上げます。

現在、静岡県のバドミントン界の将来を担うジュニア世代も指導者の皆様の努力と情熱により多くの有望な選手が育ってきており、その活躍に大いに期待をしているところです。

私もこの受章を機に気持ちを新たにして、県協会が今まで以上に組織の充実を図りバドミントン競技の普及振興と競技力向上を更に推進していくために協会員の皆様とともに一致団結して協会発展のために微力ながら尽力していきたいと思っております。ありがとうございました。

あ　い　さ　つ　　静岡県バドミントン協会　　会長石川 博義

静岡県バドミントン協会会員の皆様明けましてお目出度う御座います。
平成３０年の念頭にあたり会員の皆様のこの１年のご活躍とご健康をこころよりお祈りいたしますと共に静岡県バドミントン協会の発展のために昨年と同様にご尽力頂きますようお願い申し上げます。
昨年は、全国レディースバドミントン選手権大会が静岡このはなアリーナで開催され大成功のなか終わりました。これもレディース連盟の方々の会員の皆様のご協力によるものと感謝申し上げます。
さて、いよいよ今年は、高校総体の年です。平成３年富士市で開催されて以来のことです。
今回は、浜松市という協会の機能からすると少し不便な地でありますが、静岡県バドミントン協会の持つ機能を結集し高体連と共に開催市浜松市を盛り上げて成功に導きたいと思います。
高体連の先生方も大変だと思いますが、我々も最大限の努力をして、不可能を可能にする意気込みで頑張りたいと思います。宜しくお願い致します。皆さん今年１年を健康で頑張りましょう。

全国総体開催の年を迎えて　静岡県高体連バドミントン専門部部長 杉山 洋一

県協会の皆様方には、高校生のバドミントン競技の活動に関し、日頃から多大な御支援・御協力をいただいていますことに、まず感謝申し上げます。

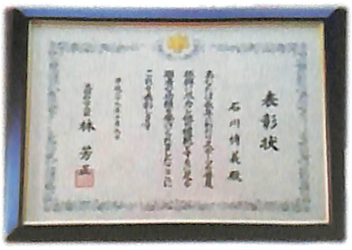
さて、いよいよ本年8月、全国高校総体バドミントン競技大会が「2018彩る感動　東海総体　翔べ誰よりも高く東海の空へ」のスローガンの下、浜松アリーナ、浜北総合体育館グリーンアリーナを会場として行われます。大会は4日の開会式に始まり、9日の閉会式までの6日間にわたります。

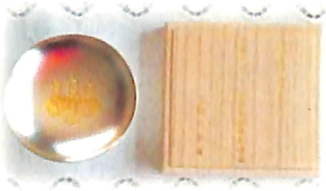
昨年8月の南東北総体2017では、バドミントン競技は山形県の新庄市を主として行われ、本県の高体連役員も視察に伺いました。
山形県の担当から多くの情報を頂きましたが、改めて全国大会を運営することの大変さを実感してきたとのことです。

生徒たちはこれからの数か月、この地元を舞台とした晴れの場で代表としてコートに立つことを夢見て、練習に、試合に全力で臨むことと思います。その代表を支える大会運営には、本県の高校のバドミントン部の顧問・部員総出で対応することになりますが、その役員を養成するにも、これまでの御経験のある協会の方々の御協力が欠かせません。
年頭に当たり、関係者の皆様に特段の御配慮をお願い申し上げます。

平成 29 年度表彰者　受賞報告

文部科学大臣表彰　　「生涯スポーツ功労者」
静岡県バドミントン協会会長　石川 博義







公益財団法人　日本バドミントン協会　「研鑽賞」
静岡県バドミントン協会副会長　斉藤 聡
静岡県小学生バドミントン連盟会長　斉藤 俊仁





中部日本バドミントン連盟　　「功 労 者」
静岡県バドミントン協会副会長　山下 由紀子
静岡県レディース連盟会長　角谷 泰子





公益財団法人　静岡県体育協会　　「功 労 章」
静岡県バドミントン協会副会長　工藤 喜久雄

NPO 法人　富士宮市体育協会　　「功 労 章」
静岡県バドミントン協会会長　石川 博義
静岡県レディース連盟会長　角谷 泰子



静岡県バドミントン協会では、平成 30 年 1 月 14 日に
受賞者の皆様の受章報告会を行いました。

伊豆総合高校バドミントン部　　顧問　小林綾子

平成２２年４月、大仁高校と修善寺工業高校が統合され、伊豆総合高校がスタートしました。
開校当初、渡邉先生、伊藤先生の厳しいご指導のもと、部の礎が築かれ、初心者ながら団体戦・個人戦において県大会で活躍する選手が輩出されたと聞いております。



現在部員数は１～３年まで合わせると男女で５０名。高校からバドミントンを始める生徒ばかりで基本練習を大切に毎日練習に励んでいます。限られた時間の中、大人数のために基礎打ちもローテーションにしたり、平日はノック練習を中心にしたりしてシャトルを打つ回数を増やすようにしています。技術の向上はもちろんですが、卒業後就職する生徒も多いため、「挨拶をすること」、「時間を守ること」など社会人として必要なマナーや人格を身に付けることを大切にしたいと考えています。
一昨年、私が赴任して初めて、男子の経験者が１名入部してきました。彼のプレーに周りの生徒も刺激され、男子のチーム力はだいぶアップして今年度の総体東部大会団体戦では６位、新人戦では５位に入ることができました。県大会出場を果たし、生徒たちにとっては大きな自信に繋がったと思います。女子も団体戦県大会出場を目指して努力しています。前回のオリンピックの好成績を契機に、国際大会でのトップ選手たちの活躍もあって、バドミントン人気はさらに高まっています。
バドミントンに興味を持ち、やってみたいと考える高校生達と共に今後も汗を流していきたいと思います。

駿河総合高校女子バドミントン部　　顧問　柴田　睦



私たち、駿河総合高校女子バドミントン部は、２年生８名、１年生６名の計１５名が所属し、顧問の先生方と毎日楽しく一生懸命活動しています。チームの目標は「県大会出場」です。
まだ、大会で大きな結果を残せていないため、チーム一丸となり互いに切磋琢磨しながら練習に励んでいます。
部員全員が初心者で、最初はラケットの握り方も分からず不安でいっぱいでした。
しかし、先生方や先輩方の丁寧な指導のおかげで、最近では試合で勝つことも増えてきました。たくさんの方から教えていただいたことを最大限に生かし、全員で協力しながら、これからも練習を頑張ります。

平成２９年度　第４７回　全国中学校バドミントン大会
平成29年8月22日～25日　佐賀県佐賀市　県総合体育館

男子団体　星陵中　全国ベスト８

男子ダブルス

早川・影山組　全国ベスト８

NPO 法人　富士宮市体育協会
平成 30 年 1 月 27 日
優秀チーム表彰（星陵中）・優秀選手表彰



優秀選手左から影山・小野田・早川

第５６号　　平成 30 年 6 月 15 日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会

平成３０年度　静岡県高等学校総合体育大会　バドミントン競技
平成 30 年 5 月 19・20 日　浜北総合体育館

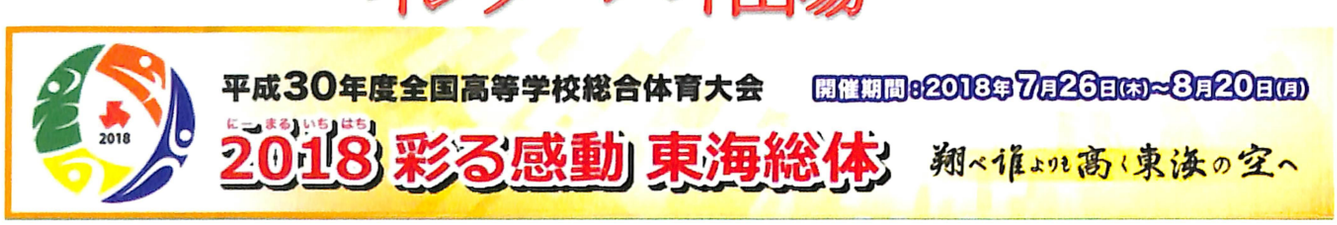


男子団体　優勝
富士見高校



女子団体　優勝
常葉大菊川高校

インターハイ出場



指導者に想う　　静岡県バドミントン協会　　副会長　工藤 喜久雄

東京オリンピック・パラリンピックを２年後に控え、スポーツ界での暴力やパワハラなど人権を損なう行為を多くメディアで取り上げられている。このようなことは静岡県バドミントン界の中では行われていないことを信じており、また行われないことを願っている。
スポーツをするからには、誰もが勝ちたいという欲望があり向上心がなれば目標を達成することはできないと思う。自ずと指導者も勝ちたいという欲望が勝り体罰やパワハラといった行為が無意識のうちに行動に表れてしまうのではないかと思う。

スポーツの現場で体罰等を受けながら指導されてきた選手が指導者となり同じ過ちを繰り返すようなことは避けなければならない。体罰は法律違反（犯罪）であるという認識を持つべきである。
今後、中学校、高校において部活動顧問の負担を軽減させるため外部指導者を導入する学校が増えてくることが予測される。

指導者に求められるのは勝敗の優劣を意識せずスポーツの持つ楽しさを学ばせる中で、相手に敬意を払うこと、日常生活での振る舞いやいかにしてやる気を引き出せるかだと思う。
指導者には勝つことだけではなく選手の人生にも責任を持つことが求められてくるのではないかと思う。
選手が指導者の背中を見て、学んでいくことが出来るような指導者を、目指して貰いたいものである。

新年度を迎えて　　静岡県バドミントン協会　　副会長　齋藤　聡

平成３０年度が始まり皆様におかれましては、健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。

私事で恐縮ですが本年３月をもちまして４３年間勤めました東海大学を退職いたしました。

長きにわたりお世話になった皆様に感謝を申し上げます。

また、静岡県バドミントン協会とも平成４年の学連発足時よりお世話になっております。気がつけば様々な方々にお世話になりながら無事に勤め上げることができ感謝の念でいっぱいです。そのようなわけで人生に一区切りつけたところです。これから少しゆっくりできると思ったのですが、世の中そう甘くはありません。縁あって４月から東海大学付属静岡翔洋高校で理科の非常勤講師として勤務することになりました。

高校の教員は人生でも初めての経験で少々の不安はありますが、ちょっとわくわくしながら授業の準備をしている日々が続いております。

さて、本年度は静岡県で久々の全国大会が開かれます。第６９回全国高等学校総合体育大会のバドミントン競技が浜松市で開かれます。

日程は、８月４日から９日で団体戦と個人戦が行われます。この準備は高体連の小田切委員長を中心に１年以上前から行われてきました。夏休みの時期に行われることから、学連は、審判としてできるだけ協力することを決め、審判専門委員会の齋藤委員長協力の下、審判講習会で審判の養成をすることになりました。

また、審判技術向上への取り組みも行う予定で、学連主催の県内大会でも正式なコールでのジャッジを試みる予定にしております。このような形で大会に関わることで学生によい意味で貴重な体験をさせる機会に恵まれたことに感謝しております。新年度を迎え、新たな環境の中で公私ともに慌ただしい日々を送っております。

今後も静岡県バドミントン協会や静岡県学生バドミントン連盟の活動に、少しでも貢献できればと考えております。

科学技術高校バドミントン部　　顧問　坂下 裕基　大澤 俊幸　　坂下 順子

部訓は**「声を出せ、汗を流せ、足跡を残せ」**です。部活動理念の一つ目は、**「バドミントンを通して人としての生き方を学ぶ」**二つ目は、**「切磋琢磨して成長し合い、今を懸命に生きて、昨日より今日、今日より明日を向上させていく」**最後に**「世のため人のために貢献できる人間になる」**ことそのために四つのことを実践しています。

一つ目は**「感謝」**支えてくれる家族や友人、指導者すべてに感謝の気持ちを持つ、

二つ目は**「文武両道」**

三つ目は**「目の前のことに最善を尽くす」**

四つ目は**「他基地からで行動する」**

この四つをやっていくことで、社会に出たとき、バドミントン部で培った人間力が生かされます。

朝は早く練習は厳しいですが達成感のある部活です。これからも日々努力し、頑張っていきます。



「あの頃」　私とバドミントン　　鈴木　昂（８０歳）



初めてバドミントンに出会ったのは、中学３年（昭和２６年）の夏、今の横浜球場にあった米軍の体育施設「フライヤージム」で米兵やその家族がテニスラケットより少し小さめのラケットで白い羽を打ち合っていた姿であった。正月の羽子板に似ていてネットを境に各人がいろいろのプレーを楽しんでいた。翌年高校に入学したのでバドミントン部に入部したい旨、父に相談すると、父はテニスをやっていたので「お前は足が遅いので陸上部に入り走り方の基礎をしっかりやれ！」と云われ１年間は中距離を中心によく走った。


賃金計算表
昭和 30 年 7 月分
第 167 号
鈴木 昂 殿

２年になるとあの「フライヤージム」で見た面白そうなゲームが忘れられずバドミントン部へ入部したが、用具が買えず同級生のラケットを借り上級生のプレーを真似してバドミントンの面白さの深みに入り込んでしまった。

当時、富士市内のスポーツ店は旧吉原市の友愛スポーツ店しかなく、木製ラケットの川崎ラケットの価格がガットを張って６００円から８００円、シャトルは浜松の羽立工業、東京のサンバタ、少し遅れてヤマハ扱いの台湾製 AEROCOCK が一ケ２４円前後で売り出されていた。入部して２年３年は戦歴として残せず３年生の後半になると将来の進む道を考えはじめ、あの雄大な富士山の麓で酪農をやってみたいと考えはじめていた。

そうだ、酪農と云えば北海道だと帯広の大学にしぼり受験願書を送った。受験目前の正月２日両親に兄が浪人中なので２～３年後に大学進学にしてくれと云われ、少し悲しくなった。それでも卒業し父の紹介で隣町の合板会社に就職した。新しい自転車を購入し富士川橋を渡り毎日３０分かけての通勤だった。当時の給料表を母が大切に保管してくれていた。仕事に少し慣れた頃、同級生の山口君が「第一小の講堂が夜間借りられ先輩たちが練習しているからこないか？」と誘ってくれた。

週３回の練習であったが欠席せずただ夢中で先輩のプレーを盗み、真似して、山口君とダブルスを組み翌年昭和３１年の第１１回の兵庫国体県予選会に参加した。そしてダブルスで優勝、シングルスで吉原高校出身の市川さんに負け２位の成績であった。

そして神戸へ「第１１回国民体育大会」

当時昼間の急行列車はなく富士駅に急行は、止まらず、静岡駅まで行き夜行の急行列車に乗り、神戸までは８時間だった。当時の食糧事情は悪く参加者は、「お米３号持参」と指示されその思い出は今も強く残っている。一回戦は地元兵庫県との対戦で２：１で勝利した記憶が残っている。１回戦突破後、宿に戻ると母が作ってくれたジャンパーとズボンがなく、金銭まで盗難にあい苦い経験だった。しかし県体育協会長の斉藤了英氏（当時大昭和製紙社長）が心配してくれ「これで上下の衣料を買いなさい」とそれなりの金銭をいただいたことは終生忘れられない。

「第１２回国民体育大会」

神戸での国体初体験の翌年静岡県内が初会場となりバドミントン会場は富士市内となり、富士中学体育館（４面）富士高講堂（２面）に決まり、それからは練習に熱中し、仕事が夜勤になると午前中に睡眠をとり、午後は家の前の雁堤防を実相寺から水神社まで片道４ｋｍを必ず２往復し、足腰を鍛えた。

そして小石を拾い１００回は河原に向け遠投したりして国体予選に出場した。富士中体育館での国体バドミントン競技の開会式では富士見高の西村さんと選手宣誓をした思い出もある。

「第１３回国民体育大会」

いよいよバドミントンの奥深さに入りこみ、将来の事など考えず、唯、唯、練習に熱中し３年連続で国体に参加でき、富山国体ではベスト８まで勝ち進み神奈川県と対戦し当時最強と云われた佐藤・杉田組と対戦し見事な惨敗だった。シングルスは佐藤さんと対戦し３セットまで進み、借敗した事を記憶している。

今、８０歳台となり週２回程度の筋力アップ講座に通い体力維持に努力しているが、あの若い頃の体力は遠いものとなったが、それでもバドミントンは大好きだ！





第１２回国民体育大会バドミントン競技開会式　昭和３２年１０月２６日

第５７号　　平成 30 年 10 月 15 日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会





【男子団体】
星陵高校ベスト 16
富士見高校　２回戦敗退
【女子団体】
常葉大菊川高校ベスト 16
加藤学園高校　２回戦敗退





大成功に終わった第６９回全国高校総体バドミントン競技

静岡県バドミントン協会　副会長　　山下　由紀子

地球温暖化が年々進み、この夏は例年以上の記録的な猛暑でした。また台風や地震など予期せぬ自然災害が発生しましたが、会員の皆様方にはお元気でお過ごしのことと思います。

さて、本年の日本のバドミントン界では、**５月に世界女子バドミントン選手権（ユーバー杯）優勝、世界男子バドミントン選手権（トマス杯）準優勝。７、８月の世界選手権では６個のメダル獲得等、日本選手の目覚活躍でした。**

日バでは「ジュニア育成に長年力を入れて来た成果が出た」と言っています。
本協会も今まで以上にジュニア育成に力を注いでいきます。

「彩る感動　東海総体　翔べ誰よりも高く東海の空へ」のスローガンのもと、厳しい予選を勝ち抜いた１，１００余名の選手を迎え８月４日～９日全国高校総体バドミントン競技が浜松で開かれました。
試合をする選手の動きは躍動感に溢れコートの中を蝶が舞っているかの様に軽やかに華麗にプレーをする姿に感動しました。

大会運営面では、数年前より総体に向けて準備して来られました高体連の先生方の見事な連携プレーで開会から閉会式まで全てがスムーズに進められ素晴らしい大会でした。
大会補助員８５０余名の県内の高校生の皆さんが笑顔と機敏な動きで大会を支え、会場内に明るい雰囲気を作ってくださいました。

当初審判員の確保が心配されておりましたが県協会審判部の御尽力で県内外から２８０余名の審判員の方にお集まり頂きました。この様に多数の方々の力が結集され彩る感動の大会となりました。
皆様お疲れ様でした。有難う御座いました。

2018 スペイン・バドミントン連盟 U19 静岡キャンプ



実　施　報　告　静岡県バドミントン協会　理事長　杉山 敏充



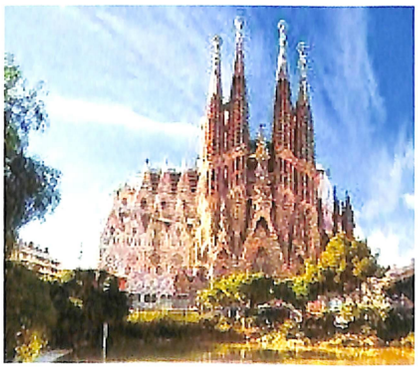
スペイン・バドミントン連盟Ｕ１９静岡キャンプは８月２０日から２９日までの１０日間において実施されました。
このキャンプは静岡市がスペイン国との間で締結した２０２０年東京オリンピック・パラリンピックに備えた選手強化を図るための事前合宿であり併せて両国の友好、親善を目的とした事業であり今年度及び来年度に　おける二年間の継続事業であります。
このキャンプはオリンピック事前合宿ということなのでオリンピック基準（IF 基準）に則り行うことが義務付けをされていることからその施設、設備を始め練習会場、練習環境（バドミントン・コートマット）等々厳密な制約を受ける中その準備を行い実施されました。コートマットの設営では市内各地より多くのボランティアが参加してくれました。
スペイン国のチーム編成はメーンコーチ、サブコーチの男子２名、選手１２名（男７・女５）の１４名でしたが世界ジュニア・ランキング入りしている選手が男 3 名、女１名がいるなどスペインの今後を担うジュニア・ナショナル選手の皆さんでした。
一方、国内チームは実業団の JATCO チームを始めとし県外から淑徳巣鴨高校、岡崎城西高校、皇學館高校、県立岐阜商業高校、高山西高校、星陵高校、富士見高校、常葉菊川高校の各選手団が参加をして頂きスペイン選手との合同練習及び友好、親善を図ってくれました。





U19 スペイン選手団
空港とこのはなアリーナにて

【スペイン選手団】
コーチ:オスカル・マルティネス
　　アドリアン・コラレス
選　手：（男子）　トマス・トレダノ　マルク・カルドナ
　　エルネスト・バッシュウィットス　カルロス・ピリス
　　ミゲル・サンルイス　ホアン・モンレイ
　　アルヴァロ・レアル
（女子）エレナ・アンドレイ　アナ・カルボン　ウララ・ソリス
　　クラウディア・レアル　　ネレア・ディアス



浜松湖北高校バドミントン部　顧問　稲垣 和義

浜松湖北高校バドミントン部は、旧三ヶ日高校の流れを汲み、浜松湖北高校開校時から男女で活動し、今年で４年目を迎えます。全員が高校からバドミントンを始めた初心者集団です。現在は１２年生、男子１８名、女子１７名で練習しています。昨年度の新人戦では、男子学校対抗で県ベスト４に入ることができました。

練習コートが少ない中、メニューを工夫し、仲間と鎬を削ることが、人間性の成長にも繋がると信じ、常に県大会を目指して、日々練習に励んでいます。



静岡県立静岡商業高等学校 静岡商業バドミントン部　顧問　日下 純一

私たちは２年生８名、１年生７名、計１５名で活動しています。特にトレーニングに力を入れ、体力・技術の向上を目指し、粘り強い選手になるよう練習に励んでいます。

今年は先輩方が築き上げてきた「東海大会出場」という目標を、受け継ぎ、全員が向上心を持ち、チーム一丸となって練習しています。私たちがバドミントンをできるのは、支えてくださる先生方、応援してくれる家族や仲間がいるからです。その方々への感謝の気持ちを忘れず、日々の練習から全力で取り組みます。



平成 30 年度公認スポーツ上級指導者・指導者養成講習会「バドミントン競技」

今年度の養成講習会は、７月７日から８月１２日までの短期間に８回の指導者講習会が行われ、さらに９月２２日、２３日、３０日、１０月１４日の４日間で、上級講習会が行われました。

講師は、静岡県バドミントン協会理事長の杉山敏充先生で、指導者講習会の受講生は２０代前半から６０代まで幅広い年代層の方が受講されました。

また、有資格の方が、自己研鑽の為に指導理論や指導技術の向上を図っていました。



内容は、「**バドミントンの指導理論・トレーニング理論・スポーツ心理学・バドミントンの歴史**など」を御教授頂きました。

受講生は講義内容を基に、ご自身の指導対象者に合わせた、課題克服のためのトレーニング計画立て、実践指導方法なども、身をもって体感していました。

上級講習会は、技術的ディマインドとして数多くのヒッティング技術のトレーニング方法、戦術ディマインドは試合における戦術論を複数の項目に分けて御教授頂きました。さらに、ゲーム分析からそれに基づくトレーニングプログラムの作成など内容が豊富で、受講生の皆様が、必死に自分の物にしようとする姿が見られました。

～受講生の声～

・上級指導者を受けるのはまだ早いとも思いましたが受講し、計画を立てる事の重要性・戦術・身に着ける技術が大切**ラギングバック・タンブル・スライス**など、多くのことを気づかされました。

・講習会では指導者としての意識や各地域の方と繋がりを作らせて頂きました。今回学んだ事を活かして、子供達にしっかりと伝えてさらなる飛躍をさせてあげたいと思います。

第５８号　平成31年2月15日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会

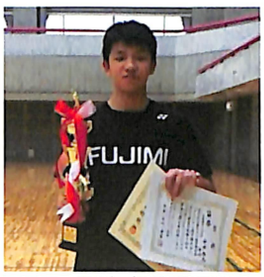
第７１回　中部日本バドミントン選手権大会　平成30年11月17日（土）・１８日（日）
第１会場　富士市立富士体育館　第２会場　富士川体育館　第３会場　富士宮市民体育館



一般男子単で独占のジャトコの３選手



少年女子複優勝　石川瑠奈・鈴木愛美組



少年男子単　優勝平岡佑太（富士見高）



40歳以上男子複で優勝の石田・清組



第２会場の試合風景



第３会場の試合風景

本大会は中部９県から各県を代表する５４０名もの選手が一同に集まり熱戦を繰広げました。
少年男子・少年女子は、それぞれ２００名近くの選手が参加し当県はその中でもよい成績を残しました。
一般男子シングルスにおいてはジャトコの３選手が１位２位３位を独占しました。

第２７回　全国小学生バドミントン選手権大会
平成30年12月24日～27日
東京都八王子市エスフォルタアリーナ八王子



男子都道府県対抗は、
初の男子５位入賞を果たしました。
監督：住吉勇人　勝又辰幸
選手：勝又翔哉　山本脩太　天野遥　鶴岡成々斗
泉悠斗　狩野颯天

第３５回全日本シニアバドミントン選手権大会
平成30年11月22～25日　ウィングアリーナ刈谷他９会場



45歳以上男子ダブルス
3位中村 繁幸・長井 純一郎（兵庫）



60歳以上男子ダブルス
優勝　佐野 明彦・芹澤 英彦



60歳以上女子ダブルス
3位太田清子・森田須賀子（大阪）

平成のバドミントン今昔　静岡県バドミントン協会　副理事長　　川原崎　仁

平成が新しい年号に変わろうとしている。平成の時代を振り返ってみると、まずは、平成３年、富士市で行われた全国高校総体がありました。とにかく高温の体育館で、団体戦は３時間位の試合が続き審判用紙が汗で滲み読み取りに苦労しました。この環境下でも現皇太子殿下は、凛とした御姿で試合を観戦していただいた。

平成６年には、平成１５年国体を富士宮市で開催することが決まった。テーマは、「ＮＥＷ!!わかふじ国体」県協会石川会長と、国体実行委員会に所属し、まず、国体バドミントン競技リハーサル大会として、全国高校選抜大会を平成１５年３月に実施した。地元の期待に応え星陵高校が女子の部で優勝した。

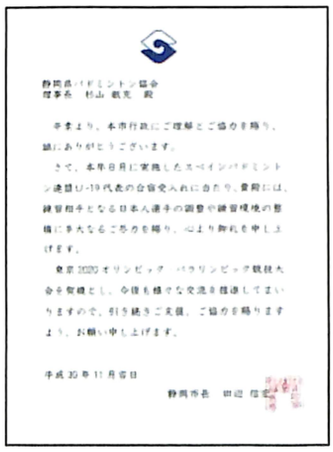
次に、わかふじ国体を市民に紹介するＰＲ大会を実施した。初めて、障がい者（車いす、知的）の皆様が参加しバドミントンの魅力に触れていただいた。この国体で初めて、幼児期のバドミントンの楽しみ方を紹介するよう依頼があり、急遽、ヤマハの飯野裕子氏のご協力をお願いして練習会を実施、当時の小室直義市長も幼児と一緒にシャトルを打って開会式のオープニングを飾っていただいた。その後、ねんりんピック、日本マスターズ、全国中学校バドミントン大会を実施した。

平成最後の年に富士宮市バドミントン協会創立５０周年行事を迎え、多くの関係者のご協力により思い出となる式典ができた。



富士宮市バドミントン協会創立５０周年行事の集合写真

杉山理事長に感謝状



静岡県バドミントン協会
理事長　杉山 敏充　殿

平素より、本市行政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、本年８月に実施したスペインバドミントン連盟U-19代表の合宿受入れにあたり、貴殿には、練習相手となる日本人選手の調整や練習環境の整備に多大なるご尽力を賜り、心より御礼を申し上げます。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とし、今後も様々な交流を継続してまいりますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成30年11月吉日

静岡市長　田辺 信宏

平成３０年１１月９日（金）に、杉山敏充理事長が、スペインバドミントン連盟Ｕ－１９代表合宿受入時の、多くの功績に対するお礼として、田辺信宏静岡市長より、感謝状を賜り、静岡市役所において、贈呈式が執り行われました。式典では、静岡市の大石貴生観光交流文化局次長が「合宿において、貴殿には練習相手となる日本人選手の調整や練習環境の整備に多大なるご尽力を賜り、心より感謝申し上げます」と謝辞を述べられました。

静岡市は、平成３０年１月に「２０２０東京オリンピックパラリンピック」の「ホストタウン」として、スペインと事前キャンプ実施の契約を締結しました。

今回の式典は参列した私たちにとっても誇らしく感動的なものとなりました。

最後に杉山理事長は、静岡市の皆さんに向けて「この度は、数多いスポーツの中から対象競技としてバドミントンを選んでいただき感謝申し上げます。

バドミントンは今追い風の中にあり、マスコミからも注目を浴びる機会が増えて、我々としても喜ばしい反面、身の引き締まる思いで日々の活動にまいしんしております。これから２０２０年まで微力ではありますが、静岡市のお力になれるよう、我々静岡県バドミントン協会は全力で努めていきます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

本日は身に余る光栄を頂き、田辺市長をはじめとする静岡市の皆さんには感謝申し上げます。」という言葉で締められました。



大石次長と杉山理事長



スペイン合宿打合せ風景



バドミントンキャラバンに参加して思う

静岡県バドミントン協会

副理事長　大石 恵司

新年明けまして、おめでとうございます。「バドミントンしずおか５８号」が発刊される頃はもう２月、梅の季節になっていると思います。今年は、東京オリンピックの前の年でもあり、バドミントンアスリートには、ランキングによる選考会が熾烈の年でもあります。


講演する中山様

１月６日（日）に日本バドミントン協会の主催によるバドミントンキャラバンに参加してまいりました。静岡市の静岡英和大学が会場で、初心者、ジュニア、指導者の参加による講義、実技指導をグループに分かれて実施いたしました。講師として、静岡県出身の中山紀子（旧姓 高木紀子　掛川西高出身）様、梅野尾悦子（旧姓竹中悦子）様とヨネックス所属のオリンピアン佐藤冴香選手・内藤真実コーチ・今別府香里コーチ・福万尚子選手・與猶くるみ選手を迎え、充実した１日を過ごしました。

当初は何人集まるのか心配ではありましたが、開会式で５００人程入る会場は満席になってしまいました。運営は日本バドミントン協会を軸に当協会、静岡市、関係者の皆様方の協力で行われ、大変充実した素晴らしい講習会となりました。

現在、国内のバドミントン人口は増え、レベルが大変アップしたせいでしょうか、昔は県内のバドミントンは過去には輝かしい実績がありましたが、最近はインターハイの実績もいまひとつであり、実業団も現在はジャトコだけが主に活動しているのが実状です。ジュニアの育成は、各指導者のもと、年々レベルアップが図られていると思われますが、そのあとの育成が先細りとなっているような気がします。



静岡県バドミントン界のこれからの課題は、実業団チームの増加と全体の活性化が、必要だと思われます。一言で言ってしまえば、簡単なんですが、非常に大変なことです。県の優秀選手が、また、静岡県に戻ってバドミントンをやっていくには、企業への働きかけ、ＮＰＯ法人の設立等色々な方策が必要だと推測します。皆様の英知を結集し、これからの、静岡県のバドミントンを盛り上げていきたいですね。

全国巡回バドミントン講習会（バドミントン・キャラバン 2018）

趣旨：全国でのバドミントンのさらなる普及とバドミントンの価値を高めるために、バドミントンをしたことのない人をバドミントンへ誘うとともに、指導者の質の向上を目指す。

５年間で全国４７都道府県を巡回する。





初めてのバドミントン集合写真











ジュニア・指導者向け講演会
一部　「バドミントンとの出会い」（中山紀子氏）
二部　「バドミントンとの出会い～映像で振り返る～」（栂野尾悦子氏）
三部　「オリンピック学習」（佐藤冴香 2012 年ロンドンオリンピック出場）
２０２０ホストタウンのとりくみ（静岡市）

初めてのバドミントン
・ヨネックスのデモンストレーターによる模範試合
・シャトルで遊ぼう　・シャトルを打とう　・ラリーラリー

ヨネックスの選手による模範試合

ジュニア教室（3 クール）
1.体育館での実技　「～オリンピアンのプレイを真似しよう！～」
①素早く動くこと　②かつがず打つこと
2.講義「勝つためのノートの作り方」
3.講義「勝つための日常生活」

指導者座談会　「バドミントンの指導についての悩み解決」
講師：中山紀子・栂野尾悦子・内藤真実・今別府香里

“感動！！2018 日中成人バドミントン交流静岡大会　“


歓迎式典での交流

１１月２６日から３０日の間、静岡市このはなアリーナにて行われた中国、日本選手との「日中交流成人スポーツ大会・バドミントン競技会」が行われました。
競技の日程は１１月２７日・２８日の二日間で出場チームは日本代表６チーム、陝西省代表２チームの計 8 チームを Y（ヤング）チームおよび S（シニア）チームの２グループに分け団体戦として行いました。また、より友好を深めるための交流戦（フレンドリーマッチ）も行いました。
試合の終了後にはお互いの健闘を称え合い抱擁する場面や記念写真を撮るなどそれは日中の友好、交流を確かなものとするに相応しい光景が随所に見られました。日本選手は JAPAN のユニフォームやゼッケンを着用して試合に臨み、これは国際試合としての雰囲気を一段とかもし出しました。
　また、日中友好の証として記念Ｔシツを作製し日中両選手、役員全員に着用して頂きました。これは中国選手にとって最高の“おもてなし”と受けとめられ心から歓んでいました。




試合での交流



第５９号　令和元年６月15日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会

2019年度 第47回 全国高等学校選抜バドミントン大会　東海地区予選会
平成31年1月19日～21日　大垣市総合体育館



男子学校対抗戦　優勝 富士見



女子学校対抗戦　優勝 常葉大菊川





男子ﾀﾞﾌﾞﾙｽ２位　平岡・土井（富士見）
男子ｼﾝｸﾞﾙｽ優勝　平岡佑太（富士見）





女子ﾀﾞﾌﾞﾙｽ優勝　石黒・内田（星陵）
女子ｼﾝｸﾞﾙｽ３位　内田優衣（星陵）

ごあいさつ　静岡県バドミントン協会　会長　工藤 喜久雄

このたび、静岡県バドミントン協会の会長に就任いたしました工藤でございます。よろしくお願い申し上げます。本協会は、昭和２４年４月に創立されてから７０年となり、多くの諸先輩の皆さんが築いてきた伝統と歴史ある、この協会の舵取りを担うという重責に身の引き締まる思いであります。

元号が平成から令和に変わった今日、本協会が更に発展していくためには慣習を重んじつつも前例にとらわれることなく、変わっていかなければならないものは勇気をもって変えていかなければならないと思います。

本協会には選手強化や会員増強及び財源確保などの多くの難問に直面していますが、バドミントン静岡を復活させ、競技を発展させるには各連盟及び指導者が互いの垣根を超えて協力、連携を密にし、国内外で活躍できるトップアスリートの育成に努めていかなければならないと思います。このためにも、新年度の活動方針及び重点事業に基づき役員や各専門委員長をリーダーとして各種事業を推進し、一歩ずつ着実に歩むことができるよう皆さんと共に進んでまいりたいと思います。今後とも会員の皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



指導者に想う

静岡県バドミントン協会　副理事長　鈴木 利幸

本年、静岡県バドミントン協会は設立７０周年を迎えます。この節目の年に幾多の大役を仰せつかり、その責任の重さに身の引き締まる思いを感じております。７０年という長い期間に、諸先輩の築かれた伝統を守り、次の世代への橋渡しができるよう、微力ではありますが、努めていきますので、よろしくお願い致します。

さて、令和元年が５月にスタートしましたが、静岡県バドミントン協会の主催大会も５月４日、５日の「ふじさんシニアオープンバドミントン大会」を皮切りに大会運営事業がはじまりました。

第４回を迎えた同大会では、申込み総数６９２名、うち県外からは４２７名、２５都府県からの参加をいただき確実に全国での知名度が高まっていることが実証されました。

今年度の主催大会は、昨年同様９大会が計画されており、静岡、浜松、沼津、富士、富士宮、三島、藤枝と県内７市に分散して、　開催致します。

静岡県体育協会が主催する「 スポーツフェスティバル バドミントン大会 」においては、東部（三島）中部（静岡）西部（豊田）それぞれに実行委員会を発足させて大会運営を行います。

国際交流事業としては、日中成人スポーツ交流事業が中国を相手国として行われ、６月に派遣、１１月に受入を実施します。静岡市からの委託事業となる東京オリパラ事前合宿受入事業は、スペインを相手国として行われ、８月にスペインＵ１９合宿、２０年１月に関連イベントを開催する計画で進めています。

また、ジュニア育成事業（アカデミー）については、昨年の中学生「羽ばたき」に続き、今年、小学生「羽ねっこ」を立ち上げました。いずれも学校・クラブチームといった枠にとらわれず、意欲のある生徒、児童を一か所に集めて、指導者資格を有する指導者が連携して一貫指導を行うというアカデミーの基本理念に沿ったものです。このアカデミーを県内に広め浸透させる活動を引き続き行っていきます。今までの大会運営事業、国際交流事業、アカデミー事業は、いずれも役員の皆様、会員の皆様、県内愛好者の皆様のご理解とご協力をいただかなければ実施できません。

引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げ、就任挨拶及び今年度の事業計画の報告とさせていただきます。





第４回ふじさんシニアオープンバドミントン大会開会式

「あの頃」 静岡でのバドミントンの思い出　　中山紀子

バドミントン競技者としての私の原点は、掛西高のバドミントン部でした。小学校五年から中学校三年までソフトボールに明け暮れていましたが、今でいう燃え尽き症候群になっていた私に、中学の恩師から「君の進むべき道は西高でバドミントンをやることだ」と勧められ西高を選びました。当時バドミントンは屋外の遊びでしか知らなかった私でしたが、団体競技のソフトボールと異なり個人競技のバドミントンは、自分が努力すれば結果がついてくる魅力に、たちまちはまりました。

掛西高のバドミントン部は昔からとてもチームワークが良く、私自身インターハイ優勝を目指して、ただひたすらにシャトルを追い掛けて、とても楽しい日々でした。後にこのチームワークの良さは、女子団体世界選手権（ユーバー杯）で主将をした時に大いに役立ちました。

インターハイ優勝が実現できなかったので、大学に進学しあらためて挑戦することにしました。

大学一年の時、念願の日本一になり、途中であきらめなくて良かったなとつくづく思いました。

大学卒業後は岐阜の短大に勤務しながら、「ユーバー杯」で思いがけず初出場で初優勝できたことは本当に幸運でした。

その後のアジア大会、全英選手権、三回のユーバー杯、ミュンヘンオリンピック(公開競技）の金メダルにつながったことは、良き指導者や良き仲間に恵まれたからだと思います。

現在、横浜に住んでいますが、微力ながらバドミントンを通じて人々にスポーツの楽しさを伝えたいと願って活動しています。



ユーバー杯
抱える中山様



ユーバー杯にて

伊東市立門野中学校バドミントン部　　顧問　鈴木美雪



伊東市立門野中学校は男子バドミントン部８名、女子バドミントン部２３人の計３１名で活動しています。日々の練習では、基礎を大事にした練習を行っています。「**東海大会出場**」という目標は、一昨年の先輩方が築きあげてきた目標を受け継ぎ、全員がその目標を達成しようと、練習に取り組んでいます。



私たちがバドミントンを続けられるのは、支えてくださる先生やコーチ、家族や仲間がいるからです。その方々への感謝の気持ちを忘れずに、これからもがんばっていきます。

常葉大学附属菊川中バドミントン部　　顧問　渡邉友也　『常翔・常笑・常勝』



私たち常葉大学附属菊川中バドミントン部は、この言葉を合言葉に、明るく楽しく日々練習に励んでいます。今年は１年生が５名入部し、３年生２名を含めて７名で活動しています。
人数は少ないですが、インターハイに出場経験のある高校生と一緒に練習をさせてもらえるのでレベルの高い練習をすることができます。練習内容は、走り込みなどのトレーニング、基本重視のノックやパターン練習です。また、プレー面だけでなく、挨拶や礼儀などを大切にしています。そして、顧問の先生や保護者の方々など、私たちを応援して下さる方へ感謝の気持ちを忘れずに人間的にも成長していけるように頑張りそして先輩方が築き上げた伝統を受け継ぎ、一戦一戦を大切に戦えるよう全力でプレーしていきます。主将 村松 壱華

２０１９年度静岡県バドミントン協会事業計画

活動方針：静岡県におけるバドミントン競技の普及、発展のため競技力向上に努め、世界で活躍できる全国トップレベル選手を輩出する環境整備を図ると共に、生涯スポーツとして地域に密着、愛好される競技団体となるべく、各専門委員会の事業を活発させオール静岡で活動する。

重点目標

１）ジュニア選手の強化を図りトップアスリートを育成する。
２）ジュニア選手の発掘育成のため資質の高い地域ジュニア指導者の養成と拡大を図る。
３）会員登録拡大のため加盟市町及び各連盟と連携し登録者数の拡大を図る。（5,000 名を目指す。）
４）競技の普及等のため各団体が行う事業に対応するため市町協会との連携強化体制の維持、確立を図る。
５）国内トップレベルの選手が参加する大会の誘致のための検討を行う。
６）２０２０年２月に創立 70 周年記念事業を開催する。

【総 務 委 員 会】：市町協会との連携を密にして、主催大会が県民に愛され多くの参加者が集まるよう実施要項の検討、改革を行う事業等。
【選手強化委員会】：各年代での東海・全国大会での上位進出を目指して計画的に強化を推進する。
【指導普及委員会】：資質の高い地域ジュニア指導者の養成と拡大を図るため公認コーチ認定講習会の開催、運営を行う事業等。
会員登録拡大のため普及を、目的としたバドミントン競技大会・交流会の開催、運営。
【審 判 委 員 会】：審判講習会を計画的に開催し審判員の増員を図ると共に、資質の向上に努め上級審判員の育成を図り大会等に審判員を派遣する体制を確立する。
【財 務 委 員 会】：安定な財源確保のため、本協会の目的に賛同して頂ける個人及び法人等に賛助会員の公募を、働きかける方策を検討する。
【表 彰 委 員 会】：本協会に長年にわたり功労のあった個人、並びに団体、今年度の主要大会で優秀な成績を収めた個人、団体を表彰する。
【障害者専門委員会】：障害のある方々に大会や教室への参加の機会を設け、相互の交流を深めると共に競技の普及を図る。県
外大会に関する情報を収集し、大会への参加を通して競技力の向上を図る。

第６０号　令和元年11月１日　発行所　静岡県バドミントン協会　編集者・印刷　広報委員会

第67回静岡県高等学校総合体育大会バドミントン競技

令和元年５月18日・19日・25日・26日　学校対抗：沼津市民体育館　個人戦：磐田市総合体育館



【男子学校対抗】
優勝　富士見

【女子学校対抗】
優勝　常葉大菊川







優勝 土井



優勝 石上



優勝 土井・平岡
（富士見）



優勝 鈴木・石上
（常葉大菊川）

高松宮記念杯 第７０回全国高等学校バドミントン選手権大会
令和元年度全国高等学校総合体育大会バドミントン競技大会

富士見　第５位
（ベスト８）

令和元年７月３１日（水）～８月５日（月）熊本県　八代市　芦北町・八代市総合体育館
八代市東陽スポーツセンター　芦北町民総合センター　八代白百合学園高等学校 体育館

第３５回若葉カップ全国小学生大会

令和元年７月２０日（土）～２３日(火)
京都府長岡京市・西山公園体育館
男子団体　９位　どんぐりジュニア
女子団体　５位　広幡バドキッズ





公益財団法人 日本バドミントン協会 功労賞・顕讃賞

本年６月に綿貫民輔（現名誉会長）より授与されました。
功労賞は日本バドミントン協会の発展のため顕著な功績のあった個人及び団体で、杉山理事長が受賞されました。
顕讃賞はバドミントン選手育成、振興に特に功績のあった方に授与されます。



杉山敏充理事長



井出裕雄常任理事



後藤和之常任理事



西島和彦常任理事

第２０回ダイハツ全国ＡＢＣ大会

令和元年８月 11 日(日) ～13 日(火)
熊本県八代市

クラス Ｃ ３位 五十右帆香



ごあいさつ　静岡県バドミントン協会　　副理事長　井手 昌子

令和元年の静岡県バドミントン協会の役員改選に伴い副理事長に就任しました井手でございます。よろしくお願い致します。私は、レディースバドミントン連盟の理事長になった１０年前に県協会常任理事となり、県協会の活動・運営に関わらせていただき、多大な事業運営・資金面の大変さを直接感じました。
本年度も「７０周年記念式典」、昨年に続き「日中交流大会」などもありますので、県協会の役員はじめ協会員が一丸となって事業遂行に取り組まなければいけないと思います。今後も色々な事業がある中で、県協会としては会員増強・財源確保などの課題があります。その上で静岡県会員全体の強化も必要かと思います。
役員として、このような現状を静岡県のバドミントン愛好者に周知していただき、事業に参加していただけるよう努力していきたいと思いますので、今後とも宜しくお願いいたします。

富士宮市立第二中学校バドミントン部　顧問 岩渕 智紀

本校バドミントン部は男子３３名、女子１４名の計４７名で活動をしています。
目標の、「東海大会出場」を達成するため、日々の練習に取り組んでいます。バドミントン部は本校の約５分の１の人数が集まっている、大変大きい部で、少ない時間、少ないコートを効率よく使用することで、日々の練習を充実させています。また、バドミントンの技術だけでなく、**声出し・準備・片付け・マナーなど、**人として成長することで、応援したいと思える部になるよう部員全員一丸となって努力していきます。



2019 年度公認スポーツ　コーチ１・コーチ２養成講習会「バドミントン競技」

今年度から養成講習会は、新しく指導員がコーチ１・上級指導員がコーチ２となりました。７月１５日から８月４日までの間で５回のコーチ１指導者講習会が行われ、さらに８月２４日から９月２３日の６日間で、　コーチ２指導者講習会が行われました。講師は、静岡県バドミントン協会理事長の杉山敏充先生で、コーチ１の受講生は２０代から６０代まで幅広い年代層の方が受講されました。



コーチ１受講生の皆さん

また、有資格の方が、自己研鑽の為に指導理論や指導技術の向上を図っていました。
内容は、インフォームドコンセントの必要性と現状・スポーツと『法的知識』・バドミントンにおける『事故と予防』・シャトルの飛行特性・タンブル tumble・スピン spin 技術・スライス系ショット・ラギングバッグ・プレーヤーの発育・発達に応じた指導方法の抽出と指導法について・バドミントンの指導理論・トレーニング理論・スポーツ心理学・バドミントンの歴史など」を御教授頂きました。コーチ２の受講生は他県からの受講生や県内でコーチを行っている方が受講されました。
内容は、「戦術論・技術的ディマンドについて・アジア圏の戦術・世界の戦術・ダブルス・シングルス・ミックス戦術とゲーム分析」でアクティブラーニングを取り入れた戦術を主体とした内容で、受講生の皆様が、必死に自分の物にしようとする姿が見られました。
また、中国選手と静岡県選手の試合を分析し、「課題の抽出、克服するためのトレーニングプログラムの作成、静岡の選手に対してプログラムの指導、模擬試合を行い検証」一連の指導ルーティーンも行い身をもって体感していました。



コーチ２受講生の皆さん



コーチ２受講風景



アクティブラーニング風景

第２部

栄光の記録

・全国大会

・東海大会・中部日本大会

・県内大会

大会結果につきましては、資料不足のところもあり、不備な点もあるかと思いますが、ご容赦ください。

■ 全日本総合選手権大会

年度	種目	順位	選手名
14	混合複	2位	本田和裕（ジャトコ）・吉富桂子（熊本）
16	混合複	ベスト8	山下　豪（ジャトコ）・渡辺夕子（広島）

■ 国民体育大会

年度	回	種目	順位	選手名
13	56	成年男子		鈴木正博　本田和裕　山下豪
		成年女子		市川美保　河島さや香　相磯優奈
		少年男子		市川純一　大川康雄　遠藤祐介
14	57	成年男子		本田和裕　古川裕輔　山下豪
		少年女子		村松瑞穂　金森裕子　米川優貴
15	58	成年男子	4位	中島信頼　山下豪　古川裕輔
		成年女子	5位	山下奈々　尾崎貴子　杉谷敦美
		少年男子		高田直弥　尾崎勝　荒川博之
		少年女子	5位	村松瑞穂　金森裕子　米川優貴
16	59	成年男子		清水達也　山下豪　藤巻光善
		少年女子		清水つかさ　佐野悠　米川優貴
17	60	少年男子		河野洋平・小野拓也　細小路直人
		成年女子		金森裕子・村松瑞穂・塩澤彩子
18	61	成年男子		佐野智久・山下幸司・本田純
19	62	成年女子	4位	金森裕子・村松瑞穂・杉谷敦美
20	63	少年女子		岩渕幸穂・佐野萌子・加藤静
21	64	少年男子		米山修平・中野裕太・岩城潤
22	65	成年男子		佐野智久・尾崎弘一・古谷勇人
23	66	成年女子		金森裕子・村松瑞穂・増田香緒里
24	67	少年女子		芹澤妃那子・勝俣莉里佳・太田川真希
25	68	少年男子		工藤有智・齋藤尚吾・川島健
26	69	成年男子		細田慎二・山崎大嗣・河野大地
		少年女子		河合莉咲・勝俣莉里香・山田圭菜
27	70	成年女子		芹澤妃那子・勝俣莉里佳・太田川真希
28	71	成年男子		栗佑貴・細田慎二・山崎大嗣
		少年女子		野田彩夏・高栁美月・住吉琴菜
29	72	少年男子		稲葉琢人・平岡祐太・土井大和
30	73	成年男子		栗佑貴・細田慎二・岸野嵩志

■ 全日本社会人選手権大会

年度	回	種目	順位	選手名
14	45	男子複	ベスト8	本田和裕（ジャトコ）・岡山（兵庫）
16	47	混合複	ベスト8	山下豪（ジャトコ）・渡辺夕子（広島）
17	48	男子複	ベスト8	山下豪（ジャトコ）・山下大介（佐賀）
		混合複	ベスト8	山下豪（ジャトコ）・渡辺夕子（広島）
19	50	混合複	3位	山下豪（ジャトコ）・黒川真緒（新潟）

■ 全国高校総合体育大会

年度	回	種目	順位	選手名
14	53	女子複	ベスト8	村松瑞穂・金森裕子（星陵）
15	54	女子団体	3位	星陵
		女子複	1位	村松瑞穂・金森裕子（星陵）
		女子単	ベスト8	村松瑞穂（星陵）
		女子単	ベスト8	金森裕子（星陵）
16	55	女子団体	ベスト8	星陵
31	70	男子団体	ベスト8	富士見

■ 全国高校選抜大会

年度	回	種目	順位	選手名
11	28	男子単	ベスト８	尾崎弘一(伊東)
14	31	女子団体	１位	星陵
		女子複	ベスト８	金森・村松（星陵)
		女子複	３位	金森裕子（星陵)
		女子単	ベスト８	村松瑞穂（星陵)
15	32	女子団体	ベスト８	星陵
		女子単	ベスト８	米川優貴(星陵)

■ 全日本ジュニアバドミントン選手権大会

年度	回	種目	順位	選手名
15	22	女子複	１位	金森・村松（星陵高校)

■ 全国高等学校定通制大会

年度	種目	順位	選手名
11	女子単	２位	土屋瑠花（伊東高校)

■ 全国中学校総合体育大会

年度	回	種目	順位	選手名
12	22	女子単	２位	村松瑞穂（富士宮第一)
			ベスト８	金森裕子（富士根北)

■ 全国中学校バドミントン大会

年度	回	種目	順位	選手名
29	47	男子団体	ベスト８	星陵中
		男子複	ベスト８	早川・影山（星陵中)

■ 全国小学生選手権大会

年度	回	種目	順位	選手名
17	14	女子単４年生以下	２位	芹沢妃那子(御殿場)
18	15	女子単４年生以下	３位	勝俣莉里香(御殿場)
		男子単４年生以下	５位	小川桂汰(大井川)
		女子単５年生以下	５位	芹沢妃那子(御殿場)
		男子複６年生以下	５位	大場雷真・小川耕汰（大井川)
19	16	男子単４年生以下	１位	小川桂汰(大井川)
20	17	男子単５年生以下	３位	小川桂汰(大井川)
21	18	男子単６年生以下	３位	小川桂汰(大井川)
23	20	女子複５年生以下	２位	住吉琴菜・武田楓（伊東SBC)
24	21	男子複５年生以下	５位	福田陸大・三橋朋生（伊東SBC)
		女子複４年生以下	５位	内田優衣・鈴木彩也花（広幡バドキッズ)
		女子複５年生以下	５位	佐野智咲・原　玲（富士山バド)
		女子複６年生以下	５位	住吉琴菜・新井田楓（伊東SBC)
		女子都道府県対抗	３位	静岡県
25	22	女子複５年生以下	３位	内田優衣・鈴木彩也花（広幡バドキッズ)
26	23	男子複６年生以下	５位	海野凌我・森遼太（富士山バド)
		男子複６年生以下	５位	三橋朋生・早川倫矢（SBC スクール)
		女子複６年生以下	２位	内田優衣・鈴木彩也花（広幡バドキッズ)
28	25	男子複４年生以下	１位	勝又翔哉・勝又悠翔（富士山バド)
29	26	男子複５年生以下	２位	勝又翔哉・勝又悠翔（富士山バド)
30	27	男子都道府県対抗	５位	静岡県

■ 全国ＡＢＣ大会

年度	回	種目	順位	選手名
12	1	男子 1.2 年単	3 位	勝俣政季（御殿場）
13	2	女子 1.2 年単	5 位	桂巻久美乃（富士山）
15	4	女子 1.2 年単	3 位	芹沢妃那子（御殿場）
16	5	女子 1.2 年単	5 位	勝俣莉里香（御殿場）
17	6	男子 1.2 年単	5 位	小川桂汰（大井川）
19	8	男子 1.2 年単	3 位	小川桂汰（大井川）
20	9	男子 3.4 年単	5 位	小川桂汰（大井川）
21	10	男子 5.6 年単	3 位	小川桂汰（大井川）
		女子 1.2 年単	3 位	三好　蒼（伊東）
23	12	男子 3.4 年単	5 位	平岡佑太（伊東）
26	15	男子 1.2 年単	3 位	勝又翔哉（富士山）
28	17	男子 1.2 年単	2 位	勝又悠翔（富士山）
29	18	女子 1.2 年単	3 位	長谷川翼咲（広幡）
30	19	男子 1.2 年単	5 位	山下瑛翔（富士中央）
元	20	女子 1.2 年単	3 位	五十右帆香（広幡）

■ 全日本教職員選手権大会

年度	回	種目	順位	選手名
15	42	一般女子団体	ベスト８	早川敦子・神田いずみ・時森美穂 植田恵子・中村富美子・中嶋陽子
		30 歳代女子複	3 位	神田いずみ・中村富美子
		40 歳代男子複	ベスト８	岩城保久・大澤俊幸
17	44	65 歳以上男子複	3 位	中田稔・陶山泰信
18	45	30 歳以上女子複	ベスト８	神田いずみ・中村富美子
		40 歳以上女子単	ベスト８	山下由起子
19	46	65 歳以上男子単	3 位	中田稔
20	47	50 歳以上男子単	2 位	岩城保久
		65 歳以上男子単	3 位	中田稔
27	54	40 歳以上女子複	3 位	神田いずみ・中村富美子
		７0 歳以上男子単	3 位	斉藤俊二
29	56	40 歳以上女子複	3 位	神田いずみ・中村富美子

■ 全日本レディース選手権大会

年度	回	種目	順位	選手名
20	26	都道府県対抗	ベスト８	宮本智子・三井栄子・小林美枝・米田陽子・山田文香 山本晴世・湯山浩子・太田清子・山本真澄
29	35	都道府県対抗	ベスト８	林綾香・中野妙・太田川真希・橋本裕美・橋口知美 石田ゆき・山本晴世・遠藤弥生・米田陽子

■ 全日本シニアバドミントン選手権大会

年度	回	種目	順位	選手名
11	16	男子 40 歳単	1 位	井出裕雄
13	18	男子 40 歳複	1 位	飯野（ヤマハ）鈴木（新潟）
17	22	男子 45 歳以上単	1 位	井出裕雄
		男子 60 歳以上複	2 位	松崎和郎・日下部敏弘
		男子 65 歳以上複	3 位	亀田武志・芝崎侑司
18	23	男子 60 歳以上複	2 位	松崎和郎・日下部敏弘
19	24	男子 45 歳以上単	3 位	井出裕雄
		男子 50 歳以上複	ベスト８	西島知彦・佐野明彦
		男子 60 歳以上複	1 位	松崎和郎・日下部敏弘
		女子 60 歳以上複	3 位	山城芳子・林睦代

年度	回	種目	順位	選手名
19	24	混合 60 歳以上複	ベスト８	日下部敏弘・石川澄子
		男子 65 歳以上複	ベスト８	亀田武志・芝崎侑司
23	28	男子 50 歳以上複	２位	佐野明彦・芹沢英彦
		女子 65 歳以上単	２位	山下由希子
		女子 65 歳以上複	ベスト８	山城芳子・林睦代
		混合 70 歳以上混合複	１位	芝崎侑司・田中静子（埼玉）
24	29	混合 50 歳以上混合複	ベスト８	杉本隆義・御宿みほ
		男子 55 歳以上単	３位	佐野明彦
		男子 70 歳以上複	３位	芝崎侑司・佐伯登(神奈川)
		女子 65 歳以上単	ベスト８	山下由希子
		混合 70 歳以上混合複	１位	芝崎侑司・田中静子（埼玉）
25	30	男子 35 歳以上単	ベスト４	佐野智久
		女子 35 歳以上単	ベスト８	橋本裕美
		男子 35 歳以上複	ベスト４	佐野智久・中澤健亮（茨城）
		男子 40 歳以上複	ベスト８	櫻井基之・中村繁幸
		混合 40 歳以上複	ベスト８	中村繁幸・三井栄子
		男子 55 歳以上複	ベスト８	芹澤英彦・佐野明彦
		女子 55 歳以上複	ベスト４	湯山浩子・太田清子
25	30	混合 55 歳以上複	ベスト８	芹澤英彦・湯山浩子
		男子 60 歳以上複	ベスト８	大邑富三・増田英雄
		女子 65 歳以上複	ベスト８	山下由紀子
28	33	男子 30 歳以上複	３位	尾崎弘一・大野裕茉
		女子 35 歳以上単	ベスト８	中山佑美
		女子 40 歳以上単	ベスト８	橋本裕美
		男子 60 歳以上複	３位	大邑富三・大石千利
		女子 70 歳以上複	ベスト８	山城芳子・林睦代
29	34	男子 30 歳以上複	ベスト８	尾崎弘一・大野裕茉
		混合 30 歳以上複	３位	尾崎弘一・田島朝美（東京）
		女子 40 歳以上単	３位	橋本裕美
		男子 60 歳以上単	２位	芹澤英彦
		男子 60 歳以上単	３位	佐野明彦
		男子 60 歳以上複	２位	芹澤英彦・佐野明彦
		女子 60 歳以上複	１位	太田清子・森田須賀子（大阪）
		混合 60 歳以上複	２位	高岡桂（福井）・太田清子
30	35	男子 30 歳以上複	ベスト８	尾崎弘一・大野裕茉
		女子 35 歳以上単	ベスト８	中山祐美
		女子 40 歳以上単	ベスト８	伊藤祐佳
		女子 40 歳以上単	ベスト８	橋本裕美
		男子 45 歳以上複	３位	中村繁幸・長井純一郎（兵庫）
		男子 60 歳以上複	１位	佐野明彦・芹澤英彦
		女子 60 歳以上複	３位	太田清子・森田須賀子（大阪）
		男子 65 歳以上単	ベスト８	増田英雄

■ 日本障がい者バドミントン選手権

年度	回	種目	順位	選手名
28	2	ID 男子複	１位	渡辺力・遠藤聖也
29	3	ID 男子複	１位	渡辺力・遠藤聖也
		ID 男子単	３位	渡辺力

■ 日本知的障がい者バドミントン選手権

年度	回	種目	順位	選手名
令元	1	ID 男子複	３位	渡辺力・遠藤聖也

■ 中部日本選手権大会

年	回	種目	順位・選手名					
12	53	少年女子単	3位	金森裕子（富士根北）				
		成年男子複	1位	池田光宏・武井弘征（富士フィルム）				
		成年女子複	2位	米田陽子・山田文香				
		壮年男子複	1位	西島知彦（富士フィルム）・佐野明彦（富士宮）		4位	西山勇次・宮崎寿夫（富士市協会）	
		壮年男子単	1位	西島知彦（富士フィルム）		3位	西山勇次（富士市協会）	
		壮年女子複	3位	御宿みほ・中西ひろこ（裾野市協会）		3位	安田れい子・笠原千代子（沼津市協会）	
		ベテラン男子複	3位	日下部敏弘・武田正雄（小糸製作所）		3位	篠原安行・池田義英（芝川町）	
		ベテラン女子複	1位	林睦代・山城芳子（富士クラブ）				
			2位	条田綾子・高橋睦子（トトロ）		3位	安田れい子・笠原千代子（沼津市協会）	
13	54	壮年男子複	3位	西島知彦（富士フィルム）・佐野明彦（富士宮）				
		ベテラン女子複	3位	山城・条田（富士クラブ）				
17	58	少年女子複	3位	掛本裕美・森川有紀				
21	62	混合複	3位	浅原（康）浅原（八）				
		50歳以上男子複	2位	西山・大石				
		40歳以上女子複	1位	米田・山田	2位	酒井・桜井	3位	伊藤・渡辺　高橋・塩澤
		40歳以上男子複	3位	渡辺・真			3位	浅原
		30歳以上女子複	2位	橋口・橋本				
		30歳以上男子複	2位	中村・石井			3位	中澤・青島
		30歳以上男子単	3位	真			3位	渡辺
		一般男子複	2位	杉浦・政谷			3位	政谷
		少年男子複	2位	井口・河野				
		少年男子単	3位	井口				
30	71	少年男子単	1位	平岡佑太（富士見高）				
		少年男子複	3位	平岡佑太・土井大和（富士見高）				
		少年女子複	1位	石川瑠奈・鈴木愛美（常葉大菊川高）				
		一般男子単	1位	園山拓未（ジャトコ）	2位	岸野嵩志（ジャトコ）	3位	栗佑貴（ジャトコ）
		一般男子複	2位	栗下大毅・樋口翔太				
		一般男子複	3位	細田慎二・丸山飛鳥			3位	鈴木寛紀・惟村直弘
		一般女子複	3位	太田川真希・小沢羽衣				
		40歳以上男子単	2位	清章悟				
		40歳以上男子複	1位	石田薫・清章悟			2位	川島直樹・長谷川武史
		40歳以上女子複	2位	伊藤祐佳・篠原民幸				
		60歳以上男子複	1位	吉岡直彦・御宿正士				

■ 東海総合選手権大会

年度	種目	順位	選手名	種目	順位	選手名
11	男子単	2位	中島信頼（ジャトコ）	ジュニア男子単	1位	尾崎弘一（伊東高校）
12	男子複	4位	清水・山下（ジャトコ）	ジュニア男子複	3位	大村・市村（伊東高校）
	男子単	1位	中島信頼（ジャトコ）	ジュニア男子単	2位	市村純一（伊東高校）
	混合複	2位	清水・市川（ジャトコ）			
13	男子複	3位	山下・鈴木（ジャトコ）	ジュニア女子複	4位	平石・塩澤（星陵高校）
	女子複	2位	村松・金森（星陵高校）			
14	男子複	3位	山下・古川（ジャトコ）	混合複	1位	清水達也・常世奈奈（ジャトコ）
	男子単	1位	古川裕輔（ジャトコ）	ジュニア女子単	2位	米川優貴（星陵高校）
		3位	鈴木正博（ジャトコ）			
15	男子複	1位	清水・山下（ジャトコ）	男子単	3位	栗佑貴（ジャトコ）
		3位	中島・鈴木（ジャトコ）		3位	中島信頼（ジャトコ）
	混合複	2位	山下・山下（ジャトコ）			
16	男子複	1位	清水達也・山下豪（ジャトコ）	ジュニア男子単	2位	河野（星陵高）
	ジュニア男子複	4位	河野・小野（星陵高）		3位	岩崎（星陵高）
	ジュニア女子複	3位	増田・斉藤（伊東商高）	ジュニア女子単	3位	増田（伊東商高）
	混合複	4位	野村・速水舞（伊東協会）			
17	男子単	4位	栗佑貴（ジャトコ）	ジュニア男子複	1位	小野拓也・望月俊吾
	混合複	4位	石井充・石井亜紀子	ジュニア女子複	4位	掛本裕美・森川有紀

年度	種目	順位	選手名	種目	順位	選手名
18	男子複	2位	山下豪・栗佑貴（ジャトコ）	ジュニア男子単	3位	瀬戸麻人
	男子単	3位	佐野智久			
25	男子単	3位	大野裕茉			
28	一般混合複	2位	栗下大毅・岩渕幸穂	ジュニア女子複	3位	野田・住吉（星陵高）
	ジュニア男子単	2位	小野田泰地（星陵高）			
29	ジュニア男子複	3位	土井・竹田（富士見高）	ジュニア女子複	4位	鬼束・杉本（加藤学園高）
	ジュニア男子単	1位	小野田泰地（星陵高）	ジュニア女子単	4位	住吉琴菜（星陵高）
		4位	平岡佑太（富士見高）			

■ 東海実業団選手権大会

年度	回	種目	順位	団体名
11	45	男子団体	3位	ジャトコ
12	46	男子団体	2位	ジャトコ
14	47	男子団体	2位	ジャトコ
15	48	男子団体	2位	ジャトコ
20	53	男子団体	3位	ジャトコ
21	54	男子団体	3位	ジャトコ

■ 東海大学バドミントン選手権大会

年度	回	種目	順位	団体名
14	95	団体	3位	静岡大
29	125	団体	2位	静岡大

■ 東海高等学校総合体育大会

年度	回	種目	順位	団体名	種目	順位	団体名
11	46	女子団体	3位	静岡城北高校			
13	48	男子団体	2位	伊東高校	女子団体	2位	星陵高校
14	49	女子団体	2位	星陵高校			
15	50	女子団体	1位	星陵高校			
16	51	男子団体	3位	星陵高校	女子団体	1位	星陵高校
			3位	富士宮北高校			
17	52	女子団体	3位	星陵高校			
18	53	男子団体	3位	星陵高校			
20	55	男子団体	3位	星陵高校	男子団体	3位	伊東高校
22	57	男子団体	3位	星陵高校			
23	58	男子団体	2位	星陵高校			
26	61	男子団体	2位	星陵高校			
27	62	女子団体	3位	星陵高校			
28	63	男子団体	3位	星陵高校	男子団体	3位	伊東高校
29	64	男子団体	3位	星陵高校			
30	65	男子団体	2位	富士見高校	女子団体	3位	常葉大菊川高校
元	66	男子団体	1位	富士見高校	男子団体	2位	星陵高校

■ 全国高校選抜バドミントン大会東海予選

年	回	種目	順位	選手名	種目	順位	選手名
11	28	男子団体	4位	伊東高校	女子複	3位	杉山・益田（静岡女子）
		男子複	2位	尾崎・市村（伊東）	女子単	3位	遠藤友紀（星陵）
		男子単	1位	尾崎弘一（伊東）			
12	29	男子複	1位	市村・大川（伊東）	女子団体	4位	静岡城北高校
		女子単	2位	尾崎貴子（静岡城北）			
13	30	男子団体	4位	星陵高	女子複	2位	村松・金森（星陵）
		女子団体	3位	星陵高	女子単	2位	村松瑞穂（星陵）

年	回	種目	順位	選手名	種目	順位	選手名
15	32	女子団体	1位	星陵高	女子複	2位	清水・佐野（星陵）
		男子単	3位	尾崎勝（沼津商）	女子複	3位	増田・齋藤（伊東商）
					女子単	1位	米川優貴（星陵）
16	33	男子団体	3位	星陵高	女子団体	3位	星陵高
		男子複	2位	岩崎・小野（星陵）	女子複	2位	増田・斎藤（伊東商）
		男子複	3位	河野・望月（星陵）	女子単	3位	村松彩乃（星陵）
17	34	男子複	3位	小野・望月（星陵）	女子複	3位	掛本・森川（星陵）
		男子単	3位	小野拓也（星陵）			
18	35	男子団体	3位	星陵高			
19	36	男子団体	3位	星陵高	女子団体	3位	星陵高
		男子複	2位	村松・河野（星陵）	男子単	3位	掛本・森川（星陵）
20	37	男子団体	3位	星陵高	男子単	3位	星陵高
21	38	男子団体	2位	星陵高	女子団体	3位	星陵高
		男子複	2位	井口・河野（星陵）			
22	39	男子団体	3位	星陵高	女子団体	3位	伊東高
		男子団体	3位	伊東高	男子単	2位	河野大地（星陵）
		男子複	1位	河野・樋口（星陵）	男子単	3位	樋口翔太（星陵）
		男子複	3位	米田・武藤（星陵）	女子単	3位	太田川真希（富士宮北）
23	40	男子団体	3位	星陵高			
		男子単	2位	田中航平（伊東）	女子単	3位	太田川真希（富士宮北）
24	41	男子団体	3位	星陵高	女子団体	3位	御殿場西
		男子団体	3位	伊東	女子複	1位	芹澤・勝俣（御殿場西）
25	42	男子団体	1位	星陵高	女子団体	2位	星陵高
		男子複	3位	田原・深澤（星陵）	女子複	2位	河合・山田（星陵）
					女子単	2位	勝俣莉里香（御殿場西）
26	43	男子団体	3位	星陵高	女子団体	3位	星陵高
		男子複	3位	仁藤・米山（星陵）			
27	44	男子団体	2位	伊東高	女子団体	3位	星陵高
					女子複	3位	小野田・山城（星陵）
					女子単	3位	岩田美咲（星陵）
28	45	男子団体	2位	伊東高	女子団体	3位	加藤学園高
		男子複	2位	高嶋・稲葉（伊東）	女子複	2位	野田・住吉（星陵）
		男子単	2位	小野田泰地（星陵）	女子単	3位	野田彩夏（星陵）
29	46	男子団体	1位	富士見高	女子団体	3位	常葉大菊川高
		男子複	3位	平岡・土井（富士見）	女子複	3位	石上・鈴木（常葉大菊川）
		男子単	2位	小野田泰地（星陵）	女子単	3位	鬼束佳奈（加藤学園）
30	47	男子団体	1位	富士見高	女子団体	1位	常葉大菊川高
		男子複	2位	平岡・土井（富士見）	女子複	1位	石黒・内田（星陵）
		男子単	1位	平岡佑太（富士見）	女子単	3位	内田優衣（星陵）

■ 東海レディース大会

年度	回	種目	順位	選手名
13	15	35歳未満	1位	飯野裕子・樽井由美（Yクラブ）
		35歳以上	1位	山田眞由美・山本晴世（スルガウィングス）
		40歳以上	1位	御宿みほ・中西ひろこ（ウェンディ）
14	16	35歳未満	1位	宮本・山本(Yクラブ)
		35歳未満	2位	小和田・松浦(パワーズ)
		35歳以上	3位	斉藤・奥山(ジャーミィズ)
		40歳以上	1位	高山・中西(桔梗・ウエンディ)
		40歳以上	2位	山崎・清水(ジャーミィズ)
		50歳以上	2位	西川・菅野(ウィッシュ)

年度	回	種目	順位	選手名
18	20	35 歳未満	1 位	松浦・青島(パワーズ)
		45 歳以上	3 位	御宿・中西（ウェンディ）
20	22	45 歳以上	1 位	御宿・中西（ウェンディ）
22	24	35 歳未満	1 位	戸塚・中山（ウェンディ）
		35 歳未満	2 位	松浦・青島(パワーズ)
		50 歳以上	1 位	佐藤・村上（すみれ）
26	28	フリー	3 位	松浦・青島(パワーズ)
		50 歳以上	3 位	山本・清水（ウィッシュ・ジャーミィズ）
27	29	55 歳以上	1 位	御宿・中西（ウェンディ）
28	30	フリー	1 位	石田ゆき（パワーズ）・太田川真希　（富士クラブ）
		フリー	2 位	伊藤祐佳・中山祐美（パワーズ）
		フリー	3 位	松浦妃佐乃（パワーズ）・落合純子（シャトルズ）
		55 歳以上	1 位	米田陽子（富士クラブ）・御宿みほ（ウェンディ）
29	31	フリー	1 位	中山・松浦（パワーズ）
		55 歳以上	1 位	太田・山本（未来・ウィッシュ）
		45 歳以上	2 位	河村・草田（ウィッシュ・北部クラブ）
		40 歳以上	3 位	戸塚・扇薗(シャトルズ)
		50 歳以上	3 位	神田・杉（スルガウィングス）
30	32	50 歳以上	1 位	山田文香（富士クラブ）・山本晴世　（スルガウィングス）
		55 歳以上	1 位	米田陽子（富士クラブ）・遠藤弥生　（桔梗）

■ 全国中学校総合体育大会東海大会

年	回	種目	順位	選手名	種目	順位	選手名
16	26	男子単	3 位	岩城（伊東門野）	男子複	2 位	村松・稲葉（伊東南）
20	30	男子複	1 位	小林・田原（富士宮四）	女子複	3位	鈴木・大川（伊東南）
		男子複	2 位	滝沢・大場	男子団体	1 位	富士宮四
23	33	男子団体	2 位	富士宮四	男子複	2 位	瀬戸・古屋（伊東南）
		男子単	4 位	田原優作	女子単	4 位	河合莉咲（富士宮四）
		男子複	1 位	櫻井・仁藤（伊東南）			
24	34	男子団体	1 位	伊東南			
25	35	男子団体	2 位	伊東南	男子複	1 位	横山・樽石
		女子団体	3 位	星陵	女子複	3 位	岩田・高橋
27	37	男子複	3 位	土井・竹田（富士宮四）			
28	38	男子団体	2 位	伊東門野	男子複	1 位	土井・竹田（富士宮四）
		女子団体	3 位	常葉菊川	女子複	3 位	石上・鈴木
		男子単	4 位	平岡佑太（伊東門野）			
29	39	男子団体	2 位	星陵	女子単	3 位	鈴木彩也花
			3 位	富士宮四	女子複	2 位	内田・内田
		男子複	1 位	早川・影山			
			2 位	森・佐野			
30	40	男子団体	2 位	富士宮四			

■ 東海小学生大会

年	回	種目	順位	選手名	種目	順位	選手名
11	11	6 年男子複	3 位	細小路直人・渡瀬健介（富士山・御殿場）	5 年男子単	3 位	望月俊吾（富士山）
		4 年男子複	3 位	渡辺幸之介・河野恵太（富士山）	6 年女子複	3 位	村松彩乃・金森享子（富士宮）
		4 年男子複	3 位	藁科広弥・村松将豪（富士宮）	5 年女子複	3 位	松岡由希子・小牧佳代（富士宮）
		6 年男子単	3 位	藤澤生拓（伊東）	5 年女子単	3 位	西島春奈（富士山）
12	12	5 年男子複	3 位	岩城弘知・瀬戸麻人（伊東）	4 年男子複	2 位	渡辺幸之介・河野恵太（富士山）
		4 年男子単	3 位	村松将豪（富士宮）	4 年女子単	2 位	望月歩音（富士山）
13	13	5 年男子複	3 位	渡辺幸之介・河野恵太（富士山）	5 年男子単	3 位	村松将豪（富士宮）
14	14	6 年男子単	2 位	村松将豪（富士宮）	4 年男子単	2 位	芹沢拓実（御殿場）
		6 年男子複	2 位	河野恵太・渡辺幸之助（富士山）	4 年男子単	2 位	岩城潤（伊東）

年	回	種目	順位	選手名	種目	順位	選手名
15	15	４年男子複	２位	樋口翔太・河野大地（富士山）	５年女子単	２位	橿淵かれら（御殿場）
		５年男子単	２位	芹沢拓実（御殿場）			
16	16	６年男子複	２位	早川弘貴・稲本武紘（大井川）	６年男子単	３位	杉本大夢（大井川）
		６年男子複	３位	井口卓也・惟村直弘（富士宮）	５年男子単	２位	村松孝彦（富士宮）
		５年男子複	２位	樋口翔太・河野大地（富士山）			
17	17	６年男子複	４位	樋口翔太・河野大地（富士山）	４年男子複	２位	佐野亮平・吉永健太郎（富士宮）
		５年男子複	２位	小川耕太・大場雷（大井川）	４年女子単	２位	芹沢妃那子（御殿場）
		４年男子複	１位	齋藤光児・工藤有智（伊東）			
18	18	６年男子複	１位	小川耕太・大場雷（大井川）	４年男子単	１位	小川佳汰（大井川）
		５年男子複	２位	齋藤光児・工藤有智（伊東）	５年女子単	１位	芹沢妃那子（御殿場）
		５年男子複	３位	井上寛規・森瑞帆（富士山）	４年女子単	１位	勝俣莉里香（御殿場）
		４年男子複	１位	田原優作・田中大成（富士山）			
19	19	５年男子複	２位	田原優作・田中大成（富士山）	６年女子単	３位	芹沢妃那子（御殿場）
		５年男子単	３位	川島健（大井川）	５年女子複	２位	大畑愛・中村伽菜（大井川）
		４年男子単	２位	小川佳汰（大井川）	４年女子単	１位	勝俣莉里香（御殿場）
20	20	６年男子複	２位	田原優作・田中大成（富士山）	６年女子複	２位	大畑愛・中村伽菜（大井川）
		５年男子複	２位	米山利句・清俊紀（富士山）	５年女子単	１位	勝俣莉里香（御殿場）
		４年男子複	２位	松田蒼太・深澤駿弥（富士宮）	４年女子単	２位	村田瑞希（大井川）
		５年男子単	１位	小川桂汰（大井川）			
21	21	５年男子複	３位	松田蒼太・深澤駿弥（富士宮）	４年女子複	３位	住吉琴菜・武田楓（ＳＢＣ）
		６年男子単	１位	小川桂汰（大井川）	６年女子単	３位	村田瑞希（大井川）
22	22	４年男子単	３位	小野田泰地（富士山）	４年女子複	１位	住吉琴菜・武田楓（ＳＢＣ）
		５年女子複	３位	野田彩夏・金山美咲	６年女子単	２位	村田瑞希（大井川）
23	23	５年男子複	２位	山内朋輝・野田光紀（ＳＢＣ）	４年男子単	３位	福田陸大（ＳＢＣ）
		５年男子複	３位	稲葉琢人・岩城覚（伊東）	５年女子複	１位	住吉琴菜・武田楓（ＳＢＣ）
		６年男子単	３位	三好翔（伊東）	４年女子複	３位	佐野智咲・原　玲（富士山）
		５年男子単	３位	勝間田聖亜（御殿場）			
24	静岡県で全国大会開催のため全種目に出場	６年男子複	１位	山内朋輝・野田光紀（ＳＢＣ）	６年女子複	１位	住吉琴菜・新井田楓（ＳＢＣ）
		６年男子複	２位	稲葉琢人・岩城覚（伊東）	６年女子複	２位	長谷川葉月・杉本英未（ＳＢＣ）
		６年男子複	３位	村田彬・島田瑛輔（伊東）	６年女子複	３位	池田彩乃・小林花帆（大井川）
		５年男子複	１位	福田陸大・三橋朋生（ＳＢＣ）	５年女子複	１位	佐野智咲・原　玲（富士山）
		５年男子複	２位	竹田侑司・土井大和（富士山）	５年女子複	２位	石上瑠奈・鈴木愛美（大井川）
		５年男子複	３位	渡辺俊・海野凌我（富士山）	５年女子複	３位	平井美紀・山崎雪乃（蒲原）
		４年男子複	１位	早川倫矢・横山旦圭（ＳＢＣ）	４年女子複	１位	内田優衣・鈴木彩也花（広幡）
		４年男子複	２位	勝又旭・勝又夢人（御殿場）	４年女子複	２位	内田真緒・大塚舞桜（広幡）
		４年男子複	３位	佐野覚斗・渡辺空（富士山）	４年女子複	３位	河角知夏・岩本夏林（富士中央）
		６年男子単	１位	小野田泰地（富士山）	６年女子単	１位	今井沙耶（御殿場）
		６年男子単	２位	勝間田聖亜（御殿場）	６年女子単	２位	鬼束佳奈（大井川）
		６年男子単	３位	留場智也（ＳＷＡＣ）	６年女子単	３位	渡辺茉央（どんぐり）
		５年男子単	１位	平岡佑太（伊東）	５年女子単	１位	八木千菜美（島田六合）
		５年男子単	２位	三好遼亮（伊東）	５年女子単	２位	清水南光（大井川）
		５年男子単	３位	坂本良太（島田六合）	５年女子単	３位	井上七海（SBC）
		４年男子単	１位	高柳大輔（大井川）	４年女子単	１位	三好蒼(伊東)
		４年男子単	２位	藤原壮太（どんぐり）	４年女子単	２位	杉本真悠香(沼津)
		４年男子単	３位	清水裕貴（どんぐり）	４年女子単	３位	小林美朝(大井川)
25	25	６年男子複	１位	福田陸大・三橋朋生（ＳＢＣ）	６年女子複	３位	石上瑠奈・鈴木愛美（大井川）
		６年男子複	２位	竹田侑司・土井大和（富士山）	５年女子複	２位	内田優衣・鈴木彩也花（広幡）
		５年男子複	２位	海野凌我・森遼太(富士山)	４年女子複	２位	内田真緒・大塚舞桜（広幡）
		６年男子単	３位	平岡佑太（伊東）	５年女子単	３位	三好蒼(伊東)
		５年男子単	３位	高柳大輔（大井川）			
26	26	６年男子複	１位	海野凌我・森遼太(富士山)	６年女子複	１位	内田優衣・鈴木彩也花（広幡）
		６年男子複	２位	三橋朋生・早川倫矢（SBC）	４年女子複	３位	山下瑠奈・仲丸杏彩（藤枝）
		６年男子単	２位	高柳大輔（大井川）			

年	回	種目	順位	選手名	種目	順位	選手名
27	27	６年男子複	３位	佐野覚斗・野村優輝（富士山）	６年女子複	２位	内田真緒・大塚舞桜（広幡）
		４年男子複	１位	勝又翔哉・勝又悠翔（富士山）	６年女子単	３位	秋山萌衣奈（島田六合）
28	28	４年男子複	１位	勝又翔哉・勝又悠翔（富士山）	４年男子単	２位	鶴岡成々斗（伊東）
		４年男子複	３位	塩川真輝・梅原歩志（富士山）	５年女子単	２位	石井琴巳（伊東）
29	29	５年男子複	３位	勝又翔哉・勝又悠翔（富士山）	５年女子単	３位	長谷川幸咲（広幡）
		５年男子単	２位	鶴岡成々斗（伊東）			
30	30	６年女子単	２位	長谷川幸咲（広幡）			
元	31	４年男子複	３位	山下・西山（富士中央）	４年女子単	１位	長谷川翼咲（広幡）

■ 東海小学生バドミントン大会（団体戦）

年度	回	種目	順位	チーム名	種目	順位	チーム名
23	15	男子団体戦	１位	伊東ワールド	女子団体戦	２位	伊東 SBC
24	16	男子団体戦	１位	伊東ワールド	女子団体戦	１位	SBC スクール
25	17	男子団体戦	２位	富士山バド			
26	18	男子団体戦	１位	SBC スクール	女子団体戦	１位	広幡バドキッズ

■ 静岡県総合選手権大会（個人）

年度	回	種目	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
11	46	複	中島・山下（ジャトコ）	清水・佐野（ジャトコ）	河島・松本（N・M・T）	平石・杉谷（ジャトコ）
		単	中島信頼（ジャトコ）	鈴木正博（ジャトコ）	金森裕子（星陵クラブ）	河島さや香（N・M・T）
12	47	複	坂上・鈴木（ジャトコ）	清水・山下（ジャトコ）	尾崎・小沢（静岡城北）	森山・平石（星陵）
		単	鈴木正博（ジャトコ）	藤巻光善（ジャトコ）	金森裕子（星陵高校）	河島さや香（N・M・T）
13	48	複	古川・山下（ジャトコ）	中島・藤巻（ジャトコ）	常世・市川（ジャトコ）	平石・塩澤（星陵高）
		単	古川裕輔（ジャトコ）	中島信頼（ジャトコ）	尾崎（静岡城北）	常世（ジャトコ）
14	49	複	中島・鈴木（ジャトコ）	佐々木・石井（ﾁｬﾚﾝｼﾞｬｰ）	平石・速水（星陵・伊東）	塩澤・清水（星陵高）
		単	中島信頼（ジャトコ）	古川裕輔（ジャトコ）	米川優貴（星陵高）	清水つかさ（星陵高）
15	50	複	佐野・長谷川(DENMARK)	米野・吉田（静岡愛好会）	遠藤・村松（星陵高）	山田・三井（富士ｸﾗﾌﾞ）
		単	佐野智久(DENMARK)	藤巻光善（早稲田大学）	佐野悠（星陵高）	村松綾乃（星陵高）
16	51	複	山下・長谷川（ジャトコ）	長谷川・佐野（ﾁｬﾚﾝｼﾞｬｰ）	増田・斎藤（伊東商）	山田・三井（富士ｸﾗﾌﾞ）
		単	佐野智久（ﾁｬﾚﾝｼﾞｬｰ）	藤巻光善（ジャトコ）	増田香緒里（伊東商）	石井亜希子(DENMARK)
17	52	複	山下・栗（ジャトコ）	向井・花田（NMT）	山田・三井（富士ｸﾗﾌﾞ）	大石・永田（ジャトコ）
		単	佐野智久（ﾁｬﾚﾝｼﾞｬｰ）	栗佑貴（ジャトコ）	石井亜希子(DENMARK)	永田（ジャトコ）
23	58	複	福島・山下（ジャトコ）	栗佑貴・斉藤（ジャトコ）		
		単	栗佑貴（ジャトコ）	福島竜也（ジャトコ）		
24	59	複	福島・山下（ジャトコ）	栗・山崎（ジャトコ）	杉谷・太田川（NMT）	林・塩澤（NMT）
		単	河野大地（星陵OB）	佐野智久（ﾁｬﾚﾝｼﾞｬｰ）	太田川真希(NMT)	橋本裕美(ﾎﾘﾃﾞｰ大明)
26	61	複	山下・細田（ジャトコ）	栗・山崎（ジャトコ）	芹澤(神大)・勝俣(御西)	村松(星陵教)・太田川(NMT)
		単	山崎大嗣（ジャトコ）	細田慎二（ジャトコ）	太田川真希（NMT）	高橋李歌（星陵）
27	62	複	山下・細田（ジャトコ）	尾崎・大野（ｻｰﾃｨｰｽﾞ）	橋口・橋本（ＮＳＹ）	
		単	栗佑貴（ジャトコ）	岸野嵩志（ジャトコ）	太田川真希（NMT）	内田優衣（広幡バド）
28	63	複	細田・宮城（ジャトコ）	樋口・深澤（NMT）	鈴木・田渡(伊東高校OG)	林・太田川（NMT）
		単	栗佑貴（ジャトコ）	岸野嵩志（ジャトコ）	太田川真希（NMT）	内田優衣（広幡バド）
29	64	複	細田・篠崎（ジャトコ）	田代・宮城（ジャトコ）	鈴木・内田優衣（広幡バド）	山城・村松（常葉大学）
		単	岸野嵩志（ジャトコ）	林佳介（王子製紙）	太田川真希（NMT）	石黒愛莉（星陵）
30	65	複	細田・金子（ジャトコ）	田代・宮城（ジャトコ）	内田優衣・石黒（星陵）	太田川・小沢（NMT）
		単	平岡佑太（富士見）	丸山飛鳥（ジャトコ）	太田川真希（NMT）	鈴木彩也花（星陵）

■ 静岡県総合選手権大会（団体）

年度	回	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
11	23	ジャトコＡ	ジャトコＢ	ＨＢＣ	ジャトコＢ
12	24	ジャトコＡ	ジャトコＢ	星陵高校	ＨＢＣ
13	25	ジャトコＡ	ジャトコＢ	ＨＢＣ	富士クラブ
14	26	蛇と虎	静岡愛好会	Ｙクラブ A	フォワード
15	27	ジャトコ	チャレンジャー	富士クラブ	リバティー
16	28	チャレンジャー	サーティーズ	Ｙクラブ	リバティー
17	29	ジャトコＢ	ジャトコＡ	Ｙクラブ	DENMARK
18	30	ジャトコＡ・チャレンジャーA（打ち切り同点優勝）		富士クラブ	フォワード
24		ジャトコ	チャレンジャー	MagicalNumber	おねえさんち
26	36	ジャトコＡ	チャレンジャー	NMT	HARIBO
27	37	ジャトコ 20	星陵高校ＯＢ	NMT	広幡バドキッズ
28	38	ジャトコＡ	ジャトコＢ	NMT	広幡バドキッズ
29	39	ジャトコＡ	富士見高校	広幡バドキッズ	NSY・NMT

■ 静岡県社会人選手権大会

年度	回	種目	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
11	17	複	中島・清水（ジャトコ）	坂上・山下（ジャトコ）	加藤・加藤（ジャトコ）	河島・松本（富士宮ク）
		単	中島信頼（ジャトコ）	清水達也（ジャトコ）	加藤裕美（ジャトコ）	市川美保（ジャトコ）
12	18	複	中島・山下（ジャトコ）	吉野・鈴木（ジャトコ）	市川・河島（ジャトコ）	山本・樽井（Ｙクラブ）
		単	清水達也（ジャトコ）	鈴木正博（ジャトコ）	樽井（Ｙクラブ）	市川美保（ジャトコ）
13	19	複	本田・山下（ジャトコ）	中島・清水（ジャトコ）	市川・河島（ジャトコ）	相磯・藤ケ森（大明）
		単	本田和裕（ジャトコ）	中島信頼（ジャトコ）	加藤（ホリデー大明）	相磯優奈（大明）
14	20	複	中島・藤巻（ジャトコ）	本田・清水（ジャトコ）	尾崎・望月（東海女子短）	渡辺・岩野（ﾊｲｸﾘｱｰｽﾞ）
		単	中島信頼（ジャトコ）	鈴木正博（ジャトコ）	尾崎貴子（東海女子短）	常世（ジャトコ）

年度	回	種目	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
15	21	複	本田・山下（ジャトコ）	中島・清水（ジャトコ）	尾崎・杉谷（東海女短・東海大）	山下・平石（ジャトコ）
		単	栗祐貴（ジャトコ）	鈴木正博（ジャトコ）	尾崎貴子（東海女短・東海大）	杉谷敦美（東海大）
16	22	複	清水・本田（ジャトコ）	山下・栗（ジャトコ）	金森・塩沢（早稲田・静大）	大石・永田（ジャトコ）
		単	佐野智（DENMARK）	栗祐貴（ジャトコ）	金森裕子（早稲田）	塩沢（静大）
17	23	複	長谷川・藤巻（ジャトコ）	佐野・長谷川（チャレンジャ）	大石・永田（ジャトコ）	渡辺・稲葉（DENMARK）
		単	佐野（チャレンジャー）	藤巻光善（ジャトコ）	永田（ジャトコ）	石井（ＤＥＮＭＡＲＫ）
18	24	複	栗・本田（ジャトコ）	尾崎・市村（伊東）	石井・佐野（DENMARK）	大石・永田（ジャトコ）
		単	栗祐貴（ジャトコ）	佐野（チャレンジャー）	佐野（ＤＥＮＭＡＲＫ）	山岸（ＤＥＮＭＡＲＫ）
22	28	単	古谷勇人（羽組）	栗佑貴（ジャトコ）	－	－
23	29	単	古谷勇人（羽組）	栗佑貴（ジャトコ）	－	－
24	30	複	福島・山下（ジャトコ）	栗・山崎（ジャトコ）	－	－
		単	栗佑貴（ジャトコ）	山崎大嗣（ジャトコ）	－	－
25	31	複	大野・尾崎（へあぴんKIDS）	山下・山下（ジャトコ）	－	－
		単	栗佑貴（ジャトコ）	山崎大嗣（ジャトコ）	－	－
26	32	複	大野・尾崎（へあぴんKIDS）	栗・山下（ジャトコ）	－	－
		単	山崎大嗣（ジャトコ）	細田慎二（ジャトコ）	－	－
27	33	複	栗・山下（ジャトコ）	尾崎・大野（へあぴんKIDS）	－	－
		単	山崎大嗣（ジャトコ）	細田慎二（ジャトコ）	－	－
28	34	複	栗・細田（ジャトコ）	大野・尾崎（へあぴんKIDS）	－	－
		単	岸野嵩志（ジャトコ）	山崎大嗣（ジャトコ）	－	－
29	35	複	細田・宮城（ジャトコ）	樋口・深澤（NMT）	－	－
		単	岸野嵩志（ジャトコ）	大野裕茉（へあぴんKIDS）	－	－
30	36	複	樋口・深澤（NMT）	細田・金子（ジャトコ）	－	－
		単	岸野嵩志（ジャトコ）	園山拓未（ジャトコ）	－	－
元	37	複	細田・金子（ジャトコ）	田代・宮城（ジャトコ）	－	－
		単	岸野嵩志（ジャトコ）	園山拓未（ジャトコ）	－	－

■ 静岡県大学選手権大会（団体一部）

年度	回	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
12	17	静岡大A	浜松医大A	静岡大A	静岡県立大A
	18	静岡大浜松A	浜松医大A	静岡大A	常葉大B
13	19	静岡大A	静岡大浜松A	静岡大A	浜松医大A
	20	静岡大B	静岡大A	静岡大A	静岡県立大A
14	21	浜松医大A	静岡大A	静岡大A	静岡県立大A
	22	静岡大B	日本大A	静岡大B	静岡大A
15	23	静岡大A	浜松医大A	静岡大A	静岡県立大A
	24	静岡大A	静岡大浜松A	静岡大A	静岡大B
16	25	静岡大A	浜松医大A	静岡大A	静岡県立大A
	26	静岡大B	静岡県立大A	静岡県立大A	静岡大A
17	27	静岡大A	静岡県立大A	静岡大A	静岡県立大A
	28	静岡県立大A	静岡大A	静岡県立大A	常葉大
18	29	静岡大A	静岡県立大A	静岡県立大A	浜松医大A
	30	静岡大A	静岡大B	静岡県立大A	浜松合同
19	31	静岡大A	静岡大浜松A	静岡県立大A	浜松医大A
	32	静岡県立大A	静岡大浜松A	浜松医大A	静岡県立大A
20	33	静岡大A	静岡大浜松A	浜松医大A	静岡県立大A
	34	静岡大B	静岡県立大A	静岡大A	浜松医大A
21	35	浜松医大A	静岡大A	静岡大A	浜松医大A
	36	静岡大A	静岡県立大A	静岡大A	静岡県立大B
22	37	浜松医大A	静岡大A	静岡大A	常葉大A
	38	静岡大A	浜松医大A	静岡大A	静岡県立大A
23	39	静岡大浜松A	静岡大A	静岡大A	常葉大A
	40	静岡大A	静岡大浜松A	静岡大A	常葉大A
24	41	静岡県立大A	静岡大浜松A	静岡大A	常葉大A
	42	静岡大浜松A	静岡県立大A	静岡大A	常葉大A
25	43	静岡大浜松A	静岡県立大A	静岡大A	浜松医大A
	44	静岡大浜松A	静岡県立大A	静岡大A	浜松医大A

年度	回	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
26	45	静岡県立大Ａ	静岡大浜松Ａ	浜松医大Ａ	静岡大Ａ
	46	静岡大浜松Ａ	静岡大Ａ	静岡大Ａ	浜松医大Ａ
27	47	静岡県立大Ａ	静岡大Ａ	常葉大Ａ	静岡大Ａ
	48	静岡大Ａ	静岡大浜松Ａ	静岡大Ａ	浜松医大Ａ
28	49	静岡大Ａ	静岡県立大Ａ	静岡県立大Ａ	静岡大Ａ
	50	静岡大Ａ	静岡大浜松Ａ	静岡大Ａ	常葉大静岡Ａ
29	51	静岡大浜松Ａ	静岡大浜松Ｂ	常葉大静岡Ａ	静岡県立大Ａ
	52	静岡大浜松Ａ	静岡大Ａ	常葉大静岡Ａ	静岡大Ａ
30	53	静岡大浜松Ａ	静岡大浜松Ｂ	静岡県立大Ａ	常葉大静岡Ａ
	54	静岡大浜松Ａ	静岡大浜松Ｂ	常葉大静岡Ａ	静岡県立大Ａ
31	55	静岡大浜松Ａ	静岡大浜松Ｂ	静岡県立大Ａ	常葉大静岡Ａ
	56	静岡大Ａ	静岡大浜松Ａ	常葉大静岡Ａ	静岡大Ａ

■ 静岡県学生選手権大会

年度	回	種目	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
13	10	１部単	吉田壮登（静岡大）	栗原一樹（静岡大）	金井沙緒里（静岡大）	藤田祐子（静岡大）
		１部複	早房大・吉田壮登（静岡大）	戸田雅之・田中智博（静岡大工）	金井沙緒里・藤田祐子（静岡大）	高橋万浦・道家奈緒（静岡大）
15	11	１部単	磯貝大輔（静岡大）	松尾孝也（静岡大）	金井沙緒里（静岡大）	道家奈緒（静岡大）
		１部複	吉田壮登・磯貝大輔（静岡大）	白山義史・飯貝宗淳（静岡大学）	伊藤菜緒子・金井沙緒里（静岡大）	恩田優子・三沢奈央子（県立大）
16	13	１部単	栗原一樹（静岡大）	石井赳仁（静岡大学）	塩沢彩子（静岡大）	中村彩（静岡県立大）
		１部複	石井赳仁・岩渕倫久（静岡大）	松尾孝也・大石正淳（静岡大）	松井彩子・塩沢彩子（静岡大学）	平石菱香・太田るり子（富士常葉大）
17	14	１部単	栗原一樹（静岡大）	瓜屋航太（静岡大）	塩沢彩子（静岡大）	中村彩（静岡県立大）
		１部複	石井赳仁・宮沢誠通（静岡大）	岩渕倫久・瓜屋航太（静岡大）	中村彩・浦沙織（静岡県立大）	和気知美・若林美由紀（静岡県立大）
20	17	１部単	瓜屋航太（静岡大）	吉田将紀（静岡大）	飯田彩花（静岡大学）	百々明那（静岡大学）
		１部複	政谷泰俊・杉浦裕樹（静岡大）	瓜屋航太・吉田将紀（静岡大）	飯田彩花・百々明那（静岡大学）	大橋冴理・山田真実（静岡県立大）
21	18	１部単	政谷泰俊（静岡大）	栗下大毅（静岡福祉大）	石津美紀子（静岡大）	芹沢佳菜子（静岡大）
		１部複	政谷泰俊・杉浦裕樹（静岡大）	栗下大毅・深澤雄太（静岡福祉大学）	飯田彩花・石津美紀子（静岡大学）	百々明那・芹沢佳菜子（静岡大学）
23	19	１部単	杉本大夢（静岡大浜松）	田中勇成（静岡大）	石津美紀子（静岡大）	渡辺典子（静岡大）
		１部複	政谷・田中（静岡大）	渡辺・永井（静岡県立大）	石津・芹澤（静岡大学）	小川・後藤（常葉大学）
24	20	１部単	杉本大夢（静岡大浜松）	岩城（静岡県立大）	石津（静岡大）	渡辺（静岡大）
		１部複	杉本諒・杉本大夢（静岡大浜松）	向井・三村（静岡大浜松）	石津・芹澤（静岡大）	小川・後藤（常葉大学）
25	21	１部単	田中（静岡大）	沼子（静岡県立大）	大矢（静岡大）	渡辺（静岡大）
		１部複	松永・鈴木（常葉大学）	三村・花井（静岡大浜松）	櫻井・渡辺（静岡大）	朝妻・渡邉（常葉大学）
26	22	１部単	杉本大夢（静岡大浜松）	重本俊介（静岡大）	清光里（常葉大学）	有馬佑季（常葉大学）
		１部複	杉本諒・杉本大夢（静岡大浜松）	岩城潤・沼子将大（静岡県立大）	清光里・牧野及美（常葉大学）	朝妻美咲・渡邉絵梨花（常葉大学）
28	24	１部単	嶋崇志（静岡大）	沼子将大（静岡県立大）	稲葉七海・稲葉紗由樹（順天堂大）	水野萌・玉木菜々（静岡県立大）
		１部複	嶋崇志・田中大成（静岡大）	森瑞帆・久米博幸（静岡大浜松）	玉木菜々（静岡県立大）	海野真由（静岡大）
29	25	１部単	嶋崇志（静岡大）	加藤健人（静岡大浜松）	小野田菜都（静岡県立大）	村松怜実（常葉大静岡）
		１部複	小塩・花井（静岡大浜松）	沼子・中本（静岡県立大学）	玉城・小野田（静岡県立大）	斎藤・佐藤（東海大学）
30	26	１部単	加藤健人（静岡大浜松）	花井正直（静岡大浜松）	小野田菜都（静岡県立大）	坂本香奈（常葉大静岡）
		１部複	花井正直・糸魚川喜之（静岡大浜松）	中本壮哉・野田岳志（静岡県立大）	坂本香奈・中川星美（常葉大静岡）	小野田菜都・加藤菜々子（静岡県立大）

■ 静岡県高等学校総合体育大会（団体の部）

年度	回	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
11	47	星陵高校	伊東商業高校	静岡城北高校	静岡女子高校
12	48	伊東高校	星陵高校	伊東高校	静岡城北高校
13	49	伊東高校	星陵高校	星陵高校	静岡城北高校
14	50	星陵高校	富士宮北高校	星陵高校	伊東高校
15	51	伊東高校	富士高校	星陵高校	静岡女子高校
16	52	星陵高校	伊東高校	星陵高校	伊東商業高校
17	53	星陵高校	富士東高校	星陵高校	富士宮北高校
18	54	星陵高校	伊東高校	星陵高校	伊東高校
19	55	星陵高校	伊東高校	星陵高校	伊東高校
20	56	星陵高校	伊東高校	星陵高校	御殿場西高校
21	57	星陵高校	富士高校	星陵高校	伊東高校
22	58	星陵高校	伊東高校	伊東高校	星陵高校
23	59	星陵高校	伊東高校	富士宮北高校	星陵高校

年度	回	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
24	60	伊東高校	星陵高校	富士宮北高校	御殿場西高校
25	61	星陵高校	伊東高校	御殿場西高校	星陵高校
26	62	星陵高校	伊東高校	星陵高校	藤枝西高校
27	63	星陵高校	伊東高校	星陵高校	富士見高校
28	64	伊東高校	星陵高校	星陵高校	常葉大菊川高
29	65	星陵高校	富士見高校	常葉大菊川高	加藤学園高校
30	66	富士見高校	星陵高校	常葉大菊川高	加藤学園高校
元	67	富士見高校	星陵高校	常葉大菊川高	星陵高校

■ 静岡県高等学校総合体育大会（個人の部）

年度	回次	種目	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
11	50	複	佐々木・軒村（伊東商）	小川・中野（星陵）	望月・仲野（静岡城北）	磯貝・杉山（静岡女子）
		単	尾崎弘一（伊東）	小川純一（星陵）	石川めぐみ（静岡城北）	尾崎貴子（静岡城北）
12	51	複	尾崎・市村（伊東）	藤巻・伊藤（星陵）	尾崎・小澤（静岡城北）	杉山・益田（静岡女子）
		単	尾崎弘一（伊東）	藤巻光善（星陵）	尾崎貴子（静岡城北）	遠藤友紀（星陵）
13	52	複	大川・市村（伊東）	遠藤・奥園（星陵）	村松・金森（星陵）	加藤・塩澤（星陵）
		単	大川康雄（伊東）	市村純一（伊東）	村松瑞穂（星陵）	金森裕子（星陵）
14	53	複	佐野・岡本（星陵）	荒川・安田（伊東）	村松・金森（星陵）	平石・塩澤（星陵）
		単	佐野聖（星陵）	高田直弥（沼津商）	村松瑞穂（星陵）	金森裕子（星陵）
15	54	複	荒川・安田（伊東）	高田・尾崎（沼津商）	村松・金森（星陵）	塩澤・清水（星陵）
		単	高田直弥（沼津商）	尾崎勝（沼津商）	村松瑞穂（星陵）	金森裕子（星陵）
16	55	複	荒川・安田（伊東）	岩崎・小野（星陵）	清水・佐野（星陵）	増田・斎藤（伊東商）
		単	尾崎勝（沼津商）	岩崎芳仁（星陵）	米川優希（星陵）	清水つかさ（星陵）
17	56	複	河野・小野（星陵）	岩崎・望月（星陵）	村松・金森（星陵）	五味・山田（富士宮北）
		単	岩崎芳仁（星陵）	河野洋平（星陵）	村松彩乃（星陵）	金森享子（星陵）
18	54	複	小野・望月（星陵）	岩城・村松（伊東）	掛本・森川（星陵）	松岡・塩澤（星陵）
		単	岩城弘知（伊東）	小野拓也（星陵）	掛本裕美（星陵）	松岡由希子（星陵）
19	55	複	村松・河野（星陵）	田代・甲石(星陵）	岩渕・佐野（星陵）	飯田・江口(伊東）
		単	村松将豪（星陵）	瀬戸麻人(伊東商）	松岡千香子（星陵）	岩渕幸穂（星陵）
20	56	複	村松・河野（星陵）	大竹・塩谷（伊東）	岩渕・佐野（星陵）	望月・川村（星陵）
		単	村松将豪（星陵）	河野恵太（星陵）	佐野萌子（星陵）	加藤静（伊東）
21	57	複	稲葉・中野（星陵）	岩城・高嶋（伊東）	櫻井・加藤（伊東）	吉田・吉永（星陵）
		単	米山修平（富士）	岩城潤（伊東）	橿淵かれら（御殿場西）	加藤静（伊東）
22	58	複	井口・河野（星陵）	工藤・村松（伊東）	加藤・鈴木（伊東）	吉田・吉永（星陵）
		単	岩城潤（伊東）	高嶋晋司（伊東）	橿淵かれら（御殿場西）	加藤静（伊東）
23	59	複	河野・樋口（星陵）	三好・田中（伊東）	鈴木・田渡（伊東）	桂巻・掛本（星陵）
		単	河野大地（星陵）	米田優樹（星陵）	芹澤妃那子（御殿場西）	桂巻久美乃（星陵）
24	60	複	田中・工藤（伊東）	岩川・斎藤（伊東）	芹澤・勝俣（御殿場西）	太田川・山田（富士宮北）
		単	田中航平（伊東）	小川耕汰（科学技術）	太田川真希（富士宮北）	芹澤妃那子（御殿場西）
25	61	複	工藤・齋藤（伊東）Ⅰ	真・井上（星陵）	芹澤・勝俣（御殿場西）	山田菜・清（星陵）
		単	工藤有智（伊東）	斉藤尚吾（伊東）	芹澤妃那子（御殿場西）	山田菜月（星陵）
26	62	複	仁藤・米山（星陵）	瀬戸・及川（伊東）	河合・山田（星陵）	勝俣・山本（御殿場西）
		単	深澤浩弥（星陵）	米山莉句（星陵）	勝俣莉里香（御殿場西）	河合莉咲（星陵）
27	63	複	仁藤・米山（星陵）	横山・樽石（伊東）	岩田・高橋（星陵）	山田・小野田（星陵）
		単	松田蒼太（星陵）	米山莉句（星陵）	山田圭菜（星陵）	稲葉絢子（伊東）
28	64	複	三枝・高嶋（伊東）	横山・樽石（伊東）	岩田・高橋（星陵）	小野田・住吉（星陵）
		単	松田蒼太（星陵）	小野田泰地（星陵）	岩田美咲（星陵）	高橋李歌（星陵）
29	65	複	高嶋・稲葉（伊東）	土井・竹田（富士見）	野田・住吉（星陵）	鬼束・杉本（加藤学園）
		単	平岡佑太（富士見）	土井大和（富士見）	野田彩夏（星陵）	住吉琴菜（星陵）
30	66	複	平岡・土井（富士見）	稲葉・福田（伊東）	石上・鈴木（常葉大菊川）	鬼束・杉本（加藤学園）
		単	小野田泰地（星陵）	平岡佑太（富士見）	鬼束佳奈（加藤学園）	石上瑠奈（常葉大菊川）
元	67	複	平岡・土井（富士見）	竹田・森（富士見）	石上・鈴木（常葉大菊川）	石黒・内田（星陵）
		単	土井大和（富士見）	早川倫矢（星陵）	石上瑠奈（常葉大菊川）	鈴木沙也花（星陵）

■ 全国高等学校選抜バドミントン大会静岡県予選（団体の部）

年度	回	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
11	28	伊東高校	星陵高校	静岡女子高校	静岡城北高校
12	29	伊東高校	星陵高校	静岡城北高校	富士宮北高校
13	30	星陵高校	伊東商業高校	星陵高校	伊東高校
14	31	星陵高校	沼津商業高校	星陵高校	静岡女子高校
15	32	伊東高校	富士宮北高校	星陵高校	富士宮北高校
16	33	星陵高校	富士東高校	星陵高校	富士宮北高校
17	34	伊東高校	星陵高校	星陵高校	伊東高校
18	35	星陵高校	伊東高校	星陵高校	伊東高校
19	36	星陵高校	静岡北高校	星陵高校	富士宮北高校
20	37	星陵高校	伊東高校	星陵高校	富士東高校
21	38	星陵高校	伊東高校	星陵高校	静岡女子高校
22	39	星陵高校	伊東高校	伊東高校	静岡女子高校
23	40	伊東高校	星陵高校	静岡女子高校	星陵高校
24	41	星陵高校	伊東高校	御殿場西高校	星陵高校
25	42	星陵高校	富士高校	星陵高校	藤枝西高校
26	43	星陵高校	伊東高校	星陵高校	富士見高校
27	44	伊東高校	星陵高校	星陵高校	富士見高校
28	45	伊東高校	星陵高校	加藤学園高校	星陵高校
29	46	富士見高校	伊東高校	常葉大菊川高	加藤学園高校
30	47	富士見高校	星陵高校	常葉大菊川高	星陵高校
元	48	星陵高校	富士見高校	星陵高校	常葉大菊川高

■ 全国高等学校選抜バドミントン大会静岡県予選（個人の部）

年度	回次	種目	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
11	28	複	尾崎・市村（伊東）	藤巻・伊藤（星陵）	杉山・益田（静岡女子）	尾崎・望月（静岡城北）
		単	尾崎弘一（伊東）	藤巻光善（星陵）	遠藤友紀（星陵）	小林香陽子（富士宮東）
12	29	複	大川・市村（伊東）	木下・佐久間（富士宮北）	森山・平石（星陵）	速水・佐藤（伊東）
		単	市村純一（伊東）	大川康雄（伊東）	尾崎貴子（静岡城北）	望月裕理（静岡城北）
13	30	複	渡辺・岡本（星陵）	勝又・植松（伊東）	村松・金森（星陵）	平石・塩澤（星陵）
		単	高田直弥（沼津商）	佐野聖（星陵）	村松瑞穂（星陵）	金森裕子（星陵）
14	31	複	荒川・安田（伊東）	高田・尾崎（沼津商）	村松・金森（星陵）	塩澤・清水（星陵）
		単	高田直弥（沼津商）	尾崎勝（沼津商）	村松瑞穂（星陵）	金森裕子（星陵）
15	32	複	森・河野（星陵）	佐野・幸野（星陵）	清水・佐野（星陵）	増田・斎藤（伊東商）
		単	尾崎勝（沼津商）	荒川博之（伊東）	米川優希（星陵）	清水つかさ（星陵）
16	33	複	岩崎・小野（星陵）	河野・望月（星陵）	増田・斎藤（伊東商）	村松・掛本（星陵）
		単	河野洋平（星陵）	岩崎芳仁（星陵）	増田香緒里	村松彩乃（星陵）
17	34	複	小野・望月（星陵）	岩城・村松（伊東）	掛本・森川（星陵）	松岡由・塩澤（星陵）
		単	小野拓也（星陵）	岩城弘知（伊東）	掛本裕美（星陵）	松岡由希子（星陵）
18	35	複	村松・河野（星陵）	岩城・大竹（伊東）	岩渕・佐野（星陵）	望月・川村（星陵）
		単	村松将豪（星陵）	岩城弘知（伊東）	岩渕幸穂（星陵）	飯田彩花（伊東）
19	36	複	村松・河野（星陵）	惟村・小代田（富士見）	岩渕・佐野（星陵）	望月・川村（星陵）
		単	村松将豪（星陵）	河野恵太（星陵）	望月歩音（星陵）	佐野萌子（星陵）
20	37	複	稲葉・中野（星陵）	岩城・村松（伊東）	櫻井・加藤（伊東）	小川・丸山（静岡女子）
		単	米山修平（富士）	稲本武紘（焼津中央）	橿淵かれら（御殿場西）	加藤静（伊東）
21	38	複	工藤・村松（伊東）	井口・河野（星陵）	加藤・鈴木（伊東）	吉永・吉田（星陵）
		単	岩城潤（伊東）	高嶋晋司（伊東）	橿淵かれら（御殿場西）	加藤静（伊東）
22	39	複	河野・樋口（星陵）	米田・武藤（星陵）	鈴木・田渡（伊東）	桂巻・掛本（星陵）
		単	河野大地（星陵）	樋口翔太（星陵）	太田川真希（富士宮北）	鈴木美帆（伊東）
23	40	複	田中・工藤（伊東）	岩川・斎藤（伊東）	太田川・山田（富士宮北）	田渡・古屋（伊東）
		単	田中航平（伊東）	工藤有智（伊東）	芹澤妃那子（御殿場西）	太田川真希（富士宮北）
24	41	複	工藤・斎藤（伊東）	吉永・田原（星陵）	芹澤・勝俣（御殿場西）	山田菜・清（星陵）
		単	工藤有智（伊東）	吉永健太郎（星陵）	芹澤妃那子（御殿場西）	勝俣莉里香（御殿場西）
25	42	複	仁藤・米山（星陵）	田原・深澤（星陵）	河合・山田（星陵）	勝俣・山本（御殿場西）
		単	瀬戸海（伊東）	深澤浩弥（星陵）	勝俣莉里香（御殿場西）	河合莉咲（星陵）
26	43	複	仁藤・米山（星陵）	横山・樽石（伊東）	鈴木・山城（星陵）	山田・小野田（星陵）
		単	米山莉句（星陵）	仁藤匡裕（星陵）	山田圭菜（星陵）	山本果歩（御殿場西）

年度	回次	種目	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
27	44	複	横山・樽石（伊東）	松田・植松（星陵）	高橋・岩田（星陵）	小野田・山城（星陵）
		単	横山迅（伊東）	三好翔（伊東）	岩田美咲（星陵）	高橋李歌（星陵）
28	45	複	高橋・稲葉（伊東）	稲葉・小野田（星陵）	野田・住吉（星陵）	鬼束・杉本（加藤学園）
		単	小野田泰地（星陵）	高嶋大和（伊東）	野田彩夏（星陵）	鬼束佳奈（加藤学園）
29	46	複	稲葉・山内（伊東）	平岡・土井（富士見）	石上・鈴木（常葉大菊川）	鬼束・杉本（加藤学園）
		単	小野田泰地（星陵）	土井大和（富士見）	住吉琴菜（星陵）	鬼束佳奈（加藤学園）
30	47	複	平岡・土井（富士見）	早川・荒井（星陵）	石上・鈴木（常葉大菊川）	石黒・内田（星陵）
		単	平岡佑太（富士見）	高柳大輔（星陵）	石上瑠奈（常葉大菊川）	内田優衣（星陵）
元	48	複	早川・高柳（星陵）	影山・佐野（星陵）	石黒・内田（星陵）	岩本・鈴木（星陵）
		単	高柳大輔（星陵）	佐野覚斗（星陵）	鈴木沙也花（星陵）	石黒愛莉（星陵）

■ 静岡県中学校総合選手権大会

年度	回	種目	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
11	52	団体	井川		富士根南	
		複	佐野・木内（富士宮二）		平石・関口（富士根南）	
		単	高嶋裕一（伊東南）		杉谷淳美（富士根南）	
12	53	団体	伊東門野	富士根南	富士根南	富士宮四
		複	勝又・高橋(伊東門野)		尾崎・増田（伊東門野）	
		単	小牧弘季		金森裕子(富士根北)	
13	54	団体	伊東門野	富士宮四	富士根南	富士宮四
		複	安田・荒川（伊東門野）	榎本・有賀（伊東門野）	向井・増田（伊東門野）	五味・山田（富士宮四）
		単	岩渕智紀（富士根南）	尾崎勝（伊東南）	佐野悠（富士宮二）	遠藤亜耶（富士根南）
14	55	団体	富士根南	伊東門野	富士宮四	伊東南
		複	柏木・小野（富士根南）	山口・岩城（伊東門野）	五味・山田（富士宮四）	速水・斉藤（伊東南）
		単	藤沢生拓（伊東門野）	河野（富士宮四）	村松彩乃（富士宮一）	増田（伊東門野）
15	56	団体	富士根南	伊東門野	富士根南	富士宮四
		単	小野拓也（富士根南）	望月（富士宮四）	松岡由紀子（大富士）	掛本（富士根南）
		複	小川・瀬戸（伊東門野）	岩田・高嶋（伊東南）	小牧・塩澤（富士根南）	西島・加藤（富士宮四）
16	57	団体	伊東門野	伊東南	富士宮四	伊東南
		単	岩城（伊東門野）	村松（富士宮一）	松岡千香子（大富士）	上口（御殿場西）
		複	村松・稲葉（伊東南）	瀬戸・鈴木（伊東門野）	望月・望月（富士宮四）	村・佐野（富士宮四）
17	58	団体	伊東門野	富士根南	富士宮四	富士根南
		単	村松将豪（富士宮一）	河野（富士宮四）	望月歩音（富士宮四）	佐野（沼津市立）
		複	大竹・荒栄（伊東門野）	惟村・佐野（富士根南）	川村・佐野（富士宮四）	太田川・稲葉（富士宮四）
18	59	団体	伊東南	富士根南	富士宮四	富士根南
		単	米山修平（鷹岡）	稲葉（芝川）	望月有寿（富士宮一）	加藤（門野）
		複	中野・惟村（富士根南）	吉田・早川（大井川）	稲葉・後藤（富士宮四）	桜井・鈴木（伊東南）
19	60	団体	富士宮四	富士根南	富士宮四	大里中
		単	井口卓也（鷹岡）	岩城潤（門野）	橿淵かれら（御殿場西）	吉田しほ（富士岡）
		複	寺田・惟村（富士根南）	早川・稲本（大井川）	後藤・太田川（富士宮四）	小川・吉田（大井川）
20	61	団体	富士宮四	伊東南	伊東南	伊東門野
		単	樋口翔太（富士宮三）	河野大地（富士宮四）	桂巻久美乃（富士宮一）	太田川真希（富士宮四）
		複	小林・田原（富士宮四）	三好・岡（伊東南）	鈴木・大川（伊東南）	中村・川村（大井川）
21	62	団体	富士宮四	伊東南	富士根南	富士宮四
		単	田中航平（熱海泉）	中垣内拓実（御殿場南中）	太田川真希（富士宮四）	山田菜月（岩松）
		複	小川・大場（大井川）	河合・森（富士宮四）	中村・大畑（大井川）	山田愛・山田芙（富士川二）
22	63	団体	伊東南	富士宮四	富士宮四	富士根南
		単	井上寛規（富士宮四）	工藤有智（伊東南）	河合莉咲（富士宮四）	山田菜月（岩松）
		複	森・田原（富士宮四）	真・田中（富士根南）	大畑・中村（大井川）	鈴木・大川（伊東南）
23	64	団体	伊東南	富士宮四	富士宮四	伊東南
		単	田原優作（富士宮四）	田中大成（富士根南）	河合莉咲（富士宮四）	山田芙優佳（富士川二）
		複	瀬戸・古屋（伊東南）	櫻井・仁藤（伊東南）	鈴木・黒島（富士根南）	杉本・田中（伊東南）
24	65	団体	伊東門野	星陵	星陵	伊東南
		単	植松敬士（富士宮二）	福田雄飛（伊東門野）	加藤亜哉子（伊東南）	杉本茜（伊東南）
		複	松田・宮下（星陵中）	横山・樽石（伊東南）	岩田・高橋（星陵）	小野田・山城（星陵）

年度	回	種目	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
25	66	団体	伊東南	伊東門野	星陵	伊東南
		単	植松敬士（富士宮二）	福田雄飛（伊東門野）	杉本茜（伊東南）	加藤亜哉子（伊東南）
		複	横山・樽石（伊東南）	松田・宮下（星陵）	小野田・山城（星陵）	岩田・高橋（星陵）
26	67	団体	伊東南	星陵	伊東南	常葉大菊川
		単	小野田泰地（星陵）	三好翔（伊東南）	加藤亜哉子（伊東南）	野田彩夏（静岡蒲原）
		複	高橋・稲葉（伊東南）	荒井・淋（伊東南）	住吉・杉本（伊東南）	石上・鈴木（常葉大菊川）
27	68	団体	伊東門野	伊東南	伊東南	常葉大菊川
		単	小野田泰地（星陵）	稲葉琢人（伊東南）	三好蒼（伊東南）	鈴木彩也花（焼津大村）
		複	野田・福田（伊東門野）	土井・竹田（富士宮四）	住吉・杉本（伊東南）	石上・鈴木（常葉大菊川）
28	69	団体	富士宮四	伊東門野	常葉大菊川	伊東門野
		単	平岡佑太（伊東門野）	福田陸大（伊東門野）	三好蒼（伊東南）	井上七海（伊東南）
		複	土井・竹田（富士宮四）	影山・早川（星陵）	石上・鈴木（常葉大菊川）	内田・深津（藤枝広幡）
29	70	団体	星陵	富士宮四	常葉大菊川	伊東南
		単	高柳大輔（星陵）	荒井秀介（星陵）	鈴木彩也花（焼津大村）	岩本夏林（富士南）
		複	森・佐野（富士宮四）	早川・影山（星陵）	内田・内田（藤枝広幡）	深津・清水（藤枝広幡）
30	71	団体	富士宮四	富士宮二	常葉大菊川	伊東南
		単	佐野覚斗（富士宮四）	鈴木翔琉（星陵）	荒井茉奈加（星陵）	秋山萌衣奈（常葉大菊川）
		複	野村・塩川（富士宮二）	佐々木・渡邉（富士宮四）	鈴木・下谷（常葉大菊川）	内田・中島（藤枝広幡）

■ 静岡県中学校バドミントン選手権大会

年度	回	種目	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
16		複	大竹・荒栄（伊東門野）	飯田・塚本（大井川）	川村・佐野（富士宮四）	太田川・稲葉（富士宮四）
		単	村松（富士宮一）	河野（富士宮四）		
17	32	複	吉田・早川（大井川）	荻・中野（富士宮一）	稲葉・山田（富士宮四）	勝亦・吉永（富士根南）
		単	米山修平（鷹岡）	稲葉航平（芝川）	望月有寿（富士宮一）	加藤静（門野）
18	33	複	早川・稲本（大井川中）	高嶋・村松（伊東南）	吉氷・掛本（富士根南）	吉田・小川（大井川）
		単	山田（岩松）	杉本（大井川）	加藤（伊東門野）	吉田（富士岡）
21	36	単	井上寛規（富士宮四）	工藤有智（伊東南）	山田菜月（岩松中）	清光里（芝川）
		複	森・田原（富士宮四）	斎藤・岩川（伊東南）	大畑・中村（大井川）	大川・鈴木（富士根南）
23		単	古屋啓一（伊東南）	米山莉句（富士根南）	山田圭菜（富士宮四）	鈴木里奈（蒲原）
		複	仁藤・武田（伊東南）	樽石・横山（伊東南）	岩田・高橋（星陵）	小野田・山城（星陵）
25		単	三好翔（伊東南）	小野田泰地（星陵）	高柳美月（常葉菊川）	加藤亜哉子（伊東南）
		複	荒井智也・淋舜茉（伊東南）	高橋大和・稲葉琢人（伊東南）	住吉琴菜・杉本英未（伊東南）	樽石杏香・杉山優衣（伊東南）
26	41	単	小野田泰地（星陵）	稲葉琢人（伊東南）	今井沙耶（御殿場南）	渡辺茉央（浜松積志）
		複	竹田・土井（富士宮四）	野田・福田（伊東門野）	住吉・杉本（伊東南）	石上・鈴木（常葉菊川）
27	42	単	平岡佑太	福田陸大	三次蒼	井上七海
		複	土井・竹田	影山・早川	石上・鈴木	内田・深津
28	43	単	海野凌我	高柳大輔	三好蒼	石黒愛莉
		複	森遼太・佐野覚斗	影山幸紀・早川倫矢	内田優衣・内田真緒	秋山萌衣奈・鈴木あかり
29	44	単	佐野覚斗（富士宮四）	鈴木翔琉（星陵）	荒井茉奈加（星陵）	秋山萌衣奈（常葉大菊川）
		複	野村優輝・塩川好輝（富士宮二）	後藤悠斗・遠藤龍（富士宮四）	内田真緒・中島有香理（藤枝広幡）	鈴木あかり・下谷祐香（常葉大菊川）
30	45	単	遠藤友峻（長田南）	小澤勇斗（宇佐美）	荒井茉奈加（星陵）	村松壱華（常葉大菊川）
		複	勝又夢斗・勝又継心（御殿場）	長谷川幸輝・長谷川直輝（門野）	平岡遙・平岡萌（伊東南）	梅原彩寧・上澤亜衣子（星陵）

■ 静岡県小学生大会

回	年度	種目	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
7	12	６年複	小野・柏木　(富士根南)	岩城・瀬戸 (大池)	松岡 (大富士)・加藤 (北山)	掛本・塩沢 (富士根南)
		６年単	望月俊吾 (富丘)	岩城弘知　(大池)	松岡由希子 (大富士)	西島春奈 (富丘)
		５年複	山本 (大岡南)・梅田 (門池)	藁科 (富士根南)・渡辺 (北山)	松岡 (大富士)・佐野 (貴船)	上口・源河 (玉穂)
		５年単	瀬戸麻人 (大池)	田代有麻 (神原東)	松岡千香子 (大富士)	上口明日香 (玉穂)
		3.４年複	河野恵太(富丘) 渡辺幸之介(大宮)	村松 (黒田)高田(富士見)	佐藤(御殿場南) 芹澤(玉穂)	岩渕 (富士根南) 川村 (富丘)
		3.４年単	村松将豪 (黒田)	山本涌也 (大岡南)	望月歩音 (富丘)	岩渕幸恵 (富士根南)
		1.２年男女	勝俣政季 (玉穂)	芹澤拓実 (御殿場)		
8	13	６年複	藁科・渡辺(富士宮スポ少)	朝原・稲葉 (蒲原スポ少)	佐野・千頭 (富士山)	井上・望月 (富士山)
		６年単	岩城弘知 (伊東ワールド)	瀬戸麻人 (伊東ワールド)	松岡千香子 (富士宮スポ少)	上口明日香 (御殿場ジュニア)
		５年複	河野・渡辺 (富士山)	高田・佐野(富士宮スポ少)	佐藤萌・芹澤 (御殿場)	佐藤佑・佐藤亜 (御殿場)
		５年単	村松将豪 (富士宮スポ少)	勝俣広季 (御殿場ジュニア)	望月歩音 (富士山)	岩渕幸穂 (富士宮スポ少)
		４年複	勝俣・芹沢 (御殿場ジュニア)	中野・井口 (富士宮スポ少)	後藤・桂巻 (富士山)	塩川・吉永 (富士宮)
		４年単	芹澤たける (富士山)	安部瞬 (富士南)	遠藤優希奈 (富士宮)	勝又彩夏 (富士宮)
9	13	６年複	岩城・村松 (伊東・富士宮)	藁科・渡辺 (富士宮)	松岡・佐野 (富士宮)	井上・望月 (富士山)
		６年単	岩城弘知 (伊東)	瀬戸麻人 (伊東)	松岡千香子 (富士宮)	上口明日香 (御殿場)
		５年複	河野・渡辺 (富士山)	飯田・大石 (大井川)	岩渕・川村 (富士宮)	佐藤・芹沢 (御殿場)
		５年単	村松将豪 (富士宮)	河野恵太 (富士山)	望月歩音 (富士山)	岩渕幸穂 (富士宮)
		４年複	中野・井口 (富士宮)	芹澤・鈴木 (富士山)	遠藤・勝又 (富士宮)	藤森・諏訪部 (富士山)
		４年単	芹澤たける (富士山)	安部瞬 (富士南)	勝又彩夏 (富士宮)	小林薫加 (富士岡)
		３年複	勝俣・芹澤 (御殿場)	惟村・村松 (富士宮)	後藤・桂巻 (富士山)	新田・山下 (沼津)
		３年単	勝俣政季 (御殿場)	芹澤拓実 (御殿場)	後藤杏菜 (富士山)	桂巻久美乃 (富士山)
		1.２年男女	村松孝彦 (富士宮)	樋口翔太 (富士山)		
10	14	６年複	渡辺・松井 (富士山)	河崎・田原 (富士山)	芹沢・佐藤 (御殿場)	朝原・長倉 (蒲原)
		６年単	村松将豪・(富士宮)	河野恵太 (富士山)	望月歩音 (富士山)	岩渕幸恵 (富士宮)
		５年複	惟村・高木 (沼津)	米山・萩 (富士山)	高井・渡辺 (岩松)	佐野・塩川 (富士宮)
		５年単	金子真也 (沼津)	勝俣政季 (御殿場)	望月有寿 (富士宮)	勝亦彩夏 (富士宮)
		４年複	早川・杉本 (大井川)	惟村・村松 (富士宮)	後藤・桂巻 (富士山)	新田・山下 (沼津)
		４年単	岩城潤 (伊東)	井口卓也 (富士宮)	櫃淵かれら(御殿場)	吉田しほ(富士宮)
		３年複	－	－	掛本・柏木(富士宮)	笹間・佐藤(蒲原)
		３年単	樋口翔太 (富士山)	河野大地 (富士山)	高木あさ香 (沼津)	齋藤明璃 (伊東)
		1.２年男女	芹澤妃那子 (御殿場)	小川耕太 (大井川)		
11	15	６年複	早川・杉本 (大井川)	金子・高木 (沼津)	稲葉・桂巻 (富士山)	石井・加藤 (伊東)
		６年単	金子 (沼津)	中野 (富士宮)	櫃淵 (御殿場)	望月 (富士宮)
		５年複	勝俣・芹沢 (御殿場)	稲本・本田 (大井川)	新田・高木 (沼津)	水口・吉田 (大井川)
		５年単	芹沢 (御殿場)	稲本 (御殿場)	桂巻 (富士山)	加藤 (伊東)
		４年複	樋口・米田 (富士山)	川上・山崎 (富士山)	勝俣・芹澤(御殿場)	米山・清(富士山)
		４年単	樋口(富士山)	米田(富士山)	芹澤(御殿場)	米山(富士山)
		３年複	小川・杉本(大井川)	小林・山田(岩松)		
		３年単	小川(大井川)	杉本(大井川)	勝俣(御殿場)	落合(御殿場)
		１・２年単	斉藤(伊東)	佐藤(伊東)	岩科(蒲原)	山田(岩松)
12	16	６年複	早川・稲本 (大井川)	勝俣・芹沢 (御殿場)	後藤・桂巻 (富士山)	吉田・小川(大井川)
		６年単	芹澤拓実(御殿場)	早川弘貴(大井川)	櫃淵かれら(御殿場)	加藤静(伊東)
		５年複	米田・小林(富士山)	武藤・鈴木(御殿場)	清・太田川(富士山)	掛本・柏木(富士宮)
		５年単	村松孝彦 (富士宮)	武藤光太 (御殿場)	芹澤妃那子 (御殿場)	米山沙弥 (富士山)
		３・４年複	小川・大場 (大井川)	吉永・佐野 (富士宮)	吉永・井口 (富士宮)	落合・勝俣 (御殿場)
		３・４年単	小川耕太 (大井川)	大場雷 (大井川)	勝俣莉里香 (御殿場)	吉永真帆 (富士宮)
		１・２年男女	小川桂汰 (大井川)	大畑愛 (大井川)		
13	17	６年複	樋口・米田 (富士山)	村松・武藤 (富士宮・御殿場)	太田川・山田 (富士山)	井口・吉永 (富士宮)
		６年単	樋口翔太 (富士山)	河野大地 (富士山)	桂巻久美乃 (富士山)	米山沙弥 (富士山)
		５年複	小川・大場 (大井川)	渡辺・望月 (富士宮)	松山・鈴木 (富士中央)	井口・吉永 (富士宮)
		５年単	小川耕太 (大井川)	大場雷 (大井川)	井口真実 (富士宮)	吉永真帆 (富士宮)
		４年複	佐野・吉永 (富士宮)	齋藤・工藤 (伊東)	山田菜・遠藤 (岩松)	川上・山田 (富士山)
		４年単	齋藤光児 (伊東)	工藤有智 (伊東)	山田菜月 (岩松)	鈴木秋海 (富士中央)
		３年複	桜井・古屋 (伊東)	佐々木・保坂 (富士宮)	大畑・八木 (大井川)	中村・永野 (大井川)
		３年単	小川桂汰 (大井川)	桜井巧 (伊東)	大畑愛 (大井川)	影山和瑚 (蒲原)
		１・２年男女	米山莉句 (富士山)	鈴木里奈 (蒲原)		

回	年度	種目	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
14	18	６年複	小川・大場（大井川）	田中・齋藤（伊東）	大田川・山田（富士山）	井口・吉永（富士宮）
		６年単	大場雷（大井川）	小川耕太（大井川）	太田川真希（富士山）	稲葉琴子（伊東）
		５年複	佐野・吉永（富士宮）	井上・森（富士山）	芹澤・村本（御殿場）	篠ケ谷・里見（吉田）
		５年単	井上寛規（富士山）	吉永健太郎（富士宮）	芹澤妃那子（御殿場）	山田菜月（岩松）
		３・４年複	川島・小川(大井川)	田原・田中（富士山）	大畑・八木（大井川）	中村・永野（大井川）
		４年単	小川桂汰（大井川）	川島健（大井川）	勝俣莉里香（御殿場）	大畑愛（大井川）
		３年複	－	－	三井・遠藤（富士中央）	鈴木・八木（蒲原・大井川）
		３年単	米山莉句（富士山）	清俊紀（富士山）	鈴木里奈（蒲原）	稲葉絢子（伊東）
		１・２年男女	村田瑞希（大井川）	篠原大和（富士山）		
15	19	６年複	井上・真（富士山）	森・篠原（富士山）	篠ケ谷・里見（吉田）	芹澤・村本（御殿場）
		６年単	井上寛規（富士山）	工藤有智（伊東）	芹澤妃那子（御殿場）	山田菜月（岩松）
		５年複	田原・田中（富士山）	川島・小川（大井川）	大畑・中村（大井川）	勝俣・勝間田（御殿場）
		５年単	小川桂汰（大井川）	田原優作（富士山）	勝俣莉里香（御殿場）	大畑愛（大井川）
		３・４年複	米山・清（富士山）	横山・三好（伊東）	鈴木・山崎（蒲原）	山本・今井（御殿場）
		１・２年男女	野田彩夏（蒲原）	黒島一真（富士宮）		

■ 静岡県小学生大会

回	年度	種目	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
1	20	６年複	川島・小川（大井川）	田原・田中（富士山）	大畑・中村（大井川）	鈴木・大川（富士山）
		６年単	小川桂汰（大井川）	田原優作（富士山）	勝俣莉里香（御殿場）	大畑愛（大井川）
		５年複	米山・清（富士山）	古屋・仁藤（伊東）	大川・山崎（富士山）	鈴木・清水（蒲原）
		５年単	古屋啓一（伊東）	米山莉句（富士山）	鈴木里奈（蒲原）	稲葉絢子（伊東）
		４年複	横山・樽石（伊東）	八木・小林（大井川）	岩田・小野田（富士山）	村田・村松（大井川）
		４年単	八木惟織（大井川）	篠原大和（富士山）	村田瑞希（大井川）	鈴木悠加（広幡）
		３年複	三好・稲葉（伊東）	大内・宮地（大井川）	村松・村田（大井川）	加藤・樽石（伊東）
		３年単	三好翔（伊東）	稲葉琢人（伊東）	野田彩夏（蒲原）	加藤亜哉子（伊東）
		１・２年男女	勝間田聖亜（御殿場）	鬼束佳奈（大井川）		
2	21	６年複	清・米山（富士山）	古屋・仁藤（伊東）	三井・佐野（富士山）	鬼束・村田（大井川）
		６年単	小川桂汰（大井川）	清俊紀（富士山）	稲葉絢子（伊東）	村田瑞希（大井川）
		５年複	八木・小林（大井川）	篠原・植松（富士山）	小野田・岩田（富士山）	山城・高橋（富士中央）
		５年単	松田蒼汰（富士宮）	篠原大和（富士山）	鈴木悠加（広幡）	岩田美咲（富士山）
		３・４年複	三好・高嶋（伊東）	大内・宮地（大井川）	武田・住吉（ＳＢＣ）	村松・村田（大井川）
		４年単	三好翔（伊東）	大内海渡（大井川）	加藤亜哉子（伊東）	金子美咲（富士山）
		３年単	稲葉琢人（伊東）	小野田泰地（富士山）	武田楓（ＳＢＣ）	住吉琴菜（ＳＢＣ）
		１・２年男女	佐野智咲（富士山）	平岡佑太（伊東）		
3	22	６年複	横山・樽石（伊東）	篠原・植松（富士山）	岩田・小野田（富士山）	山城・高橋（富士中央）
		６年単	松田蒼汰（富士宮）	篠原大和（富士山）	村田瑞希（大井川）	岩田美咲（富士山）
		５年複	大内・宮地（大井川）	黒嶋・市川(富士宮)	金山・野田（富士山）	武田・住吉（ＳＢＣ）
		５年単	大内海人（大井川）	高橋大和（伊東）	加藤亜哉子（伊東）	住吉琴菜（ＳＢＣ）
		３・４年複	野田・山内（ＳＢＣ）	稲葉・岩城（伊東）	鬼束・杉本（ＳＢＣ）	渡辺・村上（どんぐり）
		４年単	小野田泰地（富士山）	稲葉琢人（伊東）	鬼束佳奈（大井川）	渡辺芙央（どんぐり）
		３年単	平岡佑太（伊東）	竹田侑司（富士山）	佐野智咲（富士山）	原　玲　（富士山）
		1.２年単	三橋朋生（ＳＢＣ）	鈴木彩耶花（広幡）		
4	23	６年複	淋・中里（SBC）	三好・柿戸（伊東）	住吉・武田（SBC）	加藤・樽石（伊東）
		６年単	小野田泰地（富士山）	鈴木悠真（どんぐり）	加藤亜哉子（伊東）	住吉琴菜（SBC）
		５年複	一ノ瀬・横山（SBC）	－	池田・小林（大井川）	内山・保坂（岩松）
		５年単	一ノ瀬史椰（SBC）	留場智也（SWAC）	今井沙耶（御殿場）	渡辺芙央（どんぐり）
		４年複	平岡・三好（伊東）	竹田・土井（富士山）	佐野・原（富士山）	石上・鈴木（大井川）
		４年単	平岡佑太（伊東）	竹田侑司（富士山）	佐野智咲（富士山）	石上瑠奈（大井川）
		３年複	藤原・清水（どんぐり）	海野・細小路（富士山）	鈴木・内田（広幡）	三好・長谷（伊東）
		３年単	高柳大輔（大井川）	三橋朋生（ＳＢＣ）	三好蒼（伊東）	鈴木彩也香（広幡）
		１・２年男女	横山旦圭（ＳＢＣ）	山下大輔（岩松）	大塚舞桜（広幡）	内田真緒（広幡）

回	年度	種目	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
5	24	６年複	稲葉・岩城（伊東）	野田・山内（伊東SBC）	住吉・新井田（SBC）	長谷川・杉本（SBC）
		６年単	勝間田聖亜（御殿場）	稲葉琢人（伊東）	新井田楓（ＳＢＣ）	住吉琴菜（ＳＢＣ）
		５年複	福田・三橋（伊東SBC）	平岡・三好（伊東）	石上・鈴木（大井川）	佐野・原（富士山）
		５年単	平岡佑太（伊東）	福田陸大（ＳＢＣ）	石上瑠奈（大井川）	井上七海（ＳＢＣ）
		４年複	藤原・清水（どんぐり）	早川・横山（ＳＢＣ）	三好・鈴木（伊東）	内田・大塚（広幡）
		４年単	三橋朋生（ＳＢＣ）	高柳大輔（大井川）	三好蒼（伊東）	鈴木彩也香（広幡）
		３年複	渡辺・佐野（富士山）	野鶴・松村（御殿場）	平岡萌・平岡遙（伊東）	八木・秋山（島田六合）
		３年単	横山旦圭（ＳＢＣ）	勝又夢斗（御殿場）	大塚舞桜（広幡）	内田真緒（広幡）
		１・２年男女	小澤勇斗（伊東）	澤野匠人（沼津）	平岡萌（伊東）	平岡遙（伊東）
6	25	６年複	福田・三橋（SBC	竹田・土井（富士山）	石上・鈴木（大井川）	原・森（富士山）
		６年単	平岡佑太（伊東）	竹田侑司（富士山）	石上瑠奈（大井川）	原　玲（富士山）
		５年複	海野・森（富士山）	藤原・清水（どんぐり）	鈴木・深津（広幡）	内田・谷村（広幡）
		５年単	三橋朋生（SBC）	高柳大輔（大井川）	三好蒼（伊東）	鈴木彩也花（広幡）
		４年複	佐野・渡辺（富士山）	鈴木・山口（富士中央）	大塚・内田（広幡）	岩崎・中島（広幡）
		４年単	佐野覚斗（富士山）	横山旦圭（ＳＢＣ）	大塚舞桜（広幡）	内田真緒（広幡）
		３年複	小澤・鶴岡（伊東）	富田・北澤（広幡）	山下・仲丸（藤枝）	廣瀬・村松（大井川）
		３年単	小澤勇斗（伊東）	辻崇我（ＳＢＣ）	荒井茉奈加（富士中央）	平岡遙（伊東）
		１・２年男女	勝又翔哉（富士山）	鶴岡成々斗（伊東）	石井琴巳（伊東）	藤浦ひかり（吉田）
7	26	６年複	三橋・早川（SBC）	海野・森（富士山）	内田・鈴木（広幡）	岩本・石黒（富士中央）
		６年単	三橋朋生（SBC）	高柳大輔（大井川）	鈴木彩也花（広幡）	三好蒼（伊東）
		５年複	佐野・渡辺（富士山）	野村・後藤（富士山）	内田・岩崎（広幡）	大塚・中島（広幡）
		５年単	佐野覚斗（富士山）	鈴木翔琉（富士中央）	内田真緒（広幡）	鈴木（藤枝）
		４年複	辻・兼子(SBC)	小澤・鶴岡（伊東）	山下・仲丸（藤枝）	平岡萌・平岡遙（伊東）
		４年単	勝又翔哉(富士山)	松村颯太(御殿場)	荒井茉奈加（富士中央）	仲丸杏彩(藤枝)
		３年複	勝又・梅原(富士山)	佐々木・長田(御殿場)	仲丸・夏賀(藤枝)	長谷川・井原(広幡)
		３年単	丸山雷真(大井川)	兼子大輝(SBC)	仲丸柚葉(藤枝)	石井琴巳(伊東)
		１・２年男女	鶴岡成々斗（伊東）	山本脩太(沼津)	長谷川幸咲(広幡)	三浦璃子（SBC）
8	27	６年複	野村・佐野（富士山）	渡辺・後藤（富士山）	内田・大塚（広幡）	中島・岩崎（広幡）
		６年単	佐野覚斗（富士山）	鈴木翔琉（富士中央）	内田真緒（広幡）	秋山萌衣奈（島田六合）
		５年複	勝又・松村（御殿場）	井手・上原（富士山）	長田・梅原（富士山）	山下・柘植（藤枝）
		５年単	勝又夢斗（御殿場）	松村颯太（御殿場）	荒井茉奈加（富士中央）	山下瑠奈（藤枝）
		４年複	勝又・丹野(御殿場)	－	石井・緒方(伊東)	馬飼野・野村(富士山)
		４年単	兼子大輝(SBC)	吉川晶太(どんぐり)	石井琴巳(伊東)	馬飼野朱李(富士山)
		３年複	勝又・塩川(富士山)	泉・狩野（SBC）	長谷川・井原(広幡)	竹田・北村(藤枝)
		３年単	勝又翔哉(富士山)	山本脩太(沼津)	長谷川幸咲(広幡)	服部(沼津)
		１・２年単	梅原歩志(富士山)	勝又悠翔(富士山)	三浦璃子（SBC）	吉川（どんぐり）
9	28	６年複	勝又・松村（御殿場）	井出・上原(富士山)	平岡萌・平岡遙（伊東）	長田・梅原（富士山）
		６年単	勝又夢斗（御殿場）	小澤勇斗（伊東）	荒井茉奈加（富士中央）	山下瑠奈（藤枝）
		５年複	勝又・眞田（御殿場）	丸山・杉本（大井川）	馬飼野・野村（富士山）	石井・緒方（ワールド）
		５年単	兼子大輝（ＳＢＣ）	丸山雷真(大井川)	石井琴巳(伊東)	夏賀美羽（藤枝）
		４年複	勝又・塩川(富士山)	泉・狩野（SBC）	長谷川・井原(広幡)	柘植・有田(藤枝)
		４年単	勝又翔哉(富士山)	鶴岡成々斗（伊東）	長谷川幸咲(広幡)	井原理緒(広幡)
		３年複	梅原・勝又悠(富士山)	浅井・大石(吉田)	村越・山崎(大井川)	町田・酒巻(岩松)
		３年単	藤原豪己(どんぐり)	梅原歩志(富士山)	三浦璃子（SBC）	中野紗愛（NSY）
		１・２年単	勝又悠翔(富士山)	山下陸翔(富士中央)	長谷川翼咲(広幡)	天野祐希(広幡)
10	29	６年複	兼子・日吉（SBC）	吉川・山本(どんぐり)	石井・緒方(伊東)	馬飼野・野村(富士山)
		６年単	兼子大輝（ＳＢＣ）	吉川晶太(どんぐり)	石井琴巳(伊東)	馬飼野朱李(富士山)
		５年複	勝又翔・勝又悠(富士山)	塩川・梅原(富士山)	長谷川・富田（広幡）	井原・大畑(広幡)
		５年単	勝又翔哉(富士山)	山本脩太(沼津)	長谷川幸咲(広幡)	井原理緒(広幡)
		４年複	藤原・山田(どんぐり)	赤池・橘本（NSY）	大村・西野(広幡)	村井・橋本（NSY）
		４年単	藤原豪己(どんぐり)	梅原歩志(富士山)	三浦璃子（SBC）	村越七海(大井川)
		３年複	山下・山下(岩松)	中野・青島(岩松)	天野・長谷川(広幡)	安間・五十右(広幡)
		３年単	勝又悠翔(富士山)	山下陸翔(富士中央)	天野祐希(広幡)	山崎咲七(大井川)
		１・２年単	柘植太壱(藤枝)	山下瑛翔(富士中央)	長谷川翼咲(広幡)	良知さあや(広幡)

回	年度	種目	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
11	30	６年複	塩川・梅原（富士山）	泉・狩野（SBC）	長谷川・富田（広幡）	井原・大畑（広幡）
		６年単	山本脩太（沼津）	天野遙（広幡）	長谷川幸咲（広幡）	村井心優(NSY)
		５年複	藤原・山田（どんぐり）	滝井・長谷部（藤枝）	大野・西野（広幡）	鈴木・富永（富士中央）
		５年単	藤原豪己（どんぐり）	瀬戸奏大（SBC）	三浦璃子（SBC）	村越七海（大井川）
		４年複	中野・青島(岩松)	山本・興津(西豊田)	天野・長谷川(広幡)	安間・五十右(広幡)
		４年単	山下陸翔(富士中央)	中野開仁(岩松)	天野祐希(広幡)	村井怜未（NSY）
		３年複	鈴木・小林(どんぐり)	西山・住吉(富士中央)	良知・五十右(広幡)	馬飼野・遠藤(富士山)
		３年単	柘植太壱(藤枝)	横山真士(大井川)	長谷川翼咲(広幡)	良知さあや(広幡)
		１・２年単	山下瑛翔(富士中央)	剣持蓮（SBC）	五十右帆香(広幡)	黒田遥香(広幡)
12	元	６年複	藤原・山田(どんぐり)	梅原・望月(富士山)	大村・西野(広幡)	伊藤・佐々木(富士中央)
		６年単	梅原歩志(富士山)	山田翔(どんぐり)	村越七海(大井川)	西野綾香(広幡)
		５年複	山下・西山(富士中央)	青島・中野(岩松)	天野・長谷川(広幡)	五十右・安間(広幡)
		５年単	勝又悠翔（SBC）	山下陸翔(富士中央)	天野祐希(広幡)	五十右夕芽(広幡)
		４年複	柘植・小宅(藤枝)	野崎・森光(沼津)	清・佐藤(富士山)	加藤・折原(島田六合)
		４年単	柘植太壱(藤枝)	横山真士(大井川)	長谷川翼咲(広幡)	良知さあや(広幡)
		３年複	山下・住吉(富士中央)	鈴木・山田(どんぐり)	松浦・黒田(広幡)	馬飼野・遠藤(富士山)
		３年単	山下瑛翔(富士中央)	伊井亜藍(島田六合)	黒田遥香(広幡)	馬飼野心咲(富士山)
		１・２年単	勝又陽翔（SBC）	山田源(どんぐり)	五十右帆香(広幡)	富永夕都(富士中央)

■ 若葉カップ(団体)

回	年度	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
15	11	富士山バド	富士宮スポ少	富士宮スポ少	富士山バド
16	12	富士山バド	富士宮スポ少	富士宮スポ少	富士山バド
17	13	富士宮スポ少Ａ	富士山バド	富士宮スポ少	御殿場ジュニア
18	14	大井川ジュニア	富士宮スポ少Ａ	富士宮スポ少Ａ	富士山バドＡ
19	15	大井川ジュニア	富士宮スポ少Ａ	富士宮スポ少Ａ	富士山クラブＡ
20	16	大井川ジュニア	御殿場ジュニア	富士山バドＡ	御殿場ジュニア
21	17	伊東ワールド	富士山バドＡ	富士山バドＡ	蒲原スポーツ少年団
22	18	大井川ジュニア	伊東ワールド	御殿場ジュニア	蒲原スポーツ少年団
23	19	富士山バドＡ	伊東ワールド	大井川ジュニア	蒲原ジュニア
24	20	大井川ジュニア	富士山バドＡ	大井川ジュニア	御殿場ジュニア
25	21	富士山バドＡ	伊東ワールド	大井川ジュニア	富士山バドＡ
26	22	伊東ワールド	大井川ジュニア	大井川ジュニア	富士山バドＡ
27	23	伊東ワールド	伊東SBC	伊東SBC	大井川ジュニア
28	24	伊東SBC	富士山バド	大井川ジュニア	伊東ワールド
29	25	富士山バド	伊東SBC	広幡バドキッズ	富士中央バド
30	26	富士山バド	御殿場ジュニア	広幡バドキッズ	伊東ワールド
31	27	富士山バド	御殿場ジュニア	藤枝ジュニア	伊東ワールド
32	28	富士山バド	伊東SBC	伊東ワールド	富士山バド
33	29	富士山バド	伊東SBC	広幡バドキッズ	NSY　Fuji
34	30	富士山バド	どんぐりジュニア	広幡バドキッズ	NSY　Fuji
35	元	どんぐりジュニア	富士中央バド	広幡バドキッズ	大井川ジュニア

■ 全国ＡＢＣ大会県予選

年度	回	種目	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
12	1	5.6年単	望月俊吾（富士山）	岩城弘知（伊東）	西島春奈（富士山）	松岡由希子（富士宮）
		3.4年単	村松将豪（富士宮）	山本湧也（沼津）	望月歩音（富士山）	岩渕幸恵（富士宮）
		1.2年単	勝俣政季（御殿場）	芹澤拓実（御殿場）	加藤静（伊東）	吉田しほ（富士岡）
13	2	5.6年単	岩城弘知（伊東）	村松将豪（富士宮）	上口明日香（御殿場）	松岡千賀子（富士宮）
		3.4年単	芹澤たける（富士山）	勝俣政季（御殿場）	遠藤優希菜（富士宮）	勝亦彩夏（富士宮）
		1.2年単	村松孝彦（富士宮）	樋口翔太（富士山）	桂巻久美乃（富士山）	池田あや（御殿場）
14	3	5.6年単	村松将豪（富士宮）	河野恵太（富士山）	望月歩音（富士山）	岩渕幸恵（富士宮）
		3.4年単	勝俣政季（御殿場）	芹澤拓実（御殿場）	加藤静（伊東）	吉田しほ（富士岡）
		1.2年単	吉永健太郎（富士宮）	佐野弘明（富士宮）	芹澤妃那子（御殿場）	大田川真希（富士山）
15	4	5.6年単	杉本大夢（大井川）	芹澤拓実（御殿場）	橿淵かれら（御殿場）	加藤静（伊東）
		3.4年単	樋口翔太（富士山）	村松孝彦（富士宮）	桂巻久美乃（富士山）	高木あさ香（沼津）
		1.2年単	佐野亮平（富士宮）	吉永健太郎（富士宮）	芹澤妃那子（御殿場）	勝俣莉里香（御殿場）

年度	回	種目	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
16	5	5.6年単	杉本大夢（大井川）	勝間田（御殿場）	加藤静（伊東）	橿淵かれら（御殿場）
		3.4年単	小川耕太（大井川）	佐野亮平（富士宮）	大田川真希（富士山）	吉永真歩（富士宮）
		1.2年単	小川桂汰（大井川）	櫻井巧（伊東）	勝俣莉里香（御殿場）	大畑愛（大井川）
17	6	5.6年単	樋口翔太（富士山）	河野大地（富士山）	桂巻久美乃（富士山）	米山沙弥（富士山）
		3.4年単	佐野亮平（富士宮）	外山伊吹（岩松）	芹澤妃那子（御殿場）	勝俣莉里香（御殿場）
		1.2年単	小川桂汰（大井川）	櫻井巧（伊東）	鈴木里奈（蒲原）	山本果歩（御殿場）
18	7	5.6年単	大場雷（大井川）	田中航平（伊東）	勝俣莉里香（御殿場）	大田川真希（富士山）
		3.4年単	小川桂汰（大井川）	田原優作（富士山）	勝俣莉里香（御殿場）	大畑愛（大井川）
		1.2年単	篠原大和（富士山）	松田蒼太（富士宮）	村田瑞希（大井川）	野田彩夏（蒲原）
19	8	5.6年単	井上寛規（富士山）	斎藤光児（伊東）	芹澤妃那子（御殿場）	勝俣莉里香（御殿場）
		3.4年単	小川桂汰（大井川）	米山莉句（富士山）	鈴木里奈（蒲原）	山本果歩（御殿場）
		1.2年単	三好翔（伊東）	黒島一真（富士宮）	野田彩夏（蒲原）	村松間乃（大井川）
20	9	5.6年単	川島健（大井川）	田中大成（富士山）	勝俣莉里香（御殿場）	大畑愛（大井川）
		3.4年単	松田蒼太（富士宮）	八木惟織（大井川）	村田瑞希（大井川）	岩田美咲（富士山）
		1.2年単	稲葉琢人（伊東）	勝間田聖亜（御殿場）	鬼束佳奈（大井川）	池田彩乃（大井川）
21	10	5.6年単	小川桂大（大井川）	清俊紀（富士山）	鈴木里奈（蒲原）	山本果歩（御殿場）
		3.4年単	三好翔（伊東）	稲葉琢人（伊東）	野田彩夏（蒲原）	村松間乃（大井川）
		1.2年単	福田陸大（ＳＢＣ）	竹田侑司（富士山）	佐野智咲（富士山）	原　玲（富士山）
22	11	5.6年単	松田蒼太（富士宮）	福田雄飛（ＳＢＣ）	村田瑞希（大井川）	岩田美咲（富士山）
		3.4年単	小野田泰地（富士山）	稲葉琢人（伊東）	住吉琴菜（ＳＢＣ）	武田楓（ＳＢＣ）
		1.2年単	三橋朋生（ＳＢＣ）	海野凌我（富士山）	三好蒼（伊東）	杉本真悠香（沼津）
23	12	5.6年単	三好翔（伊東）	稲葉琢人（伊東）	武田楓（ＳＢＣ）	加藤亜哉子（伊東）
		3.4年単	平岡佑太（伊東）	福田陸大（ＳＢＣ）	佐野智咲（富士山）	井上七海（ＳＢＣ）
		1.2年単	村上大和（どんぐり）	鈴木星音（どんぐり）	大塚舞桜（広幡）	平岡遙（伊東）
24	13	5.6年単	小野田泰地（富士山）	勝間田聖亜（御殿場）	新井田楓（SBC）	住吉琴菜（ＳＢＣ）
		3.4年単	三橋朋生（ＳＢＣ）	高柳大輔（大井川）	三好蒼（伊東）	鈴木彩也花（広幡）
		1.2年単	勝又夢斗（御殿場）	鈴木星音（どんぐり）	坂本奈央（島田六合）	荒井茉奈加（富士中央）
25	14	5.6年単	平岡佑太（伊東）	福田陸大（ＳＢＣ）	井上七海（ＳＢＣ）	三好蒼（伊東）
		3.4年単	佐野覚斗（富士山）	横山旦圭（ＳＢＣ）	内田真緒（広幡）	大塚舞桜（広幡）
		1.2年単	勝又翔哉（富士山）	鶴岡成々斗（伊東）	石井琴巳（伊東）	仲丸柚葉（藤枝）
26	15	5.6年単	三橋朋生（ＳＢＣ）	鈴木翔琉（富士中央）	三好蒼（伊東）	内田真緒（広幡）
		3.4年単	松村颯太（御殿場）	勝又継心（御殿場）	荒井茉奈加（富士中央）	石井琴巳（伊東）
		1.2年単	勝又翔哉（富士山）	鶴岡成々斗（伊東）	長谷川幸咲（広幡）	服部七菜華（沼津）
27	16	5.6年単	佐野覚斗（富士山）	勝又夢斗（御殿場）	内田真緒（広幡）	荒井茉奈加（富士中央）
		3.4年単	勝又継心（御殿場）	山本脩太（沼津）	長谷川幸咲（広幡）	仲丸柚葉（藤枝）
		1.2年単	勝又悠翔（富士山）	梅原歩志（富士山）	三浦璃子(SBC)	吉川琴心（どんぐり）
28	17	5.6年単	辻崇我(SBC)	兼子大輝(SBC)	荒井茉奈加（富士中央）	石井琴巳（伊東）
		3.4年単	勝又翔哉（富士山）	梅原歩志（富士山）	長谷川幸咲（広幡）	三浦璃子(SBC)
		1.2年単	勝又悠翔（富士山）	山下陸翔(富士中央)	長谷川翼咲（広幡）	石黒唯菜（NSY）
29	18	5.6年単	勝又翔哉（富士山）	兼子大輝(SBC)	長谷川幸咲（広幡）	石井琴巳（伊東）
		3.4年単	梅原歩志（富士山）	山下陸翔(富士中央)	三浦璃子(SBC)	天野祐希(広幡)
		1.2年単	柘植太壱(藤枝)	剣持蓮(SBC)	長谷川翼咲（広幡）	良知さあや(広幡)
30	19	5.6年単	勝又翔哉（富士山）	梅原歩志（富士山）	長谷川幸咲（広幡）	三浦璃子(SBC)
		3.4年単	勝又悠翔（富士山）	柘植太壱(藤枝)	天野祐希(広幡)	良知さあや(広幡)
		1.2年単	山下瑛翔(富士中央)	剣持蓮(SBC)	五十右帆香(広幡)	馬飼野心咲(富士山)
元	20	5.6年単	梅原歩志（富士山）	勝又悠翔（富士山）	三浦璃子(SBC)	天野祐希(広幡)
		3.4年単	剣持蓮(SBC)	柘植太壱(藤枝)	長谷川翼咲（広幡）	馬飼野心咲(富士山)
		1.2年単	山田源(どんぐり)	勝又陽翔(SBC)	五十右帆香(広幡)	富永夕都(富士中央)

■ 東海小学生バドミントン大会

年度	種目	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
14	6年生以下単	村松将豪（富士宮）	河崎直之（富士山）	望月歩音（富士山）	佐野萌子（沼津）
	6年生以下複	河野・渡辺（富士山）	飯田・杉本（大井川）	岩渕・川村（富士宮）	芹澤・佐藤（御殿場）
	5年生以下単	金子真也（沼津）	小代田瞬（富士南）	稲葉真理子（富士山）	遠藤優希奈（富士山）
	5年生以下複	鈴木・谷山（富士山）	河村・大畑（大井川）	望月・勝亦（富士宮）	高井・渡辺（岩松）
	4年生以下単	芹澤拓実（御殿場）	勝俣政季（御殿場）	飯田愛菜（富士南）	加藤静（伊東）
	4年生以下複	早川・杉本（大井川）	山田・外山（岩松）	後藤・桂巻（富士山）	新田・山下（沼津）

年度	種目	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
15	6年生以下単	金子真也（沼津）	小代田瞬（富士南）	稲葉真理子（富士山）	石井美穂（伊東）
	6年生以下複	中野・荻（富士山）	米山・谷山（富士山）	望月・勝亦（富士宮）	遠藤・小林（富士宮）
	5年生以下単	勝俣政季（御殿場）	稲本武紘（大井川）	橿淵かれら（御殿場）	加藤静（伊東）
	5年生以下複	井口・惟村（富士宮）	早川・杉本（大井川）	吉田・吉永（富士宮）	望月・一圓（蒲原）
	4年生以下単	村松孝彦（富士宮）	瀬戸甲文（伊東）	桂巻久美乃（富士山）	高木あさ香（沼津）
	4年生以下複	樋口・河野（富士山）	武藤・鈴木（御殿場）	芹澤・勝俣（御殿場）	掛本・柏木（富士山）
16	6年生以下単	杉本大夢（吉田）	岩城潤（伊東）	加藤静（伊東）	橿淵かれら（御殿場）
	6年生以下複	井口・惟村（富士宮）	早川・稲本（大井川）	吉田・吉永（富士宮）	後藤・桂巻（富士山）
	5年生以下単	村松孝彦（富士宮）	武藤洸汰（御殿場）	米山沙弥（富士山）	高木あさ香（沼津）
	5年生以下複	樋口・河野（富士山）	米田・小林（富士山）	掛本・柏木（富士宮）	清・　森（富士山）
	4年生以下単	小川桂大（大井川）	磯部祐里（蒲原）	芹澤妃那子（御殿場）	勝俣莉里香（御殿場）
	4年生以下複	佐野・吉永（富士宮）	井上・田原（富士山）	吉永・井口（富士宮）	久保田・宍戸（蒲原）
17	6年生以下単	村松孝彦（富士宮）	岩渕潤（伊東）	加藤静（伊東）	橿淵かれら（御殿場）
	6年生以下複	樋口・河野（富士山）	米田・小林（富士山）	掛本・柏木（富士宮）	後藤・桂巻（富士山）
	5年生以下単	中垣内拓実（御殿場）	磯部祐里（蒲原）	太田川真希（富士山）	稲葉琴子（伊東）
	5年生以下複	大場・小川（大井川）	杉本・水口（吉田）	吉永・井口（富士宮）	影山・宍戸（蒲原）
	4年生以下単	小川桂大（大井川）	森瑞帆（富士山）	芹澤妃那子（御殿場）	勝俣莉里香（御殿場）
	4年生以下複	佐野・吉永（富士宮）	斉藤・工藤（伊東）	青木・伊東（伊東）	三井・佐野（富士中央）
18	6年生以下単	田中航平（伊東）	磯部祐里（蒲原）	太田川真希（富士山）	落合恵里菜（御殿場）
	6年生以下複	大場・小川（大井川）	海老名・勝又（伊東）	吉永・井口（富士宮）	影島・大島（蒲原）
	5年生以下単	外山伊吹（岩松）	篠原遥平（富士山）	芹澤妃那子（御殿場）	山田菜月（岩松）
	5年生以下複	斉藤・工藤（伊東）	佐野・吉永（富士宮）	篠ケ谷・里見（吉田）	三井・鈴木（富士中央）
	4年生以下単	小川桂大（大井川）	川島健（大井川）	勝俣莉里香（御殿場）	大畑愛（大井川）
	4年生以下複	田原・田中（富士山）	米山・清（富士山）	鈴木・野田（蒲原）	中村・八木（大井川）
19	6年生以下単	岩川翔太（伊東）	工藤聖嗣（富士宮）	芹澤妃那子（御殿場）	山田菜月（岩松）
	6年生以下複	佐野・吉永（富士宮）	齋藤・工藤（伊東）	篠ケ谷・里見（吉田）	三井・鈴木（富士中央）
	5年生以下単	川島健（大井川）	深澤浩弥（富士宮）	勝俣莉里香（御殿場）	野田夏帆（蒲原）
	5年生以下複	田原・田中（富士山）	瀬戸・櫻井（伊東）	大畑・中村（大井川）	山田・大川（富士山）
	4年生以下単	小川桂大（大井川）	古屋啓一（伊東）	鈴木里奈（蒲原）	稲葉絢子（伊東）
	4年生以下複	米山・清（富士山）	松田・深澤（富士宮）	遠藤・山田（富士中央）	河角・野田（蒲原）
20	6年生以下単	川島健（大井川）	深澤浩弥（富士宮）	勝俣莉里香（御殿場）	小林伊吹（大井川）
	6年生以下複	田原・田中（富士山）	瀬戸・櫻井（伊東）	大畑・中村（大井川）	鈴木・大川（富士山）
	5年生以下単	小川桂大（大井川）	縣龍生（沼津）	鈴木里奈（蒲原）	稲葉絢子（伊東）
	5年生以下複	米山・清（富士山）	仁藤・古屋（伊東）	山崎・大川（富士山）	遠藤・山田（富士中央）
	4年生以下単	八木惟織（大井川）	篠原大和（富士山）	村田瑞希（大井川）	鈴木悠希（広幡）
	4年生以下複	松田・深澤（富士宮）	横山・三好（伊東）	山城・高橋（富士中央）	岩田・金山（富士山）
21	6年生以下単	小川桂汰（大井川）	縣龍生（沼津）	鈴木里奈（蒲原）	山本果歩（御殿場）
	6年生以下複	米山・清（富士山）	仁藤・古屋（伊東）	山崎・大川（富士山）	山田・望月（富士中央）
	5年生以下単	篠原大和（富士山）	堀内将弘（大井川）	村田瑞希（大井川）	岩田美咲（富士山）
	5年生以下複	松田・深澤（富士宮）	横山・樽石（伊東）	山城・高橋（富士中央）	小野田・望月（富士山）
	4年生以下単	三好翔（伊東）	小野田泰地（富士山）	野田彩夏（蒲原）	加藤亜哉子（伊東）
	4年生以下複	大内・宮地（大井川）	黒島・市川（富士宮）	住吉・武田（伊東ＳＢＣ）	村松・村田（大井川）
	団体戦	富士山バドミントン	羽球大井川Ｊｒ	伊東ワールド	伊東ＳＢＣ
22	6年生以下単	松田蒼太（富士宮）	八木惟織（大井川）	村田瑞希（大井川）	鈴木悠加（広幡）
	6年生以下複	篠原・植松（富士山）	樽石・横山（伊東）	岩田・小野田（富士山）	山城・高橋（富士中央）
	5年生以下単	淋舜茉（伊東ＳＢＣ）	稲葉達大（富士中央）	渡辺莉央（どんぐり）	長田美香（御殿場）
	5年生以下複	三好・稲葉（伊東）	大内・宮地（大井川）	野田・金山（富士山）	加藤・樽石（伊東）
	4年生以下単	小野田泰地（富士山）	勝間田聖亜（御殿場）	鬼束佳奈（大井川）	今井沙耶（御殿場）
	4年生以下複	山内・福田（伊東ＳＢＣ）	竹田・渡辺（富士山）	住吉・武田（伊東SBC）	渡辺・村上（どんぐり）
23	6年生以下単	三好（伊東ワールド）	鈴木（どんぐりジュニア）	加藤（伊東ワールド）	村松（伊東SBC）
	6年生以下複	荒井・高嶋（伊東ワールド）	大内・宮地（大井川ジュニア）	金山・野田（富士山）	渡辺莉・渡辺菜（どんぐり）
	5年生以下単	小野田（富士山）	勝間田（御殿場ジュニア）	鬼束（大井川ジュニア）	今井（御殿場ジュニア）
	5年生以下複	稲葉・岩城（伊東ワールド）	山内・野田（伊東SBC）	住吉・武田（伊東SBC）	長谷川・杉本（伊東SBC）
	4年生以下単	平岡（伊東ワールド）	福田（伊東SBC）	八木（六合ジュニア）	井上（伊東SBC）
	4年生以下複	竹田・上井（富士山）	渡辺・海野（富士山）	佐野・原（富士山）	石上・鈴木（大井川）
	団体戦	伊東ワールド	伊東SBC	伊東SBC	伊東ワールド

年度	種目	男子１位	男子２位	女子１位	女子２位
24	６年生以下単	小野田泰地（富士山）	勝間田聖亜（御殿場）	今井沙耶（御殿場）	鬼束佳奈（大井川）
	６年生以下複	山内・野田（伊東ＳＢＣ）	稲葉・岩城（伊東）	住吉・新井田（伊東ＳＢＣ）	長谷川・杉本（伊東ＳＢＣ）
	５年生以下単	平岡佑太（伊東）	三好遼亮（伊東）	八木千菜美（島田六合）	清水南光（大井川）
	５年生以下複	福田・三橋（伊東ＳＢ）	竹田・土井（富士山）	佐野・原(富士山)	石上・鈴木（大井川）
	４年生以下単	高橋大輔（大井川）	藤原壮汰（どんぐり）	三好蒼（伊東）	深津梓花（広幡）
	４年生以下複	早川・横山（伊東ＳＢＣ）	勝又・勝又（御殿場）	内田・鈴木（広幡）	内田・大塚（広幡）
	団体戦	伊東ＳＢＣ	伊東ワールド	伊東ＳＢＣ	羽球大井川
25	６年生以下単	平岡佑太（伊東ワールド）	渡邉峻（富士山）	井上七海（SBC）	八木千菜美（島田六合）
	６年生以下複	竹田・土井(富士山)	福田・三橋（SBC）	石上・鈴木（大井川）	新田・勝又（御殿場）
	５年生以下単	高柳大輔（大井川）	早川倫矢（SBC）	三好蒼（伊東）	深津梓花（広幡）
	５年生以下複	海野・森（富士山）	影山・荒井（富士中央）	鈴木・内田（広幡）	石川・佐野（富士山）
	４年生以下単	勝又（御殿場）	横山旦圭（SBC）	秋山萌衣奈（島田六合）	山下（藤枝）
	４年生以下複	佐野・渡辺（富士山）	勝又・松村（御殿場）	内田・大塚（広幡）	鈴木・竹田（藤枝）
	団体戦	富士山バドミントン	伊東ワールド	羽球大井川Ｊｒ	富士中央バドミントン
26	６年生以下単	高柳大輔（大井川）	藤原壮汰（どんぐり）	三次蒼（伊東）	深津梓花（広幡）
	６年生以下複	三橋・早川（ＳＢＣ）	海野・森（富士中央）	内田・鈴木（広幡）	岩本・石黒（富士中央）
	５年生以下単	鈴木翔琉（富士中央）	横山旦圭（SBC）	内田真緒（広幡）	秋山萌衣奈（島田六合）
	５年生以下複	佐野・渡辺（富士山）	野村・後藤（富士山）	大塚・中島（広幡）	鈴木・竹田（藤枝）
	４年生以下単	勝又翔哉（富士山）	小杉昂（どんぐり）	荒井芙奈加（富士中央）	広瀬鈴（大井川）
	４年生以下複	勝又・勝又（御殿場）	辻・兼子（ＳＢＣ）	仲丸・山下（藤枝）	平岡・平岡（伊東）
	団体戦	ＳＢＣスクール	富士中央バドミントン	広幡バドキッズ	藤枝ジュニア
27	６年生以下単	鈴木翔琉（富士中央）	野鶴久晴（御殿場）	秋山（島田六合）	八木（島田六合）
	６年生以下複	野村・佐野（富士山）	渡辺・後藤（富士山）	内田・大塚（広幡）	鈴木・竹田（藤枝）
	５年生以下単	小澤勇斗（伊東）	小杉昂（どんぐり）	荒井芙奈加（富士中央）	平岡萌（伊東）
	５年生以下複	勝又・松村（御殿場）	井出・上原（富士山）	長田・梅原（富士山）	山下・柘植（藤枝）
	４年生以下単	鶴岡成成斗（伊東）	丸山雷真（大井川）	石井琴巳（伊東）	夏賀美羽（藤枝）
	４年生以下複	勝又翔・勝又悠（富士山）	勝又・佐々木（御殿場）	長谷川・井原（広幡）	馬飼野・野村（富士山）
	団体戦	富士山バドミントン	御殿場ジュニア	富士山バドミントン	伊東ワールド
28	６年生以下単	小澤勇斗（伊東）	辻崇我（ＳＢＣ）	荒井茉奈加（富士中央）	村松壱華（大井川）
	６年生以下複	勝又・松村（御殿場）	井出・上原（富士山）	長田・梅原（富士山）	平岡・平岡（伊東）
	５年生以下単	吉川晶太（どんぐり）	兼子大輝（ＳＢＣ）	石井琴巳（伊東）	緒方彩月（伊東）
	５年生以下複	勝又・眞田（御殿場）	佐野・栞原（富士山）	馬飼野・野村（富士山）	服部・角田（富士山）
	４年生以下単	鶴岡成々斗（伊東）	本多健留（富士中央）	長谷川幸咲（広幡）	井原理緒（広幡）
	４年生以下複	勝又翔・勝又悠（富士山）	塩川・梅原（富士山）	竹田・北村（藤枝）	柘植・有田（藤枝）
	団体戦	富士山バドミントン	御殿場ジュニア	富士山バドミントン	伊東ワールド
29	６年生以下単	兼子大輝(SBC)	勝又継心（御殿場）	石井琴巳（伊東）	緒方彩月（伊東）
	６年生以下複	眞田・田代（御殿場）	後藤・加藤（岩松）	馬飼野・野村（富士山）	服部・角田（富士山）
	５年生以下単	鶴岡成々斗（伊東）	山本脩太（沼津）	長谷川幸咲（広幡）	渡辺希美（ＳＢＣ）
	５年生以下複	勝又翔・勝又悠（富士山）	塩川・梅原（富士山）	井原・大原（広幡）	竹田・北村（藤枝）
	４年生以下単	藤原豪己（どんぐり）	勝又櫻介（御殿場）	三浦璃子（ＳＢＣ）	村越七海（大井川）
	４年生以下複	長谷部・滝井（藤枝）	中村・大石（吉田バド）	大野・西野（広幡）	酒巻・町田（岩松）
	団体戦	広幡バドキッズ	どんぐりジュニア	富士山バドミントン	伊東ワールド
30	６年生以下単	鶴岡成々斗（伊東）	山本脩太（沼津）	長谷川幸咲（広幡）	山本美月（伊東）
	６年生以下複	勝又・勝又（富士山）	塩川・梅原（富士山）	井原・大畑（広幡）	村井・橋本（NSY）
	５年生以下単	瀬戸奏大（SBC）	勝又櫻介（御殿場）	村越七海（羽球Jr）	吉川琴心（どんぐり）
	５年生以下複	藤原・山田（どんぐり）	滝井・長谷部（藤枝）	大村・西野（広幡）	町田・酒巻（岩松）
	４年生以下単	山下陸翔（中央）	橋本凛之介（NSY）	天野祐希（広幡）	村井怜未（NSY）
	４年生以下複	中野・青島（岩松）	山本・興津（西豊田）	五十右・安間（広幡）	吉澤・武蔵（富士山）
	団体戦	ＳＢＣスクール	富士山バドミントン	広幡バドキッズ	ＳＢＣスクール
元	６年生以下単	瀬戸奏大（ＳＢＣ）	永野日彩（広幡）	村越七海（大井川）	三浦璃子（ＳＢＣ）
	６年生以下複	藤原・山田（どんぐり）	滝井・長谷部（藤枝）	大村・西野（広幡）	町田・酒巻（岩松）
	５年生以下単	山下陸翔（富士中央）	勝又悠翔（ＳＢＣ）	天野祐希（広幡）	山崎咲七（大井川）
	５年生以下複	佐藤・芹澤（御殿場）	中野・青島（岩松）	五十右・安間（広幡）	吉澤・武蔵（富士山）
	４年生以下単	柘植太壱（藤枝）	伊井亜藍（島田六合）	長谷川翼咲（広幡）	良知さあや（広幡）
	４年生以下複	山下・西山（富士中央）	鈴木・小林（どんぐり）	加藤・折原（島田六合）	村松・吉永（吉田）
	団体戦	ＳＢＣスクール	どんぐりジュニア	広幡バドキッズ	富士山バドミントン

第３部

静岡県バドミントン協会の概要

・静岡県バドミントン協会役員名簿

・静岡県バドミントン協会規約

・賛助金一覧

・編集後記

静岡県バドミントン協会役員名簿

任期　　平成３１年４月１日～令和２年３月３１日

役職	氏名	担当
顧　　問	上野　忠	元会長
名誉会長	石川博義	前会長
参　　与	齋藤　聡	前副会長
	角谷泰子	レディース連盟会長
	斉藤俊仁	小学生連盟会長
	國川淳子	高体連会長
会　　長	工藤喜久雄	沼津市協会
副　会　長	杉山敏充	理事長兼任
	川原崎　仁	富士宮市協会会長・財務・表彰委員長
	山下由紀子	浜松市協会長
	山城芳子	レディース連盟副会長
理　事　長	杉山敏充	県・日バ・体協・県スポ振興課
副理事長	大石恵司	東部地区総括・派遣審判員総括
	宮原和臣	中部地区総括・派遣審判員総括
	井手昌子	西部地区総括・派遣審判員総括
	鈴木利幸	事務局長兼任・総務委員長
	平野謙武	事務局次長兼任・指導普及委員長・会員登録担当
事務局長	鈴木利幸	事業担当
事務局次長	平野謙武	経理担当
常任理事	井出裕雄	強化・倫理委員・小学生連盟
	後藤和之	前総務委員長
	西島知彦	前普及委員長
	岩城保久	教職員連盟
	渡辺　誠	倫理委員
	深澤　聡	強化・倫理委員
	吉氷将史	強化委員
	岩沢　猛	強化委員長
	小田切希芳	倫理委員
	斉藤　勲	審判・障害者専門委員
	神田いずみ	障害者専門委員長
	佐野明彦	総務副委員長・広報
	山下　豪	強化委員
	広田哲明	長泉町協会（会長相談役）
	若松　誠	審判委員長
	浅原康路	総務委員
	高井保典	指導普及副委員長・総務

役　　職	氏名	担当
常任理事	富田浩司	審判委員
	長島　稔	広報委員長
	古郡文博	富士市協会会長
	早房　大	強化委員
	山本晴世	レディース連盟理事長
理　事	木田成昭	審判委員
	渡辺高博	富士宮市協会（事務局長）
	後藤政博	富士市協会
	宮崎寿夫	広報委員
	望月　覚	倫理委員
	土屋剛彦	総務委員
	村松瑞穂	強化委員
	大澤俊幸	教職員連盟
	向井智治	指導普及委員
	渡辺弘行	長泉町協会（事務局長）
	大澤　健	強化委員
	稲垣和義	高体連副委員長
	柏木慶太	中体連専門部長
	住吉勇人	強化委員
	植椙早苗	総務委員
	山田文香	レディース連盟・小学生連盟
	小栗孝文	総務委員
	加藤朝海	審判委員
	高柳美里	教職員連盟
	輿水洋子	事務局
	勝又辰幸	指導普及委員
	松本幹広	総務委員
	川口明広	指導普及委員
	小野田雅昭	総務委員
	駒木根常信	指導普及・審判委員
	猿田正史	総務委員
	荒井威雄	強化委員
	荒井邦夫	強化委員
	眞　浩之	指導普及委員
	橋口裕司	審判副委員長
監　事	村上　昭	富士市協会
	川口安和	前沼津市協会（会長）

静岡県バドミントン協会規約

【 第1章 総 則 】

（名 称）
第 1 条 本協会は、静岡県バドミントン協会という。
（組 織）
第 2 条 本協会は、協会登録者及び次の団体をもって組織する。
（1）各市町村協会
（2）実業団連盟
（3）教職員連盟
（4）レディース連盟
（5）大学生連盟
（6）高等学校体育連盟
（7）中学校体育連盟
（8）スポーツ少年団
（9）小学生連盟
(10) 社会人クラブ連盟
（事 務 所）
第 3 条 本協会の事務所は、事務局長宅に置く。
（目 的）
第 4 条 本協会は、静岡県におけるバドミントン競技の振興と競技力の向上に努め、併せて会員相互の親睦と融和を図ることを目的とする。
（事 業）
第 5 条 本協会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
（1）バドミントン競技大会の主催、主管及び後援
（2）研修会及び講習会等の開催
（3）その他本協会の目的達成に必要な事項

【 第2章 役 員 等 】

（役 員）
第 6 条 本協会に、次の役員を置く。

（1）会 長	1 名	（5）常任理事	若干名
（2）副 会 長	若干名	（6）理 事	若干名
（3）理 事 長	1 名	（7）監 事	2 名
（4）副理事長	若干名		

（役 員 の 選 出）
第 7 条 会長及び副会長は、総会において推挙する。
2 理事長、副理事長及び常任理事は、理事会において、理事のうちから互選する。
3 理事及び監事は、総会において選出する。
（役 員 の 職 務）
第 8 条 会長は本協会を代表し、会務を統理する。
2 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。
3 理事長は会長の指示を受け、会務を執行する。
4 副理事長は理事長を補佐し、理事長に事故ある時は、その職務を代行する。
5 常任理事は会務を協議し、その遂行に当たる。
6 理事は本協会の事業の運営に当たる。
7 監事は会計の監査をする

（役 員 の 任 期）
第 9 条　役員の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。
2　補充選出された役員の任期は、前任者の残任期間とする。
（役 員 の 解 任）
第 10 条　役員がその職務に違背し、又は役員としてふさわしくない行為のあったときは、理事会の審議を経て、総会に諮り解任することができる。
（名 誉 役 員）
第 11 条　本協会に、名誉会長・会賓・顧問及び参与（以下「名誉会員」という。）を置くことができる。
名誉会員は、理事会において推挙し、総会の承認を得るものとする。
（職　　員）
第 12 条　本協会に、事務局長、事務局次長、その他の職員を置くことができる。
事務局長、事務局次長、その他の職員は、会長が委嘱する。

【 第3章 会　　議 】

（総　　会）
第 13 条　本協会は、年１回定期総会を開き、必要に応じて臨時総会を開催する。
2　総会は、理事会をもって、これに代えることができる。
3　総会は、次に掲げる事項を審議する。
（１）事業報告及び収支決算報告に関する事項
（２）事業計画及び収支予算に関する事項
（３）役員の選任に関する事項
（４）規約の制定、又は改廃に関する事項
（５）その他、総会において必要と認めた事項
（理　事　会）
第 14 条　本協会は、必要に応じて理事会を開催し、次に掲げる事項を審議する。
（１）総会に付議すべき事項
（２）事業執行に関する事項
（常 任 理 事 会）
第 15 条　本協会は、必要に応じて常任理事会を開催し、本協会の会務に関する事項を執行する。
2　常任理事会は、会長・副会長・理事長・副理事長及び常任理事をもって構成する。ただし、必要に応じて他の役員の出席を求めることができる。
（会　　議）
第 16 条　総会・理事会及び常任理事会は、会長が招集する。
2　会議の議長は、会長をもって充てる。
3　会議は、構成員の半数以上の出席がなければ開催することができない。
4　会議の決議は、出席者の過半数をもって決し、可否同数の時は、議長の決するところによる。

【 第4章 委　員　会 】

（専 門 委 員 会）
第 17 条　本協会は、事業執行のために次の専門委員会を置く。又、必要に応じて常任理事会の決議を経て特別委員会を設けることができる。
（１）総務委員会
（２）選手強化委員会（ジュニア対策委員会も含む）
（３）指導普及委員会
（４）審判委員会
（５）財務委員会
（６）広報委員会
（７）表彰委員会
（８）障害者専門委員会

２　委員会の委員は、会長が委嘱する。
３　委員会に委員長及び副委員長を置き、委員会に属する委員のうちから会長が委嘱する。

（総 務 委 員 会）
第 18 条　総務委員会は、次に掲げる事項を執行する。
（１）総会の審議に関する事項
（２）事務局の運営に関する事項
（３）競技大会の企画、開催及び運営に関する事項
（４）競技記録等の各種記録の保存に関する事項
（５）他の委員会に属さない事項

（選手強化委員会）
第 19 条　選手強化委員会は、次に掲げる事項を執行する。
（１）選手強化等の計画及び実施に関する事項
（２）交流試合の計画及び実施に関する事項
（３）その他競技力向上に関する事項
（４）スポーツ少年団・小・中・高校生の育成強化に関する事項
（５）指導者組織の強化に関する事項

（指導普及委員会）
第 20 条　指導普及委員会は、次に掲げる事項を執行する。
（１）指導者の養成、研鑽に関する事項
（２）ジュニア育成、指導に関する計画および実施に関する事項
（３）指導に関わる講習会、研修会、交流会に関する企画・運営に関する事項
（４）競技の普及、指導に関し中央協会との連携、事業の促進を図る
（５）加盟連盟および加盟協会への支援、普及活動に関する事項
（６）指導者バンクの確立、拡大と指導者の派遣に関する事項

（審 判 委 員 会）
第 21 条　審判委員会は、次に掲げる事項を執行する。
（１）審判講習会の計画及び開催に関する事項
（２）３級公認審判員の資格審査に関する事項
（３）その他審判技術に関する事項

（財 務 委 員 会）
第 22 条　財務委員会は、次に掲げる事項を執行する。
（１）資金の調達に関する事項
（２）その他財務に関する事項

（広 報 委 員 会）
第 23 条　広報委員会は、次に掲げる事項を執行する。
（１）広報誌“バドミントンしずおか”の編集及び発行に関する事項
（２）静岡県バドミントン協会のホームページ（ＨＰ）の作成及び改定に関する事項
（３）その他広報に関する事項

（表 彰 委 員 会）
第 24 条　表彰委員会は、次に掲げる事項を執行する。
（１）各種表彰に関する計画及び申請等に関わる事項
（２）その他表彰に関する事項

【　第５章　倫理委員会　】

（倫　理　委　員　会）

第　25　条　　本協会は、スポーツ憲章等、倫理に関するガイドラインに基づく規程を次に定め、必要に応じて倫理委員会を開催し速やかな対応を図る。

（１）倫理に関する基本的事項の整備　（倫理規程の制定、改定）

（２）倫理委員会の設置（委員会規程の整備）

（３）不祥事防止のための意識啓発活動（講習会・研修会の開催）

（４）不祥事発生後の処理（関係機関及び組織への報告、事案の重要性による第三者機関への対応）

【　第６章　会計及び会費　】

（会　計　年　度）

第　26　条　　本協会の会計年度は、４月１日に始まり、翌３月３１日をもって終了する。

（経　　費）

第　27　条　　本協会の経費は、会費・交付金・寄付及びその他の収入をもって充てる。

（会　　費）

第　28　条　　本協会の会費は、次のとおりとし、日本バドミントン協会の登録料を含むものとする。

（１）一般会員（大学生を含む）	年　額	２，５００円
（２）高校生会員	年　額	１，６００円
（３）中学生会員	年　額	１、１００円
（４）小学生会員	年　額	１、０００円

（賛　助　会　費）

第　29　条　　賛助会費は次のとおりとする。

（１）　本会（県協会）に所属する役員は一口　　３，０００　円とする。

（２）　賛助会員（一般公募）

県協会の趣旨を理解し、協会の活動を支援する個人会員及び法人・団体会員

【　第７章　雑　　則　】

（委　　任）

第　30　条　　この規約に定めない事項については、会長が理事会に諮り決定する。

付則

１　この規約は、昭和２４年６月１日から施行する。（一部改正）
２　この規約は、昭和５３年４月１日から施行する。（一部改正）
３　この規約は、昭和６２年４月１日から施行する。（一部改正）
４　この規約は、平成　５年４月１日から施行する。（一部改正）
５　この規約は、平成　８年４月１日から施行する。（一部改正）
６　この規約は、平成１３年４月１日から施行する。（一部改正）
７　この規約は、平成２０年４月１日から施行する。（一部改正）
８　この規約は、平成２１年４月１日から施行する。（一部改正）
９　この規約は、平成２３年４月１日から施行する。（一部改正）
１０　この規約は、平成２４年４月１日から施行する。（一部改正）
１１　この規約は、平成２６年４月１日から施行する。（一部改正）
１２　この規約は、平成２８年４月１日から施行する。（一部改正）
１３　この規約は、平成２９年４月１日から施行する。（一部改正）
１４　この規約は、平成３０年４月１日から施行する。（一部改正）
１５　この規約は、平成３１年４月１日から施行する。（一部改正）

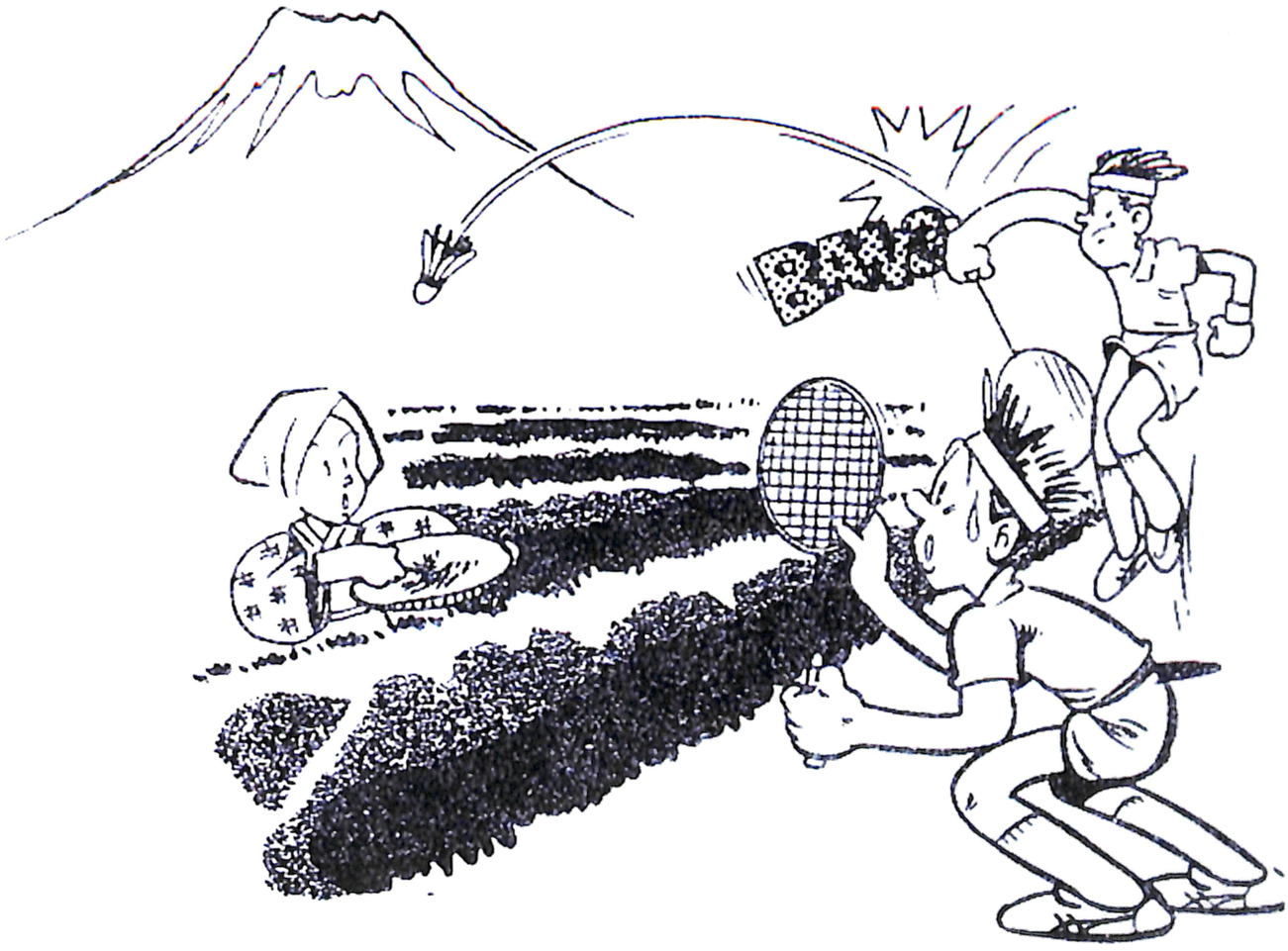
賛助金一覧

浅原康路	平田恭平	伊東市バドミントン協会
一條利加	平野謙武	御殿場市バドミントン協会
井手昌子	平野澄子	静岡市バドミントン協会
稲森修子	福原勝保	長泉町バドミントン協会
岩沢　猛	宮原和臣	沼津市バドミントン協会
大石恵司	村松瑞穂	浜松市バドミントン協会
太田清子	望月信也	藤枝市バドミントン協会
小田切希芳	望月文男	富士市バドミントン協会
勝又辰幸	山下由紀子	富士宮市バドミントン協会
河瀬八生	山城芳子	三島市バドミントン協会
河村信介	湯山浩子	静岡県高体連バドミントン専門部
川原崎仁	吉氷将史	静岡県レディースバドミントン連盟
神田いずみ	若松　誠	富丘佐野農園（株）れっどぱーる
工藤喜久雄		株式会社三和工機代表取締役 湯山孝雄
奥水洋子		有限会社忠内スポーツ（代）忠内秀紀
後藤和之		伊東高校バドミントン部
佐野明彦		星陵中学校・高等学校バドミントン部
杉山敏充		桔梗（小林朋子）
鈴木利幸		スプリングス（野崎裕子）
髙井保典		スルガウィングス（大澤美樹）
高柳美里		沼津マリーノ（香泉智子）
富田浩司		富士クラブ（三井栄子）
長島　稔		富士山バドミントンクラブ
西島知彦		北部クラブ（奥山洋子）
花崎新司		未来（レディース連盟）

（敬称略あいうえお順）

祝

静岡県バドミントン協会
創立 70 周年記念



明日の健康に奉仕する

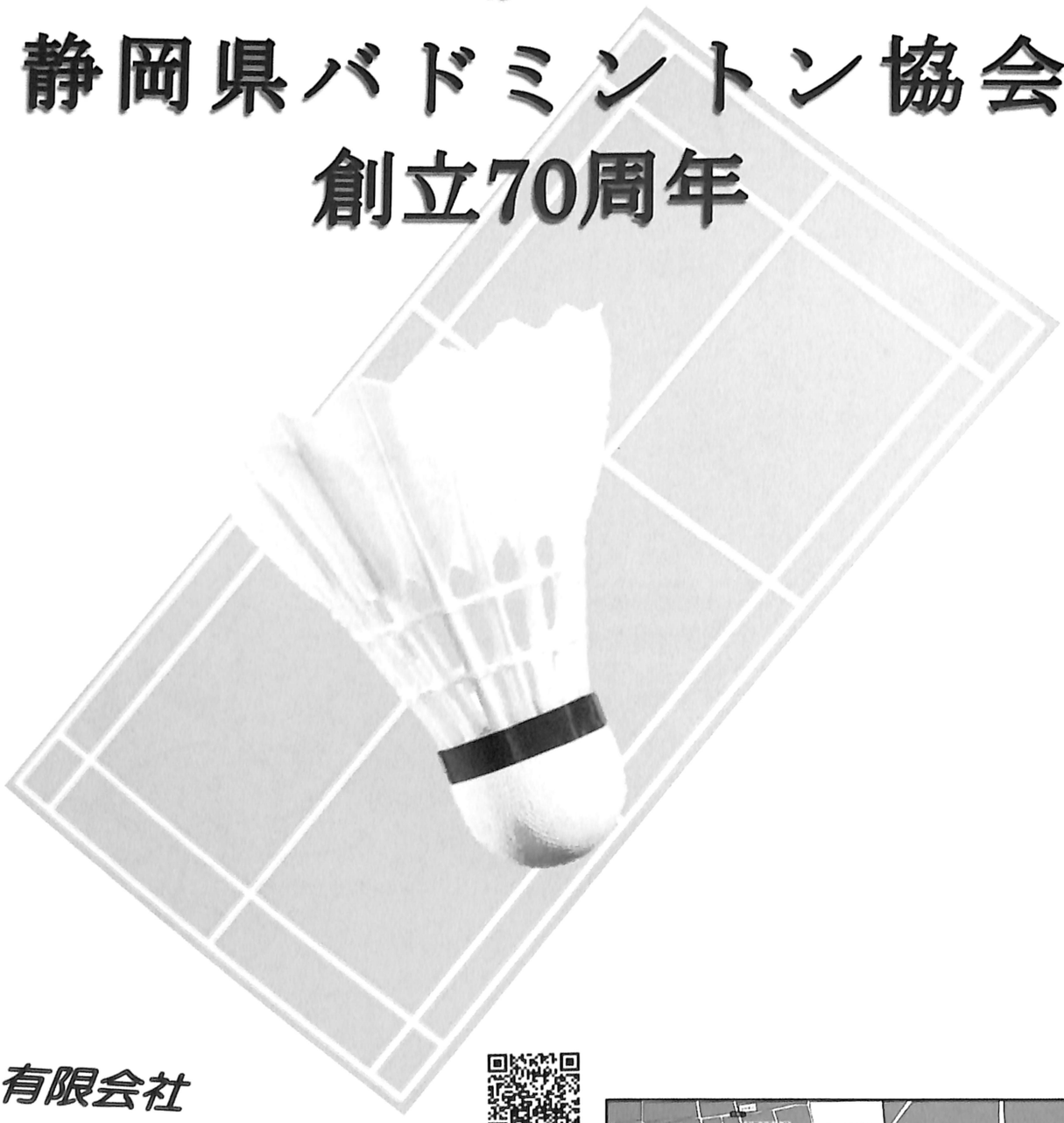
株式会社 上野スポーツ社

富士市富士町 8 － 12　TEL 0545 － 61 － 1324 (代)
FAX 0545 － 61 － 5949

☆☆☆祝☆☆☆

静岡県バドミントン協会

創立70周年

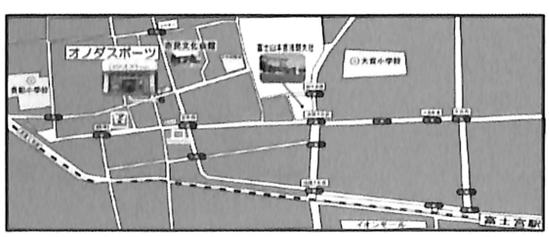


有限会社

オノダスポーツ

Tel: 0544-26-3644 Fax: 0544-26-0045

mail: onodasports@minos.ocn.ne.jp





日本バドミントン専門店会

●日本バドミントン専門店会に加盟しているショップは、安心してお買物が出来るしるしです。バドミントンに関することなら、どんなことでもお気軽にお尋ね下さい。バドミントンのエキスパートがいるお店です。当店は日本バドミントン専門店会加盟店です。

●ラケット保険
当店独自の保険です。ラケットの全損・折損を保証させて頂きます。
これで安心!おもいきりプレーに専念して下さい。

●新グリーンカード
ご来店でお買物現金¥500ごと(クレジット使用は¥1,000)にスタンプを押印させて頂くカードです。スタンプ30個以上で商品券として自由に使用できます。最大換金率6.25%!

大会、応援します。
●当店は、各地区のどんな小さな大会でも応援します。なんでもお気軽にご相談下さい。スタッフ一同お待ちしております。

●クラブ単位での訪問販売とレッスン・コーチも行っております。詳しくは各店又はホームページでおたずね下さい。

プレイ仲間が集う場所 **BADMINTON Pro Shop**

RACKET SHOP FUJI

公式FBページ

● 国分寺店	国分寺市南町3-19-1	☎042(322)5626	
● フットケアファクトリー店		☎042(312)2572	
● 吉祥寺店	武蔵野市吉祥寺本町1-7-8 マーブルビル4F	☎0422(22)8844	
● 所沢店	所沢市御幸町6-1	☎04(2928)0288	
● 町田店	町田市原町田6-26-11	☎042(723)9555	
● 八王子店	八王子市子安町4-27-12	☎042(623)5191	
● 川崎店	川崎市幸区中幸町4-50-3	☎044(541)9555	
● 静岡店	沼津市庄栄町3-17 2F	☎055(929)9666	
● 川越店	川越市脇田町6-9 2F	☎049(223)7444	
● 立川店	立川市錦町1-8-2 2F	☎042(527)9554	
● 赤羽店	北区赤羽西1-28-5 2F	☎03(3900)9554	
● 海老名店	海老名市中央1-16-17 3F	☎046(234)9444	
● 橋本店	相模原市緑区橋本3-27-6 2F	☎042(700)9554	
● 井土ヶ谷店	横浜市南区井土ヶ谷中町156 2F	☎045(325)9551	
● 市が尾店	横浜市青葉区市ヶ尾町1152-21 2F C	☎045(482)9510	
● 大和店	大和市中央1-7-36	☎046(204)9009	
● 世田谷店	世田谷区南烏山6-4-13 エルデ6 2F	☎03(5314)9851	

編　集　後　記

静岡県バドミントン協会の創立７０周年記念誌創刊を終え

静岡県バドミントン協会は、平成１０年に創立５０周年を迎え、いくつかの記念事業を開催しました。それから２０年がたち、今年度は７０周年を迎えるにあたり、次世代へのスムーズな引き継ぎができるよう記念行事を実施することとなり、７０周年記念実行委員会を発足するに至りました。

５０周年の時より事業活動・大会結果などをまとめた年３回発行の「バドミントンしずおか」を創刊号から６０号までをまとめることで、本協会の２０年間のあゆみを記念誌にすることに致しました。

記念誌は令和２年２月２日に開催される静岡県バドミントン協会記念式典で皆様に配布するため、昨年１０月から創刊作業を開始しましたが、膨大な資料整理を進める中で改めて２０年間のあゆみを感じると共に、読みやすい記念誌となるよう編集委員一同手探り状態で作業を進めて来ましたので、不備な点もあるかと思いますが、ご容赦ください。

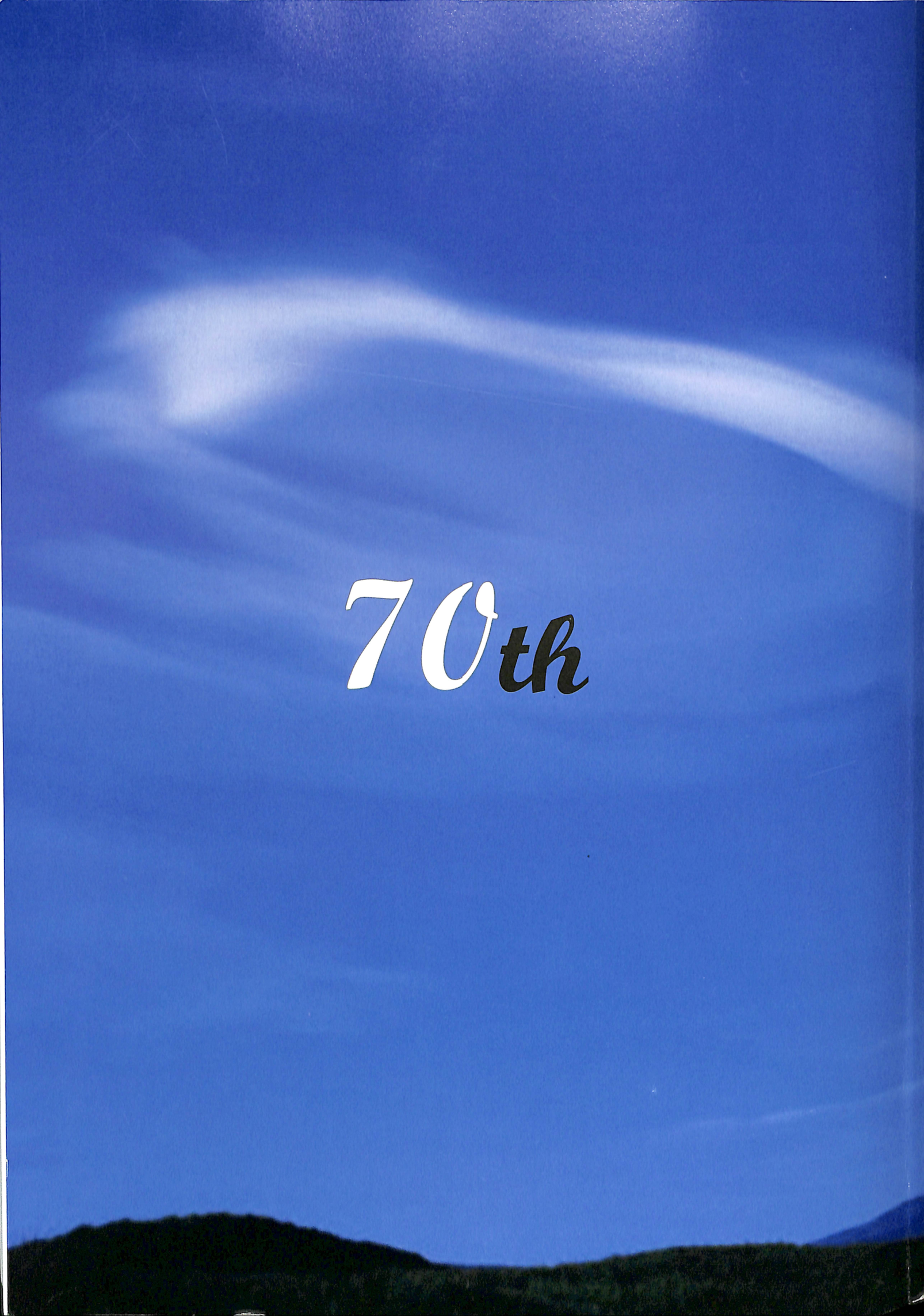
創刊までの間、大会の結果報告など、各連盟の皆様をはじめ様々な皆様から、ご協力を頂きましたことが、この度の記念誌創刊に繋がったものと厚く感謝を申し上げます。

結びにあたり、２０年間の役員の方々をはじめ、執筆に協力して頂いた皆様に甚大なる感謝の意を表し、皆様方のご発展、ご健勝を祈念いたします。

（創立７０周年記念誌編集委員）

静岡県バドミントン協会創立７０周年記念誌編集委員名簿

会　　長	工藤　喜久雄
７０年記念事業実行委員長	杉山　敏充
７０年記念事業実行副委員長	川原崎　仁
記念誌責任者	長島　稔
編　集　長	大石　恵司
編　集　委　員	平野　謙武


70th